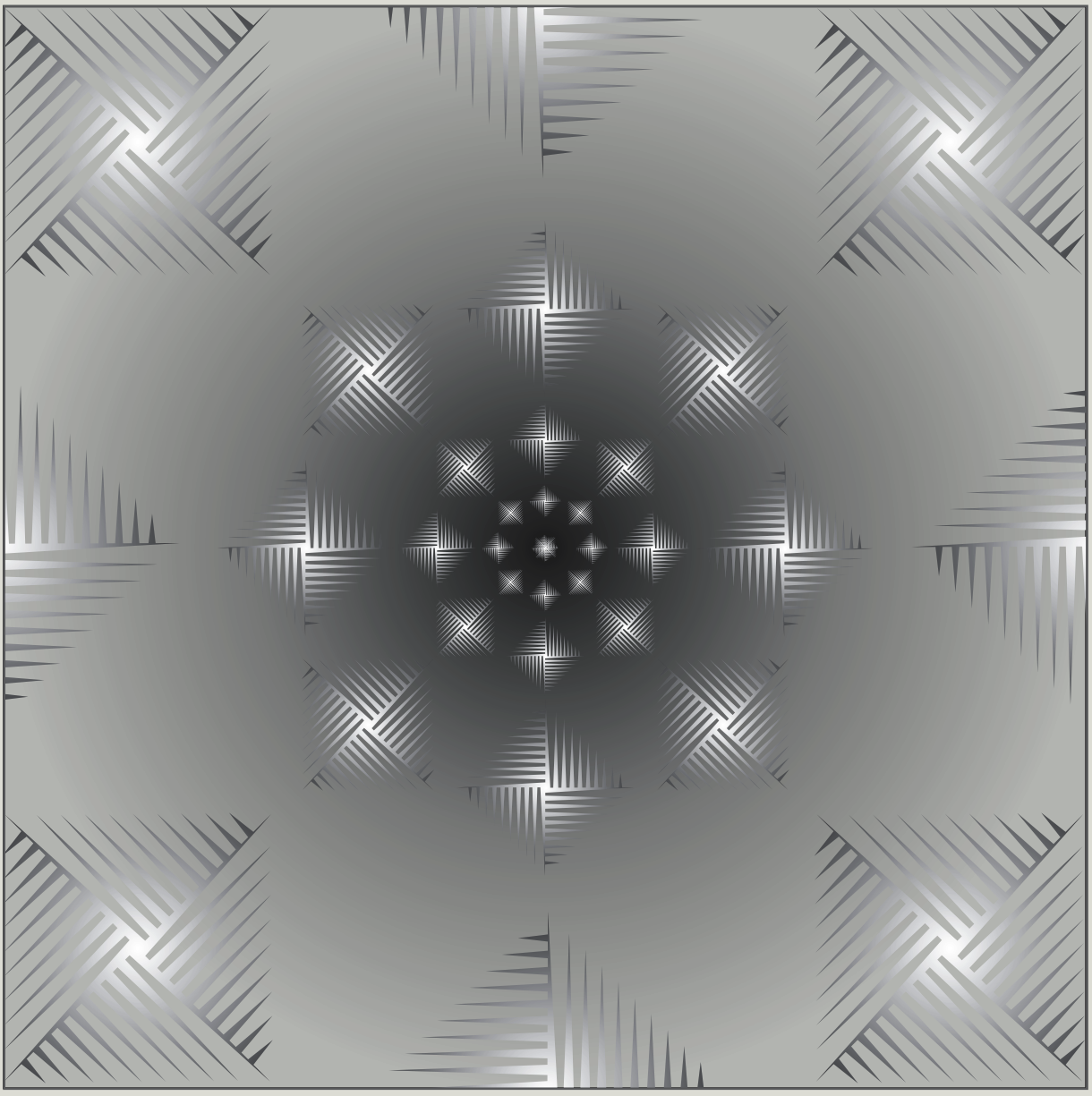
2010年度

シラバス

全学共通授業科目



秋学期は配布しません。１年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

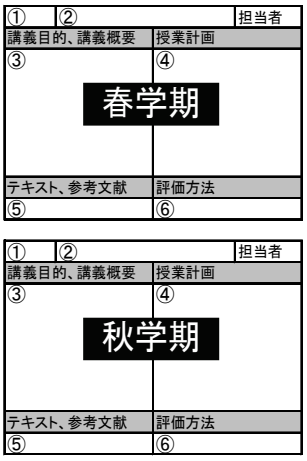
ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。
〈略称説明〉

外: 外国語学部	養: 国際教養学部	経: 経済学部	法: 法学部
独: ドイツ語学科	養(＊1): 国際教養学部、スペイン語履修者	済: 経済学科	律: 法律学科
英: 英語学科	養(＊2): 国際教養学部、中国語履修者	営: 経営学科	国: 国際関係法学科
仏: フランス語学科	養(＊3): 国際教養学部、韓国語履修者		総: 総合政策学科
交: 交流文化学科			
言: 言語文化学科			
言(＊1): 言語文化学科、スペイン語履修者			
言(＊2): 言語文化学科、中国語履修者			

2. シラバスページの見方(右図参照)



①入学年度

08年度以降……2008～2010年度入学者
07年度以前……2007年度以前入学者
05～07年度……2005～2007年度入学者
※2002年度以前入学者は、学部ごとに別途配布する読み替え表を参照してください。

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。
開講学期に注意してください。

全学共通授業科目　目次（2008年度～2010年度入学者用）

全学総合講座

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）			青山　愛香	木3	1	－	14
全学総合講座（環境学1)(環境基礎学−自然を見つめる）				秋本　弘章	火4	1	－	15
		全学総合講座（環境学2)(環境応用学－環境と社会）		秋本　弘章	火4	1	－	16
全学総合講座（キャンパスライフと仕事）		全学総合講座（キャンパスライフと仕事）		伊藤　為一郎	木2	1	－	17
全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）				岡村　圭子	水3	1	－	18
		全学総合講座（メディア社会とロック）		岡村　圭子	水3	1	－	19
		全学総合講座（国家の役割とは何か－国家運営への国民の参加）		小川　健	火4	1	－	20
全学総合講座（経営者が語る現代企業論1）				上坂　卓郎	火2	1	－	21
		全学総合講座（経営者が語る現代企業論2）		上坂　卓郎	火2	1	－	22
全学総合講座（獨協学）				川村　肇	水2	1	－	23
全学総合講座（教えるという仕事）				川村　肇	金5	1	－	24
全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）				斉藤　美彦	木3	1	－	25
全学総合講座（現代世界論）				佐藤　勘治	月4	1	養	26
		全学総合講座（フィールドワークで読み解く世界）		須永　和博	木4	1	－	27
全学総合講座（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）				高松　和幸	金4	1	－	28
		全学総合講座（地域活性化システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）		高松　和幸	金4	1	－	29
全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）				平田　由紀江	火3	1	－	30
		全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）		平田　由紀江	火3	1	－	31
全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）		全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）		町田　喜義	土2	1	－	32
全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）		全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）		松原　裕	木4	1	－	33
		全学総合講座（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）		矢羽々　崇	金3	1	－	34
		全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）		和田　智	火4	1	－	35
		全学総合講座（自由時間の達人）		和田　智	金4	1	－	36

全学共通講義科目部門

春　科目名	春　副題	秋　科目名	秋　副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想1（哲学の諸問題1）		ことばと思想1（哲学の諸問題2）		谷口　郁夫	月4	1	－	37
ことばと思想1（倫理の基本について考える）		ことばと思想1（環境と生命の倫理）		市川　達人	火3	1	養	38
ことばと思想1（倫理学a）		ことばと思想1（倫理学b）		川口　茂雄	金3	1	養	39
ことばと思想1（社会思想史1)(市民的社会像の黎明期）		ことばと思想1（社会思想史2)(市民的社会像の確立期）		市川　達人	火4	1	－	40
ことばと思想1（社会思想史1)(東洋古代から近世まで）		ことばと思想1（社会思想史2)(東洋近世から現代まで）		川口　茂雄	水2	1	養	41
ことばと思想1（心理学)（人間の行動・認知・動機の一般法則）		ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）		杉山　憲司	木1	1	－	42
ことばと思想1（心理学)（人間の行動・認知・動機の一般法則）		ことばと思想1（心理学)(人間の個性・多様性理解）		杉山　憲司	木2	1	－	42
ことばと思想1（心理学)（知覚・認知）		ことばと思想1（心理学)(行動・個性）		増田　直衛	月1	1	－	43
ことばと思想1（心理学)（知覚・認知）		ことばと思想1（心理学)(行動・個性）		増田　直衛	月2	1	－	43
ことばと思想1（言語学a）		ことばと思想1（言語学b）		安間　一雄	水3/金1	1	養	44
ことばと思想1（英語学a）		ことばと思想1（英語学b）		安間　一雄	金1/水3	1	養	45
ことばと思想1（応用言語学）		ことばと思想1（第二言語習得）		臼井　芳子	水2	2	養	46
ことばと思想1（英語圏の社会と思想a）		ことばと思想1（英語圏の社会と思想b）		福井　嘉彦	火3	2	英	47
ことばと思想1（こころの世界）				田口　雅徳	木2	1	養	48
ことばと思想1（日本語教育概説）				石塚　京子	月2	1	養	49
ことばと思想1（通訳・翻訳論）				永田　小絵	月5	2	－	50
ことばと思想1（生と死の意味の哲学1）		ことばと思想1（生と死の意味の哲学2）		谷口　郁夫	月3	1	－	51
ことばと思想1（国際語としての英語）		ことばと思想1（多言語環境と英語）		臼井　芳子	金3	2	養	52
ことばと思想1（日本語文法形態論）		ことばと思想1（日本語文法統語論）		浅山　佳郎	月2/月1	2	養	53
歴史と文化1（日本文学古典）		歴史と文化1（平安時代の文学を読む）		福沢　健	月2	1	養(春のみ）	56
歴史と文化1（恐怖の日本文学）		歴史と文化1（日本文学現代）		佐藤　毅	木1	1	養(秋のみ）	57
歴史と文化1（歴史学1)(イスラーム世界の成立と拡大）		歴史と文化1（歴史学2)(イスラーム世界の近代化とその後）		熊谷　哲也	木3	1	－	58
歴史と文化1（歴史学1)(アメリカのエスニック・ヒストリー）		歴史と文化1（歴史学2)(アメリカのエスニック・ヒストリー）		佐藤　唯行	金3	1	－	59

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
歴史と文化1	(中国史a)	歴史と文化1	(中国史b)	張 士陽	木4	2	養	60
歴史と文化1	(歴史学1)(中世の仏教と社会)	歴史と文化1	(歴史学2)(中世の「悪党」と民衆)	新井 孝重	火2	1	-	61
歴史と文化1	(歴史学1)(「15年戦争」をどうとらえるか)	歴史と文化1	(歴史学2)(戦後史の中の「15年戦争」)	丸浜 昭	火4	2	養	62
歴史と文化1	(文化人類学a)	歴史と文化1	(文化人類学b)	井上 兼行	月3	1	養	63
歴史と文化1	(東西の文化を結ぶもの)	歴史と文化1	(東西文化と近代化)	熊谷 哲也	木4	2	-	64
歴史と文化1	(歴史学1)(文明史研究a)	歴史と文化1	(歴史学2)(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	1	養	65
歴史と文化1	(日本事情とコミュニケーション教育)			小山 慎治	月2	1	養	66
歴史と文化1	(グローバル化とイスラムー公と私)	歴史と文化1	(移民･交易に見る文化変容)	水口 章	水5	1	-	67
歴史と文化1	(異文化社会の認識と世界観a)	歴史と文化1	(異文化社会の認識と世界観b)	井上 兼行	火2	2	養	68
歴史と文化1	(英語圏の小説a)	歴史と文化1	(英語圏の小説b)	片山亜紀/島田啓一	金3/木3	2	英･養	69
歴史と文化1	(スペイン研究入門)			中井 博康	月3	1	養	70
		歴史と文化1	(ラテンアメリカ研究入門)	佐藤 勘治	月5	1	養	70
歴史と文化1	(日本文化論)			飯島 一彦	木5	1	養･法	71
		歴史と文化1	(英語圏の文学)	松山 響子	月2	1	養	72
		歴史と文化1	(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	1	英･養	73
歴史と文化1	(文化史入門)			古川 堅治	水2	1	養	74
歴史と文化1	(英語圏の文化)	歴史と文化1	(英語圏事情)	山本 英政	月3/水2	2	英･養	75
歴史と文化1	(韓国文化各論c)			金 貞我	月5	2	養	76
歴史と文化1	(大衆文化論)			木本 玲一	火5	2	養	77
歴史と文化1	(民俗学)	歴史と文化1	(地域文化)	林 英一	木1	2	養	78
		歴史と文化1	(スペイン･ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火2	2	養	79
歴史と文化1	(アラブ文化･芸術a)	歴史と文化1	(アラブ文化･芸術b)	藤原 和彦	火2	2	養	80
		歴史と文化1	(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	養	81
歴史と文化1	(日本思想史1)			川村 肇	木4	2	養	82
		歴史と文化1	(教育の歴史2)	川村 肇	木4	1	養	83
歴史と文化1	(都市と建築1)	歴史と文化1	(都市と建築2)	鈴木 隆	火3	1	-	84
歴史と文化1	(科学技術交流史a)	歴史と文化1	(科学技術交流史b)	加藤 僖重	火2	2	養	85
現代社会1	(グローバリゼーションを巡って)	現代社会1	(日本の表象と世界)	柴崎 信三	金2	1	経	86
		現代社会1	(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	養	87
現代社会1	(経済学1)(ミクロの視点で考える)	現代社会1	(経済学2)(マクロの視点で考える)	米山 昌幸	木1	1	経	88
現代社会1	(経済学1)(はじめての経済学)	現代社会1	(経済学2)(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	89
現代社会1	(日本国憲法)	現代社会1	(日本国憲法)	加藤 一彦	火2	1	法	90
現代社会1	(国際法1)(国際社会と私たち)	現代社会1	(国際法2)(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	火1	1	-	91
現代社会1	(政治システムの構成要素)	現代社会1	(現代の民主主義)	羽貝 正美	火5	1	-	92
現代社会1	(社会学a)	現代社会1	(社会学b)	岡村 圭子	土1	1	養	93
現代社会1	(地理学1)(自然環境と文化)	現代社会1	(地理学2)(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	-	94
現代社会1	(地理学1)(世界の自然環境と文化)	現代社会1	(地理学2)(世界の自然環境と文化)	北崎 幸之助	金4	2	養	95
		現代社会1	(家庭と職場のジェンダー)	片山 亜紀	金4	1	-	96
		現代社会1	(ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	火4	1	-	97
現代社会1	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	現代社会1	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	有吉 秀樹	木2	2	-	98
現代社会1	(中東政治思想a)	現代社会1	(中東政治思想b)	藤原 和彦	火1	1	-	99
現代社会1	(歴史の中のメディア)	現代社会1	(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	-	100
現代社会1	(社会科学概論1)	現代社会1	(社会科学概論2)	堅田 剛	火1	1	法	101
現代社会1	(教育法1)	現代社会1	(教育法2)	市川 須美子	木2	2	法	102
現代社会1	(民法1)	現代社会1	(民法2)	小川 佳子	火4	1	法	103
		現代社会1	(NGO論)	清水 俊弘	水5	1	養	104
現代社会1	(東アジア国際関係の史的展開)	現代社会1	(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	土3	1	-	105
現代社会1	(コトバと社会)	現代社会1	(コトバと社会)	下川 浩	火5	1	-	106
現代社会1	(地誌学1)(ヨーロッパ地域論)	現代社会1	(地誌学2)(ドイツ地域論)	飯嶋 曜子	火3	1	独	107
現代社会1	(韓国社会各論b)			全 載旭	火2	2	養	108
現代社会1	(ブラジル研究)			矢澤 達宏	月5	2	養	109
現代社会1	(広告論a)	現代社会1	(広告論b)	友部 孝次	土2	2	経	110
現代社会1	(基礎から学ぶマネジメント)	現代社会1	(基礎から学ぶマネジメント)	高松 和幸	火1	1	経	111
自然･環境･人間1	(数学a)	自然･環境･人間1	(数学b)	福井 尚生	月3	1	養	112

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間1	(科学史a)	自然・環境・人間1	(科学史b)	東 孝博	月2	1	養	113
自然・環境・人間1	(歴史における科学技術1:古代から近代までの科学技術)	自然・環境・人間1	(歴史における科学技術2:近現代における科学技術)	内田 正夫	木3	1	−	114
自然・環境・人間1	(自然観察a)	自然・環境・人間1	(自然観察b)	加藤 僖重	火1	2	養	115
自然・環境・人間1	(恒星天文学)	自然・環境・人間1	(銀河天文学)	福井 尚生	水1	1	−	116
自然・環境・人間1	(私の自由時間設計)			和田 智	金4	1	−	117
自然・環境・人間1	(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間1	(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	−	118
自然・環境・人間1	(宇宙論a)	自然・環境・人間1	(宇宙論b)	福井 尚生	月1	1	養	119
自然・環境・人間1	(地球外文明論a)	自然・環境・人間1	(地球外文明論b)	福井 尚生	金1	1	−	120
自然・環境・人間1	(天文学a)	自然・環境・人間1	(天文学b)	福井 尚生	金3	1	養	121
自然・環境・人間1	(スポーツコーチ学b)			梶野 克之	水2	2	養	122

全学共通実践科目部門

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想2	(論文を書く)	ことばと思想2	(口頭発表を行う)	福沢 健	月3	1	−	123
ことばと思想2	(書き言葉の問題)	ことばと思想2	(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	−	124
ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想2	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	−	125
ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想2	(生きたコトバづかい・文章編)	下川 浩	金3	1	−	126
ことばと思想2	(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想2	(反＝コミュニケーション論2)	谷口 亜沙子	水2	1	−	127
ことばと思想2	(生活文化の発見)	ことばと思想2	(生活文化の記述)	林 英一	木2	1	−	128
ことばと思想2	(現代ジャーナリズム考1)	ことばと思想2	(現代ジャーナリズム考2)	細野 徳治	水4	1	−	129
ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	ことばと思想2	(英語通訳)(英語通訳の仕事)	横山 直美	土2	1	−	130
		ことばと思想2	(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木2	2	養	131
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	−	132
ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想2	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	−	132
ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰa)	ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅰb)	櫻井 悠美	月3	1	−	283
ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅱa)	ことばと思想2	(古典ギリシア語Ⅱb)	古川 堅治	金3	2	−	284
ことばと思想2	(ラテン語Ⅰa)	ことばと思想2	(ラテン語Ⅰb)	小倉 博行	金2	1	−	285
ことばと思想2	(ラテン語Ⅱa)	ことばと思想2	(ラテン語Ⅱb)	小倉 博行	金3	2	−	286
ことばと思想2	(写本を読む)	ことばと思想2	(碑文を読む)	飯島 一彦	火4	2	養	133
歴史と文化2	(日本事情1)	歴史と文化2	(日本事情2)	守田 逸人	木4	1	−	134
歴史と文化2	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	歴史と文化2	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	伊藤 幸次	木4	1	−	135
歴史と文化2	(イタリアの音楽史)	歴史と文化2	(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	−	136
歴史と文化2	(詩と音楽4)	歴史と文化2	(詩と音楽2)	園田 みどり	木2	1	−	137
歴史と文化2	(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化2	(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋 一男	火2	2	英・養	138
歴史と文化2	(アメリカ詩入門)	歴史と文化2	(イギリス詩入門)	遠藤朋之/白鳥正孝	木4/月4	2	英・養	139
歴史と文化2	(西洋絵画の主題と様式1)	歴史と文化2	(西洋絵画の主題と様式2)	阿部 明日香	金2	1	−	140
歴史と文化2	(日韓比較文化論b)	歴史と文化2	(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	養	141
歴史と文化2	(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田 量介	火3	2	養	142
歴史と文化2	(能楽論)	歴史と文化2	(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	−	143
現代社会2	(インターンシップ)			岡村 国和	土1・土2	2	−	144
現代社会2	(新聞を読む1)	現代社会2	(新聞を読む2)	細野 徳治	金4	1	−	145
現代社会2	(経理入門1)	現代社会2	(経理入門2)	大坪 史治	木3	1	経	146
現代社会2	(英文会計入門1)	現代社会2	(英文会計入門2)	大坪 史治	木4	1	−	147
現代社会2	(コンピュータ入門a)	現代社会2	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	148
現代社会2	(コンピュータ入門a)	現代社会2	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経	148
現代社会2	(コンピュータ入門a)	現代社会2	(コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経	148
現代社会2	(コンピュータ入門a)	現代社会2	(コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	148
現代社会2	(コンピュータアドヴァンス1)	現代社会2	(コンピュータアドヴァンス2)	長 慎也	月2	1	外・養・経	149
現代社会2	(ホームページ作成)	現代社会2	(ホームページ作成)	A.ベロフ	水5	1	養	150
現代社会2	(ホームページ作成)	現代社会2	(ホームページ作成)	久東 義典	火4	1	養	151
現代社会2	(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会2	(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川 浩	金4	1	−	152
現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井 正博	金2	1	−	153
現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会2	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	矢羽々崇/金井満	金3/水3	1	独	154
現代社会2	(教育の現場:教師と語るa)			川村 肇	金3	1	−	155

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
		現代社会2	（教育の現場：教師と語るb）	川村 肇	金3	2	養	155
現代社会2	（異文化理解教育）	現代社会2	（こども論）	小島 優生	木3	2	養	156
		現代社会2	（韓国社会論）	平田 由紀江	月3	2	養	157
		現代社会2	（模擬国際裁判）	鈴木 淳一	火2	3	法	158
自然・環境・人間2	（観察と実験生物学a）	自然・環境・人間2	（観察と実験生物学b）	加藤 僖重	水2	2	養	159
自然・環境・人間2	（観察と実験生物学a）	自然・環境・人間2	（観察と実験生物学b）	加藤 僖重	木2	2	養	159
自然・環境・人間2	（観察と実験生物学a）	自然・環境・人間2	（観察と実験生物学b）	加藤 僖重	木3	2	養	159
自然・環境・人間2	（統計と調査法）			安間 一雄	水1	2	養	160
自然・環境・人間2	（マルチメディア論）			田中 雅英	火4	2	養	161
自然・環境・人間2	（情報検索と加工）			呉 浩東	水1	2	養	162
		自然・環境・人間2	（コンピュータ構造論）	呉 浩東	月2	2	養	163
自然・環境・人間2	（スポーツコーチ学a）			依田 珠江	木3	2	養	164
自然・環境・人間2	（リーダーシップ論）			和田 智	金3	2	養	165
		自然・環境・人間2	（体育経営スポーツマネージメント）	松原 裕	木2	2	養	166
		自然・環境・人間2	（からだの仕組み）	依田 珠江	木3	1	−	167
自然・環境・人間2	（コンピュータと言語）			呉 浩東	月2	1	外・養	168

外国語科目群

英語部門(English)

外国語学部英語学科・交流文化学科、国際教養学部の学生は、英語部門「English」を履修することはできません。

■クラス指定科目(再履修クラス含む)

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
独・仏・経・法のみ	English(リーディングI a,b)	/(Academic Reading Strategies I a,b)	各担当教員		-	198
指定された者のみ	English(リーディングI a,b)	/(Academic Reading Strategies I a,b)	飯島 優雅	月 5 火 5	-	199
国・総のみ	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	各担当教員		-	200
経のみ	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	各担当教員		-	201
Sounds Good利用クラス	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	202
Quest Intro利用クラス	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	各担当教員		-	203
指定された者のみ	English(リスニング Ⅰ a,b)	/(Academic Listening Strategies I a,b)	M. クロフォード	火 5 金 5	-	204
独・仏・法のみ	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	各担当教員		-	205
指定された者のみ	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	辻田 麻里	月 5 木 5	-	206
国・総のみ	English(ライティング II a,b)	/(Academic Writing II a,b: Essay)	各担当教員		-	207
独・仏・法のみ	English(リスニング II a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	各担当教員		-	208
指定された者のみ	English(リスニング II a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	J. ラシーン	火 5 木 5	-	209
独・仏のみ	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	各担当教員		-	210
指定された者のみ	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	D. R. ギブソン	火 5	-	211

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English(留学生I a,b)	/(Basic English Skills for International Students I a,b)	菊池 武	木 4	-	212
外国人学生・帰国学生	English(留学生II a,b)	/(Basic English Skills for International Students II a,b)	長坂 達彦	水 3	-	213

■選択科目

科目の種類	科目名		担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	今井 純子	月 5	国・総	214
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	福田 哲哉	木 3	国・総	215
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	石月 正伸	木 4	国・総	216
	English(ライティングI a,b)	/(Academic Writing I a,b: Paragraph)	笠原 誠也	土 1	国・総	217
	English(ライティングII a,b)	/(Academic Writing II a,b: Essay)	M. ミルティアダス	土 2	国・総	218
Speaking	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	M. H. ウィキンズ	月 3	経	219
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	D. R. ギブソン	火 4	経	220
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. ハサウェイ	木 3	経	221
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	J. クレイグ	金 3	経	222
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	S. A. フルトン	金 4	経	223
	English(スピーキングI a,b)	/(Speaking in Academic Contexts I a,b)	M. ミルティアダス	土 1	経	224
	English(スピーキングII a,b)	/(Speaking in Academic Contexts II a,b: Presentation)	J. ハサウェイ	木 2	-	225
Reading	English(リーディング II a,b)	/(Academic Reading Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	
	English(リーディング III a,b)	/(Academic Reading and Writing Strategies III a,b)	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ		独・仏	
Listening	English(リスニング Ⅱ a,b)	/(Academic Listening Strategies II a,b)	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	
e-learning	English(e-ラーニング)	/(Computer Assisted English Learning (CAEL))	岡田 圭子	月 3	1年生	226
Content-based	English(コンテント)	/(English Explorations)	岡田 圭子	火 4	TOEIC450 点未満	227
Tast-taking	English(資格I)	/(Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	志村 美加	金 4	TOEIC400 点以上	228
	English(資格II)	/(Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	志村 美加	月 4	TOEIC400 点未満	229
Pronunciation	English(発音)	/(Special Topics: Pronunciation Workshop)	辻田 麻里	木 4	-	230
Basic Grammar	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	水 3	-	231
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	菊池 武	木 5	-	232
	English(基礎文法 a,b)	/(Special Topics: Grammar Refresher a,b)	飯島 優雅	木 2	-	233

外国語部門(英語以外)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	234
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 基礎)	各担当教員		独	235
(総合コース)	ドイツ語(Ia,b 会話)	各担当教員		独	236
(基礎コース)	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員		独	237
(総合コース)	ドイツ語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員		独	238
(総合コース)	ドイツ語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		独	239
	ドイツ語(Ⅲa,b 会話)	J. シャルロート	木 3	独	240
(基礎コース)	フランス語(Ia,b 基礎)	各担当教員		仏	241
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合J)	各担当教員		仏	242
(総合コース)	フランス語(Ia,b 総合F)	各担当教員		仏	243
(基礎コース)	フランス語(Ⅱa,b 基礎)	各担当教員		仏	244
(総合コース)	フランス語(Ⅱa,b 総合J)	各担当教員		仏	245
(総合コース)	フランス語(Ⅱa,b 総合F)	各担当教員		仏	246
	フランス語(Ⅲa,b)	Ch. ペリセロ	火 3	仏	247
(基礎コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	248
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 文法)	各担当教員		養(*1)	249
(総合コース)	スペイン語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*1)	250
(基礎コース)	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	各担当教員		養(*1)	251
(総合コース)	スペイン語(Ⅱa,b 文法)	各担当教員		養(*1)	252
(総合コース)	スペイン語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		養(*1)	253
	スペイン語(Ⅲa,b 講読)	兒島 峰	火 3	養(*1)	254
	スペイン語(Ⅲa,b 会話)	J. フェレーラス	金 5	養(*1)	255
(基礎コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	256
(総合コース)	中国語(Ia,b 会話)	各担当教員		養(*2)	257
(総合コース)	中国語(Ia,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	258
(基礎コース)	中国語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		養(*2)	259
(総合コース)	中国語(Ⅱa,b 会話)	各担当教員		養(*2)	260
(総合コース)	中国語(Ⅱa,b 講読・文法)	各担当教員		養(*2)	261
	中国語(Ⅲa,b 会話)	頼 明	月 2	養(*2)	262
	中国語(Ⅲa,b 講読・文法)	平野 佐和	火 1	養(*2)	263
	韓国語(Ia,b 総合)	呉 吉煥	金 1	養(*3)	264
	韓国語(Ia,b 総合)	呉 吉煥	金 2	養(*3)	264
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	金 貞我	月 4	養(*3)	265
	韓国語(Ia,b 講読・会話)	呉 吉煥	水 2	養(*3)	266
	韓国語(Ⅱa,b 総合)	森 勇俊	土 2	養(*3)	267
	韓国語(Ⅱa,b 講読・会話)	森 貞美	土 1	養(*3)	268
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	水 4	−	269
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	園田 みどり	木 3	−	269
	外国語(イタリア語Ia,b 基礎)	島津 寛	土 1	−	270
	外国語(イタリア語Ⅱa,b 基礎)	島津 寛	土 2	−	271
	外国語(ポルトガル語Ia,b 文法)	牧野 真也	金 3	−	272
	外国語(ポルトガル語Ⅱa,b 応用練習)	牧野 真也	金 4	−	273
	外国語(ロシア語Ia,b 総合)	齊藤 毅	水 4	−	274
	外国語(ロシア語Ia,b 会話)	小西 昌隆	月 4	−	275
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 総合)	齊藤 毅	水 3	−	276
	外国語(ロシア語Ⅱa,b 会話)	小西 昌隆	月 3	−	277
	外国語(タイ語Ia,b 会話)	江藤 双恵	火 3	−	278
	外国語(タイ語Ⅱa,b 文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	−	279
	外国語(アラビア語Ia,b 会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 2	−	280
	外国語(アラビア語Ⅱa,b 読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	−	281
	外国語(現代ヘブライ語Ⅰa,b 基礎)	阿部 望	金 2	−	282

日本語部門

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語(総合IAa,b/総合IBa,b/総合ICa,b)	各担当教員		−	287
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱa,b)	斎藤 明	月 3	−	288
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱa,b)	江添 真紀子	水 3	−	289
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱa,b)	武田 明子	水 4	−	290
(外国人・帰国学生)	日本語(総合Ⅱa,b)	桂 千佳子	木 2	−	291

スポーツ・レクリエーション部門 ／ カテゴリーV　体育科目

科目名	（副題）	開講期	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
スポーツ・レクリエーション							
	（インラインスケートa,b）	春・秋	和田　智	水1	1		169
	（インラインスケートb）	秋	和田　智	水2	1		169
	（ウェルネス入門a,b）	春・秋	依田　珠江	月3	1		170
	（硬式テニスa,b）	春・秋	松原　裕	＊	1		171
	（硬式テニスa,b）	春・秋	松原　裕	水2	1		171
	（硬式テニスa,b）	春・秋	田中　茂宏	木2	1		172
	（硬式テニスa,b）	春・秋	田中　茂宏	木3	1		172
	（ゴルフa,b）	春・秋	萩原　武久	金1	1		173
	（ゴルフa,b）	春・秋	萩原　武久	金2	1		173
	（サッカーa,b）	春・秋	菊原　伸郎	火1	1		174
	（サッカーa,b）	春・秋	菊原　伸郎	火2	1		174
	（サッカーa,b）	春・秋	松本　光弘	月2	1		175
	（サッカーa,b）	春・秋	松本　光弘	月3	1		175
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤　初恵	火2	1		176
	（スポーツ型デトックスa,b）	春・秋	齋藤　初恵	火3	1		176
	（ソフトボールa,b）	春・秋	池垣　功一	火1	1		177
	（ソフトボールa,b）	春・秋	池垣　功一	火2	1		177
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野　元祐	木1	1		178
	（ソフトボールa,b）	春・秋	萩野　元祐	木2	1		178
	（卓球a,b）	春・秋	神宮司　親治	金1	1		179
	（卓球a,b）	春・秋	太田　朝博	金2	1		180
	（卓球a,b）	春・秋	山口　知恵	月1	1		181
	（卓球a,b）	春・秋	山口　知恵	月2	1		181
	（卓球a,b）	春・秋	村山　光義	月3	1		182
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田　珠江	月1	1		183
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田　珠江	月2	1		183
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田　珠江	水1	1		183
	（バスケットボールa,b）	春・秋	依田　珠江	水2	1		183
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	火2	1		184
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	火3	1		184
	（バドミントンa,b）	春・秋	田中　茂宏	木1	1		185
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	木2	1		184
	（バドミントンa,b）	春・秋	梶野　克之	木3	1		184
	（バレーボールa,b）	春・秋	横矢　勇一	金1	1		186
	（バレーボールa,b）	春・秋	横矢　勇一	金2	1		186
	（バレーボールa,b）	春・秋	太田　朝博	金3	1		187
	（バレーボールa,b）	春・秋	山口　知恵	月3	1		188
	（フィットネスエクササイズ）	秋	梶野　克之	水2	1		189
	（フットサルa,b）	春・秋	松原　裕	火3	1		190
	（フットサルa,b）	春・秋	神宮司　親治	金3	1		191
	（フリスビーa,b）	春・秋	村山　光義	月2	1		192
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	内堀　祐子	水1	1		193
	（ボールルームダンスa,b）	春・秋	内堀　祐子	水2	1		193
	（アウトドアレクリエーション）	春	和田　智	水2	1		194
	（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	集中	和田　智	集中	1		194
	（アウトドアレクリエーション）	春	和田　智	金2	1		194
	（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	集中	和田　智	集中	1		194
	（アウトドアレクリエーション）	春	松原　裕	木2	1		195
	（アウトドア山岳）	集中	松原　裕	集中	1		195
	（バランストレーニング）	秋	松原　裕	水3	1		196
	（スノースポーツ）	集中	松原　裕	集中	1		196
	（スケートトレーニング）	秋	和田　智	土2	1		197
	（アイススポーツ）	集中	和田　智	集中	1		197
	（学生交流支援プログラム）	春	松原　裕	土1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	松原　裕	土2	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	依田　珠江	土1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	依田　珠江	土2	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	和田　智	土1	1	外・経・法	＊
	（学生交流支援プログラム）	春	和田　智	土2	1	外・経・法	＊

全学共通授業科目　目次（2003年度～2007年度入学者用）

カテゴリーⅠ　全学総合講座

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
全学総合講座	（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて-）			青山 愛香	木3	1	-	14
全学総合講座	（環境学1)(環境基礎学-自然を見つめる）			秋本 弘章	火4	1	-	15
		全学総合講座	（環境学2)(環境応用学－環境と社会）	秋本 弘章	火4	1	-	16
全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	全学総合講座	（キャンパスライフと仕事）	伊藤 為一郎	木2	1	-	17
全学総合講座	（多文化社会のメディア・リテラシー）			岡村 圭子	水3	1	-	18
		全学総合講座	（メディア社会とロック）	岡村 圭子	水3	1	-	19
		全学総合講座	（国家の役割とは何か－国家運営への国民の参加）	小川 健	火4	1	-	20
全学総合講座	（経営者が語る現代企業論1）			上坂 卓郎	火2	1	-	21
		全学総合講座	（経営者が語る現代企業論2）	上坂 卓郎	火2	1	-	22
全学総合講座	（獨協学）			川村 肇	水2	1	-	23
全学総合講座	（教えるという仕事）			川村 肇	金5	1	-	24
全学総合講座	（働くための基礎知識－知って得する労働問題）			斉藤 美彦	木3	1	-	25
全学総合講座	（現代世界論）			佐藤 勘治	月4	1	言・養	26
		全学総合講座	（フィールドワークで読み解く世界）	須永 和博	木4	1	-	27
全学総合講座	（NPO論 人を変える・地域を変える・世界を変える）			高松 和幸	金4	1	-	28
		全学総合講座	（地域活性化システム論―これからの「まちづくり」のヒントを探る）	高松 和幸	金4	1	-	29
全学総合講座	（国家と国境を考える：地域・民族・国家）			平田 由紀江	火3	1	-	30
		全学総合講座	（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	平田 由紀江	火3	1	-	31
全学総合講座	（あなたのキャリアデザインを考える）	全学総合講座	（あなたのキャリアデザインを考える）	町田 喜義	土2	1	-	32
全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	全学総合講座	（健康をスポーツを世界を考える）	松原 裕	木4	1	-	33
		全学総合講座	（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	矢羽々 崇	金3	1	-	34
		全学総合講座	（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	和田 智	火4	1	-	35
		全学総合講座	（自由時間の達人）	和田 智	金4	1	-	36

カテゴリーⅡ　概論科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
哲学a	（哲学の諸問題1）	哲学b	（哲学の諸問題2）	谷口 郁夫	月4	1	-	37
倫理学a	（倫理の基本について考える）	倫理学b	（環境と生命の倫理）	市川 達人	火3	1	養	38
倫理学a	（倫理学と人間性）	倫理学b	（現代倫理学の諸問題）	川口 茂雄	金3	1	養	39
社会思想史a	（市民的社会像の黎明期）	社会思想史b	（市民的社会像の確立期）	市川 達人	火4	1	-	40
社会思想史a	（東洋古代から近世まで）	社会思想史b	（東洋近世から現代まで）	川口 茂雄	水2	1	養	41
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木1	1	-	42
心理学a	（人間の行動・認知・動機の一般法則）	心理学b	（人間の個性・多様性理解）	杉山 憲司	木2	1	-	42
心理学a	（知覚・認知）	心理学b	（行動・個性）	増田 直衛	月1	1	-	43
心理学a	（知覚・認知）	心理学b	（行動・個性）	増田 直衛	月2	1	-	43
言語学a	（一般言語学）	言語学b	（一般言語学）	安間 一雄	水3/金1	1	養	44
言語学a	（個別言語学-英語）	言語学b	（個別言語学-英語）	安間 一雄	金1/水3	1	養	45
言語学a	（応用言語学）	言語学b	（第二言語習得）	臼井 芳子	水2	2	養	46
文学a	（日本文学－奈良時代の文学を読む）	文学b	（日本文学－平安時代の文学を読む）	福沢 健	月2	1	養(春のみ)	56
文学a	（恐怖の日本文学）	文学b	（癒しの日本文学）	佐藤 毅	木1	1	養(秋のみ)	57
歴史学a	（イスラーム世界の成立と拡大）	歴史学b	（イスラーム世界の近代化とその後）	熊谷 哲也	木3	1	-	58
歴史学a	（アメリカのエスニック・ヒストリー）	歴史学b	（アメリカのエスニック・ヒストリー）	佐藤 唯行	金3	1	-	59
歴史学a	（中国近代史概説－清朝国家の黄昏）	歴史学b	（中国近代史概説－近代国家創成の試み）	張 士陽	木4	2	養	60
歴史学a	（中世の仏教と社会）	歴史学b	（中世の「悪党」と民衆）	新井 孝重	火2	1	-	61
歴史学a	（「15年戦争」をどうとらえるか）	歴史学b	（戦後史の中の「15年戦争」）	丸浜 昭	火4	2	言・養	62
文化人類学a	（未開文化の理解へ）	文化人類学b	（未開文化の理解へ）	井上 兼行	月3	1	養	63
現代文化論a	（グローバリゼーションを巡って）	現代文化論b	（日本の表象と世界）	柴崎 信三	金2	1	経	86
		比較文化論b	（地域メディア論）	岡村 圭子	水2	2	言・養	87
比較文化論a	（東西の文化を結ぶもの）	比較文化論b	（東西文化と近代化）	熊谷 哲也	木4	2	言	64

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
経済学a	(ミクロの視点で考える)	経済学b	(マクロの視点で考える)	米山 昌幸	木1	1	経	88
経済学a	(はじめての経済学)	経済学b	(はじめての経済学)	黒木 亮	月1	1	経	89
日本国憲法	(憲法と私たち)	日本国憲法	(憲法と私たち)	加藤 一彦	火2	1	法	90
国際法a	(国際社会と私たち)	国際法b	(国際紛争を考える)	一之瀬 高博	火1	1	−	91
政治学a	(政治システムの構成要素)	政治学b	(現代の民主主義)	羽貝 正美	火5	1	−	92
社会学a	(他者と自己)	社会学b	(現代社会の諸問題)	岡村 圭子	土1	1	養	93
地理学a	(自然環境と文化)	地理学b	(自然環境と文化)	秋本 弘章	水2	1	−	94
地理学a	(世界の自然環境と文化)	地理学b	(世界の自然環境と文化)	北崎 幸之助	金4	2	言・養	95
		女性学a	(家庭と職場のジェンダー)	片山 亜紀	金4	1	−	96
		女性学b	(ジェンダーとメディア表象)	西山 千恵子	火4	1	−	97
数学a	(微分学)	数学b	(積分学)	福井 尚生	月3	1	養	112
物理学a	(相対論の世界)	物理学b	(量子論の世界)	東 孝博	月2	1	養	113
化学a	(歴史における科学技術1：古代から近代までの科学技術)	化学b	(歴史における科学技術2：近現代における科学技術)	内田 正夫	木3	1	−	114
生物学a	(植物の特性と自然の仕組み)	生物学b	(植物の分布)	加藤 僖重	火1	2	養	115
地球科学a	(恒星天文学)	地球科学b	(銀河天文学)	福井 尚生	水1	1	−	116
スポーツ・レクリエーション学a	(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)			和田 智	金4	1	−	117

カテゴリーⅢ 各論科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅲ)	(英語圏の社会と思想a)	ことばと思想(Ⅲ)	(英語圏の社会と思想b)	福井 嘉彦	火3	2	英	47
ことばと思想(Ⅲ)	(科学としての心理学とこころの世界)			田口 雅徳	木2	1	養	48
ことばと思想(Ⅲ)	(外国語としての日本語教育)			石塚 京子	月2	1	言・養	49
ことばと思想(Ⅲ)	(通訳・翻訳論)			永田 小絵	月5	2	言	50
ことばと思想(Ⅲ)	(生と死の意味の哲学1)	ことばと思想(Ⅲ)	(生と死の意味の哲学2)	谷口 郁夫	月3	1	−	51
ことばと思想(Ⅲ)	(国際語としての英語)	ことばと思想(Ⅲ)	(多言語環境と英語)	臼井 芳子	金3	2	言・養	52
		ことばと思想(Ⅲ)	(日本語の談話と日本語教育)	浅山 佳郎	火1	2	言・養	54
		ことばと思想(Ⅲ)	(日本語教材における学習項目の扱い)	中西 家栄子	水2	2	言・養	55
歴史と文化(Ⅲ)	(日本事情とコミュニケーション教育)			小山 慎治	月2	1	養	66
歴史と文化(Ⅲ)	(グローバル化とイスラム－公と私)	歴史と文化(Ⅲ)	(移民・交易に見る文化変容)	水口 章	水5	1	−	67
歴史と文化(Ⅲ)	(未開人の認識a)	歴史と文化(Ⅲ)	(未開人の認識b)	井上 兼行	火2	2	養	68
歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の小説a)	歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の小説b)	片山亜紀/島田啓一	金3/木3	2	英・養	69
歴史と文化(Ⅲ)	(スペイン研究入門)			中井 博康	月3	1	言・養・06以前入学者	70
		歴史と文化(Ⅲ)	(ラテンアメリカ研究入門)	佐藤 勘治	月5	1	言・養・06以前入学者	70
歴史と文化(Ⅲ)	(日本文化論)			飯島 一彦	木5	1	言・養・06以前入学者	71
		歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の文学文化)	松山 響子	月2	1	養	72
		歴史と文化(Ⅲ)	(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	山本 英政	月2	1	英・言・養・06以前入学者	73
歴史と文化(Ⅲ)	(文化史入門)			古川 堅治	水2	1	言・養	74
歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏の文化)	歴史と文化(Ⅲ)	(英語圏事情)	山本 英政	月3/水2	2	英・言・養	75
歴史と文化(Ⅲ)	(韓国文化各論c)			金 貞我	月5	2	言・養	76
歴史と文化(Ⅲ)	(大衆文化論)			木本 玲一	火5	2	言・養	77
歴史と文化(Ⅲ)	(民俗学)	歴史と文化(Ⅲ)	(地域文化)	林 英一	木1	2	言・養	78
		歴史と文化(Ⅲ)	(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火2	2	言・養	79
歴史と文化(Ⅲ)	(アラブ文化・芸術a)	歴史と文化(Ⅲ)	(アラブ文化・芸術b)	藤原 和彦	火2	2	言・養	80
		歴史と文化(Ⅲ)	(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	言・養	81
歴史と文化(Ⅲ)	(日本思想史a)			川村 肇	木4	2	言・養	82
		歴史と文化(Ⅲ)	(教育の歴史b)	川村 肇	木4	1	養	83
歴史と文化(Ⅲ)	(都市と建築1)	歴史と文化(Ⅲ)	(都市と建築2)	鈴木 隆	火3	1	−	84
現代社会(Ⅲ)	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	現代社会(Ⅲ)	(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	有吉 秀樹	木2	2	−	98
現代社会(Ⅲ)	(中東政治思想a)	現代社会(Ⅲ)	(中東政治思想b)	藤原 和彦	火1	1	−	99
現代社会(Ⅲ)	(歴史の中のメディア)	現代社会(Ⅲ)	(メディアと現代社会)	柴崎 信三	水2	1	−	100
現代社会(Ⅲ)	(社会科学概論a)	現代社会(Ⅲ)	(社会科学概論b)	堅田 剛	火1	1	法	101
現代社会(Ⅲ)	(教育法a)	現代社会(Ⅲ)	(教育法b)	市川 須美子	木2	2	法	102
現代社会(Ⅲ)	(民法a)	現代社会(Ⅲ)	(民法b)	小川 佳子	火4	1	法	103
		現代社会(Ⅲ)	(NGO論)	清水 俊弘	水5	1	言・養	104
現代社会(Ⅲ)	(東アジア国際関係の史的展開)	現代社会(Ⅲ)	(東アジア国際関係の現状と展望)	阿部 純一	土3	1	−	105

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
現代社会(Ⅲ)	(コトバと社会・言語文化概論)	現代社会(Ⅲ)	(コトバと社会・言語文化概論)	下川 浩	火5	1	言・06以前入学者	106
現代社会(Ⅲ)	(ヨーロッパ地域論)	現代社会(Ⅲ)	(ドイツ地域論)	飯嶋 曜子	火3	1	独	107
現代社会(Ⅲ)	(韓国社会各論b)			全 載旭	火2	2	言・養	108
現代社会(Ⅲ)	(ブラジル研究)			矢澤 達宏	月5	2	言・養	109
現代社会(Ⅲ)	(広告論a)	現代社会(Ⅲ)	(広告論b)	友部 孝次	土2	2	経	110
自然・環境・人間(Ⅲ)	(地球環境の変化とその要因)	自然・環境・人間(Ⅲ)	(地球環境問題と環境保全)	鈴木 滋	火2	1	−	118
自然・環境・人間(Ⅲ)	(宇宙論a)	自然・環境・人間(Ⅲ)	(宇宙論b)	福井 尚生	月1	1	養	119
自然・環境・人間(Ⅲ)	(地球外文明論a)	自然・環境・人間(Ⅲ)	(地球外文明論b)	福井 尚生	金1	1	−	120
自然・環境・人間(Ⅲ)	(太陽系天文学a)	自然・環境・人間(Ⅲ)	(太陽系天文学b)	福井 尚生	金3	1	言・養・06 以前入学者	121
自然・環境・人間(Ⅲ)	(スポーツコーチ学b)			梶野 克之	水2	2	養	122

カテゴリーⅣ 実践実習科目

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
ことばと思想(Ⅳ)	(論文を書く)	ことばと思想(Ⅳ)	(口頭発表を行う)	福沢 健	月3	1	−	123
ことばと思想(Ⅳ)	(書き言葉の問題)	ことばと思想(Ⅳ)	(話し言葉の問題)	佐藤 毅	木2	1	−	124
ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	ことばと思想(Ⅳ)	(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	梅津 正樹	土2	1	−	125
ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	ことばと思想(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・文章編)	下川 浩	金3	1	−	126
ことばと思想(Ⅳ)	(反＝コミュニケーション論)	ことばと思想(Ⅳ)	(反＝コミュニケーション論2)	谷口 亜沙子	水2	1	−	127
ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の発見)	ことばと思想(Ⅳ)	(生活文化の記述)	林 英一	木2	1	−	128
ことばと思想(Ⅳ)	(現代ジャーナリズム考1)	ことばと思想(Ⅳ)	(現代ジャーナリズム考2)	細野 徳治	水4	1	−	129
ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	ことばと思想(Ⅳ)	(英語通訳の仕事)	横山 直美	土2	1	−	130
		ことばと思想(Ⅳ)	(心理検査法とこころの健康)	田口 雅徳	木2	2	養	131
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月2	1	−	132
ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	ことばと思想(Ⅳ)	(プレゼンテーション実習)	清水 絹代	月3	1	−	132
ことばと思想(Ⅳ)	(写本を読む)	ことばと思想(Ⅳ)	(碑文を読む)	飯島 一彦	火4	2	言・養	133
歴史と文化(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	歴史と文化(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	伊藤 幸次	木4	1	−	135
歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの音楽史)	歴史と文化(Ⅳ)	(イタリアの声楽曲)	園田 みどり	水3	1	−	136
歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽4)	歴史と文化(Ⅳ)	(詩と音楽2)	園田 みどり	木2	1	−	137
歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタa)	歴史と文化(Ⅳ)	(おもしろまじめな芝居のミカタb)	児嶋 一男	火2	2	英・養	138
歴史と文化(Ⅳ)	(アメリカ詩入門)	歴史と文化(Ⅳ)	(イギリス詩入門)	遠藤朋之/白鳥正孝	木4/月4	2	英・養	139
歴史と文化(Ⅳ)	(西洋絵画の主題と様式a)	歴史と文化(Ⅳ)	(西洋絵画の主題と様式b)	阿部 明日香	金2	1	−	140
歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論b)	歴史と文化(Ⅳ)	(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	言・養	141
歴史と文化(Ⅳ)	(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)			倉田 量介	火3	2	言・養	142
歴史と文化(Ⅳ)	(能楽論)	歴史と文化(Ⅳ)	(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	火2	2	言	143
現代社会(Ⅳ)	(インターンシップ)			岡村 国和	土1・土2	2	−	144
現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む1)	現代社会(Ⅳ)	(新聞を読む2)	細野 徳治	金4	1	−	145
現代社会(Ⅳ)	(経理入門a)	現代社会(Ⅳ)	(経理入門b)	大坪 史治	木3	1	経	146
現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門a)	現代社会(Ⅳ)	(英文会計入門b)	大坪 史治	木4	1	−	147
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金3	1	外・養・経	148
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	黄 海湘	金4	1	外・養・経	148
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	久東 義典	火3	1	外・養・経	148
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門a)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータ入門b)	杉村 和枝	金3	1	外・養・経	148
現代社会(Ⅳ)	(コンピュータアドヴァンスa)	現代社会(Ⅳ)	(コンピュータアドヴァンスb)	長 慎也	月2	1	外・養・経	149
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	A.ベロフ	水5	1	養	150
現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	現代社会(Ⅳ)	(ホームページ作成)	久東 義典	火4	1	養	151
現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	現代社会(Ⅳ)	(生きたコトバづかい・話し合い編)	下川 浩	金4	1	−	152
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』1)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『EUとフランス』2)	大井 正博	金2	1	−	153
現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	現代社会(Ⅳ)	(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	矢羽々崇/金井満	金3/水3	1	独	154
現代社会(Ⅳ)	(教育の現場：教師と語るa)			川村 肇	金3	1	−	155
		現代社会(Ⅳ)	(教育の現場：教師と語るb)	川村 肇	金3	2	養	155
現代社会(Ⅳ)	(異文化理解教育)	現代社会(Ⅳ)	(こども論)	小島 優生	木3	2	養	156
		現代社会(Ⅳ)	(韓国社会論)	平田 由紀江	月3	2	言・養	157
		現代社会(Ⅳ)	(模擬国際裁判)	鈴木 淳一	火2	3	法	158
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 信重	水2	2	養	159

春 科目名	春 副題	秋 科目名	秋 副題	担当教員	曜時	開始学年	履修不可	ページ
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	木2	2	養	159
自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 春)	自然・環境・人間(Ⅳ)	(身近な自然観察 秋)	加藤 僖重	木3	2	養	159
自然・環境・人間(Ⅳ)	(統計と調査法)			安間 一雄	水1	2	養	160
自然・環境・人間(Ⅳ)	(マルチメディア論)			田中 雅英	火4	2	養	161
自然・環境・人間(Ⅳ)	(情報検索と加工)			呉 浩東	水1	2	養	162
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	養	163
自然・環境・人間(Ⅳ)	(スポーツコーチ学a)			依田 珠江	木3	2	養	164
自然・環境・人間(Ⅳ)	(リーダーシップ論)			和田 智	金3	2	養	165
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(体育経営スポーツマネージメント)	松原 裕	木2	2	養	166
		自然・環境・人間(Ⅳ)	(からだの仕組み)	依田 珠江	木3	1	−	167

外国語科目

英語科目

外国語学部英語学科・言語文化学科、国際教養学部の学生は、下記の英語科目を履修することはできません。

■クラス指定科目（再履修クラス含む）

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
再履修クラス	English 111–a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		–	198
再履修クラス（国のみ）	English 121–a,b Basic Composition	各担当教員		–	200
再履修クラス	English 141–a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		–	202
再履修クラス	English 211–a,b Basic Reading Strategies	各担当教員		–	205
再履修クラス（国のみ）	English 221–a,b Basic Composition	各担当教員		–	207
再履修クラス	English 241–a,b Basic Listening Comprehension	各担当教員		–	208
独・仏のみ	English 311–a,b Reading English for Specific Purposes	各担当教員		–	210

■対象者指定科目

対象・コース等	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
外国人学生・帰国学生	English 110–a,b Introductory Reading Strategies	菊池　武	木 4		212
外国人学生・帰国学生	English 211–a,b Basic Reading Strategies	長坂　達彦	水 3		213

■選択科目

科目の種類	科目名	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
Writing	English 121–a,b Basic Composition	今井　純子	月 5	国・総	214
	English 121–a,b Basic Composition	福田　哲哉	木 3	国・総	215
	English 121–a,b Basic Composition	石月　正伸	木 4	国・総	216
	English 121–a,b Basic Composition	笠原　誠也	土 1	国・総	217
	English 221–a,b Basic Composition	M. ミルティアダス	土 2	国・総	218
Speaking	English 131–a,b Basic Communicative English	M. H. ウィキンズ	月 3	–	219
	English 131–a,b Basic Communicative English	D. R. ギブソン	火 4	–	220
	English 131–a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 3	–	221
	English 131–a,b Basic Communicative English	J. クレイグ	金 3	–	222
	English 131–a,b Basic Communicative English	S. A. フルトン	金 4	–	223
	English 131–a,b Basic Communicative English	M. ミルティアダス	土 1	–	224
	English 231–a,b Basic Communicative English	J. ハサウェイ	木 2	–	225
Reading	English 211–a,b Basic Reading Strategies	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	
	English 311–a,b Reading English for Specific Purposes	履修希望者は教務課 各学部係窓口へ		独・仏	
Listening	English 241–a,b Basic Listening Comprehension	履修希望者は教務課 経済学部係窓口へ		独・仏・法	
e-learning	English 351 Computer–Assisted English Learning	岡田　圭子	月 3	–	226
Basic Grammar	English 121–a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池　武	水 3	–	231
	English 121–a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	菊池　武	木 5	–	232
	English 121–a,b Basic Composition (Grammar Refresher)	飯島　優雅	木 2	–	233

英語以外の外国語科目

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(基礎コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員		独	234
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (基礎)	各担当教員		独	235
(総合コース)	ドイツ語 Ia,b (会話)	各担当教員		独	236
(基礎コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	各担当教員		独	237
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (基礎)	各担当教員		独	238
(総合コース)	ドイツ語 Ⅱa,b (会話)	各担当教員		独	239
	ドイツ語Ⅲa(会話)	J. シャルロート	木 3	独	240
(基礎コース)	フランス語 Ia,b (基礎)	各担当教員		仏	241
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合J)	各担当教員		仏	242
(総合コース)	フランス語 Ia,b (総合F)	各担当教員		仏	243
(基礎コース)	フランス語Ⅱa,b (基礎)	各担当教員		仏	244
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合J)	各担当教員		仏	245
(総合コース)	フランス語Ⅱa,b (総合F)	各担当教員		仏	246
	フランス語Ⅲa,b	Ch. ペリセロ	火 3	仏	247
(基礎コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	248
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	249
(総合コース)	スペイン語Ⅰa,b (会話)	各担当教員		言(*1)養(*1)	250
(基礎コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	251
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (文法)	各担当教員		言(*1)養(*1)	252
(総合コース)	スペイン語Ⅱa,b (会話)	各担当教員		言(*1)養(*1)	253
	スペイン語Ⅲa,b (講読)	兒島 峰	火 3	言(*1)養(*1)	254
	スペイン語Ⅲa,b(会話)	J. フェレーラス	金 5	言(*1)養(*1)	255
(基礎コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	256
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	257
(総合コース)	中国語Ⅰa,b(講読・文法)	各担当教員		言(*2)養(*2)	258
(基礎コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	259
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(会話)	各担当教員		言(*2)養(*2)	260
(総合コース)	中国語Ⅱa,b(講読・文法)	各担当教員		言(*2)養(*2)	261
	中国語Ⅲa,b(会話)	頼 明	月 2	言(*2)養(*2)	262
	中国語Ⅲa,b(講読・文法)	平野 佐和	火 1	言(*2)養(*2)	263
	朝鮮語Ⅰa,b (総合)	呉 吉煥	金 1	養(*1)	264
	朝鮮語Ⅰa,b (総合)	呉 吉煥	金 2	養(*1)	264
	朝鮮語Ⅰa,b (講読・会話)	金 貞我	月 4	養(*1)	265
	朝鮮語Ⅰa,b (講読・会話)	呉 吉煥	水 2	養(*1)	266
	朝鮮語Ⅱa,b (総合)	森 勇俊	土 2	養(*1)	267
	朝鮮語Ⅱa,b(講読・会話)	森 貞美	土 1	養(*1)	268
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	水 4	−	269
	イタリア語Ⅰa,b	園田 みどり	木 3	−	269
	イタリア語Ⅰa,b	島津 寛	土 1	−	270
	イタリア語Ⅱa,b	島津 寛	土 2	−	271
	ポルトガル語Ⅰa,b(文法)	牧野 真也	金 3	−	272
	ポルトガル語Ⅱa,b(応用練習)	牧野 真也	金 4	−	273
	ロシア語Ⅰa,b(総合)	齊藤 毅	水 4	−	274
	ロシア語Ⅰa,b(会話)	小西 昌隆	月 4	−	275
	ロシア語Ⅱa,b(総合)	齊藤 毅	水 3	−	276
	ロシア語Ⅱa,b(会話)	小西 昌隆	月 3	−	277
	タイ語Ⅰa,b(会話)	江藤 双恵	火 3	−	278
	タイ語Ⅱa,b(文字の読み書き)	江藤 双恵	火 2	−	279
	アラビア語Ⅰa,b(会話と文化)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 2	−	280
	アラビア語Ⅱa,b(読み書きと文法の基礎)	師岡カリーマ・エルサムニー	月 3	−	281
	現代ヘブライ語Ⅰa,b	阿部 望	金 2	−	282
	古典ギリシア語Ⅰa,b	櫻井 悠美	月 3	−	283
	古典ギリシア語Ⅱa,b	古川 堅治	金 3	−	284
	ラテン語Ⅰa,b	小倉 博行	金 2	−	285
	ラテン語Ⅱa,b	小倉 博行	金 3	−	286

全学共通授業科目以外(外国人学生用科目)

対象・コース等	科目名(副題)	担当教員	曜 時	履修不可	ページ
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅰa,b	各担当教員		−	287
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	斎藤 明	月 3	−	288
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	江添 真紀子	水 3	−	289
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	武田 明子	水 4	−	290
(外国人・帰国学生)	日本語Ⅱa,b	桂 千佳子	木 2	−	291
	日本事情a,b	守田 逸人	木 4	−	134

（春）	全学総合講座（芸術と社会－芸術が社会の中で果たす役割りについて）	担当者	青山　愛香

講義目標

芸術は古来、社会と深く結びつきながら発展してきた。この講義ではこうした芸術と社会の関わりについて、歴史的な事象に加え、現在日本で実際にアートに携わる講師たちに、デザインの問題まで含めて、その実情を話してもらう。

この講義は、これまで芸術に深く接した経験がない学生さんに、過去芸術がどのように発展してきたのかを理解し、また芸術が現代社会において、我々の身近に今なお存在し、深く社会に関わっていることに気づいてもらうことを目標としている。

講義概要

美術館学芸員、美術史家を始め、デザイナー、音楽学の専門家からギタリストまで、様々な分野で芸術と携わっている講師陣に、それぞれ自分の切り口で芸術と社会の接点について話をしてもらう。

※テーマと順番については、場合によっては変更の可能性がある。

受講生への要望

各授業の最後に必ず感想を書いてもらう。質問の時間も設けるので、積極的な参加が求められる。

評価方法

学期末の試験結果と出席状況で評価する。

テキスト、参考文献

各授業でハンドアウトを配布する。

授業計画

１　青山愛香：
＜総論＞　芸術と社会（4/8）

２　青山愛香：
芸術とパトロネージ ― ハプスブルク家と宮廷画家たちを例に（4/15）

３　加藤磨珠枝（ゲストスピーカー）：
ローマ―古代の帝都からキリスト教の聖都へ（4/22）

４　山本淳：
社会の＜近代＞と芸術の＜近代＞―ドイツ表現主義の諸相（5/6）

５　北野良枝（ゲストスピーカー）：
狩野永徳の画業と権力者たち―政治における絵画の役割（5/13）

６　木村佐千子：
ヨーロッパ社会と音楽（5/20）

７　福島修（ゲストスピーカー）：
美術館の仕事 ― 古美術との関係（5/27）

８　未定（ゲストスピーカー）（6/3）

９　山本淳：
＜社会彫刻＞―ヨーゼフ・ボイスにおける芸術と社会（6/10）

１０　浅井治彦（ゲストスピーカー）：
デザインとは何のためにあるのか（6/17）

１１　福島雅子（ゲストスピーカー）：
産学官連携研究の現状（6/24）

１２　西本剛己（ゲストスピーカー）：
アートとデザインの社会的役割：相違と本質（7/1）

１３　金庸太（ゲスト）：
ギターコンサートとお話（7/8）

１４　青山愛香：
まとめ（7/15）

（春）	全学総合講座（環境学 1）（環境基礎学ー自然を見つめる）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本　弘章

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

春学期は、環境問題を考える際の基礎となる「自然環境の成り立ち」および「自然と人間社会のかかわり」について検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員・経済学部秋本弘章准教授がコーディネーターとなり、環境共生研究所研究員加藤国際教養学部教授および松本経済学部非常勤講師（元筑波大学地球科学系教授）ほかが担当する。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験と出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1．環境とは何か
2．最近の地質時代の環境変動
3．海水面変化と地盤運動
4．平野の形成
5．地表プロセスと災害
6．土壌の生成と人為的改変
7．地球大気の構造
8．大気とエネルギー循環
9．気候の時間・空間スケール
10. 気候環境の地域性
11. 植物とエネルギー循環
12. 植物分布と地理的環境
13. 植物と動物
14. 人類と環境

（秋）	全学総合講座（環境学 2）（環境応用学ー環境と社会）	担当者	環境共生研究所提供講座 秋本　弘章

講義目標

20 世紀中葉以降、地球の温暖化、オゾンホールの拡大、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、大気や海洋の汚染など、多方面にわたる地球規模での環境破壊が深刻化した。さらに、都市・人口・食糧問題、南北格差の拡大、民族対立の激化など、政治・経済・社会問題も深刻の度を増しつつある。今ほど、地球環境を保全して人類の平和と安寧を促進し、われわれの子孫に負の財産を遺さないための叡知の結集と努力が求められている時代はない。「環境共生研究所」は、そのような時代の要請に応えるべく、地域環境問題や地球環境問題の解決に向けて調査・研究を進め、社会や大学教育においてその成果を還元することを目的として設立された。本講座は、「環境共生研究所」の設立趣旨にそって提供するものである。

本講座を通じて学生諸君が環境共生社会の基盤となる自然環境と社会のあり方についての基本概念を身につけることを目標とする。

講義概要

秋学期は、地球・地域環境問題の現状とそれに対するさまざまな主体の対応を具体的に検討するとともに、環境共生社会へ向けた具体的な取り組みについて検討する。

本講座は、環境共生研究所研究員経済学部秋本弘章准教授がコーディネーターを務める、環境共生研究所研究員および何人かの外部講師による連続講義である。

受講生への要望

環境は、学際的扱うべきテーマです。この講座を通じて広い視野を獲得するよう望みます。

評価方法

定期試験と出席状況を総合的に評価します。
なお、担当教員からレポート等が課された場合は、これも加味します。

テキスト、参考文献

各担当教員より指示されます。

授業計画

1　オリエンテーション　ESD とは何か
2　地球・地域環境問題の諸相（1）　人口と食糧問題
3　地球・地域環境問題の諸相（2）　熱帯林の破壊 1
4　地球・地域環境問題の諸相（3）　熱帯林の破壊 2
5　地球・地域環境問題の諸相（4）　地球温暖化
6　地球・地域環境問題への対応　環境経済・政策（1）
7　地球・地域環境問題への対応　環境経済・政策（2）
8　地球・地域環境問題への対応　企業と環境
9　地球・地域環境問題への対応　環境と法
10　地球・地域環境問題への対応　環境教育
11　地球・地域環境問題への取り組み（1）
12　地球・地域環境問題への取り組み（2）
13　地球・地域環境問題への取り組み（3）
14　地球・地域環境問題への取り組み（4）

（春）（秋）	全学総合講座(キャンパスライフと仕事)	担当者	伊藤　爲一郎

講義目標

「生きる力」を強くすることがねらいです。「自分らしい生き方」を発見するにはどうしたらよいか考える時間です。国際競争の激化、情報化の進展、産業構造の変化など日本の経済・社会をとりまく環境の変貌によって、就職･雇用情勢は大きく変わり、大学に求められる人材についても変化がおきています。一方ではせっかく就職したのに、３年以内に離職する若者が３割にも達するという結果が出ています。その主な理由は、学生の職業意識の未熟さにあります。就職という人生でもっとも重要な選択を適切に行うには冷静な「自己分析」が必要です。「キャンパスライフ」の内容が問われるのです。この講義は、皆さんが個性にあった生き方をデザインし充実した学生生活送れるよう支援するものです。

講義概要

生きていくためには何かの仕事に就かなければなりません。どのような生き方をしたいかによって、選択する職業も違ってきます。どのような生き方が考えられるか、具体的な職業を例にとりながら多様な生き方があることを示します。選択のヒントを与えます。目標を達成するために何が必要か、その手順を実践的に考えてみます。目標を持ってキャンパスライフをおくるためのスキルを磨くことができるように工夫されています。

受講生への要望

将来どのように生きていくかイメージしてみましょう。最初はぼんやりとしたものしか浮かばないかもしれません。キャンパスライフの目標を見つけるために、辛抱して講義に出席しているとだんだんはっきりとしてくるでしょう。卒業時のはっきりとした将来像が楽しみです。

評価方法

レポートは必要に応じて提出してもらいます。レポートと出席状況（１１回以上出席のこと）を総合して評価します。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。講義の中で参考文献を紹介します。

授業計画

第１回　オリエンテーション
講義の目的、進め方などの説明

第２回　企業で働く（企業が学生に求めるもの）

第３回　自己理解・自己表現

第４回　必要とされる人間になるためには・・・

第５回　社会の求める人材とは（グローバルに活躍できる社会人になるために）

第６回　ベンチャー企業を起業する

第７回　仕事と適性（仕事をどのように選ぶか）

第８回　活躍するＯＧ

第９回　充実した大学生活を送るための３つの秘訣

第１０回　キャンパスライフを充実させる５つの法則

第１１回　『大学時代に身につけておくべき３つの武器』とは？

第１２回　活躍するＯＢ

第１３回　仕事と私事

第１４回　各学部４年生による就職体験談

（講義の順番や講師のテーマが変わることがあります。）

（春）	全学総合講座（多文化社会のメディア・リテラシー）	担当者	岡村　圭子

講義目標

現代社会は多メディア社会と言われている。なおかつ、さまざまな文化が混在する社会（多文化社会）でもある。そこで生きる私たちは、つねに膨大な量の情報に囲まれており、そのなかから自分に必要な情報を取捨選択し、自分なりにその情報を解釈していかなければならない。なおかつ、自分自身もまた情報の発信者であることも忘れてはならない。

そういった状況のなかで私たちがメディアに接するとき、絶えず考えておくべきことは何か？　どのようにメディアを使いこなせばよいのだろか？　マスメディア業界ではいまなにが問題になっているのか？　なぜ、今メディア・リテラシーについて考えなくてはならないのか？

これらの問いには明確な答えはないかもしれない。しかし、そう問いかける営みこそが、他者とともに生きる社会をみつめ、大学生としての「知」のあり方を考える絶好の機会となる。その機会を提供するのが本講義の大きな目標である。

講義概要

本講義では、できるだけ多様な視点・論点からメディア・リテラシーについて考えてみたい。

それぞれまったく異なった経歴を持つ講師たちが、それぞれの立場・観点から、またそれぞれのご経験をもとに「多文化社会におけるメディア・リテラシー」について講義する。履修者は、講師の語ることのなかから、現代社会のメディアの姿をとらえ、それを使いこなすにはどうすればよいのか、身近な問題として考えていってほしい。とくに、かれらがどのように現代のメディアを、またその将来を考えているのか、かれらにとっての「メディア・リテラシー」とはなにか、学生になにを伝えようとしているのかについて、しっかりと耳を傾けたい。

２～１３に関しては、講師の都合で順番が入れ替わることもあります。

受講生への要望

① 受講にあたっての諸注意や課題の説明があるので、第１回目のオリエンテーションには必ず出席すること。

② 講師の方々は皆、激務の合間をぬってわざわざ足を運んでくださるということを忘れないように。

評価方法

出席と期末試験

テキスト、参考文献

第１回目のオリエンテーションでリストを配布するが、主要参考資料は右のとおり。受講前に各自で読んでおくこと。

授業計画

1.オリエンテーション　岡村圭子

2. ウェブ以前、ウェブ以後の口コミ・流言蜚語
「ウェブ時代のスター」から風評被害まで
荻上チキ

3. メディア有害論の系譜
これからのネットリテラシー
同上

4.テレビにおけるトランスジェンダーと表象(1)
早稲田大学ジェンダー研究所客員研究員
三橋順子

5.テレビにおけるトランスジェンダーと表象(2)
同上

6. 広告からメディアを読み解く（1）
――ブームは『見えない広告』で作られる
マーケティング・プランナー　谷村智康

7. 広告からメディアを読み解く（2）
――ﾒﾃﾞｨｱを『金儲けのしくみ』として透かしてみる同上

8. メディア産業と表現の自由（1）
――日英比較 NHK と BBC をとおして
ジャーナリスト　烏賀陽弘道

9. メディア産業と表現の自由（2）
――「自発的」規制について考える
同上

10. ドキュメンタリーという手法
――世界を信じるためのメソッド
ドキュメンタリー作家　森　達也

11.ドキュメンタリー制作とメディア産業
――自由な「知」の崩壊
同上

12. 「報道番組」制作の現場から
フジテレビ番組制作部　宗像　孝

13. 国際協力とメディア
――報道されない人道危機
ＭＳＦ（国境なき医師団）関係者

14.まとめ――大学生にとってのメディア・リテラシー

［主要参考資料］

荻上チキ『ウェブ炎上』（ちくま新書）
村松泰子ほか『メディアがつくるジェンダー――日独の男女・家族像を読みとく』（新曜社）
上野千鶴子『セクシィギャルの大研究――女の読み方・読まれ方・読ませ方』（岩波現代文庫）
谷村智康『CM 化するニッポン――なぜテレビが面白くなくなったのか』（WAVE 出版）
『マーケティング・リテラシー』（リベルタ出版）
烏賀陽弘道『朝日ともあろうものが』（河出文庫）
森達也『世界を信じるためのメソッド――僕らの時代のメディア・リテラシー』理論社
DVD『A』『A２』（マクザム）
久留宮隆『国境なき医師が行く』（岩波ジュニア新書）
山本敏晴『世界で一番いのちの短い国――シエラレオネの国境なき医師団』（白水社）

（秋）	全学総合講座（メディア社会とロック）	担当者	岡村　圭子

講義目標

「ロック」という文化をとおして、わたしたちが生きる現代社会、メディア・音楽産業、グローバル化について考えることが本講義の主なねらいである。

かならずしも音楽についての専門的な知識／経験を持っている必要はなく、それぞれの講師の話を聴くなかから、自分なりに（自分の問題関心に応じて）話題を展開していってほしい。

たとえば、ロックが生まれた背景や、ロックが日本の音楽（J ポップやグループサウンズ）にどういったかたちで影響してきたのかを知ることによって、異文化受容のメカニズムや多文化共生を考える糸口が見つかるかもしれない。観光、ファッションとロック音楽の関連を知るなかから、文化変容の形態やメディアの影響力や、見ること／見られることとはどういうことか、といった課題が展開できるかもしれない。あるいは、講師の方々のお仕事の内容をじかに聴くことによって、将来の方向性や、目指すべき職業が見つかるかもしれない。いずれにせよ、貴重な経験を自分なりに活かしてほしい。

講義概要

初回のオリエンテーションでは、授業の進め方や評価方法についての説明、受講に当たっての注意、参考文献リストの配布など、受講にあたっての重要なインフォメーションがあるので必ず出席のこと。

第２～３回は、ロックについての基礎的な解説をし、第４～５回は、日本における大衆音楽とメディアとの関係について、第６回以降は、ロックとの関連からそれぞれのテーマについての各論を展開する。

講師にお招きする方は、それぞれ音楽業界での業績が多くあり、知識も豊富である。それゆえ、なかなか聴く機会のない貴重な話や、専門的な話も出てくるかもしれない。ぜひとも、しっかりと予習をしたうえで、積極的に質問をしてほしい。

受講生への要望

自分なりの問題関心を持ち、受講マナーを守って
講義に参加すること
初回オリエンテーションには必ず参加すること

評価方法

出席と期末テスト
授業中の質問・発言なども考慮する

テキスト、参考文献

第１回目のオリエンテーションで
リストを配布するので、各自読んでおくこと

授業計画

１．オリエンテーション

２．ロックとは何か
——ロック史総括
ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ・作詞家・ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝ
サエキけんぞう

３．メディア進化とロックの変容
——技術の発達による音楽産業の変化
同上

４．J ポップ論
——J ポップは世界の財産か？
（未定）

５．日本のロック・海外進出史
サエキけんぞう

６．フェスティバル、リゾート、イベントとしての音楽
——音楽が喚起する消費行動
（未定）

７．文化の種としてのロック
——アート、ファッションへの広がり
美術評論家　長澤　均

８．クラブカルチャー論
音楽評論家　サラーム海上

９．テクノ音楽と世界
音楽評論家　小暮秀夫

１０．　グループサウンズ論
——異形の和製ポップスがもたらしたもの
（未定）

１１．　ロックとアイドル文化
サエキけんぞう

１２．　アニメが飲み込むロック
——世界を席巻するアニメ文化のグローバル性
音楽評論家　冨田明宏

１３．　ロックは何を伝えて来たか
——歌詞・言葉をめぐる文化史
（未定）

１４．　まとめ

（秋）	全学総合講座（国家の役割とは何かー国家運営への国民の参加）	担当者	小川　健

講義目標

我が国の憲法には「国民主権」が謳われているが、国、そして国家機構が国民のものであるという意識を持つ人は多くない。むしろ、国家機構は統治主体であり、国民はこれに導かれるものであるという認識を持つ人の方が一般的であろう。もっとも、近年この傾向には変化が現れつつある。司法、行政、立法の各分野に国民の参加の必要が叫ばれ、それが少しずつ現実にも反映されようとしている。一方、一定の公的業務には旧くから「国民」の手によって行われているものもある。しかし、それが、真に国民のものとなっているかについては疑問を持たれているものも少なくない。ただ、国の業務を何でも国民の手に委ねることが望ましいかというと、そうとは限らない。国の業務を安易に国民（私人）の手に委ねると、公益の保護や維持に支障を来すこともあり得るだろうし、また、そもそも国民が何でも直接処理することが可能だというのなら、国の存在自体が問われることになろう。
そこで本講義では、まず国民が国家運営に関わる場合にどのような事柄についてどのようなやり方で関わることがあるのかにつき現状を認識するとともに、現状ではどのようなことが問題となっているのか、またどのような事柄についてどのような関わり方がなされるのが望ましいのかといったことを講師の方々を交え皆で考えてみたい。

講義概要

授業計画の欄に掲げたようなテーマについて、毎回原則として異なる講師（ゲストスピーカー）の方に、現状の紹介、問題点、評価、今後の展望などをお話しいただこうと思う。
日程や時間、予算の制約があることから、授業計画に示した全てのテーマを採り上げることは不可能であろう。テーマをある程度絞っても、多様な立場の方々からバランス良く講師の方をお招きすることは困難であろうと予想している。受講者には、そのことを考えた上で、本講義には批判的精神を持って参加して頂きたいと思う。
したがって、質問は大いに歓迎する。ただし、話の途中で質問されることを好まない方もいらっしゃるので、質問は基本的に各講義の最後にして頂くことにしようと考えている。途中質問を認める場合には、各回の講義の開始時にその旨通知する。

受講生への要望

講師の方々は、専ら好意で講義に来てくださっています。講義途中の入退室、雑談、居眠り等は厳禁します。講師の方々への失礼がある場合には、当該学生には退出をして頂くとともに、成績評価にも反映させるつもりです。

評価方法

出席と、適切な質問等の授業参加態度、学期末に課すレポートにより評価します。

テキスト、参考文献

適時示します。

授業計画

このシラバス作成時点では参加して頂く講師の方々との調整ができていないことから、各回の講義の具体的内容と担当者名を記載することは困難です。以下はあくまで担当者が採り上げたいと考えている項目の例示に過ぎません。したがって、内容や順番の変更の有りうることをご承知おきください。具体的な計画は最初の授業の際に配布する予定です。

1.-3.　司法
自主的、私的、民事紛争解決
刑事司法、行刑への国民参加
触法精神障害者等の処遇
等

4.-6.　立法
国民の政治参加
いわゆる「世襲議員」
政治家育成
等

7.-9.　行政
公益法人認定
環境アセスメント、大規模小売店舗活動調整
行政手続法の運用
事業仕分け
等

10.-12.　公共サービス
交通　　運輸
通信　　ライフライン
医療、福祉　　教育
等

13.-14.　国民による情報取得
情報公開
記者クラブ制とネットメディア
等

（春）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論１）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

この講義は､企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである｡広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。
この講義の受講を通じて､学生諸君が｢企業とはなにか｣を考えたり､本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に､大学を出て｢働くことを通じて社会に貢献することとは何か｣をつかんでもらうことも意図している。
なお､本科目は全学学生を対象としているので､企業や経営という言葉になじみの少ない外国語学部の学生にもわかるような平易な内容となっている。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で､企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う｡また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれる。
１年生でも理解できるように平易な説明が行われるが､講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。
毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが､講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。
講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である｡講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 1」の受講者は受講できない
- １年でもよいが出来れば２年次以降の受講がベター
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況（1/3）と定期試験（2/3）を総合して行う。
追試、レポートはないので４年生は注意すること

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される｡またテキストは特に定めないが､企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める(初回ガイダンスの際に紹介する)。

授業計画

第１回　科目ガイダンス　経営者とは

第２回　会社の仕組みー組織、予算、取締役の責任ー

第３回　ファッションビジネスとは
ーアパレル産業の周辺ー

第４回　アサヒビールの海外事業戦略

第５回　花王の成長戦略
ー顧客の多様なライフスタイルへの提案ー

第６回 トヨタの強みートヨタ生産方式とはー

第７回　医療産業の難しさ・面白さ
ー日本製薬企業のビジョンと課題ー

第８回　精密電子部品の世界

第９回　リース業と不動産ビジネスの概要

第１０回　国際物流の現場

第１１回　日本の海運業ー外航海運の生き残り策ー

第１２回　農場から食卓までー食の安全を求めてー

第１３回　保険ビジネスとは

第１４回　証券業のすべて

注意・・・開講日程は前後することがある。第 1 回ガイダンスで説明するのでかならず出席すること

（秋）	全学総合講座（経営者が語る現代企業論２）	担当者	上坂　卓郎

講義目標

経営者が語る現代企業論１に続く講義である。講師は春学期とは異なる

この講座は、企業のトップマネジメント経験者が企業経営の現場をやさしく講義するものである。広範な業種の企業に関する話題が取り上げられる。

この講義の受講を通じて、学生諸君が「企業とはなにか」を考えたり、本学で専門知識を深く学ぶ契機としてもらうと同時に、大学を出て「働くことを通じて社会に貢献することとは何か」をつかんでもらうことも意図している。

講義概要

講師陣は、日本を代表する大企業の元経営者である。毎回多様な業種（製造業、非製造業）出身の講師がオムニバス形式で、企業の経営戦略や意思決定の実際について講義を行う。また社会に出て働くことについて講師ご自身の豊富な経験から貴重なアドバイスも与えてくれると思われる。

１年生でも理解できるように平易な説明が行われるが、講義と平行して企業を勉強し理解を深めることを期待する。

毎回の講義を一般の講演のように聞き流す学生がいるが、講演会ではないので毎回講義の中から自ら知識を掴み取る努力が必要である。

講師は実務経験豊富な慧眼の元企業経営者である。講師から学生諸君が社会人候補として見られていることも忘れないようにしてほしい。

受講生への要望

- 「ものづくりの現場、ものづくりの現場 2」の受講者は受講できない
- １年でもよいが出来れば２年次以降の受講がベター
- 15 分以上の遅刻は認めない
- ノートを必ずとること。試験に不可欠である
- 受講については真摯な態度で臨むこと。他の講義同様講義中の携帯利用は禁止する

評価方法

出席状況（1/3）と試験（2/3）を総合して行う。
追試、レポートはないので４年生は注意すること

テキスト、参考文献

講義の中でハンドアウトが配布される。またテキストは特に定めないが、企業経営の基本書を並行して読むことが講義の理解を深める（初回ガイダンスの際に紹介する）。

授業計画

第１回　科目ガイダンス、会社で働くことについて

第２回　総合商社からみた日米経営比較
－歴史・文化の視点から－

第３回　IT 社会におけるリスクマネジメント

第４回　総合スーパーの勝ち組
－イトーヨーカ堂の強さ－

第５回　目覚める巨大産業
－ツーリズムと航空ビジネス－

第６回　外食産業の動向－レストランビジネスの現状－

第７回 ヤマト運輸躍進の背景－運輸業界の革新－

第８回　出版業界の最近の動向－売れる本の作り方－

第９回　鉄鋼業界に今何が起こっているか
－原料確保の世界戦略－

第１０回　世界の３強ブリヂストン強さの秘密

第１１回　エコ時代における電力業界の戦略

第１２回　循環型社会におけるリサイクルビジネス

第１３回　信託銀行のすべて

第１４回　銀行のすべて

注意・・・開講日程は前後することがある。第 1 回ガイダンスで説明するのでかならず出席すること

（春）	全学総合講座（獨協学）	担当者	川村　肇

講義目標

「獨協学」は獨協学園の歴史を学ぶ講座です。
学園は時代の変遷のなかで、幾多の試練に耐えて 120 年余の歴史を重ね、総じて教育の大道を歩んできました。
この講座の聴講を通じ、学生の皆さんが自分たちの学ぶ学園の歴史とその社会的地位を把握し、それによって獨協大学で学ぶことの意味や、未来にむかう自己の可能性についての展望を得ることを願っています。

講義概要

1883（明治 16）年に創立された獨逸学協会学校は、ドイツ学の普及を好んだ政府から補助金を受け、初期に存在した専修科(法律学校)から、多数の司法官・行政官が輩出しました。
しかし、帝国大学の官僚養成体制が確立すると、政府の援助は打ち切られ、専修科は廃止され、医学への進学者が多いという特色はあるものの、一中等教育機関としての普通科（獨協中学・高等学校の前身）が残っただけでした。
やがて経営的に行きづまり、明治 30 年代と第一次世界大戦後には、東京府への経営移管も考えられるほどの困窮をみます。第二次世界大戦中は、ヒトラーユーゲント来校などにみられるドイツを友邦とする国際情勢もあって、勢いを盛り返しましたが、戦争は学園を荒廃させました。
戦後、獨逸学協会学校中学の卒業生天野貞祐が校長に就任、人間の尊重を掲げて学校再建をはかりました。そして 1964（昭和 39）年、「大学は学問を通じての人間形成の場である」との理念のもとに、獨協大学が建学されたのでした。

受講生への要望

ゲスト・ティーチャーの講義の後に、積極的に質問・発言してください。

評価方法

期末レポートに、出席を加味します。出席は 6 割が必須で、毎回 20 行程度の感想文の提出を求めます。なお、授業中の質問や発言は高く評価します。

テキスト、参考文献

『目でみる獨協百年』(獨協学園)。
『獨協学園史 1881-2000』(獨協学園)。
堅田剛『獨逸学協会と明治法制』(木鐸社)。
新宮譲治『獨逸学協会学校の研究』(校倉書房)。
(上記文献は図書館に所蔵)、その他「講義のレジュメ」。

授業計画

1　「獨協学」についてのガイダンス
担当：川村

2　法律学校としての獨逸学協会学校
担当：新宮譲治(元非常勤講師)

3　西周と加藤弘之
——明六社(明治啓蒙思想家の組織)に参加していた二人の校長
担当：新宮譲治

4　専修科廃止後、医学進学を軸に市民的広がりを遂げた獨逸学協会学校
担当：新宮譲治

5　大村仁太郎校長の先駆的教育論（その１）
担当：新井孝重（経済学部教授）

6　同　（その２）
担当：新井孝重

7　獨協とナチス
——ヒトラーユーゲント来校の頃
担当：新宮譲治

8　天野貞祐の校長就任から獨協大学創設の頃
担当：新宮譲治

9　天野教育の人間論・教育論
——「大学は学問を通した人間形成の場である」の人間形成とは何をめざすことなのか
担当：雪山伸一(元朝日新聞ボン支局長)

10　『道理の感覚』を読む
——この書物の時代背景と天野のめざしたもの
担当：雪山伸一

11　獨協大学創立期の回顧
担当：下川　浩(外国語学部ドイツ語学科教授)

12　特別講義「日本近現代の私学——獨協を中心に」
担当：寺崎昌男(東京大学名誉教授)

13　獨協大学の教育理念——教養主義について
担当：新井孝重

14　シンポジウム
「天野理念を現代社会にいかに生かすか」
司会：川村
講師：下川浩・新宮譲治・雪山伸一

上記の日程と内容は、講師の都合で変更することがありますので、あらかじめ了承しておいてください。

（春）	全学総合講座（教えるという仕事）	担当者	川村　肇

講義目標

教えるということはどういうことか、子ども（あるいは人間）というものをどう見るのか、学校とは何か、学校という職場にはどういう問題があるのか、など教育をめぐる問題について様々な角度から考え、自分たちの受けてきた教育を相対化する視点を得るとともに、教育に関しての見方を深めていくことを目標にします。

また、これを通じて、広く社会の問題にも目を向け、考えていくきっかけを作ってほしいと思っています。

講義概要

教えるという仕事を、学校現場の先生方に、その経験を生かして語っていただきます。

お招きするのは、埼玉県の小中学校および高校の現役の先生方、さいたま教育研究所の先生を予定しています。総勢 10 名の先生方を予定しています。

それぞれ、右の授業計画にあるようなテーマ（仮題）でお話しいただく予定です。模擬授業や、ビデオ観賞なども予定しています（ただし、先生方の都合で、順番や内容が変わることがあります。ご了承ください）。

みなさんが教育や社会の問題を考える素材を提供する科目にしたいと考えています。

受講生への要望

教えるということは、教師だけが行うことではありませんから、教職をめざしてはいない学生の参加も歓迎しますし、この授業はそういう諸君にも役立つと思います。
積極的、意欲的に参加してください。

評価方法

毎回の授業レポート（学んだこと、20 行程度）の提出をもって出席点とし、最終レポート（A4 判用紙で 3～4 枚）と併せて評価します。出席は 6 割が必須です。

テキスト、参考文献

テキストは使用しません。配布プリント類によります。
参考文献は、授業中適宜紹介します

授業計画

第 1 回 ビデオ『星空の中学生とともに』鑑賞（川村）
第 2 回 学校という職場・教師という仕事
第 3 回 草加の小学生（小学生の文化活動）
第 4 回 草加の中学生（合唱祭の取り組み）
第 5 回 学校への参加（三者協議会）
第 6 回 父母との関わり合い（小学校）
第 7 回 社会科を教える
第 8 回 英語を教える
第 9 回 小学校の集団づくり（一年間の構想）
第 10 回 中学校の集団づくり
第 11 回 いじめと不登校
第 12 回 生徒の自治
第 13 回　教育と福祉
第 14 回 まとめ（川村）

（春）	全学総合講座（働くための基礎知識－知って得する労働問題）	担当者	斉藤　美彦

講義目標

近年の金融危機は実体経済にも波及し、日本経済も低成長を余儀なくされている。このような経済状況およびグローバリゼーションの進展もあり、雇用をめぐる環境は厳しいものとなってきている。
大学生の就職状況も昨年以来厳しい状態が続いており、今年度においても好転は望めない状況にあり、ロスト・ジェネレーションといわれる世代の再出現が懸念されている。また、職場における労働環境も特に若年層において厳しいものがある。
本講義においては、労働をめぐる種々の問題について多様な切り口から接近し、私たちの暮らし・生き方と労働がどのように関わっているかについて考えていくことにする。

講義概要

講義は毎回ゲストスピーカーを招き行うこととする。労働組合関係者だけでなく、経営者団体代表・国際労働機関（ＩＬＯ）代表・労働法学者等の多様な一流の講師から「働くための基礎知識」を習得できるようにする。

受講生への要望

労働問題に関する新聞記事を読んだりテレビニュースを見て、現在何が問題となっているかを自分なりに把握しておくこと。真摯な態度で受講すること。

評価方法

レポート（ダイネットによる提出予定）による。

テキスト、参考文献

各回の講義において紹介する。

授業計画

1. ガイダンス　斉藤美彦
2. 働くことの意味－労働観の変遷
   前全労済協会理事長　鷲尾悦也
3. 労働法の基礎知識（1）
   上智大学名誉教授　花見忠
4. 労使関係とは（1）－労働組合からみて
   連合会長　古賀伸明
5. 労使関係とは（2）－経営からみて
   日本年金機構理事長　紀陸隆
6. 賃金・労働時間制度
   前全労済協会理事長　鷲尾悦也
7. 国際労働基準とＩＬＯ
   ＩＬＯ労働側理事（連合・国際代表）　中嶋滋
8. 多様化する雇用制度
   前全労済協会理事長　鷲尾悦也
9. 労働法の基礎知識（2）
   上智大学名誉教授　花見忠
10. 労働安全衛生－メンタルヘルスを含む
    中央労働災害防止協会理事長　澤田陽太郎
11. 社会保障のあり方
    連合生活福祉局長　小島茂
12. 労働組合の役割
    前全労済協会理事長　鷲尾悦也
13. 公序・共助・自助
    前全労済協会理事長　鷲尾悦也
14. 働くための基礎知識（まとめ）

講義の順番は変更になることがある。

（春）	全学総合講座（現代世界論）	担当者	佐藤　勘治

講義目標

この講義は、現代世界が抱える諸問題を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマについて受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとなることを目的とする。一年目の学生が主な履修対象者である。

現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。

講義概要

言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、言語学、歴史、社会学、文学、生物学、文化人類学など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。ゲストスピーカーには、作家の森まゆみ氏、ラテンアメリカを中心に幅広い取材経験をもつ工藤律子氏、自ら「無国籍」の経験をもつ陳天璽氏、日本の音楽シーンに一石を投じている宮田信氏、エクアドル産チョコレートなどのフェアトレードを推進している藤岡亜美氏を予定している。

なお、順番などについて、変更の可能性がある。

受講生への要望

各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。
積極的な発言を期待している。

評価方法

毎回、内容理解を確かめる小レポート課題が出される。
また最終レポートを提出してもらう。

テキスト、参考文献

陳天璽『無国籍』（新潮社）2005年・工藤律子『ストリートチルドレン：メキシコシティの路上に生きる』（岩波ジュニア新書）2003年など

授業計画

1　佐藤勘治：
総論　現代世界の歴史的位置（4/12）
2　飯島一彦：
中華文明という幻想、日本文化の多様性（4/19）
3　森まゆみ(ゲストスピーカー)：作家・編集者
「地域」から考えるということ（4/26）
4　井上兼行：
カリブ海地域クレオールの現状（5/10）
5　加藤僖重
プラントハンターが活躍した世界　（5/17）
6　陳天璽（ゲストスピーカー）：国立民族学博物館
「無国籍」を生きるとは？（5/24）
7　臼井芳子：
日本の言語政策（5/31）
8　工藤律子（ゲストスピーカー）：ジャーナリスト
ストリートチルドレンとは（6/7）
9　宮田信(ゲストスピーカー)：MusicCamp
チカーノコミュニティから沸き起こる音楽（6/14）
10　依田珠江：
社会的弱者のスポーツする権利（6/21）
11　山中千恵（ゲストスピーカー）：仁愛大学講師
東アジアにおける『はだしのゲン』（6/28）
12　佐藤勘治：
アイデンティティの時代
＋レポート課題について　（7/5）
13　藤岡亜美(ゲストスピーカー)：Slow Water Café
フェアトレードの現場と私たちの暮らし（7/12）
14　浅山佳郎：
漢字と文字の国際性（7/19）

（秋）	全学総合講座（フィールドワークで読み解く世界）	担当者	須永　和博

講義目標

本講義は、文化人類学、および文化人類学を特徴づけているフィールドワークと呼ばれる学問的営みについて考えることを通じて、異文化を理解するための学問的想像力を身につけてもらうことを目的としています。文化人類学とは、「民族」や「文化」の違いに着目して、世界の諸社会・諸文化について考察する学問です。通常、文化人類学者は、研究対象となる社会に入り込んで、長期間生活をともにしながらデータを収集するといったことをします。

文化人類学者は、生身の身体をもった文化的他者と＜出会い＞、＜対話＞を積み重ねることによって、最初は謎めいて現れる他者（異文化）について徹底的に考え、＜理解＞することを目指します。

講義概要

本講義は、オムニバス形式で、12 名の文化人類学者（およびその隣接領域の研究者）をお呼びして、各々のフィールドワークの経験について語ってもらいます。個々の文化人類学者のフィールドでの＜出会い＞＜対話＞＜他者理解＞＜自己変容＞等について具体的に知ることで、フィールドワークが生み出す知の可能性について考えたいと思います。

なお、本講義では、毎回小レポートを提出してもらいます。また、文化人類学の基本的な考えについては、各自文献等を読むなど、各自予習・復習をすることが求められます。それゆえ本講義の受講に際しては、相当高い知的好奇心・勉学意欲が必須となります。

受講生への要望

質疑応答の時間を設けるので、積極的に発言してもらいたい。

また、受講態度の悪い学生は、受講停止措置をとるので注意されたい。

評価方法

小レポート(50%)、期末レポート（50%）

テキスト、参考文献

特に定めない。

授業計画

1. 須永和博（獨協大学）趣旨説明（9/30）
2. 葛野浩昭（立教大学）
   オーロラ・サンタ・サーミ人
   ―北欧北極圏観光の過去と現在―（10/7）
3. 多田治（一橋大学）
   フィールドワークと沖縄（10/14）
4. 関口由彦（成城大学）
   首都圏におけるアイヌ民族の文化・社会運動と
   ライフストーリー（10/21）
5. 伊藤敦規（国立民族学博物館）
   フィールドワークを禁止する民族集団
   ―米国南西部先住民ホピ保留地での調査経験と倫理（10/28）
6. 綾部真雄（首都大学東京）
   リチュアルな日々
   ―タイ・リス族との関わりの20年誌―(11/4)
7. 鈴木祐記（上智大学）
   自己と他者について考える
   ―タイ南部の少数民族モーケンとの生活―（11/11）
8. 小西公大（東京大学）
   自分を壊す、そしてつながる
   ―インド・タール沙漠のフィールド経験から―（11/18）
9. 川口幸也（国立民族学博物館）
   アフリカの都市を歩く
   ―アートと文化をめぐる旅―（11/25）
10. 亀井伸孝（東京外国語大学）
    手話を通して見えてくる異文化世界
    ―アフリカと日本のろう者とともに―（12/2）
11. 市川哲（立教大学）
    移動する人々とフィールドワーク
    ―パプアニューギニア華人の調査経験―（12/9）
12. 市野沢潤平（東京大学）
    セックスの人類学
    ―タイにおけるツーリズムの一側面―（12/16）
13. 熊田陽子（お茶の水女子大学）
    共在者としての経験
    ―東京都市部の SM クラブにおける調査から―（12/23）
14. 須永和博（獨協大学）
    フィールドとホームの間
    ―タイと日本のフィールドワークから―（1/13）

（春）	全学総合講座（NPO 論　人を変える・地域を変える・世界を変える）	担当者	高松　和幸

講義目標

講義では、企業やNPOの社会貢献活動を中心に、さまざまな取り組みについて、現実の臨場感あふれる模様を紹介することに主眼を置く。問題意識は、次のような視点もある。

解題:「どのような状況（条件下）で企業とNPOのパートナーシップが崩れてしまうのか、逆にどのようにすれば不均衡な関係を脱することができるのか（良好な関係が維持できるのか）」

企業は、自社のCSR活動がもっぱら戦略的な行為としてなされるべきではなく、公共的な空間（場）に根ざしたものとして追求される必要がある。

講義概要

ドラッカーは『非営利組織の経営』の中で、市民社会を構成するセクターとしてNPOは経営学的にも注目される対象であるとして、NPOの運営において、ミッションの重要性を指摘すると共に、マーケティング戦略、人材育成、成果測定といった企業並みのマネジメントの必要性を主張した。

その背景には、もはや旧来の慈善寄付に頼っては財政的に成り立たないという、米国をはじめとする先進国のNPOが直面する危機があったが、NPOが生き残りをかけて事業展開に力を入れるにつれ、あらたなパートナーとして企業に働きかけ、企業と共に地域の問題解決に向けて進む動きが見られるようになった。

企業にとってもCSRを果たすべきことが求められ、その流れの中で、NPOと共にコミュニティ支援活動に乗り出す事例が増えてきた。

もとよりNPOはその組織使命の遂行のために企業と協力するのであるが、NPOにとって不足しがちな経営資源（資金・人材など）を企業によって補えることから、企業への依存関係が発生するというリスクを抱えている。

企業への依存が強まると、資本拡大をめざす企業にとっては好都合で利用される可能性が増すことになるが、NPOは公共的な使命を遂行するために、NPOにとっての倫理的基盤が損なわれ得ることを覚悟した上で、協働することになる。

かくして、その真偽はいかにあるか。様々な活動を通しての社会との接点をみることで、これら諸問題に関して、本講義では正面から取り上げて展開する。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト、参考文献

その都度、指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸

2. テーマ：未定
日本フィランソロピー協会副会長　田中克人

3. テーマ：未定
市街地経営研究機構
㈱商店街ネットワーク　代表取締役
木下　斉

4. 紙製飲料容器「ｶｰﾄｶﾝ」
森を育む紙製飲料容器普及協議会

5. ふじみの国際文化センターの活動
ふじみの国際交流センター 理事長　石井ナナエ

6. 北の国から
ハンズオン　埼玉　副代表　吉田理映子

7. 慶応義塾大学
「コ・モビリティ社会の創成」ＰＴ
博士　浦野慶子

8. 岐路に立つ日本のフィランソロピー
大阪大学　奥山尚子

9. テーマ：未定
（財）まちみらい千代田　関　幸子

10. テーマ：未定
ＮＰＯ法人　とよあしはら事務局長
山本裕隆

11. テーマ：未定
日本ファンドレイジング協会
事務局長　鵜尾雅隆

12. テーマ：未定
地球環境ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟﾌﾟﾗｻﾞ
CSR・関東 EPO 事業担当　平田裕之

13. テーマ：未定
有限会社　青空市場
代表取締役　永島敏行

14. 企業人も地域社会との関わりを求めている
小中高校生世代向ｷｬﾘｱ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを通しての実践例から
ＮＰＯ法人　ｷｰﾊﾟｰｿﾝ 21　理事　谷中修吾

上記の授業計画は講師の都合などにより変更することがあります。

（秋）	全学総合講座（地域活性化システム論－これからの「まちづくり」のヒントを探る）	担当者	高松　和幸

講義目標

この講義は，地域活性化をキーワードに，地域の活性化とまちづくりなどを制度の面や人的な面，社会資源的面などから視てのプログラムである。地域活性化システム論では，地域や街の潜在力とは何かについて考え，それぞれの取組を事例を含めて分かりやすく解説するとともに，各都道府県の市町村毎にどのような取組が行われているのか，いずれも地域の創意工夫にあふれた取り組みであり，それを支援するという意味では共通しており，それぞれの地域がこれらの枠組みを利用して，地域活性化のために活用することが期待して展開する。

本講義では，こうした取り組みについて，講師を招いて開催する。今後の地域活性化の方向が学べるように工夫している。

講義概要

この科目は内閣府などの協力を得て実施している講義である。具体的な施策や事例などを紹介し，例示しながら講義する。

各講義の個別テーマは授業計画（最初の授業時に配布する）のとおりであるが，地域の中で問題となっていることを中心に，テーマ設定を行っている。

この結果，地域の中で起きている様々な事例を通して，地域の実情の理解ができると共に，地域の課題についての新たな認識と共に，自分が住んでいる地域や将来住むであろう地域の可能性に関して，示唆にとんだ内容が展開されるであろう。

この講義を通じて，地域で求められる支援活動や人材に関する具体的な問題意識を得ることができであろう。

受講生への要望

- 積極的に質問することと真摯な態度で挑むこと。
- １５分以上の遅刻は認めない。
- ノートは必ずとること。

評価方法

平常点（出席・質問など）　７０％
レポート　　３０％

テキスト，参考文献

その都度，指示する。

授業計画

1. ガイダンス　高松和幸
2. 日本における特区の方向性
   内閣府地域再生事業推進室企画官　木村俊昭
3. 起業家支援策
   大田区　産業振興課　課長　石井芳明
4. 中心市街地の活性化
   内閣官房　地域活性化総合本部　水谷朋之
5. ビズデザイン株式会社
   代表　木村　乃
6. 地域における NPO の役割
   FUSION 長池　理事長　富永一夫
7. 世界の食料事情と環境との関係（仮題）
   農林水産省大臣官房　食料安全保障課　課長　末松広行
8. 持続可能な“手法としての共通ポイント”サービス
   ㈱サイモンズ　代表取締役　斉川　満
9. テーマ:未定
   株式会社三井物産戦略研究所
   業務管理室　園田正彦
10. 高齢者に優しいまちづくり
    国土交通省　住宅局　総務課長　桑田俊一
11. テーマ:未定
    内閣府　官房審議官　舘　逸志
12. ソーシャル・キャピタルについて
    ㈱日本総合研究所　研究員　前田直之
13. 震災後の都市の復興について
    阪神・淡路大震災記念
    人と防災未来センター　研究主幹　博士　越山健治
14. テーマ:未定
    ㈱アセンダント　代表取締役　大和田瑞乃

上記授業計画は講師等の都合により変更することがあります。

（春）	全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	担当者	平田　由紀江

講義目標

本講座は、さまざまな分野の第一線で活躍する方々に、それぞれの分野からみた「国家と国境」についてお話いただくものです。
国家や国境のゆらぎが指摘される今日ですが、果たしてそれは具体的にどんなかたちで私たちの生きる世界にあらわれているのかいないのかについて、考えていきます。

講義概要

講師の方々に、たとえば、越境するポピュラー文化、地域社会における国際理解教育活動について、外国人看護師・介護福祉士候補生の受け入れについて、あるいは日本の国際協力活動について等、「現場」からみた「国家と国境」を語っていただき、受講生には、それについてのレスポンスを小レポートというかたちで提出してもらいます。

受講生への要望

初回講義には必ず出席すること。

評価方法

出席、小レポート、期末レポート。

テキスト、参考文献

特に指定しない。

授業計画

1 イントロ
　担当者

2 文学から考える①
　鈴木賢子（実践女子大学非常勤講師）

3 文学から考える②
　鈴木賢子（実践女子大学非常勤講師）

4 ポピュラー文化から考える①
　毛利嘉孝（東京藝術大学准教授、社会学者）

5 ポピュラー文化から考える②
　毛利嘉孝（東京芸術大学准教授、社会学者）

6 多文化教育活動から考える①
　三木洋子（特定非営利活動法人 KFV 副理事）

7 多文化教育活動から考える②
　三木洋子（特定非営利活動法人 KFV 副理事）

8 介護の現場から考える①
　宮崎和歌子（看護政策研究所　所長）

9 介護の現場から考える②
　宮崎和歌子（看護政策研究所　所長）

10 ウィルスから考える①
　花見健志（理化学研究所　研究員）

11 ウィルスから考える②
　花見健志（理化学研究所　研究員）

12 法整備支援から考える①（仮題）
　法務省法務国際研究所国際協力部　教官

13 法整備支援から考える②（仮題）
　法務省法務国際研究所国際協力部　教官

14 まとめ
　担当者

（秋）	全学総合講座（国家と国境を考える：地域・民族・国家）	担当者	平田　由紀江

講義目標

本講座は、さまざまな分野の第一線で活躍する方々に、それぞれの分野からみた「国家と国境」についてお話いただくものです。
国家や国境のゆらぎが指摘される今日ですが、果たしてそれは具体的にどんなかたちで私たちの生きる世界にあらわれているのかいないのかについて、考えていきます。

講義概要

講師の方々に、たとえば、地域社会における国際理解教育活動についてや、ヨーロッパにおける移民政策等、さまざまな立場から「国家と国境」を語っていただき、受講生には、それについてのレスポンスを小レポートというかたちで提出してもらいます。

受講生への要望

初回講義には必ず出席すること。

評価方法

出席、小レポート、期末レポート。

テキスト、参考文献

なし

授業計画

1 イントロ
　担当者

2 ウィルスから考える①
　花見健志（理化学研究所　研究員）

3 ウィルスから考える②
　花見健志（理化学研究所　研究員）

4 多文化教育活動から考える①
　三木洋子（特定非営利活動法人 KFV 副理事）

5 多文化教育活動から考える②
　三木洋子（特定非営利活動法人 KFV 副理事）

6 民族から考える①
　佐藤勘治（獨協大学国際教養学部　教授）

7 民族から考える②
　佐藤勘治(獨協大学国際教養学部　教授)

8 未定（ゲストスピーカー）

9 未定（ゲストスピーカー）

10 移民から考える①
　田中洋美（ドイツ日本研究所　専任研究員）

11 移民から考える②
　田中洋美（ドイツ日本研究所　専任研究員）

12 歴史から考える①
　古川堅治（獨協大学国際教養学部　教授）

13 歴史から考える②
　古川堅治（獨協大学国際教養学部　教授）

14 まとめ
　担当者

（春）（秋）	全学総合講座（あなたのキャリアデザインを考える）	担当者	町田　喜義

講義目標

本講座は、2006度から開講された本学卒業生による毎回完結の連続講義です。例えば、

① 自分自身の内面を探索する：自己発見

② 異なった環境で如何に生きるか：適応力

③ 近未来を考える：職業選択

④ 人間関係を構築する：個と集団の均衡を図る

⑤ 自己の物差しの構築：理論と実践

⑥ 大学生活をどの様に過ごすか：今、ここで

⑦ 外国語学習にどう立ち向かうか：継続は力

⑧ その他、諸君の今後の学生生活に役立つ話題満載

講義概要

実業界、学会、法曹界、教育界、官界、芸能界、政界など各分野・社会、地域（外国を含む）で活躍している卒業生が、後輩諸君へ語る熱きメッセージに傾聴し、同じキャンパスで過ごした学生生活を共有しながら、先輩達との絆を感じ取ってください。皆さんの今後のキャリアデザインに役立つ講義が満載です。

このシラバスでは2009年度の講義題目を掲載しておきますので（本稿執筆時では未決定部分が多いので）参考にしてください。

受講生への要望

・全て出席する覚悟で登録すること。

・遅刻：開始後１５分（１１：００）以降の入場は欠席とする。

・初回から出欠を取る。

・教室内は脱帽

・（当然だが）私語厳禁

評価方法

・各講師の課題レポートの中から3題選択。

・レポートの提出条件は、9/14の出席を要する。

テキスト、参考文献

・各担当者の指示による。

授業計画

（春学期）

１．講義概要説明：キャリアデザイン序章

２．人生の経営数学

３．ホスピタリティーを考える

４．水を考える

５．ステージを楽しむ人生

６．25年間仕事を続けて/国際交流の端をになう

７．ひとが変わる時：媒体による伝達と変容

８．これからの人生を生きていくためのアドバイス

９．夢描いた客室乗務員の仕事

１０．チェンジとチャレンジを愉しむ

１１．人生は一本道しかないという事

１２．社会生活に於けるキーワード

１３．キャリアデザイン終章

（秋学期）

１．講義概要説明：キャリアデザイン序章

２．キャリア＝働く事を通してどのように生きるか？

３．人って変われる

４．アーティストプロデュースに学ぶセルフプロデュース論

５．今を生きる

６．人との出会い、経験をどう生かせるか

７．事件記者のとっておきの話

８．外国語とビジネスで必要なスキルについて

９．地方マスコミの仕事

１０．Global Communication

１１．教師を目指して。教師になって。

１２．キャリアデザイン終章

※昨年度は春学期13回、秋学期12回の講義でしたが、今年度は14回となります。

（春）（秋）	全学総合講座（健康をスポーツを世界を考える）	担当者	松原 裕

講義目標

基本的には、第１学期・第２学期に所属している学生が対象の授業ですので、健康・スポーツ・世界という言葉をキーワードとして知的刺激を与え、今後の大学生生活や生きて行く上でのヒントを与えることが目標です。

多くのゲストの方を通して、感じたり、考えたりして、各々が正解を求めて考えてください。

講義概要

基本的に、ゲストの方の話を聞くという形になります。

１回だけ救急法と骨盤調整の実技があります。

毎回の授業中に感じた、考えたことを出席用紙に記入して提出してもらいます。

顔写真１枚と受講票の提出をお願いします。

講義の内容は、骨盤調整、応急処置、薬、栄養、スポーツビジネス、総合型地域スポーツクラブ、パレスチナ問題、ヒッピー文化、障害者などなど・・・ゲストにより、多岐にわたります。

受講生への要望

毎回の出席と好奇心、柔軟な思考力、積極的な発言などなど・・・を期待します。

三角巾は各自で必ず用意してください。

評価方法

出席用紙の内容、最終レポートの内容、担当者・ゲストとのコミュニケーション、以上を総合して評価をします。

テキスト、参考文献

その都度、紹介したり、プリントを配布したりします。

授業計画

第１週 ガイダンスと骨盤調整講義（松原）

第２週～第１４週 ゲストによる講義

ゲスト予定（順不同・複数回あり）

応急処置の理論と実技（音海）

薬 （南）

栄養 （河野）

障害者 （亀田）

パレスチナ （今）

ヒッピー （シギー吉田）

総合型地域スポーツクラブ（黒田・中塚）

スポーツビジネス（田口）

第２週に受講票を配布し、写真を貼って提出

第１４週に課題を出し、教務課にレポートを提出

（秋）	全学総合講座（童話（メルヒェン）の可能性をめぐって）	担当者	矢羽々　崇

講義目標

皆さんにとって，昔話・メルヒェンとはどういうものでしょうか？　子供時代に読み聞かせてもらっただけの過去のものでしょうか？　これらの物語の形式は，その単純さのせいで軽視されたりもしますが，実は文学の根本にあるものです。文学ばかりではなく，テレビドラマや映画などの根底を支えているといっても過言ではありません。そしてそれ以上に，私たちの生活をも（私たちは意識していなくても）規定しているのです。女性であればシンデレラストーリーに自分を重ねてみたり，男性であれば自分の中の「おおかみ」を意識すること(?)もあるでしょう。そんなメルヒェン・民話の可能性をめぐって話を進めていきます。

講義概要

この講座が目標とするのは，皆さんに自分たちの中の昔話やメルヒェン，そして文学を意識し，できれば時代を「読む」可能性を見いだしてもらうことです。昔話・メルヒェンの中にある人間の原型的なもの。グリム童話ならその成立期である 19 世紀という時代の考え方。グリムが盛んに書き換えられた 20 世紀の様相。さらに今の私たちが生きる 21 世紀の価値観。こうしたさまざまなベクトルを対比しながら，21 世紀初頭に日本で生きている自分たちを相対化できる視点を持ってもらえれば，この講座はその役割を果たすことになります。

講座は基本的に約 1 時間の講師による講義，残りの時間を講師とコーディネーターとの対話・参加者との質疑応答にあてます。「対話」は学問の土台です。ぜひ積極的に質疑にも参加してください。（以下，追加分）終了時には，皆さんに授業に関するコメントを書いてもらいます。

受講生への要望

積極的に参加してくれることを望みます。

私語や遅刻など，他の学生や講師の方々に迷惑をかける行為は厳に慎むように。

評価方法

出席（10ー20%）および学期末定期試験の成績（80ー90%）によって決定します。欠席が 4 回以上の場合，評価の対象としません。遅刻・無断退出（出入り）も場合によっては欠席とみなします。

テキスト、参考文献

第 1 回授業で指示します。参考文献はそれぞれの先生からも適宜指示があります。

授業計画

第 1 回授業時に提示します。

基本的な予定テーマは次のとおり。講師の日程確保の都合などで前後することがあります。

1　ガイダンス

2　メルヒェンとは何か

3　昔話の法則性

4　昔話のメッセージ

5　昔話を聞く

6　グリム・メルヒェンの舞台

7　グリム以前のドイツヨーロッパのメルヒェン

8　グリム・メルヒェンの成立

9　メルヒェンの国際比較

10　グリム以後のメルヒェン 1

11　グリム以後のメルヒェン 2

12　20 世紀のメルヒェン

13　メルヒェンの映像化

14　パネル・ディスカッション
（学生数名+矢羽々＋講師）

（秋）	全学総合講座（食文化と人間生活「気候と風土と食文化」）	担当者	和田　智

講義目標

「食」の歴史と共に、近年失われつつある「食文化」の意義と認識をすることは意味のある事といえる。その地域に根ざした伝統食とその歴史的変遷は、世界の歴史の影を多く落としており、その国々の食にまつわる拘りがその国の食文化を大きく成長させ、生活その物にも変化と進歩を与えた。また食への欲が世界の流通をも引き起こし、戦争や貿易という結果も生んだといえる。また一方では、食にまつわる副産物として、食を楽しむ為の、酒やお茶、調味料といったものへの拘りと、食を楽しむ為の、容器や食べ方に至る拘りが、陶器やマナーを生んだ。

日本の食、世界の食について食の世界のスペシャリスト達の話から食についての関心を高め、行動に移す。

講義概要

人間は日々折々の食事から、時代や風土に即した多用な文化を紡ぎだしている。食事は世界の各地で邂逅し、現在も変容の過程といえる。食にまつわる歴史、地域とのかかわりと文化として成長し継承されて現在に至っている。「食」の文化を開拓した人類にとって、その地域の旬の食材をどう食べるかは単に栄養を摂取する為だけの問題ではなく、食物の蓄積は富の象徴となり、味覚への拘泥は「食」の美学生み、教養や宗教とあいまって現在では謎に満ちた「タブー」をもつくり、時空を超えた「食」への夢は際限なく広がりを見せ、貴重な食材や調理法への旺盛な探求心はとどまることなく、人々を果てしない冒険へと駆り立てた。「食」はかっては国家や民族間の争いの引き金として、また政治の道具に利用される事も歴史上の事実として観る事が出来る。今日「食」を巡る問題は、国際化と科学技術の進歩と人々の様々な欲望とによって、複雑怪奇な様相を呈している。日々の食事の背景や、夢と欲望、謎と矛盾に満ちた不可思議な世界を検証し、他の動物ではあり得ない食文化とそれにまつわる生活文化を学びその世界的変容に、知識としてだけでなく学び、体験する。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1 オリエンテーション
「食をめぐる話題」
和田 智 獨協大学教授
2「食と茶の文化伝導」
磯淵 猛 ㈱ティー・イソブチカンパニー代表取締役社長
3「食事作法の背景にあるもの」
後藤加寿子　料理研究家　武者小路千家長女
4「インドのカレー、日本のカレー」
井上一郎　元丸紅香港・インド副社長
5「カナダネイティブから学ぶ食」
田中勝之　本学卒業生　ネイチャーライター
6「人はズルなしで生きられるか」
服部 文祥
東京新聞出版局・岳人編集部　サバイバル登山家
7「中国の食文化」
辻　康吾　元国際教養学部言語文化学科教授
8「パティシエから見るスイーツブーム」
羽鳥武夫　シュルプリーズ　パティシエ
9「ケケタン先生の考える子どもと食」
葛恵子　（有）葛トータルフードプロデュース
クッキングプロデューサー
10「発酵食品の意義」
柳原尚之　江戸懐石近茶流・柳原料理教室副主宰
11 「スローフード運動とライフスタイル」
榎本ゆう子　雑誌ソトコト編集部
12 「WFP の活動」
講師交渉中　国連機関 WFP（World Food Programme）
13「有機農業と食」
桑原　衛　埼玉県小川町ぶくぶく農園代表
14「パンかトルティーヤか？メキシコにおける食の歴史」
佐藤勘治　獨協大学教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

（秋）	全学総合講座（自由時間の達人）	担当者	和田　智

講義目標

自由時間の大切さに気づいていない人が多い。

私たちの生涯は70万時間、労働時間は7万時間、自由時間は20万時間。これまでのあなたの目標といえば7万時間のためのものが多かったのではないでしょうか。自由時間をいかに充実させることができるかについてもっと考えて見ましょう。この授業ではいろいろと考えてきた人たちを紹介します。

「レジャー」の真の意味を知ることにより、個々の学生が現在を充実させ、将来の目標を立てる助けにすることを目標にしています。

春学期の理論編としての「自由時間設計」とこの授業を履修していただくと、より理解しやすく、あなたを行動へと向かわせてくれると思います。

講義概要

第１回目の授業では、私たちの自由時間の現状について把握し、これからの授業を理解するための基礎的な理解をしていただきます。

第２回目の授業から、それぞれの講師がどのような考え方、ライフスタイルを持ち、自由時間について実践しているかについて知っていただきます。

最後の授業では、これまでの講義で聞いてきたお話が「レジャー学」的にどのように理解できるのかを説明していきます。

受講生への要望

講義支援システムを利用するので利用できるようにしておくこと。質問、アンケート等で携帯電話を利用します。通信料が発生しますのでご理解の上協力願います。

評価方法

授業での小レポート、学期末レポート、出席状況等により総合的に評価する。

テキスト、参考文献

授業で紹介する。

授業計画

1　オリエンテーション
「あなたの自由時間の現状」
和田 智 獨協大学教授

2　自由時間の達人①
「農業から新しいライフスタイルを求めて」
島野忠夫　楽遊舎代表

3　自由時間の達人②
「学生時代に行ったシルクロード自転車の旅と現在」
佐々木拓司　本学卒業生
Think the Earthプロジェクト

4　自由時間の達人③
「私にとっての世界一周の旅」
下重健児　本学卒業生

5　自由時間の達人④
「私がなぜ空を飛ぶようになったのか」
多胡光純　本学卒業生
エアーフォトグラファー

6　自由時間の達人⑤
「生きることの証をもとめて」
服部 文祥　サバイバル登山家

7　自由時間の達人⑥
「からだが不自由だからできることが増えた」
濱田美穂　NHKサービスセンター

8　自由時間の達人⑦
「バリアフリースクーバダイビングを推進する」
椎名克巳　株式会社東京ダイバーズ代表取締役

9　自由時間の達人⑧
「高齢者のためのレジャー」
山崎律子（株）余暇問題研究所代表取締役

10　自由時間の達人⑨
「好きなことを続けるということ」
山本幸治　プロボウラー

11　自由時間の達人⑩
「なぜ人は旅に出るのか」
福井　善朗　近畿日本ツーリスト株式会社

12　自由時間の達人⑪
「学生時代からつながる現在と未来」
田中勝之　本学卒業生

13　自由時間の達人⑫
「ウィラモラへ至る道」
田中千恵　本学卒業生

14　自由時間を「自由時間をレジャーとするために」
和田　智　獨協大学教授

講師の都合により、予定が変わることがあります。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (哲学の諸問題 1) 哲学 a(哲学の諸問題 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「哲学」と聞くと、難解な学問だと思われるかも知れませんが、実は非常に身近な学問です。というのも、私たちが問うのは、「人を愛するというのはどういうことなのか」、「人間であるとはどういうことなのか」、「自由とは何か」等々という問題だからです。今学期は特にこれらの問題について考えたいと思います。 著名であり、なおかつ比較的易しい文献──哲学上の文献に限定しませんが、読み方は我田引水です──を読みながら、ともに考えるという講義形式をとりますので、受講する場合には自分自身の問題として考える姿勢で臨んでください。	1. デカルトの『方法序説』をこの講義の序文代わりに取り上げます。 2. プラトンの『饗宴』における《エロース》の概念について 3. 引き続き、エロースについて 4. プラトン『クリトン』を取り上げます 5. 「愛」に関するイエス＝キリストの教え 6. エーリヒ・フロム『愛するということ』を取り上げます 7. リースマン『孤独な群集』 8. 前回の続き。 9. エーリヒ・フロム『悪について』 10. 前回の続き 11. 前回の続き 12. キルケゴールの『不安の概念』を取り上げます 13. 前回の続き 14. 今学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください	各学期末に試験を行ないます

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (哲学の諸問題 2) 哲学 b(哲学の諸問題 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
「神」の問題は日本人には縁が薄いかもしれませんが、今学期はあえて有神論と無神論の問題に取り組んで見たいと考えています。 海外で、宗教について質問された経験のある人もいると思います。あるいは政治の場でも宗教問題が表面化することもあります。これらからも分かるように、欧米の人々にとっては宗教はとても身近で重要な問題です。 ユダヤ教を基礎とするイスラエルやイスラムを奉じる国々にとってはさらに重要度を増しますし、民族問題は宗教の問題でもあります。あるいは、ナチズムは「世俗的宗教」であるという見方も可能です。 以上を念頭に、有神論の哲学と無神論の哲学について論じる予定です。 《注》春学期と継続的に受講する必要はありません	1. フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます 2. 前回の続き 3.パスカルの『パンセ』を取り上げます。 4. 前回の続き 5. カントの『啓蒙とは何か』 6. カントの『実践理性批判』を取り上げます。難解ですから、ごく一部を読むだけですが、学生生活の記念になるかもしれません。 7. ニーチェの生涯 8. ニーチェの思想──神の死 9. ニーチェの思想──ニヒリズムの問題 10. ニーチェの思想──ニヒリズムの克服 11. サルトル『実存主義とは何か』 12. 前回の続き 13. ドストエフスキー『悪霊』
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください	各学期末に試験を行ないます

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理の基本について考える) 倫理学 a(倫理の基本について考える)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの社会には「して善いこと」と「して悪いこと」がある。私たちは普段、この二つを良識のレベルで割り切っており、それに対して「なぜ」などと問うことはあまりしない。しかし、この良識が揺らぎだしたり、この良識に対立する良識が出てきたりしたとき、この「なぜ」がでてくる。倫理に対する学問的問いかけが生まれるのである。近代という時代はこの倫理的問いかけを、敬(軽)して遠ざけてきた。しかし、倫理への問いは最近再び脚光を浴びてきている。良識が揺らいでいるのである。 講義では、倫理における「なぜ」を扱いたい。私たちが倫理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。最後に、これをふまえて現代倫理を代表する自由主義と功利主義を批判的に検討したい。	1)哲学と倫理学 2)非倫理の時代か倫理の時代か 3)「倫理」という言葉 4)倫理と道徳の違い 5)規範としての倫理(1)……習俗と倫理 6)規範としての倫理(2)……法と倫理 7)価値としての倫理(1)……欲求から善へ 8)価値としての倫理(2)……「事実・価値」問題 9)行為への問い(1)……行為の構造と近代的行為モデル 10)行為への問い(2)……他者からの問いかけ、動機主義と結果主義 11)功利主義の倫理(1)……ベンサム 12)功利主義の倫理(2)……功利主義の今日的展開 13)自由主義の倫理(1)……カントとミル 14)自由主義の倫理(2)……リベラリズムの平等論
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (環境と生命の倫理) 倫理学 b(環境と生命の倫理)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は生命と環境の時代だといわれる。一方では人間を好きなように誕生させ、生きさせ、あるいは殺す技術が生まれてきている。他方で、地球規模での環境汚染、資源の枯渇が懸念され、人類の存続が危ぶまれている。内的自然支配の深まりと外的自然支配の限界ともいうべきこの両者を見据えながら、伝統的な生命観や自然観を考え直していくこと、これが講義の課題である。生命倫理学とか環境論理学という新しい学問分野が関心を集めているが、そこでの議論を踏まえて進めていく。	1)「倫理問題」とは？……応用倫理について 2)生命をめぐる状況(1) ……「医療化社会」批判 3)生命をめぐる状況(2) ……所有的身体観と生命の微細化・局在化 4)生命倫理の前線(1)　医療倫理から生命倫理へ 5)生命倫理の前線(2)　中絶、生殖医療の問題 6)生命倫理の前線(3)　安楽死問題 7)生命倫理の前線(4)　臓器移植の問題 8)ケアの倫理……人のケアから自然のケアへ 9)環境倫理の世界(1)　環境保護とはどういうことか 10)環境倫理の世界(2)　生態系価値を中心にする思想 11)環境倫理の世界(3)　自然物の権利を中心とする思想 12)環境倫理の世界(4)　地球レベルでの構造的不正義 13)環境倫理の世界(5)　環境的不正義に関する倫理的言説 14)環境倫理の世界(6)　持続可能性と世代間倫理
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わない。参考書は講義で指示。	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理学 a) 倫理学 a(倫理学と人間性)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、古代ギリシアから近現代にいたる様々な思想にそくして、広く全般的に概説する。 社会科教職科目でもあることを鑑みて、正確で専門的な哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄についての考え方を、高校生などにも理解可能な仕方で言語表現できる実践的能力の習得が、目標として設定される。 一語一句にまでこだわる哲学というものの姿勢は、ある意味では、人間相互間のコミュニケイション全般に通じるものである。哲学の学習は、「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。 **［講義概要］** 春学期は「自己」および「主体」を緩やかな統一テーマとしながら、近代思想の幕開けとなったデカルトの「私は考える、ゆえに私は存在する」から始めて、古代のアリストテレス・プラトン、近代のカント、２０世紀のハイデガー・レヴィナスといった、西洋哲学の重要思想家らの哲学を、その倫理学的論点に焦点を当てつつ、概観していく。 もちろん、時代や場所によって倫理思想のありようは様々に変化してきた。したがって本講義の扱う範囲はきわめて幅広いものになるが、それは哲学的倫理学というものが多様な角度から物事を検討する姿勢を必要とすることにも対応している。 受講者人数を見たうえで詳細を決定するが、出席学生が発信をするレポート報告・ディスカッションの回を１回以上設けることを予定している。 **［受講生への要望］** 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させ、他人の言葉をできる限りていねいに受け取れるようにしてみよう。	１．デカルト（１）「私は考える、ゆえに私はある」 ２．デカルト（２）「仮の道徳」 ３．プラトン（１）「無知の知」 ４．プラトン（２）「私がここにいる理由」 ５．アリストテレス（１）「エートス」 ６．アリストテレス（２）「テオーリア」 ７．ハイデガー（１）「世界 - 内 - 存在」 ８．ハイデガー（２）「死への存在」 ９．ハイデガー（３）「決意と歴史」 １０．カント（１）「理性のアンチノミー」 １１．カント（２）「定言命法」 １２．カント（３）「実践理性の要請」 １３．レヴィナス「他者」 １４．まとめ（※レポート報告とディスカッション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『哲学の歴史』第１巻、第６巻（中央公論新社） その他、授業中に適宜指示する。	学期末試験による。 ただし、ディスカッションの回などにレポート報告を担当した学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (倫理学 b) 倫理学 b(現代倫理学の諸問題)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 現代の西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、包括的に概説する。 社会科教職科目でもあることを鑑みて、正確な哲学知識の全般的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄についての考え方を、高校生などにも理解可能な仕方で言語表現できる実践的能力の習得が、目標として設定される。 一語一句にまでこだわる哲学というものの姿勢は、ある意味では、人間相互間のコミュニケイション全般に通じるものである。哲学の学習は、「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。 **［講義概要］** 秋学期は「言語」および「社会」を緩やかな統一テーマとしながら、ヴィトゲンシュタイン、リクール、デリダ、ラカンといった、２０世紀を代表する西洋の重要思想家らの思想内容を、その倫理学的論点に焦点を当てつつ、広く概観していく。学期終盤には、〈困難な赦し〉というテーマのもとで、個人や共同体のアイデンティティの問題と複雑に絡み合った、アクチュアルな倫理学的問題の考察にも取り組む。 ２０世紀哲学はそれ以前の時代の哲学と比して、用いられる概念が良くも悪くもやや精密化する傾向にあったものである。この講義ではそうした諸概念を幅広く視野に入れながら、丹念に整理・分析をおこなっていく。 受講者人数を見たうえで詳細は決定するが、出席学生が発信をするディスカッションないしレポート報告の回を１回以上設けることを予定している。 **［受講生への要望］** 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させ、他人の言葉をできる限りていねいに受け取れるようにしてみよう。	１．ヴィトゲンシュタイン（１）「言語の限界」 ２．ヴィトゲンシュタイン（２）「私的言語の不可能性」 ３．リクール（１）「時間と物語」 ４．リクール（２）「歴史記述」 ５．リクール（３）「フィクション物語」 ６．リクール（４）「記憶と歴史」 ７．リクール（５）「歴史と表象」 ８．デリダ（１）「差延」 ９．デリダ（２）「起源の補欠」 １０．ラカン（１）「鏡像段階」 １１．ラカン（２）「シニフィアン」 １２．〈困難な赦し〉をめぐって（１） １３．〈困難な赦し〉をめぐって（２） １４．まとめ（※レポート報告とディスカッション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『哲学の歴史』第１１巻、第１２巻（中央公論新社） その他、授業中に適宜指示する。	学期末試験による。 ただし、ディスカッションの回などにレポート報告を担当した学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(市民的社会像の黎明期) 社会思想史 a(市民的社会像の黎明期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
現代を生きる私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社会観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期（a）では、最近リアリティを失ってきたかにみえる「社会」という観念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗あるいはその変革のなかで、新しい価値観や生き方が模索され形成される時代である。 後期の講義へとつながる問題意識として、「国家というまとまり」と「社会というまとまり」への二重の視点が生まれてくる過程に目を向けたい。	1)「社会」とは何だろうか 2)「市民社会」の原型と近代的再生 3)ルネッサンス思想と古典古代文化 4)マキャベリと『君主論』 5)マキャベリと近代政治理論 6)ユートピアという思想 7)トマス・モアと『ユートピア』 8)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 9)ルターの改革運動と神学 10)ルターの政治思想 11)ルターの聖職思想と勤勉の倫理 12)カルヴィニズムの宗教思想 13)カルヴィニズムと近代的エートス 14)まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(市民的社会像の確立期) 社会思想史 b(市民的社会像の確立期)	担当者	市川　達人

講義目的、講義概要	授業計画
西欧では 17 世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業がはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりに、個人が自分の自然権を守るために契約という作為を通して国家を作るという社会契約思想が生みだされる。これと並んで、社会を担う「国民」が経済的主体として自覚され、国家と区別される市民社会という観念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて 19 世紀のマルクスまでたどってみる。ここでも「国家というまとまり」と「社会というまとまり」が隠れた主題となる。	1） 西欧自然法思想の源泉 2） 自然法思想の近代的転回 3） 社会をめぐる自然と作為(1)……ホッブズの利己心 4） 社会をめぐる自然と作為(2)……ホッブズの国家観 5） 個人を守ること(1)……ロックの所有的個人主義 6） 個人を守ること(2)……ロックの政治的自由主義 7） 文明化という課題……フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 8） 風土と社会……モンテスキューの権力論 9） 個人と社会の一体化(1)……ルソーの歴史認識 10） 個人と社会の一体化(2)……ルソーのデモクラシー 11) 社会は自然に発生する(1)……ヒュームの道徳感情論と自然法批判 12) 社会は自然に発生する(2)……スミスの市場的社会思想 13） 社会的に生きる(1)……社会主義の思想 14） 社会的に生きる(2)……マルクスの思想
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『社会思想の歴史』渋谷一郎　八千代出版 参考書　講義で指示	期末の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 1)(東洋古代から近世まで) 社会思想史 a(東洋古代から近世まで)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 日本および仏教を中心に、〈東洋〉の思想史を概観する。 とはいえ、〈東洋〉という概念が何を・どこからどこまでを指すのかは、〈西洋〉のそれほどにははっきりとしていない。宗教と非宗教とのあいだの区切りも、〈東洋〉の歴史的過去においてはやや曖昧であったようにも見える。結局、〈東洋〉とは、〈非 - 西洋〉〈非 - 近代〉というような枠組み、つまりエキゾティズム・オリエンタリズムにおいてしか語られえないものなのであろうか？ そうした、〈東洋〉を語ること自体のむずかしさもふまえつつ、様々な思想家・思想書を検討していくことが本講義の目標である。 （イスラム文化圏については、ユダヤ教・キリスト教と共通の一神教文化圏ともみなされうるため、本講義では取り扱わない。） **［講義概要］** 春学期は、重要思想家などによるいわゆる古典的な思想テクストを幾つか取り上げるという仕方で、〈東洋〉思想の精髄に触れることを試みる。 扱われるテクストは、『バガヴァッド・ギーター』、原始仏典、『歎異抄』、『正法眼蔵』、『五輪書』、などである。 近代化・西洋化した文明のなかで生きている現代日本人にとって、〈東洋〉の古典的思想と自分とのあいだの距離感を測ることは様々な意味でむずかしく、複雑なものである。近いような気もするし、遠いような気もする。そうした〈東洋〉のテクストを改めて眼差してみることは、２１世紀人としての自分たちの存在のあり方・世界観・人生観を見つめ直す機会にもなるだろう。「当たり前だと思っていたことを考え直してみる」姿勢が肝要である。 **［受講生への要望］** ものの考え方・捉え方を前もって決めつけず、どのようなことにもいろいろな考え方の角度があるということを自然に意識できる社会人になることを目指してほしい。	１．〈東洋〉思想とはなにか？ ――― オリエンタリズムという問題 ２．インド古代思想（１） ３．インド古代思想（２） ４．原始仏教（１） ５．原始仏教（２） ６．大乗仏教（１） ７．大乗仏教（２） ８．ここまでのまとめと、小テスト ９．鎌倉仏教（１） １０．鎌倉仏教（２） １１．鎌倉仏教（３） １２．江戸期日本思想（１） １３．江戸期日本思想（２） １４．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	小テスト（25%）および学期末試験（75%）による。 各試験の論述テーマは、授業中に事前提示されるかもしれない。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (社会思想史 2)(東洋近世から現代まで) 社会思想史 b(東洋近世から現代まで)	担当者	川口　茂雄

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 日本および仏教を中心に、〈東洋〉の思想史を概観する。 とはいえ、〈東洋〉という概念が何を・どこからどこまでを指すのかは、〈西洋〉のそれほどにははっきりとしていない。宗教と非宗教とのあいだの区切りも、〈東洋〉の歴史的過去においてはやや曖昧であったようにも見える。結局、〈東洋〉とは、〈非 - 西洋〉というような枠組み、つまりエキゾティズム・オリエンタリズムにおいてしか語られえないものなのであろうか？ そうした、〈東洋〉を語ること自体のむずかしさもふまえつつ、様々な思想家・思想書を検討していくことが本講義の目標である。 （イスラム文化圏については、ユダヤ教・キリスト教と共通の一神教文化圏ともみなされうるため、本講義では取り扱わない。） **［講義概要］** 秋学期は、やや春学期とは観点の角度を変えて、重要思想家によるテクストではなく、〈民衆史〉的観点からの東洋思想史・精神史・宗教史の検討を試みたい。 近代に入るまでは、社会におけるほとんどの人間たちは十分な読み書きができなかった。では、そうした者たちにとって、思想とはどのようなものであり、どのように彼彼女らの世界観・死生観に影響するものであったのか。こうした問いかけの角度から、東洋思想史というものを改めて考え直してみたい。 具体的には、主として日本における、民間の説話や風習（の記録）といったものの研究考察から、〈東洋〉的な思考様式というものがどのようなものであるのかを、探索していく。そうした思考様式が、〈西洋的近代〉にどっぷり浸かったわれわれにとって異質なものなのか、それともわれわれのうちでひそかに深く根づき続けているものなのか、「祟り」「憑依」「供養」「靖国問題」といった諸事象に焦点を向けつつ、詳しく分析していく。 **［受講生への要望］** ものの考え方・捉え方を前もって決めつけず、どのようなことにもいろいろな考え方の角度があるということを自然に意識できる社会人になることを目指してほしい。	１．日本列島人の「死生観」とは？ ２．「祟(たた)り」という発想（１） ３．「祟り」という発想（２） ４．「祟り」という発想（３） ５．「供養」と「修行」（１） ６．「供養」と「修行」（２） ７．「供養」と「修行」（３） ８．ここまでのまとめと、小テスト ９．「憑依(ひょうい)」とはなにか（１） １０．「憑依」とはなにか（２） １１．「憑依」とはなにか（３） １２．現代における「供養」（１） １３．現代における「供養」（２） １４．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示する。	小テスト（25%）および学期末試験（75%）による。 各試験の論述テーマは、授業中に事前提示されるかもしれない。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の行動･認知･動機の一般法則) 心理学 a(人間の行動･認知･動機の一般法則)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、1）心理学の研究テーマ、2）研究方法、3）研究成果と日常生活との関わりについて紹介します。 心理学の視点で、学生をみていると、1）自分や仲間の個性や価値を認め、自己効力感（コンピテンシー）を持つこと。2）友人や異質な人とのコミュニケーション（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を大切にして欲しいと思っています。 また、自己を知ることは心理学の学習目的の１つですが、自己を知り／他者を知ること、自己統制することは簡単ではありません。 教科書の構成は、各章毎に、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれています。執筆時点（2004 年時点）でのトピックスを扱っていますが、その後の変化があり、ここのテーマは 2010 年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、1）自己の特性や人との関わりについて学び、日常的に活かせるようになること、2）心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、多様な視点を持てるようになること、3）心理学から考えた、卒業後の将来、例えば、27 歳の自分を想定し、必要な力量を考え、且つ、職業（仕事)と生活のバランスについて考え､方向性を身につけることです。 前期の「心理学ａ」では、教科書の前半に当たる、認知、行動、モティベーションの３側面に焦点を当てて､心理学から見た人間の一般法則、共通法則を軸に学ぶ予定です。	１．導入：ヒューマン・サイエンスとしての心理学 ２．感じる／考える（感覚と知覚・認知）：人間の感覚受容器と脳、感覚と知覚の仕組みと特徴 ３．感じる／考える：顔や原因の認知（原因帰属） ４．感じる／考える：記憶の情報処理モデル、潜在認知 ５．感じる／考える：アフォーダンス、都市のイメージ、ユニバーサル・デザインなど ６．動く／変わる（行動と行動獲得・変容）：条件づけ、強化随伴性、モデルによる観察学習 ７．動く／変わる：進化と人間行動、利他行動や協力、生物進化と文化のカップリング ８．動く／変わる：教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習、学習環境デザイン ９．動く／変わる：大学における学びの内容と方法、卒業時に必要な力量（学士力、社会人基礎力とは） １０．もえる／動かす（モティベーション）：動機づけの基礎 １１．もえる／動かす：達成動機と対人社会性動機、対人行動、知識基盤社会と学び、社会的構成主義の学習観 １２．もえる／動かす：欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感） １３．もえる／動かす：内発的動機づけと意欲を高める、自己原因性、有能感。 １４．まとめと残された課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	出席（15%）、レポート（40%）、試験（45%）で評価する。出席は学生の権利だが、話を聴いてくれないことには始まらない。レポートは高校の作文とは違う視点を学んでいただく必要のため。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(心理学)(人間の個性･多様性理解) 心理学 b(人間の個性･多様性理解)	担当者	杉山　憲司

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、1）心理学の研究テーマ、2）研究方法、3）研究成果と日常生活との関わりについて紹介します。 心理学の視点で、学生をみていると、1）自分や仲間の個性や価値を認め、自己効力感（コンピテンシー）を持つこと。2）友人や異質な人とのコミュニケーション（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を大切にして欲しいと思っています。 また、自己を知ることは心理学の学習目的の１つですが、自己を知り／他者を知ること、自己統制することは簡単ではありません。 教科書の構成は、各章毎に、「○○研究の生活・仕事への展開」の節で結ばれています。執筆時点（2004 年時点）でのトピックスを扱っていますが、その後の変化があり、ここのテーマは 2010 年時点の課題に入れ替えます。 この授業の到達目標は、1）自己の特性や人との関わりについて学び、日常的に活かせるようになること、2）心理学の視点から、自己の専攻領域（所属する学科の学問）をとらえ直し、多様な視点を持てるようになること、3）心理学から考えた、卒業後の将来、例えば、27 歳の自分を想定し、必要な力量を考え、且つ、職業（仕事)と生活のバランスについて考え､方向性を身につけることです。 後期の「心理学ｂ」では、教科書の後半に当たる、パーソナリティ、発達、社会心理学に焦点を当てて、人間の多様性、可変性を軸に学ぶ予定です。	１．後半の導入：前期のまとめと導入、後期の視点について ２．きわだつ／できる（パーソナリティ）：性格検査から何が言えるか。何故そう言えるか。 ３．きわだつ／できる：パーソナリティ理論は多様な人間性のモデル ４．きわだつ／できる：Big Five、標準性格検査。 ５．きわだつ／できる：知能とは。創造性（課題解決)、対人関係の社会的スキル。 ６．育つ／育てる（発達）：big name の発達理論。生涯発達視点 ７．育つ／育てる：生育初期。アタッチメント ８．育つ／育てる：青年期のアイデンティティ、発達支援、世代間伝達 ９．育つ／育てる：高齢化社会、生き甲斐と有能感 １０．かかわる／競う（社会）：社会心理学的自己。自己開示／自己提示 １１．かかわる／競う（社会）：集団圧力、権威者への服従、印象形成 １２．かかわる／競う：態度と態度変化。説得的コミュニケーション １３．かかわる／競う：集団と個人、変革期のリーダーシップ １４．まとめ：各人の違いを認めたうえで、健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、残された課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチー』ナカニシヤ出版	出席（15%）、レポート（40%）、試験（45%）で評価する。出席は学生の権利だが、話を聴いてくれないことには始まらない。レポートは高校の作文とは違う視点を学んでいただく必要のため。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学) (知覚･認知) 心理学 a(知覚･認知)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。 心理学（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス 心をどのように理解しようとしてきたか 2. 心理学と諸科学 3. 個体と環境 心理学のもののとらえ方 4. 環境の認知（1） 5. 環境の認知（2） 6. 主観のものさし 7. 知覚の世界(1) 8. 知覚の世界(2) 9. 知覚の形成 10. 判断と意志決定 11. 態度形成とダイナミクス 12. 社会的現実の構築 13. まとめ 上記の項目が 1 回の講義と対応しているものではありません。いくつかの項目をまとめて講義することもあれば、一つの項目が複数回の講義に及ぶこともあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。	定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (心理学) (行動･個性) 心理学 b(行動･個性)	担当者	増田　直衛

講義目的、講義概要	授業計画
心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては､心理学というと TV や雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。 心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとします。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動をするか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。また、個性はどのように理解され、それはどのように形成されてくるのかを考えます。 心理学（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	1. ガイダンス 行動を理解するために 2. 環境への適応様式 3. 生得的行動・獲得的行動 4. 遺伝的に規定された行動 5. 行動の変容（1）レスポンデント行動 6. 行動の変容（2）オペラント行動 7. 行動分析学とその応用 8. 個性をどのように理解するか 9. 個性をいかに測定するか 10. パーソナリティのダイナミズム 11. 個性はどのように発達・形成されるのか 12. まとめ 上記の項目が 1 回の講義と対応しているものではありません。いくつかの項目をまとめて講義することもあれば、一つの項目が複数回の講義に及ぶこともあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。 講義に使用したスライドは講義終了後、講義支援システムに pdf ファイルにしてアップロードします。	定期テスト(80%)と随時行う出席調査を兼ねる小レポートなど(20%)によります。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（言語学 a） 言語学 a(一般言語学)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要

言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する．ここでは言語学の応用的領域を取り上げ，社会における言語の機能を理解すると共に，その背景にある基本的な考え方を学ぶ．主として英語を対象言語とするが，必要に応じて他の言語も扱う．また，言語学の周辺領域（考古学・医学・物理学・電子工学・数学）における言語研究にも言及する．

参考文献

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of Language* (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)

D. クリスタル／風間・長谷川訳 『言語学百科事典』（大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2）

町田健 『言語学が好きになる本』（研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4）

授業計画

1. 話し言葉と書き言葉 ー言葉は約束事：言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記
2. 動物の言語と人間の言語 ーチンパンジーも言葉が話せる？：動物のコミュニケーション
3. 言語と脳 ー失われた言葉を取り戻す：心理言語学と大脳生理学
4. 子供の言葉の発達 ーどのようにして言語を習得するか？：第 1 言語の発達過程
5. 外国語の上達 ーどのようにしたらうまく話せるようになるか？：第 2 言語の習得理論
6. 音と音声（1）ーカテゴリーができるまで：調音音声学と音韻論
7. 音と音声（2）ー音声はどのように聞こえるか？：音響音声学と聴覚音声学
8. 統語論 ー「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述：構造主義文法，生成文法，その他の文法
9. 形と意味 ー発話に意味を込める：意味論，語用論
10. 会話の原則 ー言葉の適切な使い方：談話分析
11. 言語と社会 ー言葉の多様性と普遍性：社会言語学
12. 世界の言語とその系統 ー言語の系統と分類：歴史言語学
13. 言語の進化 ー言語と人類の発達：言語考古学
14. コンピューターと言語 ー近未来の言語研究：人工知能，機械翻訳，コーパス言語学

テキスト、参考文献

G．ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』（大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1）

評価方法

定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1（言語学 b） 言語学 b(一般言語学)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要

人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある．メッセージを単位記号（デジタル信号）に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり，文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである．この授業では言語の基本的な構造を取り上げ，理論的枠組みを理解すると共に，ハンズオン的学習を通して言語資料の分析練習を行う．対象言語は英語を初め各国語にわたる．教材の事前予習を前提とする．

参考文献

Edward Finegan, *Language: Its Structure and Use, 5th ed.* (Wadsworth, 2007; ISBN: 978-1413030556)

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of Language* (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)

授業計画

1. 形態論（1） 形態素の同定（ハンガリー語，スペイン語）
2. 形態論（2） 形態素の同定（現代ヘブライ語，マレー・インドネシア語，ペルシア語）
3. 形態論（3） 形態素の同定（ラテン語，ラコタ語）
4. 音声学・音韻論（1） 発音記号，音素・異音（英語）
5. 音声学・音韻論（2） 音韻の同定（ウィチタ語，古典ヘブライ語，ラコタ語）
6. 音声学・音韻論（3） 音素の同定（スペイン語，ヒンディー語，日本語）
7. 音声学・音韻論（4） 超分節音素の同定（中国語，アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語）
8. 音声学・音韻論（5） 音韻現象，生成音韻論（トルコ語，英語）
9. 統語論（1） 直接構成素分析，句構造規則（英語）
10. 統語論（2） 句構造規則（英語，イタリア語・ギリシア語）
11. 統語論（3） 構造形成，語順，格（英語，中国語，ドイツ語，クリンゴン語）
12. 意味論 上位概念・下位概念，同意語・反意語（英語，日本語，ペルシア語）
13. 語用論 新旧情報，言語行為，話題化（英語，中国語）
14. 書記法（英語，イタリア語，ギリシア語，ヘブライ語）

テキスト、参考文献

Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed.* (Heinle, 2007; ISBN: 978-1413030853)

Paul R. Frommer & Edward Finegan, *Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 4th ed.* [e-textbook] (CourseSmart, http://www.coursesmart.com/9781413030853)（180 日間有効）

評価方法

定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 a) 言語学 a(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする．扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある．随時，日本語との対照学習を取り入れ， 外国語としての英語学習が容易になるよう試みる．それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後，実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う．授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる． 参考文献 高橋作太郎,『英語教師の文法研究』(大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526) 高橋作太郎,『続・英語教師の文法研究』(大修館書店, 1985; ISBN: 4469141542) 橋内武,『ディスコース：談話の織りなす世界』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R. Hasan, *Cohesion in English* (Longman, 1976; ISBN: 978-0582550414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.html 高橋作太郎,『英語の演習　第 2 巻：文法』(大修館書店) 朝尾幸次郎,『英語の演習　第 3 巻：語彙・表現』(大修館書店) 西光義弘他,『日英語対照による英語学概論』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4874241697) 竹林滋・桜井雅人,『英語の演習　第 1 巻：音韻・形態』(大修館書店)	1. 英語の文法理論（6 章） 2. 音声学（1）（7 章） 3. 音声学（2）（7 章） 4. 音韻論（1）（8 章） 5. 音韻論（2）（8 章） 6. 強勢・イントネーション（8 章） 7. 形態論・語形成（9 章） 8. 統語論（1）（10 章） 9. 統語論（2）（10 章） 10. 統語論（3）（10 章） 11. 意味論・語用論（1）（11 章） 12. 意味論・語用論（2）（11 章） 13. テキスト言語学 14. ディスコース
テキスト、参考文献	**評価方法**
石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X)	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語学 b) 言語学 b(個別言語学－英語)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
前半は英語の歴史の概観を通して，英語世界がいかに成立し，どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ．視聴覚資料を補助的に用い，学習を支援する．また，英語史に関連する観光スポットを随時紹介する． 後半は英語を特徴づけ，他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ，現代社会における英語の位置づけを学ぶ． 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる． 参考文献 David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed.* (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, *English: History, Diversity and Change* (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. CacNeil, *The Story of English: Special Complete Edition* (マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他,『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X) 宇賀治正朋,『英語史』(開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6)	1. 英語の概要：ヨーロッパの言語分布 2. 英語以前（1）：印欧語族の成立 3. 英語以前（2）：ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け：古英語とその社会 5. 英語の変動期：ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け：中世とは？そしてその英語 7. 英語の充実：初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期：近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性：イギリスの英語から世界の英語へ（地理的変異） 10. 英語の現状：アメリカ英語・第 3 世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状：公用語・第 2 言語・英語学習・辞書 12. 英語の特徴（語彙・語源）：本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング，（発音と綴り）：大母音推移・発音・文字・正書法 13. 英語の特徴（文法）：語順・修飾・統御，（談話構造）：パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 14. 英語の特徴（社会的変異）：社会階層・レジスター・ジャンル 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントを配布する．	定期試験 x 出席率 +平常授業における課題

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (応用言語学) 言語学 a(応用言語学)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である)。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の 4 領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～3 週：言語習得 －言語習得 －言語喪失 －言語維持 第 4 週:　言語と脳 第 5～ 7 週：言語と社会 －バイリンガリズム －言語とアイデンティティ、文化 －マイノリティ言語 第 8～12 週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第二言語習得 (指導法) －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第 13～14 週：言語研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	レポート(20%)、期末テスト（８０％）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (第二言語習得) 言語学 b(第二言語習得)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 言語学 a（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題（主にリーディングとそのジャーナルおよびワークシート）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～6 週： SLA 理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第 7～12 週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －多重知能理論など 第 13～14 週：4 技能研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	レポート（20%)、期末テスト（80%）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語圏の社会と思想 a) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 a)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス（父性神と母性神） ２．ヘレニズムとヘブライズム ３．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ４．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ５．イングランドのキリスト教化 ６．デーン人とアルフレッド大王 ７．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ８．グレゴリウス７世の教会改革 ９．イングランドの教会改革 １０．中世の異端 １１．地獄堕ちへの恐怖 １２．黒死病と農民一揆 １３．教皇権の栄光と下降 １４．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (英語圏の社会と思想 b) ことばと思想(Ⅲ)(英語圏の社会と思想 b)	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代 １２．19 世紀以降現代 １３．アメリカの場合 １４．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (こころの世界) ことばと思想(Ⅲ)(科学としての心理学とこころの世界)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，まず，現代心理学の成立過程を概観する。その後，性格の形成，ストレス，生きがいと心の健康などのテーマについて，さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。	以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1．はじめに：科学としての心理学とは 2．心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3．心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5．心理学のあゆみ④：精神分析理論 6．性格とは？：自己の性格理解 7．性格理論 8．性格の形成 9．ストレス①：ストレスと性格 10. ストレス②：ストレス・コーピング 11. ストレス③：ストレスの生理心理学 12. 現代社会とこころの病① 13. 現代社会とこころの病② 14. 生きがいとこころの健康
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。	授業における小レポートと試験により総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08年度以降 07年度以前	ことばと思想1(日本語教育概説) ことばと思想(Ⅲ)(外国語としての日本語教育)	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。 将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。尚、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法1の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1．日本語教育と国語教育の違いを知る。 2．日本語教育の歴史と現状を知る。 3．さまざまな外国語教授法を概観する。 4．日本語を外国語として客観的に捉える。 5．外国語としての日本語の指導法を考える。 6．教師の役割を考える。	1．講義の概要説明、日本語教育の一例の紹介 2．日本語教育とは何か ①日本語教育と国語教育の違い ②日本語教育の歴史 3．国内・海外における日本語教育の現状 4．外国語教授法の歴史 5．外国語教授法の紹介(1) 6．外国語教授法の紹介(2) 7．第二言語習得と学習理論 8．コースデザインとシラバス(1) ニーズ分析、レディネス分析 9．コースデザインとシラバス(2) さまざまなシラバス 10. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 11. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 12. 教室活動の活動例 13. 教師の役割と評価 14. 講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：佐々木康子　『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房、2007 参考文献：中西家栄子　『実践日本語教授法』バベル出版	期末定期試験に出席率を加味して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想１(通訳・翻訳論) ことばと思想(Ⅲ)(通訳・翻訳論)	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 授業ではビデオや DVD を多く利用しますので、欠席しないようにしてください。	第１回　ガイダンス 第２回　通訳の実例研究（香港返還記念式典） 第３回　会議通訳の実際 第４回　司法通訳（外国人の人権を守る） 第５回　放送通訳とコミュニティ通訳 第６回　ガイド、芸能・スポーツの通訳 第７回　通訳訓練法　通訳の原理 第８回　学期前半のまとめ 第９回　日本における翻訳通訳の歴史（１） 第 10 回　日本における翻訳通訳の歴史（２） 第 11 回　日本における翻訳通訳の歴史（３） 第 12 回　翻訳と通訳の理論（１） 第 13 回　翻訳と通訳の理論（２） 第 14 回　通訳と翻訳の理論（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。	期末レポートにより評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (生と死の意味の哲学 1) ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学 1)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
生と死の問題は、臓器移植や臓器売買、さらに、癌の場合の治療方針など、いっそう複雑な問題になろうとしています。それでもなお、われわれは死の運命を逃れることはできません。 また、いわゆる先進国に住む多くの現代人は、病院で生まれ、病院で死を迎えます。とりわけ、死は弧絶された状況の中で迎えることが多くなってしまっています。 このような状況を踏まえた上で、いくつかの視点から、生と死の意味を考えることがこの講義のテーマです。 春学期は、死から生を見るという方法で、生について考えます。	1. モンテーニュの『エセー』を取り上げます 2. ジャンケレヴィッチ『死』 3. キューブラー・ロスの『死ぬ瞬間』を取り上げます 4. 前回の続き 5. エリアス『死に逝く者の孤独について』 ここまでのテーマは「死の準備」の可能性です 6. パスカル『パンセ』 7. 前回の続き 8. 引き続き『パンセ』 9. ランツバーク『死の経験』 10. ランツバーク『自殺の道徳的問題について』 ここまでのテーマは「運命」です 12. パウル・ティリッヒ『生きる勇気』 13. 前回の続き 14. 春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください	各学期末に試験を行ないます

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (生と死の意味の哲学 2) ことばと思想(Ⅲ)(生と死の意味の哲学 2)	担当者	谷口　郁夫

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは意味の世界に生きています。したがって、われわれに与えられた課題は、まずわれわれ自身の世界を広げることです。知識がない物に対して意味を見出すことはできませんから、受講生の皆さんにはいわゆる雑学的な知識をたくさん持っていただきたいと考えています。さまざまな宗教・文化・時代についての知識を豊かにすることで、さまざまな価値観が見えてくるからです。 また、日本は自殺大国です。自殺について、それぞれ考えてもらいたいと思っています。 秋学期は、直接的に生を意味あるものにするとはどういうことなのかについて考えます。	1. 講義テーマに関連した映画をごらんいただく予定です 2. フランクル『夜と霧』──これは名著です 3. 前回の続き 4. フランクル『死と愛』 5. 前回の続き 6. アドラー『人生の意味の心理学』 ここまでのテーマは《意味》です 7. ベッカー『死の拒絶』 8. アルベール・カミュ『シーシュポスの神話』 9. フロム『自由からの逃走』を使いながら、《時代・使命・自己》などの問題について考えます。 10. 前回の続き 11. フロム『正気の社会』を取り上げます ここまでのテーマは《自己実現》です 12. 自殺は現代社会においてきわめて重要な問題です。春学期にも取り上げましたが、現代の状況を考慮しながら、『生の意味』について考えます。 13. 前回の続き
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義で使用する資料はインターネットから各自ダウンロードしてください	各学期末に試験を行ないます

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (国際語としての英語) ことばと思想(Ⅲ)(国際語としての英語)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
約 3 億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると 20 億人あまり英語話者がいるという。20 億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2 週：英語の普及 －Kachru の 3 つの円 －ディアスポラ 第 3～4 週：英語の多様化 －ピジンとクレオール －方言と標準語 第 5～7 週：世界英語―内部圏における多様化 －アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など －Hawaii Creole English －Ebonics －Spanglish など 第 8 週：世界英語―外部圏における多様化 －インド英語 －Singlish 第 9～11 週：世界英語―拡大圏における多様化 －ヨーロッパと英語、ロシアと英語 －中国と英語、韓国と英語 第 12～14 週：日本人にとっての英語とは何か －日本での英語使用 －日本の英語教育史 －現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など －まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	課題およびフィールドワークに基づいたレポート（40%）、期末テスト（60%）

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想 1 (多言語環境と英語) ことばと思想(Ⅲ)(多言語環境と英語)	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングとフィールドワークなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。	第 1 週：概論 第 2～4 週：言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第 5～10 週：日本の中の多言語と英語 －日本の中の多言語 －言語政策と教育 －各地方自治体の言語政策・言語サービス －言語意識教育 第 11～13 週：世界の言語政策と英語の位置づけ －内部圏：アメリカ、オーストラリアなど －外部圏：インド、シンガポールなど －拡大圏：フランス、韓国など 第 14 週：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の講義で発表します。 配布資料等有り。	課題およびフィールドワークに基づいたレポート（40%）、期末テスト（60%）

08 年度以降	ことばと思想 1（日本語文法形態論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 形態論としての日本語文法を講ずる。ここで対象とする形態論としての文法とは，発話される実際の形式としての「文」を規制している規則のセットとしての文型文法である。この文法は，日本語教育に即していえば，学習者が初級段階の学習において対象とする学習項目でもある。学習者の初級段階での目標は，この文法を獲得することによって，「文」をつくりだせるようになることである。本授業では，そうした意味をもつ文法について，体系的に理解し，さらに文法的に言語を分析する方法を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 講義資料は，講義支援ポータルサイトに掲示される。それを，毎回，授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と，その内容に対する課題をクラスで議論し，発表することによる。文法上の問題をたて，解答をつくり，それを解釈して理論とする，ということを授業で実践したい。 また，講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので，相応の自宅学習時間が必要となる。	第1回 文法概論 第2回 語の認定と形態素 第3回 語の構成，派生と複合 第4回 名詞 第5回 助詞の諸問題 第6回 動詞の活用 第7回 動詞の複語尾(1) 第8回 動詞の複語尾(2) 第9回 形容詞 第10回 判定詞 第11回 述語の格パターン(1) 第12回 述語の格パターン(2) 第13回 述語の格パターン(3) 第14回 形態論と文型文法のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じて，授業への参加姿勢も加味する，また，出席をきびしく要求する。

08 年度以降	ことばと思想 1（日本語文法統語論）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 統語論を日本語について講ずる。基本的には理論言語学の架構によるが，生成文法そのものを講義対象とするものではなく，あくまで日本語の「句」について，その統語的なありかたを理解することを中心的な目標とする。 日本語教育に即していえば，春学期の形態論が，文型という学習項目と同一視できる表面上の構造をあつかっているのに比較して，実際の発話される形式の基礎にある構造規則をあつかう点で，やや直接的ではないようにおもわれる可能性がある。しかし，学習者が脳内に形成するであろう第2言語体系は，やはりなんらかの言語としての構造をもつはずであり，その知見なくしては下の教育も成立しないはずである。 〔講義概要〕 講義資料は，講義支援ポータルサイトに掲示される。それを，毎回，授業前によんでくることが要求される。授業は資料への質問と，その内容に対する課題をクラスで議論し，発表することによる。また，講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので，相応の自宅学習時間が必要となる。	第1回 統語論概説 第2回 句構造 第3回 項と付加詞と意味役割 第4回 主語と時制 第5回 疑問とアスペクト 第6回 モダリティ(1) 第7回 モダリティ(2) 第8回 複文(1) 第9回 複文(2) 第10回 複文(3) 第11回 談話構造(1) 第12回 談話構造(2) 第13回 統語論と言語学習のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の用意する講義資料を用いる。資料は「講義支援ポータルサイト」に掲示される。	試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じて，授業への参加姿勢も加味する，また，出席をきびしく要求する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語の談話と日本語教育)	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は，前世紀の後半以降，文学，文化人類学，社会学，心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では，日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで，談話とはなにか，どのような理論があり，どのような具体的分析が可能なのかを，テキストを使用して学習していく。 〔講義概要〕 下記のテキストを使用する。テキストは57の小節からなっており，さらに各小節は，説明と「データ分析」で構成される。履修者はこのテキストを毎回予習することが要求される。授業の半分は不明な部分についての質疑応答にあてられる。さらに半分は，各履修者に担当する小節が指示されるので，そのデータ分析について，テキスト内の説明を拡充した自分なりの解説と，そこからひきだされる日本語教育への応用についての発表にあてられる。	第1回 談話分析概論(1) テキストp.1-p.20 第2回 談話分析概論(2) テキストp.21-p.39 第3回 意図表現と解釈(1) テキストp.42-p.58 第4回 意図表現と解釈(2) テキストp.59-p.81 第5回 文脈情報と意味 テキストp.82-p.102 第6回 会話の構造 テキストp.104-p.126 第7回 会話のストラテジー テキストp.127-p.154 第8回 テクストと情報 テキストp.156-p.174 第9回 言語機能と文法 テキストp.175-p.190 第10回 言語と文化 テキストp.192-p.206 第11回 相互行為の理論 テキストp.207-p.221 第12回 相互行為の分析 テキストp.222-p.240 第13回 相互行為と社会分析 テキストp.241-p.268 第14回 まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
林宅男『談話分析のアプローチ～理論と実践』研究社(2008年)	試験をおこない，その結果で評価する。必要に応じて，授業への参加姿勢も加味する，また，出席をきびしく要求する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

07 年度以前	ことばと思想(Ⅲ)(日本語教材における学習項目の扱い)	担当者	中西　家栄子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、第二言語としての日本語教科書の分析を中心に進める。教科書の分析を通じながらコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、コミュニケーションのための教材開発を行う場合、どのように学習項目を決定するのか、その提示順序、提示方法を考える。特に、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをテキストを参考にしながら、クラスで考える。 最終的には、明らかになった構成概念に基づいて、４技能のうち、１つを選び、教材を作成することが課題となる。 具体的な授業活動としては、教師による解説だけではなく、学習者同士のディスカッション(検討)が重視されるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。 **＊＊注意：このクラスはかなり日本語教育に特化しているため、日本語教育概論を履修していることが必須であるとともに日本語教育に強い興味を持っている方が履修することが望ましい。**	１．教材開発の基本理論 ２．コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 ３．機能シラバス ４．コミュニケーションに役立つための教材 a.日本語学的文法から独立した日本語教育文法 b.学習者の習得を考慮した日本語教育文法 c.学習者の母語を考慮した日本語教育文法 ５．聞くための日本語教育文法＋聴解教材の開発 ６．話すための日本語教育文法＋会話教材の開発 ７．読むための日本語教育文法＋読解教材の開発 時間の配分は授業の進展次第とする。

テキスト、参考文献	評価方法
①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編　くろしお出版 ②参考文献 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク その他：論文のプリント（クラスで配布）	①　課題の提出 ②　出席率　(クラス活動への参加) ③　テスト（論述式） ④　課題教材の作成

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (日本文学古典) 文学 a(日本文学－奈良時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テクストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」についても扱うことを予定している。	1 神話とは何か 2 ヤマタノヲロチ神話を読む① 3 ヤマタノヲロチ神話を読む② 4 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 5 日本人遙かな旅を見る① 6 日本人遙かな旅を見る② 7 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 11「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 12「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 13「水爆大怪獣ゴジラ」を見る③ 14 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (平安時代の文学を読む) 文学 b(日本文学－平安時代の文学を読む)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテクストを取り扱うことは不可能なので、秋学期は平安時代の文学テクストについて講義する。 講義概要 平安時代の文学テクストは数多く残されているが、この講義では「異郷訪問譚」というキーワードのもとに、『伊勢物語』『源氏物語』を取り扱う。また、同じ「異郷訪問譚」の構造を持つ現代のファンタジーである「千と千尋の物語」を取り扱うことによって、上代・中古と現代の人々との間の運命観の違いについて話をしていきたい。	1 異郷訪問譚とは何か① 2 異郷訪問端とは何か② 3 伊勢物語を読む① 3 伊勢物語を読む② 4 源氏物語を読む① 6 源氏物語を読む② 7 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る① 8 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る② 9 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る③ 10 宮崎駿「千と千尋の神隠し」を見る④ 11 源氏物語を読む③ 12 源氏物語を読む④ 13 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし 参考文献　授業時に指示する	試験・レポート・出席の総合点によって決める。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（恐怖の日本文学） 文学ａ（恐怖の日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回 恐怖の現代文学のアウトライン 第２回 ①伝統的手法による恐怖の造形 第３回 ② 同上 第４回 ③ 同上 第５回 ①超自然的事象の題材からの造形 第６回 ② 同上 第７回 ③ 同上 第８回 ① 心理学的な題材からの造形 第９回 ② 同上 第１０回 ③ 同上 第１１回 ① 社会派ミステリーからの造形 第１２回 ② 同上 第１３回 その他のジャンル 第１４回 まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート（定期試験）。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（日本文学現代） 文学ｂ（癒しの日本文学）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。 （講義概要） 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 （受講生への要望） 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。	第１回 ガイダンス 第２回 ①人間関係からの癒し 第３回 ② 同上 第４回 ③ 同上 第５回 ①時間からの救い 第６回 ② 同上 第７回 ③ 同上 第８回 ①笑いの持つ救い 第９回 ② 同上 第１０回 ① 美しい生き方 第１１回 ② 同上 第１２回 ① 原作を映像で見る 第１３回 ② 同上 第１４回 まとめ（総集編）
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。	出席。レポート（定期試験）。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(イスラーム世界の成立と拡大) 歴史学 a(イスラーム世界の成立と拡大)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。 （講義概要） 7 世紀における預言者ムハンマドの出現から 16 世紀にいたる歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。	1　イスラームの基本を説明する。 2　イスラーム誕生以前の西アジア世界について。 3　預言者ムハンマド（マホメット）の出現と時代背景。 4　最初の４人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現。 5　ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味。 6　アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味。 7　聖典コーラン。預言者の言行録ハディースと解釈。 8　アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9　アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について。 10　マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点。 11　　同その２ 12　ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 13　　同その２ 14　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。 レポートの表紙は授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(イスラーム世界の近代化とその後) 歴史学 b(イスラーム世界の近代化とその後)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。 （講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても，理解が深められるようにしたい。	1　オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2　欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3　西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4　さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどの問題について考える。 5　エジプトの近代化とその過程について。考える。 6　トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7　近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8　知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9　近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10　今世紀のイスラーム世界について考える。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題，東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12　　同その２ 13　旧ソ連、旧ユーゴースラヴィアにおけるイスラーム。 14　まとめをおこなう
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくにさだめない。授業で指示する。	毎回出席をとる。期末にレポート。 レポートの表紙は授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(歴史学1)(アメリカのエスニック･ヒストリー) 歴史学ａ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。 各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。 こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。 下記二冊のテキストにそってアメリカの人種関係史について学ぶ。	1. 先住民インディアン 2. 越境するヒスパニック 3. 今を生きる黒人 4. 歴史の中の黒人 5. 等身大のユダヤ人 6. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 7. アジア系－日系・中国系・韓国系－ 8. ホワイト・エスニック－アイルランド系・イタリア系－ 9. 異人種・異教徒間カップル 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 14. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件

テキスト、参考文献	評価方法
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書 680 円） 『映画で学ぶエスニックアメリカ』佐藤唯行（2008 年　NTT 選書 1600 円）	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。 5 択 20 問の Quiz 形式

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(歴史学2)(アメリカのエスニック･ヒストリー) 歴史学ｂ（アメリカのエスニック・ヒストリー）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
前半ではユダヤ人たちがアメリカに渡る以前のヨーロッパでの「負け犬」時代を学ぶ。特にユダヤ人差別の発生メカニズムについて解明する。 後半では「負け犬」だったユダヤ人たちが僅か 60 年程の間に強力なパワーエリート集団へと変身できた秘密を探る。	1. 中世英国のユダヤ人金融 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る ―1290 年のイングランド― 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 17～18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6. 英国人地主貴族社会への同化現象 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ 9. ユダヤ・ロビーとオバマ政権 10. 検証、最強のユダヤ・ロビーAIPAC 11. 同床異夢の同盟、キリスト教右派とユダヤ・ロビー 12. ユダヤマネーの仕組 13. 歴代政権とユダヤ人社会　1933～71 14. 歴代政権とユダヤ人社会　1972～2010

テキスト、参考文献	評価方法
『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』佐藤唯行（2009 年　新潮文庫　438 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年　講談社選書　1600 円）	春学期と同じ。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 a) 歴史学 a(中国近代史概説－清朝国家の黄昏)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 　この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 ［講義概要］ 　19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 　清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 　中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 ［受講生への要望］ 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。	1　講義の概要 2　清朝体制の光と影 3　アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 4　太平天国 5　体制の反撃 6　洋務運動 7　中体西用の諸相 8　開港場の社会と経済 9　農村社会の変容 10　周辺地域宗主権の喪失 11　日清戦争 12　台湾の割譲と台湾住民の抵抗 13　植民地期の台湾 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	期末定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (中国史 b) 歴史学 b(中国近代史概説－近代国家創成の試み)	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目的］ 　この講義では，現代の中国と東アジアの国際関係をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 ［講義概要］ 　日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 　またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。 　中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 ［受講生への要望］ 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。	1　講義の概要 2　変法改革 3　戊戌の政変 4　キリスト教布教と仇教運動 5　義和団の蜂起 6　纏足問題と天足運動 7　革命派の台頭 8　光諸新政と地方自治の試み 9　王朝体制の崩壊と中華民国の成立 10　第二革命と袁世凱政権の成立 11　モンゴル・チベットの独立運動 12　第三革命と軍閥混戦 13　五四運動 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。	期末定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(中世の仏教と社会) 歴史学 a(中世の仏教と社会)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎中世の人々の暮らしの中に、宗教が色濃く影を落とした時代であったといわれている。この講座では、平安末期の源平争乱で焼け落ちた東大寺と、これを再建した勧進聖重源の活動を観ることによって、中世社会に果たした仏教の役割を考えたい。 （1）　東大寺を再建した男 （2）　重源の時代 （3）　信仰と経済	①　炎上する東大寺 ②　誰の力に頼るか ③　重源の業績 ④　木材をどこから運ぶか ⑤　出現した大群衆 ⑥　雨を突いて伊勢へ ⑦　重源の記憶 ⑧　法然と重源 ⑨　合戦の中の黒田荘（くろだのしょう） ⑩　天変地妖（てんぺんちよう）と飢餓・疫癘（えきれい） ⑪　源平合戦の余燼 ⑫　聖の社会事業 ⑬　新しい経済社会の出現 ⑭　後生の約束
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	試験成績による

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(中世の「悪党」と民衆) 歴史学 b(中世の「悪党」と民衆)	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
◎　中世は一揆の時代であるとも言われている。本講座では伊賀国の黒田荘に展開した中世後期の村の自治生活を、敵対する戦国大名の動きとの関係で観察する。地域自治とは何か、という問題を通じて民主主義の基礎を歴史的に考えたい。 （1）　戦乱の中の伊賀 （2）　自立する村 （3）　戦国のコンミューン	①　伊賀国の南北朝内乱 ②　錯綜する地侍の行動 ③　大規模な合戦は続けられない ④　国人領主の出現 ⑤　自立する村 ⑥　南都への志向 ⑦　悪党たち、起請文を提出 ⑧　タテの力とヨコの力 ⑨　惣国のコンミューン ⑩　内部の規律と「平和」 ⑪　織田信長軍、伊賀へ侵攻 ⑫　崩れ去る惣国・中世の黄昏 ⑬　兵農分離と石高制 ⑭　中世民衆の共同体をどうみるか
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『黒田悪党たちの中世史』(NHK ブックス) （教科書を必ず携えて授業にのぞむこと）	試験成績による

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 1)(「15 年戦争」をどうとらえるか) 歴史学 a(「15 年戦争」をどうとらえるか)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
一般に、1945 年に終わった戦争の相手はアメリカだったととらえられているだろう。しかし、それだけでいいだろうか。この戦争を何と呼ぶか。そもそも、いつ、どこで始まったのか。これらの問いへの答えをみると、日本人のこの戦争への認識が浮かび上がってくる。戦後 60 年を越えた今日でも、田母神論文が登場するなど、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。春は、現代との関わりを意識しながらこの戦争をとらえることを中心課題とする。 被害や加害の事実をしっかりと見たい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをかなり使う。そして、教育のあり方など社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考える。できれば、秋学期とあわせて受講して欲しい。	1　1945 年に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2　日中戦争と対米英戦争 3　真珠湾からか、コタバルからか 4　被害の問題①―空襲は何を示すか 5　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 6　加害の問題①―731 部隊とは何か 7　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 8　加害の問題③―三光作戦をめぐって 9　兵士と民衆①―日本軍隊の特徴をみる 10　兵士と民衆②―教育でどう兵士が育てられたか 11　戦時下の社会―天皇制と国家神道・戦争への動員 12　戦争と経済の関わりを考える① 13　戦争と経済の関わりを考える② 14　まとめとして―この戦争の原因をどうとらえるか
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (歴史学 2)(戦後史の中の「15 年戦争」) 歴史学 b(戦後史の中の「15 年戦争」)	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945 年 8 月 15 日に敗戦を迎えた戦争は、戦後 60 年を越えた今日でもさまざまな課題を残している。そこには、戦後のアメリカとの関係が、講和や賠償問題、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実がある。 この問題を体現しているひとつに、沖縄がある。なぜ沖縄には、本土にはないたくさんの米軍基地があるのか…。戦後の沖縄の歩みを知らなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。また、今もなお中国や韓国・朝鮮の人々から戦後補償が求められ、戦争の認識をめぐる論議が起こる背景にも、この戦後の歴史がある。 秋は、戦後の出来事を取り上げて、戦争の実相もふり返りながら、日本の政府が、また民衆が、この戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。できれば、春学期とあわせて受講して欲しい。	1　沖縄戦が私たちに投げかけたこと 2　本土決戦と日本の戦争の終わり方 3　日本国憲法はどう生まれたか 4　東京裁判をめぐって 5　サンフランシスコ講和のもった問題 6　日本とドイツの戦後補償① 7　日本とドイツの戦後補償② 8　日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 9　日中国交回復を考える 10　沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 11　アジアの民衆からの戦後補償要求 12　「731 部隊展」の取り組みが意味したこと 13　戦後 50 年の国会決議をめぐって 14　戦争の歴史から私たちは何を学ぶか
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の中で紹介する	定期試験の時間の中で、論述の形式で試験を実施する 出席点等による平常点をいくらか加味する予定

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（文化人類学 a） 文化人類学 a(未開文化の理解へ)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって‘primitive’と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた)、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。 注：文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」です。そういうものに興味があるかどうか、よく考えて取るかどうか決めてください。	1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで（1） 4 同上　　（2） 5 同上　　（3） 6 対象としての「文化」の概念 7 分析の視点――歴史的視点 8 歴史的視点から現在的視点へ 9 この回以降は文化の事例とその理解について話すが、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（文化人類学 b） 文化人類学 b(未開文化の理解へ)	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
a で話したことを基礎に、まず「異文化」(「未開」文化)を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。	1 方法としての実地調査（1） 2 同上　　（2） 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をするが、具体的に話す事例は、流れのなかで決めてゆく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	定期試験期間中の試験による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (東西の文化を結ぶもの) 比較文化論 a(東西の文化を結ぶもの)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
(講義の目的) 西アジア地域，とくにイスラーム勃興以降の時代について，歴史と社会を考察しながら，「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は，西洋側の主観が生み出した産物だが，ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 (講義概要) 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかで必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　A；ユダヤ教世界とキリスト教のひろがり。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　C；十字軍・レコンキスタとその時代。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　D；イスラエルの歴史からみた，ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　まとめ１ 14　まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』(中公新書)	レポートによる レポートの表紙を授業で配布する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (東西文化と近代化) 比較文化論 b(東西文化と近代化)	担当者	熊谷　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
(講義の目的) 春学期と同じ。秋学期ではとくに「西洋化」が東洋における近代化であった点，それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 (講義概要) 授業計画に示したように４つのテーマを設定し，それぞれ３回ずつ講義する。そのなかでは必要に応じて，テーマの背景となる歴史，宗教，文化への説明を加えてゆく。みなさんには，どれかひとつを選んで知識を深め，レポートにして提出していただく。なお，必要に応じて順序を入れ替えることがある。	1　E；大航海時代と世界の一体化。アジアとヨーロッパの出会い。その１ 2　同　その２ 3　同　その３ 4　F；アジアにおけるさまざまな近代化。その１ 5　同　その２ 6　同　その３ 7　G；帝国主義とイスラーム世界。イスラエルにおける中東問題。その１ 8　同　その２ 9　同　その３ 10　H；現在のイスラエル，旧ソ連諸国，旧ユーゴースラビア諸国などにおける民族・宗教意識の関連。その１ 11　同　その２ 12　同　その３ 13　まとめ１ 14　まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
〔参考書〕高橋正男『物語イスラエルの歴史――アブラハムから中東戦争まで――』(中公新書)	レポートによる レポートの表紙を授業で配布する。

08 年度以降	歴史と文化 1（歴史学 1）（文明史研究 a）	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 　しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 ＜講義概要＞ 　古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。図像資料やビデオ映像も使用します。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　クレタ文明 ３、　ミケーネ文明 ４、　トロイア戦争 ５、　ギリシア文明１ ６、　ギリシア文明２ ７、　ペルシア文明 ８、　ペルシア戦争 ９、　ペロポネソス戦争 １０、マケドニアとアレクサンドロス １１、ヘレニズム文明 １２、ローマの対内外戦争 １３、ローマ文明 １４、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。

08 年度以降	歴史と文化 1（歴史学 2）（文明史研究 b）	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　現代社会はヨーロッパにおけるＥＵの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型としてヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体現された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。 ＜講義概要＞ 　文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 　エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。また、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。	１、　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２、　ヨーロッパとは何か ３、　ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 ４、　アレクサンドロスとヘレニズム文明 ５、　ローマ帝国の意味 ６、　中世フランク王国の位置 ７、　イタリアルネッサンス ８、　大航海時代 ９、　植民地を求めて １０、植民地の争奪 １１、ヨーロッパ統合の思想 １２、第一次世界大戦 １３、大戦後のヨーロッパ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。	学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(日本事情とコミュニケーション教育) 歴史と文化(Ⅲ)(日本事情とコミュニケーション教育)	担当者	小山　慎治

講義目的、講義概要	授業計画
日本における時事問題について、異文化理解、多文化共生、および外国人に対する日本語教育に関する話題を中心に授業を展開する。授業では、まず異文化コミュニケーションの基礎概念と学問的なアプローチについて学習する。これらを通じて、日本社会において現実に起こっているコミュニケーション上の問題を分析できるようになることが一つの到達目標である。 また、授業においては、日本社会での異文化理解、多文化共生に関する諸問題をテーマとした調査活動および発表、グループディスカッションを適宜取り入れる。これらの活動は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎する。	1　オリエンテーション 2　異文化コミュニケーションの基礎概念① 3　異文化コミュニケーションの基礎概念② 4　異文化理解と多文化共生① 5　異文化理解と多文化共生② 6　外国人労働者① 7　外国人労働者② 8　外国人児童① 9　外国人児童② 10 留学生受け入れ政策① 11 留学生受け入れ政策② 12 日本社会と多文化共生① 13 日本社会と多文化共生② 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない 参考文献： 駒井洋（編著）『多文化社会への道』明石書店　2003 年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房　2004 年	出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１（グローバル化とイスラム－公と私） 歴史と文化(Ⅲ)(グローバル化とイスラム-公と私)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
歴史的な時間と空間の圧縮の中で、各地の社会空間が同質の方向に進みつつあるとの指摘がある。しかし、現在でも世界各地の文化の違いが大きいことは確かである。そこで、本講義では欧米社会と中東・イスラム社会のそれぞれの公共の精神について学ぶことを通し、文化の違いを理解することを目的とする。 また、到達目標は、多文化共生の基礎能力を養成することである。 講義の進め方としては、授業を 3 つに区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討議を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。	１　社会空間のとらえ方 ２　人間行動と空間の特性 ３　西洋社会の公と私 ４　イスラム社会の公と私 ５　小まとめ：公共の精神とは ６　ムスリムとヨーロッパの出会い ７　ヨーロッパから見たイスラム ８　ヨーロッパに暮すムスリム ９　アメリカのムスリム １０　小まとめ：文明の衝突をどう認識したか １１　公共空間とは １２　公共精神と民主主義 １３　公共精神と市場 １４　まとめ：日本人の公と私
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社 参考文献：バーナード･ルイス『イスラム世界はなぜ没落したか？』日本評論社	授業内評価（出席状況、討論参加）40%、課題レポート 60%で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(移民・交易に見る文化変容) 歴史と文化(Ⅲ)(移民・交易に見る文化変容)	担当者	水口　章

講義目的、講義概要	授業計画
人間は古くから移住や交易を通し、物や情報を交換し、文化を形成してきた。本講義の目的は、歴史的な交易と文化圏のあり方を確認しながら人口移動について理解を深めることである。事例としては、現代の中東地域を取り上げる。その上で、国際移民と国民国家の経済発展のかかわり合いについて考察できる能力を養うことを到達目標とする。 講義の進め方としては、授業を 3 つに区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討議を行う。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出すること。	１　交易と交流 ２　地中海交易 ３　絹の道 ４　インド洋交易と歴史 ５　小まとめ：異文化間交易と文化圏 ６　移民過程とエスニック・マイノリティ ７　1945 年以前の移民 ８　高度成長期の移民 ９　世界経済再編期と移民 １０　小まとめ：労働力としての移民と経済発展 １１　事例 1：中東の交易 １２　事例 2：中東の出稼ぎ労働者 １３　事例 3：中東の都市の発展 １４　まとめ：国民国家における移民が抱える問題
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：水口章『中東を理解する―社会空間論敵アプローチ』日本評論社 S･カスルズ／M･J･ミラー『国際移民の時代』名古屋大学出版会	授業内評価（出席状況、討論参加）40%、課題レポート 60%で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（異文化社会の認識と世界観 a） 歴史と文化Ⅲ（未開人の認識 a）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。	詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を少しは客観化して考えることができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（異文化社会の認識と世界観 b） 歴史と文化Ⅲ（未開人の認識 b）	担当者	井上　兼行

講義目的、講義概要	授業計画
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方も世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に卿味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。	「世界観」を頭において話をしてゆく。詳細な内容も回数も明示できないが、「創世神話」「祖先崇拝」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は随時紹介する。	受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（英語圏の小説 a） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 a）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　イギリスを中心とした英語圏の小説に親しんでもらうことがねらいです。だれもが知っている有名なものから「問題作」まで、原則として一回一作品ずつ、できるだけ幅広く、年代順に取り上げます。また、少しずつですが、原文も味わいます。 講義概要　毎回課題が出ます。作品の一部を和訳してもらう課題です。受講者には、知らない単語を自分で調べ、自分なりの訳を作って提出してもらいます。授業では、課題の答え合わせのあと、作者がどんな人で、作品のあらすじと読みどころはどこにあるのか、文化的背景はどんなものだったかを、担当者が解説します。一部映像を使用します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ ・ TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、課題に時間をかけて取り組んでください。 ・ 作品の選択は、若干変更する可能性があります。 ・ 辞書を持参してください。電子辞書でかまいません。	1. イントロダクション English literature?　Literature in English? 2. Daniel Defoe, *Robinson Crusoe* (1719) 3. Jane Austen, *Pride and Prejudice* (1813) 4. Charles Dickens, *Oliver Twist* (1837-39) 5. Charlotte Bronte, *Jane Eyre* (1847) 6. Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland* (1865) 7. Arthur Conan Doyle, *"Adventure of the Speckled Band"* (1892) 8. J.M. Barrie, *Peter Pan* (1911) 9. Virginia Woolf, *Orlando* (1928) 10. D.H. Lawrence, *Lady Chatterley's Lover* (1928) 11. Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (1966) 12. A.S. Byatt, *Possession* (1990) 13. Nick Hornby, *About a Boy* (1998) 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。	毎回の課題と学期末試験（英文和訳等を出題）。 欠席が四回を越える場合は評価の対象としません。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（英語圏の小説 b） 歴史と文化（Ⅲ）（英語圏の小説 b）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 　まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。	1： アメリカ小説の概略　(歴史・文化・社会) 2： アメリカ小説の創生期とアメリカン・ルネッサンス 3： リアリズム小説 1　(第一世代と第二世代のリアリズム作家たち) 4： リアリズム小説 2　(Mark Twain と *The Adventures of Huckleberry Finn*) 5： リアリズム小説 3　(*The Adventures of Huckleberry Finn*) 6： モダニズム小説 1 (アメリカ小説のモダニストたち) 7： モダニズム小説 2 (William Faulkner と"That Evening Sun") 8： モダニズム小説 3 (William Faulkner と *The Sound and the Fury*) 9： モダニズム小説 4 (William Faulkner の世界) 10： 多文化主義小説 1 (多文化主義とアメリカ小説) 11： 多文化主義小説 2 (黒人作家とユダヤ系作家) 12： 多文化主義小説 3 (Bernard Malamud と *The Assistant*) 13： 多文化主義小説 4 (Philip Roth と "The Conversion of the Jews") 14：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する	定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(スペイン研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン研究入門)	担当者	中井　博康

講義目的、講義概要	授業計画
イベリア半島の多様な文化事象を、視聴覚資料を利用しながら通時的に概説します。スペイン語圏について基礎的な知識を獲得してもらうことを目的に、地理や世界史を学んでいない学生にも配慮しながら、スペインにおける文化実践について共に考える場にしたいと考えています。 なお、スペイン語圏の総体的な理解のためには、「スペイン・ラテンアメリカ研究入門 II(ラテンアメリカ)」の受講は不可欠ですので、履修を強く勧めます。	01. 地理概観・古代 02. 中世(1)：イスラーム・スペイン 03. 中世(2)：キリスト教スペイン 04. 1492 05. 16 世紀(1)：エル・グレコ、セレスティーナなど 06. 16 世紀(2)：神秘主義など 07. 17 世紀(1)：セルバンテス、ピカレスク小説など 08. 17 世紀(2)：ベラスケス、演劇など 09. 18 世紀：ゴヤ、闘牛など 10. 19 世紀(1)：ロマン主義、フラメンコなど 11. 19 世紀(2)：モデルニスモ、98 年の世代など 12. 20 世紀(1)：内戦とフランコ体制など 13. 20 世紀(2)：民主化など 14. 現代
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用しません。参考文献は講義で随時紹介します。	平常点（授業時のレスポンスカードなど）および学期末の書評レポートにより、総合的に行ないます。レポートは、課題図書を的確に要約・コメントできているかを評価します。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(ラテンアメリカ研究入門) 歴史と文化(Ⅲ)(ラテンアメリカ研究入門)	担当者	佐藤　勘治

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎 知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。 佐藤と浦部で担当する。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。	佐藤担当 1　導入:「ラテンアメリカ」とは:そのイメージを問う 2　ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況 3　ラテンアメリカ史入門 4　カリブ海地域の概要　歴史と社会 5　メキシコ・中米地域の概要　歴史と社会 6　現代のラテンアメリカの文化 ：文学、音楽、絵画 浦部担当 7　環境と生活１：アンデスの自然環境と食料生産 8　環境と生活２：アマゾンの自然環境と資源利用 9　人と社会１：宗教・価値規範と人間関係 10　人と社会２：家族・大土地所有制と社会格差 11　政治と経済１：政治体制と人権・民主主義 12　政治と経済２：経済政策と貧困・社会公正 佐藤担当 13　米国のラテンアメリカ系住民
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：増田義郎『物語　ラテンアメリカの歴史』(中公新書)	期末テスト、出席・発言など

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(日本文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(日本文化論)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本は世間一般がぼんやりと信じているような単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域（朝鮮半島・ユーラシア大陸・南島諸地域）との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。	1　オリエンテーション・導入 2　文化と文明…政治と現実 3　日本文化の歴史的複合重層性 4　日本は閉鎖的な国か？ 5　「日本」はいつから「日本」か？ 6　季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 7　文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 8　ものの行き来、人の行き来 9　日本人の振る舞い…正直・清潔・契約 10　律令の輸入…「天皇」と「国家」 11　「鎖国」…開かれていた国「日本」 12　明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 13　「日本人」の暮らしと死生観 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）	学期末試験（論述式）の成績による。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (英語圏の文学) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文学文化)	担当者	松山　響子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 文学というと通常みなさんはどのようなイメージを持つだろうか？「古臭くて、長くて、面白くない。」そのような言葉が頭に思い浮かぶのではないだろうか。しかし文学は文化の中で中核をなす要素でもある。なぜなら、文学は該当する言語を使用する人間の考え方、知識、宗教的・歴史的背景を、その言語の最も洗練された形で記録しているものだからだ。結果として、時間という最も厳しい読者が選別をしているベストセラーリストでもある。この講義では、そのベストセラーリストの一端に触れて、「英語圏」の人々がどのようなものを文学と見なしているのか、少しでも理解してほしい。 **概要** ひとくちに「英語圏」といっても、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、インドなど数多くある。そして文化の中核をなす「文学」を取り上げるとなると、当然だが秋学期の授業だけでは足りない。したがって、この授業では最も歴史が長く、さまざまな英語圏の文学に影響を与えた「イギリス文学」を中心に、他の地域の文学も合わせて取り上げていく。	第 1 週：オリエンテーション・背景説明 第 2 週：古英語から中世へ 第 3 週：ルネッサンスと演劇時代の到来 第 4 週：シェイクスピアの登場 第 5 週：シェイクスピアの演劇 第 6 週：清教徒革命前・清教徒革命後 第 7 週：18 世紀の散文、小説、そして劇 第 8 週：小説時代の到来 第 9 週：ロマン派時代の光と影 第 10 週：ヴィクトリア朝の詩と散文 第 11 週：ヴィクトリア朝の小説 第 12 週：20 世紀の詩と劇 第 13 週：20 世紀の小説 授業によっては、スケジュールどおり進まないこともあるかもしれませんので、この点を承知しておいてください。

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト 川崎寿彦著『イギリス文学史入門』(研究社、1986 年)	**評価方法** 期末定期試験(60%)、課題レポート(20%)、出席(20%) (2/3 以上の出席がないと単位を認定しません。)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(異文化間コミュニケーションｂ) 歴史と文化(Ⅲ)(異人種共生の試練＜アメリカ編＞)	担当者	山本 英政

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族共存のモデルケースを紹介する。 複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間に生じる摩擦により、ときに多大な犠牲が払われた。 １１週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀が過ぎ、どれだけ人種間の対話は進展を見たのだろうか。 残りの週では、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げ、多文化が根を張るこの島社会の共生の核心部分を、日本人移民の同化過程を中心に解説する。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. ロス暴動に見る共生の現実 4. 奴隷制下の人種共存 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. 公民権運動の共生理念 8. 非暴力不服従　ガンジーとキング 9. 急進派ブラック・パワーとは 10. モハメッド・アリ 11. 映像 12. 多民族混合社会ハワイ 13. ハワイの経験－多民族の取り込み－

テキスト、参考文献	評価方法
『アメリカ黒人の歴史』本田創造　岩波新書 『キング牧師とマルコムX』上坂昇　講談社現代新書 『ハワイの日本人移民』山本英政　明石書店	学期末試験 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08年度以降 07年度以前	歴史と文化１(文化史入門) 歴史と文化(Ⅲ)(文化史入門)	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 ＜講義概要＞ 　本講義では、古代地中海世界で体現された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争的人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。	１　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２　技術文化（その１）：動力とエネルギー源 　奴隷労働は生産的であったか？ ３　技術文化（その２）：水の供給・処理と農業・牧畜 　水道橋にかけるローマ人の執念 ４　運送手段（その１）：船と海上輸送 　古代の戦艦「三段櫂船」の脅威 ５　運送手段（その２）：陸上輸送 　古代の「一般道」と「高速道路」 ６　造形芸術：建築と彫刻 　アルカイック・スマイルの謎 ７　文学の世界：叙事詩と演劇 　ギリシア文化の普遍性 ８　宗教と祭祀：神々と人間 　ギリシア人は「神話」を信じていたか？ ９　性愛の諸相（男と女）（その１）：同性愛 １０　性愛の諸相（男と女）（その２）：異性愛 １１　競技的（アゴン）人間類型 　理想的人間とは？ １２　クリエンテーラ・パトロネジ関係 １３　民主政の中の人間関係 １４　まとめ（総括と展望）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。	学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(英語圏の文化) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏の文化)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、５０万人もの移民を受け入れているアメリカ。現在、その総数は3.５００万にも達し、総人口の１２％も占めている。白人の割合は減る一方で、２０５０年には5割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れた同国は多民族社会へと急速に変貌していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、叫ばれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながら辿り、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. 国家建設とワスプ主義 3. 工業化と新移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャー 10. カウンターカルチャー 11. 映像 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：授業で紹介する	学期末試験 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(英語圏事情) 歴史と文化(Ⅲ)(英語圏事情)	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、多国間の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響力に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。 イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない相手国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。 反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。	1. ガイダンス 2.　銃社会アメリカ 3.　　〃 4.　９１１ 5.　アメリカと戦争 6.　ベトナム戦争 7.　湾岸戦争 8.　イラク戦争 9.　　〃 10.　もう一つの９１１ 11.　映像 12.　ソフト・パワー 13.　アメリカンポップカルチャーの力 14.　　〃
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：『グローバリゼーションの文化政治』吉見俊哉　平凡社、『ソフト・パワー』ジョセフ・ナイ　日本経済新聞社	学期末試験 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(韓国文化各論 c) 歴史と文化(Ⅲ)(韓国文化各論 c)	担当者	金　貞我 (ｷﾑ･ｼﾞｮﾝｱ)

講義目的、講義概要	授業計画
今学期の韓国文化論のテーマは「風俗画のなかの朝鮮文化－描かれた朝鮮文化を読む」である。14 世紀末から 20 世紀初頭まで続いた朝鮮時代の文化の諸像を、朝鮮時代に描かれたさまざまな風俗画から読み取り、その図像に表象される歴史や社会、文化を学ぶのが今学期における韓国文化論の目的である。 授業はスライドやビデオなどの視覚的な資料を用いながら行われる。描かれた朝鮮時代の生活文化を理解し、それらが現代韓国の社会にどのように継承され、生きているのかまで、韓国文化の歴史の諸像を視覚（図像）資料からアプローチすることが主な内容である。	１、韓国の時代区分と歴史の概要 ２、姿の朝鮮文化 ・　女性の表象－封建社会の理想の女性像 ・　立身出世の表象－寺小屋と科挙 ・　妓女の姿と上流社会 ・　装身具と服飾が象徴する身分社会 ３、しぐさの朝鮮文化 ・　食文化と食事作法 ・　片立膝と正座 ・　顔を隠す女性・扇子越しにみる男性 ・　いただく女・背負う男－労働する庶民 ※以上の内容に基づいた詳しい授業日程は、授業の初日に配布する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書および参考資料は、授業中に随時紹介する。必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。出席と平常点（50%）とレポート（50%）を総合して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1(大衆文化論) 歴史と文化(Ⅲ)(大衆文化論)	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に 20 世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。	1　イントロダクション 2　20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3　20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4　20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5　サブカルチャーとグローバライゼーション 1：日本のロック（流入期～） 6　サブカルチャーとグローバライゼーション 2：日本のロック（その後～） 7　サブカルチャーとグローバライゼーション 3：日本のヒップホップ（流入期～） 8　サブカルチャーとグローバライゼーション 4：日本のヒップホップ（その後～） 9　産業と文化 10　ヤンキー文化とオタク文化 1 11　ヤンキー文化とオタク文化 2 12　複合メディア社会とサブカルチャー1 13　複合メディア社会とサブカルチャー2 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時指定する	試験により評価する

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(民俗学) 歴史と文化(Ⅲ)(民俗学)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの生活はいきなり始まったものではなく、先祖から受け継がれてきたもの。受け継がれてきた物や心意や価値観を解明するのが民俗学である。だからといって過去の問題を過去のものとして研究するものではない。現在にどのようにつながり、現在の我々の「存在」をどのようにして捉えることができるのかという目的のもとで研究が行われている。 本講義では民俗学の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出し、これまでの研究成果を学び、自分たちの生活世界がどのようなものであったのか、そしてそれが現在にどのように受け継がれているのかということを理解してもらいたいと思っている。	1　ガイダンス 2　民俗学とは何か（国学から民俗学へ） 3　「民俗」とは何か（研究対象としての「民俗」） 4　伝統芸能（ビデオと解説） 5　祭り 6　なぜ祭りが行われ、その中で芸能が演じられるのか 7　異界の問題１（異界とは何か、幽霊・妖怪） 8　異界の問題２（神とは何か） 9　異界の問題３（妖怪・幽霊・神の関係） 10　異界の問題４（異界はどこにあるのか） 11　年中行事１（とくに正月をめぐって） 12　年中行事２（とくに盆をめぐって） 13　人生儀礼（人の一生における様々な儀礼） 14　日本人の死生観（葬送儀礼からみる）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示	試験による。ただし欠席回数が４回を超えた者については評価対象とはしない。また授業開始 30 分を超えた者は遅刻扱いとし、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(地域文化) 歴史と文化(Ⅲ)(地域文化)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
現在、特に都会では隣にどのような人がすんでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。 また阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。 しかし都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実であり、社会が子どもを守り成長を促すということがなくなってしまった。従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中での阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがある。 本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。	1　講義の概要 2　地名の成り立ちと地域差の問題 3　地域形成と生活構造 4　地域の働き（ビデオと解説） 5　地域認識の問題（地名と地域の関係） 6　地域文化としての祭り 7　地域の重層的構成 8　重層的地域における祭祀組織 9　伝統的祭りの方向性（過疎地域の問題、具体例を通して） 10　都市と伝統的祭り(都市地域の問題､具体例を通して) 11　地域文化の方向性と伝播の問題 12　地域文化とフォークロリズムの問題 13　地域文化と新興の祭り（盆踊りと阿波踊り・よさこい祭りなど伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説） 14　地域とボーダレス社会（現在にとって地域とは何か、シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて）、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示	試験による。ただし欠席回数が４回を超えた者については評価対象とはしない。また授業開始 30 分を超えた者は遅刻扱いとし、遅刻２回で欠席１回とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1 (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 歴史と文化(Ⅲ)(スペイン･ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。 そして、ラテンアメリカとは何か、および、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。 毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画のトピックスについて講義する。 スペイン語の知識は必ずしも必要ではない。ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。	1. オリエンテーション　受講上の注意 2. ラテンアメリカの全体的特徴 3. ラテンアメリカの地域と諸国家の特徴 4. ラテンアメリカ社会における男と女 5. ラテンアメリカの社会構造 6. ラテンアメリカ社会における人種概念 7. ラテンアメリカ各地域における異なる男女観と人種概念 8. ラテンアメリカにおける言語と宗教 9. ラテンアメリカにおける文化的差異 10. ラテンアメリカにおける国家の概念 11. ラテンアメリカにおける国民の概念 12.　国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 13. 今日のラテンアメリカと今後の展望 14. 総括

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献については授業中にその都度指示する。 授業中に参考資料を配布する。	学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（アラブ文化・芸術 a） 歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 a）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教（イスラーム）は西暦 7 世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約 13 億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。 毎時限の講義は、授業計画に基づいたイスラム教の解説とイスラム世界のビデオ紹介の 2 部構成とする。また、テキストはコピー配布する。	1　セム族の唯一神、ヤハウェとアッラー 2　セム族の特徴、最後の審判と終末論 3　唯一神の啓示と預言者 4　モーゼの「十戒」と偶像崇拝の禁止 5　メッカ・カアバ神殿の偶像 6　「申命記」とブタなどの食物禁忌 7　共通最高聖地「エルサレム旧市街」 8　「第二神殿」のマネー・チェンジャー 9　「神殿の丘」と「岩のドーム」の岩 10　「夜の旅」と「キブラ（礼拝の方向）」 11　メッカのクライシュ族とハーシム家 12　ヒジュラ（聖遷）とイスラム暦 13　イスラム教徒のウンマ（信仰共同体） 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのか－中東イスラム世界の反ユダヤ主義』（ミルトス, 2008 年）	出席率（60%）、試験（40%）による

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（アラブ文化・芸術 b） 歴史と文化（Ⅲ）（アラブ文化・芸術 b）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム教（イスラーム）は西暦 7 世紀、アラビア半島メッカの預言者ムハンマドが唯一神アッラーの啓示を受けて宣教を開始した。この啓示集がクルアーン（コーラン）と呼ばれ、イスラム教の聖典になっている。現在、世界の信徒（ムスリム）数は約 13 億人。また、ムスリム国家は西のモーリタニアから東のインドネシアまで 57 か国に及ぶ。 本講義はイスラム教の基礎的知識の学習を目標とする。 毎時限の講義は、授業計画に基づいたイスラム教の解説とイスラム世界のビデオ紹介の 2 部構成とする。また、テキストはコピー配布する。	1　イスラム以前のアラビア社会はジャーヒリーヤ 2　三大唯一神教と利子の是非 3　シャリーア（イスラム法）は「水場に至る道」 4　「詠め」で始まる、アッラーの最初の啓示 5　メッカ啓示とメディナ啓示 6　シャリーアの第一の法源クルアーン 7　第二の法源ハディースとムハンマドの無謬性 8　ウンマ（信仰共同体）のイジュマーウ（合意） 9　イスラム教の四つの法学派とワッハーブ派 10　「五行」の第一は「信仰告白（シャハーダ）」 11　シーア派のシャハーダとワリー（友）の概念 12　イスラムの 2 大祭、犠牲祭と断食明けの祭り 13　防衛的ジハードは全ムスリムの「個人的義務」 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『アラブはなぜユダヤを嫌うのか－中東イスラム世界の反ユダヤ主義』（ミルトス, 2008 年）	出席率（60%）、試験（40%）による

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(日韓交流史) 歴史と文化(Ⅲ)(日韓交流史)	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」(あるいは相互認識) のあり方やその変化についても焦点を当てていく。	１．韓国の歴史の流れ ２．王仁博士と漢文 ３．日本の中の百済文化 ４．高麗時代の社会状況 ５.『三国史記』と『三国遺事』 ６．朝鮮通信史① ７．朝鮮通信史② ８．豊臣秀吉と李舜臣 ９．申叔舟と雨森芳洲 10．安重根と伊藤博文 11．日韓併合 12．淺川巧と韓国 13．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。	最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（日本思想史 1） 歴史と文化(Ⅲ)（日本思想史 a）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 ２．古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。 ３．現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 ４．「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。 かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。 日本語を母語としない学生は、少なくとも「上級日本語Ⅱ」の単位を取得していること。 古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。	1　講義の進め方の説明 2　古代から近世までの思想史の概略 3　日本文化の特質について 4　仏教と古代日本 5～6　キリスト教と日本 7　日本の近世思想の概略／江戸という時代 8　儒学の思想 9　朱子学と日本 10　貝原益軒の思想 11　荻生徂徠の思想 12　水戸学の思想 13　武士道について 14　幕末維新期の思想／民衆の思想
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。	最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。出席は 6 割が必須。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化 1（教育の歴史 2） 歴史と文化(Ⅲ)(教育の歴史 b)	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを目的とする。 本講義では日本の近代の教育史を担当するが（1 は前近代)、具体的には幕末以降、1990 年代までの、教育の制度や実際の姿および教育思想を扱う。 できるだけ初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義しようと考えている。	1　開講の辞／講義の進め方の説明 2　近現代（第二次大戦以前）の教育史概略 3　学制と明治期の教育 4　教育勅語とその扱い 5　大正自由主義教育 6　生活綴方教育 7　戦争と教育（ビデオ観賞） 8　近現代（第二次大戦以後）の教育史概略 9　憲法と教育基本法体制 10　コア・カリキュラム運動 11　「逆コース」と教育 12　能力主義教育の導入 13　教育の規制緩和と競争 14　教育政策の揺れ

テキスト、参考文献	評価方法
配布プリント類による。 参考文献は、授業中適宜紹介する。	期末レポートに、適宜課す小レポートを加味する。出席は 6 割が必須。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(都市と建築１) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築１)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。	１．講義概要の説明 ２．古代エジプトの建築 ３．古代オリエントの建築 ４．古代ギリシャの建築１ ５．古代ギリシャの建築２ ６．古代ギリシャの建築３ ７．中間のまとめ ８．古代ローマの建築１ ９．古代ローマの建築２ 10．古代ローマの建築３ 11．初期キリスト教の建築 12．ビザンチン建築 13．イスラム建築 14．講義のまとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にテキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化１(都市と建築２) 歴史と文化(Ⅲ)(都市と建築２)	担当者	鈴木　隆

講義目的、講義概要	授業計画
木の文化に対して石の文化とも言われるように、西洋では我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきた。本講義は、建築の歴史を通して西洋の文化の一面を知ることを目的とする。 西洋の建築の歴史は、過去の文化として記録されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して直接見ることもできる。本講義では、古代、中世および近世の西洋の建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆく。 なお、スクリーンに図面資料などを写しながら講義を進める必要から、受講生の定員を 150 名とする。	１．講義概要の説明 ２．ロマネスクの建築１ ３．ロマネスクの建築２ ４．ロマネスクの建築３ ５．ゴシックの建築１ ６．ゴシックの建築２ ７．ゴシックの建築３ ８．中間のまとめ ９．ルネサンスの建築１ 10．ルネサンスの建築２ 11．ルネサンスの建築３ 12．バロックの建築１ 13．バロックの建築２ 14．講義のまとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特にテキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義の中で紹介する。	試験の結果によって評価する。

08 年度以降	歴史と文化 1 (科学技術交流史 a)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 鉄砲の伝来以来、日本は直接あるいは間接にヨーロッパと様々な交流をおこなってきたが、特に自然科学の分野でそのことがどのような影響をもたらしたかを知ることを目的とする。 **履修資格** ・ 日本史・世界史に関心があること。 ・ 資料の多くは外国語であるので、辞書をひくことが苦でないこと。 （最初の講義で試験を行なう）。	以下の項目をそれぞれ数回ずつかけて説明し、その資料を読んでいただきます。 1　国際交流とは 2-6　日本の自然環境と欧州の自然環境の共通性 7-11　日本の自然環境の特殊性 12-14　ひとは世界をどう認識したか
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。

08 年度以降	歴史と文化 1 (科学技術交流史 b)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 江戸時代、知識階級に限られたが、オランダ語に精通した人たちがいた。彼らはオランダ語を通して何を学んだのかを、幾人かを例にして勉強する。 **履修資格** ・ 日本史・世界史に関心があること。 ・ 資料の多くは外国語であるので、辞書をひくことが苦でないこと。 （最初の講義で試験を行なう）。	以下の項目をそれぞれ数回ずつかけて説明し、その資料を読んでいただきます。 1-3　出島にやってきた欧州人　ケンペル以前 4-6　出島にやってきた欧州人　ツュンベリー 7-10　シーボルトは何を日本人に伝えたか 11-12　シーボルトは日本をどう紹介したか 13-14　文化・文政時代の国際文化交流
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介する。廉価な本は各自必ず購入すること。	出席状況、随時提出してもらうレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（グローバリゼーションを巡って） 現代文化論 a(グローバリゼーションを巡って)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
米国のサブプライム危機に端を発した金融危機は、またたく間に世界に波及して日本や欧州、アジアなどを覆った。現代のグローバリゼーションはさまざまな国家や地域を飲みこむ大波であり、20 世紀の世界の覇権を握ってきた米国のシステムと文化がその中心にあった。 言語、宗教、生活習慣、社会システム、人々の価値観など「文化」がかかわる領域は幅広い。20 世紀の社会はそれぞれの国や地域の固有性に根ざしながら、民主主義という統治の仕組みから市場経済システムのありかたや大量消費の文化など、米国というモデルの強い影響力の下で統合されてきたとみることもできる。 しかし 21 世紀の今日、その米国の文化的な覇権が揺らいでいることは、9/11 事件以降の国際社会や世界を覆っている金融危機を見るまでもない。 春学期は「米国」という歴史の浅い超大国が覇権国家として 20 世紀の世界にもたらしてきた文化的な影響力の由来とその限界を、歴史にさかのぼって考える。国家や民族、地域の文化が持つ固有性と、それを飲み込む普遍性を通してグローバリゼーションの意味を学びたい。	1　はじめに 2　文明のかたち 3　「帝国」と覇権 4　フランクリン型人間像 5　トクヴィルが見た米国 6　WASP と移民国家 7　ロックフェラーと石油の世紀 8　大量生産・大量消費の文化 9　冷戦と「豊かな時代」 １０　「信頼」と社会 １１　「大きな政府」から「小さな政府」へ １２　米国標準とソフトパワー １３　アメリカンシステムと金融危機 １４　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本の表象と世界） 現代文化論 b(日本の表象と世界)	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちが生きている場は、それぞれの言語や風土、民族や宗教、伝統と文化の下に置かれている。現代社会はこうした固有の環境がグローバリズムという大きなうねりと衝突し、あるいは融合して変化しながら、新たな文化のかたちとなってあらわれる。 中国文明の強い影響と極東の島国という地理的な条件の下で、日本は古来独特の文化を育んできた。それは外来の知識の積極的な受け容れとその固有の風土への融合による、新たなハイブリッド（混合）型の文化といえる。 明治維新以降の日本は近代化を進めた結果、アジアの先頭を切って西欧列強へ仲間入りした。近隣の植民地と敗戦という負の遺産を超えて、戦後に果たした復興と経済大国への道には、そうした日本の文化的な特質が少なからず寄与している。 ここでは近代の日本というモデルを通して、文芸や美術などの表象から社会システムや技術のありかたなど、その「文化」のさまざまな現れ方を探り、グローバリズムと伝統や固有の価値とのかかわりを考える。そのなかで、米国が主導してきたグローバル化の波が異文化とどのように向き合い、新たな価値を生んでいくかを問いたい。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　日本型システムの起源 4　天皇制という仕組み 5　敗戦と占領 6　1955 年体制と戦後日本 7　MADE　IN　JAPAN 8　高度成長と中流社会 9　ブランドと消費社会 １０　日本礼賛と日本たたき １１　COOL　JAPAN １２　日本という表象 １３　グローバリズムと文化 １４　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）、荒井一博『文化の経済学』（文春新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に加えて、通常の授業で課するリポートの実績を勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地域メディア論) 比較文化論 b(地域メディア論)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo　Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。	１．　イントロダクション ２．　グローバル化とローカルコミュニティ ３．　地域・地方文化の復権とメディア ４．　各地の地域メディア（１） ５．　各地の地域メディア（２） ６．　各地の地域メディア（３） ７．　メディアによる地域文化の創造（１） ８．　メディアによる地域文化の創造（２） ９．　多文化共生と地域メディア（１） １０．多文化共生と地域メディア（２） １１．多文化共生と地域メディア（３） １２．受講者による発表（１） １３．受講者による発表（２） １４．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
早川善治郎編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 田村紀雄編『現代地域メディア論』日本評論社	出席と発表（履修者多数の場合、レポート）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(ミクロの視点で考える) 経済学 a(ミクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学の十大原理 2. 経済学者らしく考える 3. 経済学者らしく考える 4. 相互依存と交易（貿易）からの利益 5. 相互依存と交易（貿易）からの利益 6. 相互依存と交易（貿易）からの利益 7. 市場における需要と供給の作用 8. 市場における需要と供給の作用 9. 消費者、生産者、市場の効率性 10. 消費者、生産者、市場の効率性 11. 需要、供給、および政府の政策 12. 需要、供給、および政府の政策 13. 外部性 14. 外部性
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第 1 回目の授業で指定します(次のものを予定)。 N.グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社、2008 年。 参考文献は第 1 回目の授業で提示します。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2)(マクロの視点で考える) 経済学 b(マクロの視点で考える)	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、GDP、経済成長率、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース、トピックもできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学の十大原理 2. 国民所得の測定 3. 国民所得の測定 4. 生計費の測定 5. 生計費の測定 6. 生産と成長 7. 生産と成長 8. 生産と成長 9. 貯蓄、投資と金融システム 10. 貯蓄、投資と金融システム 11. 貯蓄、投資と金融システム 12. 総需要と総供給 13. 総需要と総供給 14. 総需要と総供給
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第 1 回目の授業で指定します(次のものを予定)。 N.グレゴリー・マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社、2008 年。 参考文献は第 1 回目の授業で提示します。	基本的には定期試験の得点(100 点満点)を評価基準(第 1 回目の授業で説明する)に照らして評価する。ただし、出席点や練習問題の得点もサービス点として加算する予定。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 1)(はじめての経済学) 経済学 a(はじめての経済学)	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の基本的な考え方を紹介することにある。具体的な経済問題や日本経済の事例にも触れながら、複雑な経済現象を理解し、整理するための見方、すなわち経済学の基本を習得してもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．ミクロ経済学の基本 Ⅱ．ゲーム理論の考え方 Ⅲ．マクロ経済学の基本 Ⅳ．日本の経済をマクロの視点でとらえる （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト上巻の第Ⅳ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅲに対応している)。	Ⅰ． 1. ガイダンス――経済学とはどのような学問か 2. 民営化・規制緩和の経済学的根拠 3. 市場メカニズムを解剖する 4. 市場はこうして失敗する Ⅱ． 5. ゲーム理論のエッセンス 6. 囚人のジレンマ 7. コミットメントとは何か Ⅲ． 8. GDP を中心にマクロ経済を考える 9. 需要と供給で考える 10. マクロ経済のコントロール――財政金融政策の役割 Ⅳ． 11. 日本経済の構造変化――石油ショックと変動相場制 12. 日本経済のグローバル化――プラザ合意前後 13. バブルの形成と崩壊後の日本経済 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（上)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (経済学 2)(はじめての経済学) 経済学 b(はじめての経済学)	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、春季に習得した経済学の基本を、現実理解に即してマスターしてもらうことにある。財政や金融、企業や産業、ビジネスや労働、国際経済や為替の動き等々、具体的な事例や経済問題を通して、経済学の考え方にさらに磨きをかけてもらいたい。 講義の概要 テキストに沿って下記のテーマに関する講義を行う予定である。 Ⅰ．公共部門の経済学 Ⅱ．金融システムを理解する Ⅲ．国際経済を見る目を養う （なお以上のテーマとその順番は、下記のテキスト下巻の第Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ章に対応している)。	Ⅰ． 1. 公共部門の三つの機能 2. 財政支出と累進課税 3. 自然独占と公共財 4. 景気対策と日本の財政状況 5. プライマリーバランス――財政の未来を考える Ⅱ． 6. 貨幣のもつ様々な機能 7. マネーストックと金融政策 8. 信用乗数と資産市場の全体像 9. バブルの形成と崩壊が生じるメカニズム Ⅲ． 10. 国際収支表の基本 11. 為替相場の仕組みとその動向 12. 企業の戦略および収益と為替の関係 13. 比較優位――国際的な自由貿易の恩恵
テキスト、参考文献	**評価方法**
伊藤元重『はじめての経済学（下)』日本経済新聞社.	レポート・期末試験のいずれか、ないし両方。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「憲法の第一歩」として、これだけは知って欲しい人権論を中心に講義を行う。日常的な問題を素材に、具体的事件（判例）を交えながら、日本の人権状況を受講者と共に考えてみたい。 教職免許取得を目指す学生の外、公務員試験の受験を考えている学生の受講は、大歓迎である。 なお、教科書・判例集のほか、『六法』は必携である。 右の計画順に講義を進める予定である。なお、最初の講義時に「予定表」を配布する。 **＜受講生への要望＞** 現代日本社会に問題意識をもって欲しい。	１．ガイダンス ２．『六法』の使い方／憲法総論 ３．憲法制定略史 ４．人権総論 ５．法の下の平等 ６．信教の自由 ７．学問の自由 ８．表現の自由／報道の自由 ９．表現の自由／プライバシーの権利 １０．人身の自由 １１．裁判員制度 １２．社会権／生存権 １３．社会権／教育権 １４．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法 15 話』（北樹出版） 笹川ほか編『憲法判例特選』（敬文堂／4 月刊行予定）	定期試験による

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（日本国憲法） 日本国憲法（憲法と私たち）	担当者	加藤　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
「憲法の第一歩」として、これだけは知って欲しい人権論を中心に講義を行う。日常的な問題を素材に、具体的事件（判例）を交えながら、日本の人権状況を受講者と共に考えてみたい。 教職免許取得を目指す学生の外、公務員試験の受験を考えている学生の受講は、大歓迎である。 なお、教科書・判例集のほか、『六法』は必携である。 右の計画順に講義を進める予定である。なお、最初の講義時に「予定表」を配布する。 **＜受講生への要望＞** 現代日本社会に問題意識をもって欲しい。	１．ガイダンス ２．『六法』の使い方／憲法総論 ３．憲法制定略史 ４．人権総論 ５．法の下の平等 ６．信教の自由 ７．学問の自由 ８．表現の自由／報道の自由 ９．表現の自由／プライバシーの権利 １０．人身の自由 １１．裁判員制度 １２．社会権／生存権 １３．社会権／教育権 １４．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
加藤一彦『教職教養憲法 15 話』（北樹出版） 笹川ほか編『憲法判例特選』（敬文堂／4 月刊行予定）	定期試験による

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 1)(国際社会と私たち) 国際法 a(国際社会と私たち)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会における法の規律のしかたとその特徴を、国家を中心とした国際法上の行為主体の観点から学ぶ。また、個人が国際法とどのように関わっているのかについても検討する。	1 講義の概要 2 国際法の歴史 3 国際法の存在形式 4 国際法と国内法 5 国家の成立 6 国家の基本権 7 外交使節 8 条約のしくみ 9 国際機構 10 個人の地位 11 人権の国際的保護 12 国際犯罪 13 裁判権免除 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (国際法 2)(国際紛争を考える) 国際法 b(国際紛争を考える)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際法の基礎的知識を学ぶとともに、国際社会において法がどのように機能しているかを考察する。 〔講義概要〕 国際社会を地的管轄権という観点から検討し、それぞれの領域に適用される国際法のしくみを学ぶとともに、国際的な紛争の解決が、どのように図られるのかを考察する。	1 講義の概要 2 国家領域 3 日本の領域 4 国際化地域(極地・国際河川) 5 海洋の国際法制度 6 海洋の資源 7 空域・宇宙 8 国際環境保全① 9 国際環境保全② 10 国家責任 11 国際紛争の平和的解決(国際裁判等) 12 国際安全保障制度 13 武力紛争と法 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは開講時に指示する。	期末試験の成績を重視し、出席･小テスト･レポートも評価の対象にする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (政治システムの構成要素) 政治学 a(政治システムの構成要素)	担当者	羽貝　正美

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 現代社会における統治機構すなわち政府（議会と行政、国の場合はさらに司法）の基本的な仕組みと機能、ならびにその社会的意義とそれらを支える基本的な条件について概説する。 授業を通して、政治システムを見る基本的な視点を獲得するとともに、こうした政治システムと国民・住民との関わりについて理解を深めることを目的とする。 （講義概要） 講義では、主として政府及び政治システムの基本的な仕組みや行政官僚制に焦点を合わせ、原論的な理解を深める機会としたい。同時に、政府に関わる公的諸制度の歴史的な発展過程にも注目し、その連続性と変化の両面にも目を向けながら、現代政治システムの抱える諸課題について検討する。	1. 講義の概要 2. 授業の視点 3. 現代国家の特質 4. 政治制度 (1) 5. 政治制度 (2) 6. 中間のまとめ (1) 7. 官僚制 (1) 8. 官僚制 (2) 9. 公務員制度の原型 10. 現代公務員制 11. 中間のまとめ (2) 12. 政治責任と行政責任 13. 政治統制と行政統制 14. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考文献） 今村都南雄編著『日本の政府体系　―改革の過程と方向―』、成文堂、2002.　ほか適宜紹介する。	出席 15% 中間試験 20%×2 回（計 40%） 期末試験 45%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (現代の民主主義) 政治学 b(現代の民主主義)	担当者	羽貝　正美

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） 主としてわが国の政府間関係と地方制度の発展過程に焦点を合わせ、地方自治体の自立的な行財政管理・運営に関わる諸問題を手がかりにして、現代の民主主義のあり方を考える。 授業を通して、民主的な社会の構築と維持に必要な広い意味での「政治」という営為の意味を理解すること、またこの営為に国民・住民がどのように関わっているかについて理解すること、この二つを目的とする。 （講義概要） 主として中央政府と地方政府との関係（政府間関係）ならびに政治制度のひとつとしての地方制度に焦点を合わせ、わが国の地方自治の発展過程について概説する。その過程を通して、民主主義という政治原理が、制度上、具体的にどのように保障されているか、また現実にどのように作動しているかについて、今後に残された課題とともに考える。	1. 講義の概要 2. 授業の視点 3. 近代化と官治的地方自治 4. 日本国憲法と地方自治 5. 地方自治のビジョン 6. 中間のまとめ (1) 7. 新中央集権と政府 8. 高度経済成長期の政府と国民 9. シビル・ミニマム論とその成果 10. 行財政改革と地方自治 11. 中間のまとめ (2) 12. 自治・分権改革の再始動 13. 自治分権改革の成果と課題 14. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考文献） 羽貝正美編著『自治と参加・協働―ローカル・ガバナンスの再構築―』、学芸出版社、2007.　ほか適宜紹介する。	出席 15% 中間試験 20%×2 回（計 40%） 期末試験 45%

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 a) 社会学 a(他者と自己)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。	1. イントロダクション――社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史（1）――A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史（2）――E.デュルケム 4. 社会学の歴史（3）――M.ウェーバー 5. 社会の類型（1）――コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（2）―ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の類型（3）――第一次集団 8. Identity形成と社会（1）――鏡に映った自己 9. Identity形成と社会（2）――重要な他者 10. Identity形成と社会（3）――マージナル・マン 11. Identity形成と社会（4）――　未定 12. 補完的アイデンティティについて（1） 13. 補完的アイデンティティについて（2） 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
G.ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会)』世界思想社 E.デュルケム『自殺論』中央公論社 M.ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H.ミード『社会的自我』恒星社厚生閣	出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (社会学 b) 社会学 b(現代社会の諸問題)	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」――E.フロム 3. 同調様式の３類型――D.リースマン 4. 都市化と移民――W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説――E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題――R.パーク 7. 「社会」問題と社会的視座（1） 8. 「社会」問題と社会的視座（2） 9. 予言の自己成就――R.K.マートン 10. 誇示的消費――T.ヴェブレン 11. 認知的不協和の理論――L.フェスティンガー 12. 文化的再生産――P.ブルデュー 13. コンフルエント・ラブ――A. ギデンズ 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
E.フロム『自由からの逃走』東京創元社 D.リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I.トマス、F.ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A.ギデンズ『親密性の変容』而立書房　　ほか	出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(自然環境と文化) 地理学 a(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　オリエンテーション 2　自然と人間とのかかわり 3　環境の諸要素（1）　地球の特質 4　環境の諸要素（2）　地形環境 5　環境の諸要素（3）　気候環境 6　環境の諸要素（4）　植生と土壌　生態系 7　熱帯地域（1）―自然的特質と伝統的農業 8　熱帯地域（2）―アジアの稲作 9　熱帯地域（3）―熱帯の開発と問題（1） 10　熱帯地域（4）―熱帯の開発と問題（2） 11　砂漠地域（1）―自然的特質とイスラム 12　砂漠地域（2）―石油資源と近代化 13　砂漠地域（3）―アラブとイスラエル 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(自然環境と文化) 地理学 b(自然環境と文化)	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたるが，本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。	1　温帯地域（1）自然的特質 2　温帯地域（2）地中海森林地域 3　温帯地域（3）温帯混交林地域（ヨーロッパ） 4　温帯地域（4）温帯混交林地域（アジア） 5　温帯地域（5）北米の温帯地域（1） 6　温帯地域（6）北米の温帯地域（2） 7　温帯地域（7）そのほかの温帯地域（3） 8　冷帯地域 9　冷帯地域・寒帯地域 10　山地地域 11　世界の環境問題（1）人口 12　世界の環境問題（2）食料 13　世界の環境問題（3）地球温暖化 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三（他）著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す	定期試験および出席状況

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 1)(世界の自然環境と文化) 地理学 a(世界の自然環境と文化)	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。	1．オリエンテーション―地理学とは 2．環境の諸要素（1）気候環境 3．環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4．環境の諸要素（3）地形・植生 5．熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6．熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7．熱帯地域（3）熱帯林の保全 8．沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9．沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式―西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004)『自然環境と文化―世界の地理的展望 改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地理学 2)(世界の自然環境と文化) 地理学 b(世界の自然環境と文化)	担当者	北﨑　幸之助

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。	1．環境の諸要素―地形環境 2．温帯草原地域の自然特性 3．温帯草原地域の開発と環境問題 4．温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性 5．温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大 6．亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7．亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8．山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9．山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）私たちにできること 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山本正三他著（2004)『自然環境と文化―世界の地理的展望 改訂版』原書房	期末定期試験の結果（90%）に、出席状況（10%）等を加味して、総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (家庭と職場のジェンダー) 女性学 a(家庭と職場のジェンダー)	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ジェンダーとは、「女はこう」「男はこう」という考え方のことです。私たちの行動を、ときにはあからさまに、ときには気づかないうちに方向づけるもので、自分らしさをつくるものでもあれば、生き方の幅を狭めてしまうものでもあります。 　この講義では、日常的な場面（家庭や職場など）でジェンダーがどんな作用をしているのか、ジェンダー・スタディーズのキー概念を使いながら、プラス面もマイナス面も合わせて考察していきます。 講義概要 　毎回ひとつのトピックについて、データや映像などを使いながら解説します。受講者のみなさんにはノートを取りつつ議論の流れを理解してもらうほか、授業内容を受けてコメントカードを書いてもらいます。内容は授業で一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めてもらいます。	1．イントロダクション：ジェンダーとは 2．家庭とジェンダー （1）家族の移り変わり（主婦役割を中心に） （2）家族の現在 （3）DV・デート DV 3．職場とジェンダー （1）職場の移り変わり（男女雇用機会均等法） （2）労働の現在 （3）セクシュアル・ハラスメント （4）「痴漢」と女性専用車両 4．性と生殖 （1）セクシュアリティ （2）産まない選択（避妊と中絶） （3）産む選択 5．多様な私たち （1）セクシュアル／ジェンダー・マイノリティーズ （2）トランスジェンダーと「性同一性障害」 6．まとめ ＊トピックに若干変更を加えることがあります。また、一部、性的表現や暴力的表現をふくむトピックもあることをご承知置きください。

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。	コメントカードと学期末試験。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ジェンダーとメディア表象) 女性学 b(ジェンダーとメディア表象)	担当者	西山　千恵子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　テレビや新聞、ラジオ、雑誌、インターネットなど私たちは毎日メディアを通じて膨大な情報に接し、そこから女性、男性についての知識を得て、男女のイメージ、固定観念を作り上げています。「自分はメディアに左右されていない」と思っていても、私たちはメディアの影響力から完全には自由になれません。 　この授業ではそうしたメディアについて、深く読み解く力、すなわち「メディア・リテラシー」を意識して、特にジェンダー（社会的性別・性差）の観点からさまざまな男女の表象を検討していきます。いろいろな映像をふんだんに使いながら、身近なメディアにおける男女、ジェンダーの表現をみんなで見直すとともに、既存のジェンダーにとらわれない表現についても考察していきます。 講義概要 　前半はジェンダーについての基礎的理解を図り、後半はメディア・リテラシーの基礎を踏まえたうえで、さまざまなメディア・テクストを検討していきます。授業内容を受けてコメントカードを書いてもらうことがあります。(不定期)。コメントは次の回の授業のはじめに一部紹介し、それを受けてさらに考察を深めます。	1.　イントロダクション 2.　ジェンダーとは何か 3.　ジェンダーの周辺概念 4.　性の多様性 5.　セクシュアル・マイノリティの主張・運動 6.　メディアとジェンダーの基本問題 7.　ジェンダー視点のメディア・リテラシー 8.　広告における性表現とジェンダー 9.　映画における女性・男性 10.　映画におけるセクシュアル・マイノリティ 11.　美術表現におけるジェンダー 12.　美術表現におけるジェンダー 13.　公共彫刻におけるジェンダー 14.　まとめ ＊トピックに若干変更を加えることがあります。また、講義内容の性質上、一部、性的表現や暴力的表現をふくむトピック、映像もありますが、ご了承ください。

テキスト、参考文献	評価方法
プリントを配布します。 参考文献は授業中に提示します。	学期末試験。すぐれたコメントを加点要素とする。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1(キャンパスライフと仕事Ⅱ) 現代社会(Ⅲ)(キャンパスライフと仕事Ⅱ)	担当者	有吉　秀樹

講義目標

本講座の目的は、さまざまな業界の第一線で活躍する社会人の方々の週替わりの講話を聴く中で、将来求められる社会人像を探り、そのために限られたキャンパスライフをどのように過ごすかを考えることにある。大学生活は高校までの延長ではない。社会への入り口であり、自ら問題を発見する力を養成する場でもある。厳しい就職戦線の様子がマスコミ等で伝えられているが、自らの軸を持ち、目的意識を持って学生生活に臨むか否かは、その後の人生を大きく分けることとなろう。今後インターンシップや就職活動を控えた 2、3 年生に有益な講話を提供できれば幸いである。

講義概要

毎回登壇する講師陣は、彼らの所属する業界や企業の概況、彼らの一日の仕事の主な流れ、求められる人材像、大学時代に準備すべき事柄などを中心に語ってもらっている。「キャンパスライフと仕事Ⅰ」と比較すると、キャンパスライフの部分よりも仕事の部分に置かれているウェイトの方が大きいと考えて差し支えなかろう。

受講生への要望

学外の方を迎えての講義である以上、出席こそが単位取得の最大の要件である。また、講義開始 10 分以降の入退室は一切できないので注意すること。

評価方法

評価は出欠と期末の小テスト。3 回欠席した時点で、単位取得は不可能となる。レポートや追試による救済は一切ない。欠席が 2 回以内の者に限り、期末の小テストの採点対象とする。出席カードにおいて不正を働いた者も単位を与えない。

テキスト、参考文献

各回の講師によっては適宜プリントを配布することもある。

授業計画

1. ガイダンスと受講上の注意

2～11. 外部講師による講話（保険業界、新聞業界、電気機器業界、旅行業界、住宅業界、教育関連業界、 ホテル業界などを予定）

12. インターンシップ体験者による報告

13. 内定者による就職活動体験談

14. 確認テスト

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 （中東政治思想 a） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 a）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは 1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年 9・11 テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義では、エジプト人原理主義思想家サイイド・クトゥブ（1906-66）のジャーヒリーヤ論に代表されるイスラム主義思想・政治運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (1)　授業計画に基づいたイスラム主義思想・政治運動の解説 (2)　イスラム主義政治運動を中心にした中東情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　セム族唯一神教の系譜 2　イスラム教多数派スンニ派とシーア派の起源 3　イスラム教の戒律シャリーア（イスラム法） 4　エジプトの過激イスラム主義組織「イスラム集団」と「ジハード団」 5　イスラムの伝統的世界観「イスラムの家」と「戦争の家」 6　ウンマ（イスラム共同体）内部のジハード論 7　ジハードの戦略論「近い敵・遠い敵」論 8　クトゥブの革命理論「ジャーヒリーヤ論」 9　過激イスラム主義組織の原型「タクフィール団」 10　イラン・イスラム革命 11　「ジハード団」のサーダート前エジプト大統領暗殺（1981 年） 12　湾岸戦争（1991 年）と「新十字軍」論 13　「イスラム集団」の外国人観光客殺戮「ルクソール事件（1997 年）」 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤原和彦著『イスラム過激原理主義――なぜテロに走るのか』（中公新書、2001 年）	出席率（60%）と試験（40%）による

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 （中東政治思想 b） 現代社会（Ⅲ）（中東政治思想 b）	担当者	藤原　和彦

講義目的、講義概要	授業計画
イスラム（原理）主義やサラフィズムと呼ばれる過激なイスラム政治運動が世界を揺るがしている。サウジアラビア出身のウサマ・ビンラーディン率いるアルカーイダは 1990 年代半ば「十字軍」と指弾する米国に対しジハードを宣言。2001 年 9・11 テロを引き起こし、ブッシュ米政権による史上初の「対テロ戦争」を招くこととなった。米国が 2003 年イラク戦争に踏み切ると、アルカーイダもイラクをジハード（聖戦）の主戦場と定めてテロ闘争を激化。その結果同国が内戦状態に陥ると、アルカーイダは 2006 年 10 月「イラク・イスラム国」の樹立を宣言した。 講義では、アフガニスタン戦争（1979－89）と 90 年代後半台頭したタリバン運動に焦点を当て、現代イスラム原理主義運動の理解を目指す。 また、毎時限の講義は, (1) 授業計画に基づいた、1970 年末から現在に至るイスラム原理主義運動の解説 (2) アフガニスタン戦争、タリバンの台頭など中東情勢ビデオの視聴 の 2 部構成とする。	1　旧ソ連のアフガニスタン侵攻（1979 年） 2　アフガニスタン戦争とアラブ・アフガンズ（イスラム義勇兵）の出現 3　「20 世紀におけるジハードの回復者」アッザーム 4　国際的テロ組織アルカーイダ（基地）の結成 5　ビンラーディンによる対米「ジハード宣言」と「世界イスラム戦線」の結成 6　タリバンの最高指導者ウマルは「信徒の司令官」 7　タリバンの「イスラム首長国（イマーラ）」樹立 8　アルカーイダの「休眠細胞」と 9・11 テロ 9　イラク戦争とアルカーイダの第 2 世代指導者ザルカウィの登場 10　「ユーロイスラム」とロンドン同時テロ 11　アルカーイダ・イラク支部の擬似国家「イラク・イスラム国」の樹立 12　「パキスタン・タリバン運動」の台頭 13　アルカーイダのセイフ・ヘイブンの拡大 14　講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
立山良司監修・執筆「『対テロ戦争』から世界を読む」（自由国民社、2005 年）	出席率（60%）と試験（40%）による

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（歴史の中のメディア） 現代社会（Ⅲ）（歴史の中のメディア）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
米国の新聞社がグーグルの情報検索をめぐって対立している。伝統的なメディアのビジネスモデルがネットメディアに脅かされている。 メディアの歴史を遡れば、グーテンベルクによる活字印刷の発明で、大量の情報が同時に広く人々に伝えられるようになり、欧州社会を中心にコミュニケーションの場は飛躍的に拡大した。新聞や雑誌という活字メディアの勃興は民主主義社会の発展に大きな役割を果たした。 19 世紀後半から 20 世紀にかけて、電信などの通信技術の開発と写真や映画、ラジオやテレビといった映像と音声による情報伝達が広がると、人々を取り巻く情報環境は一変した。インターネットが切り開いた 21 世紀の空間は、グローバルなネットワークと伝達のスピードや個人の自在な情報のやりとりを可能にし、社会の価値観や規範まで揺るがせている。 この授業ではこうしたメディアの変遷をたどりながら、個人と国家や社会との関係や、民主主義と市場経済というシステムとのかかわりに情報が果たしてきた役割とこれからのメディアの姿を見つめたい。	1　はじめに 2　グーテンベルクの革命 3　ピュリツァーと＜新聞戦争＞ 4　ロイターの軌跡 5　視覚の二〇世紀 6　メディアとプロパガンダ 7　戦争・国益・メディア 8　グローバリゼーションと情報 9　メディア複合体 １０　テレビとネット １１　「素材は王なり」 １２　民主主義とメディアモデルの揺らぎ １３　メディアのなかの人間 １４　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。ジョアンナ・ヌーマン『情報革命という神話』（柏書房）を参考文献とする。	定期試験の成績に、通常の授業なかで課すリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（メディアと現代社会） 現代社会（Ⅲ）（メディアと現代社会）	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
マスメディアは個人と民主主義や市場を支えるシステムを結んで情報を伝達し、社会が共有する「財」を生み出してきた。政治や外交における世論や政策の形成、市場における消費や文化的な価値の創造に大きな影響力をもたらすこの機能が、立法や司法、行政の三権になぞられて「第 4 の権力」と呼ばれるゆえんである。 情報を独占的に扱うことで民主主義の下で国民が抱える要求を代行して担うというその特質から、メディアには「公益性」という使命が求められてきたが、ここへきてその変質が問われている。 背景にはメディアが巨大資本を背景にして収益性と権力性を高めるかたわらで、その公共的な足場を支えてきたジャーナリズムという倫理が内外から揺らいでいることがある。報道を巡る「表現の自由」と個人の「プライバシー」の権利の対立、「知る権利」というメディア報道の法的基盤の揺らぎなどが、その一例である。 個人の自在な情報のやりとりを可能にしたインターネットという新たなメディアの登場も既存のメディアの立場をひときわ厳しいものにしている。「公共性」を巡ってメディアがいま問われている課題を考えたい。	1　はじめに 2　ジャーナリズムの誕生 3　調査報道とキャンペーン 4　「表現の自由」と社会 5　誤報と虚報はなぜ生まれるのか 6　「世論」とメディア 7　情報操作はなぜ行われるのか 8　公共性とメディアの倫理 9　放送と通信の融合 １０　外交と情報摩擦 １１　メディアの再編と市場 １２　報道・情報・エンターテインメント １３　ネット社会と「公共圏」の行方 １４　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を配布する。佐藤卓巳『メディア社会』（岩波新書）を参考文献とする。	定期試験の成績に、通常の授業のなかで課すリポートの実績を勘案して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会科学概論 1） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 a）	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・経済学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 春学期は、テキストとして山脇直司氏の『社会思想史を学ぶ』を用います。同氏は、わが国を代表する社会哲学者ですが、最近は「公共性」を軸にした社会思想史の再編を研究課題にしています。本書でも、ポスト近代の視点に立って、いわば新たな世界市民主義の可能性を提示しています。それは西洋的な自然観や歴史観を根本から見直すことにもなるでしょう。近代の向こう側に公共性意識をもった「市民」から成る超国家的なコミュニティを構想するというのですが、それは日本社会に実現できるでしょうか。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．授業の概要 2．1980 年代の社会思想とは何であったか 3．世界史の転換と社会思想の転換――1990 年代以降 4．近代啓蒙思想の「自然観」と「歴史観」――文明の進歩というヴィジョン 5．進化論の社会観――進歩史観から偶然史観へ？ 6．近代啓蒙思想と宗教 7．根源悪と歴史思想 8．コスモポリタニズム、ナショナリズム、インターナショナリズム 9．市民社会論と福祉国家論 10. 超国家的な「公共価値」をどう築くか 11. 欧米中心的進歩史観からの脱却と相対主義の罠 12. 「解釈学的理解」とは何か――批判的で対話的な歴史・文化理解のために 13. 多元的なポスト近代の「比較」社会思想への途 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
山脇直司『社会思想史を学ぶ』ちくま新書、2009 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（社会科学概論 2） 現代社会（Ⅲ）（社会科学概論 b）	担当者	堅田　剛

講義目的、講義概要	授業計画
「社会科学」は法学・政治学・経済学等の総称ですが、実は人間社会についての総合的・学際的な学問という性格を有しています。この意味での社会科学には人文科学も含まれます。法や政治や経済を、完成した制度としてではなく、生きた人間関係に引き戻して見直してみましょう。この授業をつうじて、学生諸君が主体的に考えるヒントを提示できればと思います。 秋学期は、テキストとして広井良典氏の『コミュニティを問い直す』を用います。同書は、大佛次郎論壇賞を受賞した注目の書物です。同氏は社会保障や福祉政策の専門家として、「コミュニティ」の諸問題に取り組んでいます。地域と地球の両面からの、魅力的な問題提起といえるでしょう。また、現代的なコミュニティを構築することで、資本主義と社会主義が産み出してきた地球環境問題にも新たな提言を試みています。西洋発の市民社会的都市論は、はたして「日本社会の未来」への指針となりうるでしょうか。 講義では、テキストに即しながら、社会科学的諸問題を一人ひとりの生き方の問題として、批判的に捉え返してみます。単にテキストを解説するのではなく、私の考えを積極的に織り込むつもりです。学生諸君も、この授業では「覚える」よりも「考える」ことを目指してください。	1．授業の概要 2．コミュニティへの問い 3．都市・城壁・市民――都市とコミュニティ 4．都市・城壁・市民――都市とコミュニティ（続） 5．コミュニティの中心――空間とコミュニティ 6．ローカルからの出発――グローバル化とコミュニティ 7．都市計画と福祉国家――土地／公共性とコミュニティ 8．ストックをめぐる社会保障――資本主義／社会主義とコミュニティ 9．ストックをめぐる社会保障――資本主義／社会主義とコミュニティ（続） 10. ストックをめぐる社会保障――資本主義／社会主義とコミュニティ（続） 11. ケアとしての科学――科学とコミュニティ 12. 独我論を超えて 13. 地球倫理の可能性――コミュニティと現代 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
広井良典『コミュニティを問いなおす――つながり・都市・日本社会の未来――』ちくま新書、2009 年 ※参考文献は、必要に応じて授業の中で紹介します。	「レポート点」＋「試験点」＋出席状況、で総合的に評価します。レポートについては、中間時点で提出してもらい、添削のうえ返却したのち、再提出の機会を設けます。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 1) 現代社会(Ⅲ)(教育法 a)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法は、教育の場で生じるさまざまな問題を、法的視点から、つまり、権利・義務関係の視点から整理して、教育問題の分析･解決を提起してゆく法分野です。現在、学校でも、家庭でも、子どもに対する人権侵害が多発しています。教師の体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、統計的には減少しているとされていたいじめも、むしろ、学校では常態化しており、いじめ裁判は増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害についての具体的な裁判事例を、体罰、いじめ、生活指導、校則、学校教育措置、教育情報に分類して、法的に分析し、教育法の考え方と現時点での理論的到達点を入門的に解説します。	1　学校における子どもの人権侵害――問題化の経緯と分類 2　体罰裁判とその特徴――体罰裁判の判例動向 3　体罰裁判の新しい展開 4　生活指導とその法的限界 5　いじめと裁判――中野富士見中事件といわき小川中事件 6　いじめ自殺と予見可能性――津久井町立中野中いじめ自殺事件 7　いじめ調査・報告義務訴訟 8　丸刈り校則裁判 9　修徳高校パーマ校則裁判 10　都立高校原級留置き訴訟 11　信教の自由と学校教育――エホバの証人退学事件 12　内申書･指導要録開示訴訟 13　教育情報公開訴訟――学力テスト結果公開請求事件 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください。	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (教育法 2) 現代社会(Ⅲ)(教育法 b)	担当者	市川　須美子

講義目的、講義概要	授業計画
教育法の現代的問題状況の把握(教育法 a)を前提に、教育法のより体系的な理解のために、自主性擁護的教育裁判を通じての教育法学形成と教育と国家との基本的な関係のあり方を検討します。次に、教育法の基礎概念である教育人権、子どもの学習権、親の教育権、教師の教育の自由、住民の教育権を、教育裁判を素材に解説します。最後に、2006 年教育基本法改正とその後の教育法状況を分析します。	1　戦後教育改革と憲法・教育基本法法制 2　逆コースの教育改革 3　教科書裁判（１） 4　教科書裁判（２） 5　最高裁学テ判決 6　障害児の学習権――特殊学級入級処分取消訴訟 7　子どもの市民的自由――内申書裁判 8　親の教育権――日曜日訴訟 9　親の教育権――七尾養護学校事件 10 教師の教育の自由――伝習館高校事件 11 教師の教育の自由と日の丸･君が代 12 住民の教育権――教育委員会制度と教育 13 教育基本法改正と教育法制 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しませんが、講義時に教育関係の小六法を携行してください	試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 1) 現代社会(Ⅲ)(民法 a)	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
法とは何か。私たちは、あらゆる法に囲まれ、法と密接なかかわりを持ちながら生きているが、そもそも法とは何だろうか。さらに、裁判とは。これらについてまず解説した後、民法についての講義を行う。後半では、具体的な民事事件についての説明を行う。	1　法とは何か 2　法と裁判 3　生活関係と法 4　民法とはどのような法律か（1） 5　民法とはどのような法律か（2） 6　民法とはどのような法律か（3） 7　民事事件：金銭消費貸借（1） 8　民事事件：金銭消費貸借（2） 9　民事事件：建物賃貸借（1） 10 民事事件：建物賃貸借（2） 11 民事事件：不動産明渡（1） 12 民事事件：不動産明渡（2） 13 民事事件：損害賠償（1） 14 民事事件：損害賠償（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (民法 2) 現代社会(Ⅲ)(民法 b)	担当者	小川　佳子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、民法についての解説を行う。秋学期では民事紛争の解決はどのように行われるのかについてまず解説し、その後、具体的な民事事件につき類型別に解説する。	1　民事紛争と民法 2　民事紛争の解決方法：裁判（1） 3　民事紛争の解決方法：裁判（2） 4　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（1） 5　民事紛争の解決方法：裁判以外の方法（2） 6　民事事件：離婚 7　民事事件：親子 8　民事事件：相続 9　民事事件：時効 10 民事事件：抵当権 11 民事事件：消費者問題 12 民事事件：医療過誤 13 民事事件：交通事故 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１（ＮＧＯ論） 現代社会(Ⅲ)（ＮＧＯ論）	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGO の活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 さらには、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する （受講生への要望） 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい。	①～②「対テロ戦争」と市民社会Ｉ／イラクの現状 ③～④「対テロ戦争」と市民社会 II／アフガニスタンの現状 ⑤パレスチナの現状とＮＧＯの取り組み ⑥ＮＧＯによる復興・開発協力の事例　（カンボジア） ⑦～⑧　対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ ⑨クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑩スーダンにおける紛争と復興を考える ⑪アフリカにおけるＨＩＶ／ＡＩＤＳの現状 ⑫政府開発援助とＮＧＯ ⑬東アジアのなかの日本と私たち ⑭ＮＧＯの組織運営と資金

テキスト、参考文献	評価方法
日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』（めこん 2005 年） 清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』（合同出版 2008 年）	ﾘﾎﾟｰﾄ提出。平常授業の課題など。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(東アジア国際関係の史的展開) 現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の史的展開)	担当者	阿部 純一

講義目的、講義概要	授業計画
現代東アジア国際関係の歴史を論じることで、わが国を取り巻く国際情勢への認識を深めることが本講義の目的である。 講義では、第2 次大戦後の東アジア国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説する。今日われわれが直面する朝鮮半島や台湾海峡における緊張の歴史的背景、発展と変貌著しい中国の試行錯誤過程などを時系列的にフォローし、過去と現在との継続性を確認することによって、現代東アジア国際関係が抱える問題点を明らかにする。	1 東アジア国際関係の特質 2 冷戦の起源と東アジア 3 中国革命、朝鮮戦争：アジアに拡大する冷戦 4 中ソ対立とベトナム戦争 5 米中和解の衝撃 6 米ソ・デタント：進展する核軍備管理 7 新冷戦：日米中戦略提携の時代 8 民主化の潮流とソ連体制の崩壊 9 ポスト冷戦の世界 10 東アジア地域の台頭 11 アメリカ単独覇権の時代 12 「9.11」以後の世界 13 アメリカ単独覇権の終焉？ 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(東アジア国際関係の現状と展望) 現代社会(Ⅲ)(東アジア国際関係の現状と展望)	担当者	阿部 純一

講義目的、講義概要	授業計画
冷戦後の国際関係のなかで中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEAN という地域協力体やAPEC という多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、中国の台頭というパワーシフトが顕在化してきた東アジア地域秩序の方向を明らかにしていく。	1 21 世紀の超大国・中国：建国60 年の紆余曲折 2 21 世紀の超大国・中国：和諧社会への壁 3 21 世紀の超大国・中国：国際社会への対応 4 中国軍の近代化と東アジアの安全保障 5 台湾：蒋介石・蒋経国の権威主義時代 6 台湾：李登輝・陳水扁の民主化路線 7 台湾：馬英九と米中台関係 8 中台関係：統一と独立めぐる環境変化 9 北朝鮮：金日成・正日体制の形成と発展 10 韓国：強権政治から民主体制への転換 11 北朝鮮の核問題と朝鮮半島を取り巻く国際環境 12 東南アジア世界の統合：ASEANとAPEC 13 東アジア共同体の模索と米国の関与 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
とくに指定しない	筆記試験（論述）

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６．民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １４．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？』(えむ出版企画・国際語学社)	毎回の授業レポートと最後にまとめのレポートを提出してもらい、それにもとづき評価します。(参考のために最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。)

08 年度以降 07 年度以前	現代社会１(コトバと社会) 現代社会(Ⅲ)(コトバと社会・言語文化概論)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
異なる言語を話す民族は、違ったものの見方・考え方をし、違った行動のしかた・生活のしかたをします。 文化とは、ある集団に共通のものの見かた・考えかた、行動のしかた・生活のしかた、およびそれらを表すものであり、言語は、その集団に共通の行動のしかた方の一種であるとともに、この共通性をささえるものでもありますから、言語・文化と民族・社会は相互依存の関係にあります。 言語と文化の相互関係と、それらをになう民族と社会との関連について考えることがこの講義の目的です。 遠い昔、人類の発祥地とされるアフリカから人類が拡散するにつれて人種の違いが生まれ、食べ物とすみかを求めて移動するうちにさまざまの民族に分かれ、言語も異なってきました。 コロンブスのアメリカ大陸「発見」以来、奴隷の売買と植民地の争奪戦などのように、民族どうしの関わりかたが根本的に異なり、文化の摩擦・言語の衝突が起きるようになりました。 多くの文化・言語が滅ぼされましたし、今も失われつつあります。こうした伝統的文化を保存し、方言をも含めて言語の死滅を防ぐために、世界平和をどのようにして確立すればよいのかをさぐっていきます。	１．人と人とが出会えば、伝え合いをしないわけにはいかない。伝え合いとはどういうものか？ ２．動物の伝え合い ３．コトバによる伝え合いとよらない伝え合い ４．伝え合いの手段・産物である言語とは？ ５．世界にはどのような言語があるのか？ ６　.民族の形成 ７．文化の形成・変化 ８．民族と宗教 ９．民族と国家 １０．少数民族問題と民族・地域紛争 １１．はたらきかけ合いと伝え合いの原則とは？ １２．ウソとコトバの魔術 １３．話し合いによる平和で豊かな世界の建設 １４．つづきとまとめ 毎回パワーポイントを使い、話しの要点を示し、それをあらかじめ WEB 上に公開しておきますが、ビデオを織りまぜ、資料を配布するときもあるので、出席していないと、講義の内容全体を把握することはできません。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？』(えむ出版企画・国際語学社)	毎回の授業レポートと最後にまとめのレポートを提出してもらい、それにもとづき評価します。(参考のために最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。)

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地誌学 1)(ヨーロッパ地域論) 現代社会(Ⅲ)(ヨーロッパ地域論)	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする．まず，ヨーロッパ地誌やＥＵに関する基礎的な知識を習得したうえで，統合がヨーロッパの地域に与える影響や，ＥＵと各地域との関係について考察していく．	1. 導入：ヨーロッパとは何か 2. EU 導入 3. EU の形成・発展過程(1) 4. EU の形成・発展過程(2) 5. EU の形成・発展過程(3) 6. EU の形成・発展過程(4) 7. EU の東方拡大(1) 8. EU の東方拡大(2) 9. 東方拡大と農業政策(1) 10. 東方拡大と農業政策(2) 11. EU と地域(1) 12. EU と地域(2) 13. EU と地域(3) 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない．	レポートもしくは試験により評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (地誌学 2)(ドイツ地域論) 現代社会(Ⅲ)(ドイツ地域論)	担当者	飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は，ドイツの都市の構造とその変容を把握することを目的とする．特に，ドイツ再統一，ヨーロッパ統合の深化と拡大，地方分権型国家，という三つの側面に光を当てて，具体的な事例をもとに明らかにしていく．	1. 導入：ドイツの都市 2. ドイツ再統一（1）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（2）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（3）：冷戦後の旧東ドイツ都市 5. ドイツ再統一（4）：ポツダム広場 6. ドイツ再統一（5）：プレンツラウアー・ベルク 7. ヨーロッパ統合（1）：EU 8. ヨーロッパ統合（2）：統合と地域間格差 9. ヨーロッパ統合（3）：EU 地域政策 10. ヨーロッパ統合（4）：ユーロリージョン 11. 地方分権（1）：多極分散型国家 12. 地方分権（2）：空間整備政策 13. 地方分権（3）：都市計画 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
地図帳を毎回持参すること． テキストは指定しない．	レポートもしくは試験により評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1（韓国社会各論 b） 現代社会（Ⅲ）（韓国社会各論 b）	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40 年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この 40 年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということを明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。	1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パタン―日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
服部民夫（2005）『開発の経済社会学－韓国の経済発展と社会変容―』文真堂	出席状況と試験によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (ブラジル研究) 現代社会(Ⅲ)(ブラジル研究)	担当者	矢澤　達宏

講義目的、講義概要	授業計画
「ブラジル」と聞いて、何を思い浮かべるであろうか？サッカー、コーヒー、サンバ、アマゾン、日系人――これらはたしかにブラジルを語るときには欠かせないキーワードではあろう。しかし、これらキーワードを挙げるとき頭のなかで描いているイメージは、それらの実際のありようとどの程度まで合致しているであろうか？　また、一般的に流通しているキーワードでは象徴されてこなかったブラジル社会の横顔には、どのようなものがあるだろうか？ ブラジルの社会や文化の様々な側面は、かねてより外部の人々の好奇心を刺激し、それに触れた多くの者たちを魅了してきた。「未来の国」、「人種の楽園」など、これまでに生み出されてきた数々のレッテルがそのことを物語っている。しかし同時に、そこに足を踏み入れ、容易ならざる社会矛盾を目の当たりにして、とまどいを覚えてきた人々もまた少なくない。理想、希望と現実とが交錯し、表裏一体をなすブラジル社会は、多くの人々にとって様々な示唆に富んだ興味深い対象であるに違いない。 この授業は、そうしたブラジルの社会・文化のなりたちと現在のありように対する理解を深めてもらうことを目的とするものである。中身の濃い授業にするため、問題関心・勉学意欲の高い学生諸君のみが履修することを強く望む。	1.　イントロダクション：世界のなかのブラジル 2.　ブラジルという国①　概観：地域的多様性を中心に 3.　ブラジルという国②　「ブラジル性」をめぐる議論 4.　ブラジル史の概要①　「発見」から植民地支配へ 5.　ブラジル史の概要②　植民地から独立国へ 6.　ブラジル史の概要③　移民の受け入れと国家建設 7.　多人種社会①　「人種の楽園」という神話 8.　多人種社会②　多文化主義への転回 9.　多人種社会③　アフロ・ブラジル文化 10.　多人種社会④　先住民：保護と開発のはざまで 11.　多人種社会⑤　日本人移民：そのアイデンティティ 12.　多人種社会⑥　こんにちの日系ブラジル人 13.　国民文化①　サッカー：国民的スポーツへの道 14.　国民文化②　サンバ：貧民の文化から国民文化へ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005 年）を挙げておく。	基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、履修者数が比較的少ない場合は、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (広告論 a) 現代社会(Ⅲ)(広告論 a)	担当者	友部　孝次

講義目的、講義概要	授業計画
「講義目的」 　私たちの身の回りに溢れている広告　―　その機能や企業活動における位置付け、それを担う組織や実施計画、効果測定などについて基礎知識を学んでもらいます。 　基礎知識の習得と並行して、広告ビジネスの現場で何が起こり、現代の広告がどのように変わりつつあるかなど、最新のトピックスも随時説明していきます。さらにゲストスピーカーをまじえた座談会なども行い、受講生の理解を深めるとともに、「生きた広告論」を学習してもらいます。 「講義概要」 　春期の講義では、広告の定義にはじまって企業活動における広告の位置付け、広告に携わる組織と様々なメディアの役割や動向などに至るまで、広告理解に必要な基礎知識を、最新の広告動向も紹介しながら解説します。 　期中に広告界の第一線で活躍するアドマンによる説明会を開催する予定で、現場の息吹を感じてもらうとともに、広告業界への就職活動にも役立ててもらいます。	1.　講義概要と広告トピックス 2.　広告の定義と歴史 3.　広告の機能と種類 4.　マーケティングと広告 5.　コミュニケーションと広告 6.　広告主の組織と役割 7.　最近の広告主の動向 8.　広告会社の組織と役割 9.　最近の広告会社の動向 10. 最近のメディア接触状況 11. プリントメディア 12. 放送メディア① 13. 放送メディア② 14. 広告ビジネスの現場から①
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：梶山皓著『広告入門<第 5 版>』日経新聞出版社、 日経広告研究所編『広告用語辞典＜第 4 版＞』日経新聞出版社、 参考文献：日経広告研究所編『広告白書 2009』日経新聞出版社	出席・授業態度・試験またはレポートによる。 各期 6 回以上の欠席者は不可。初回の授業で説明します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 1 (広告論 b) 現代社会(Ⅲ)(広告論 b)	担当者	友部　孝次

講義目的、講義概要	授業計画
「講義目的」 　私たちの身の回りに溢れている広告　―　その機能や企業活動における位置付け、それを担う組織や実施計画、効果測定などについて基礎知識を学んでもらいます。 　基礎知識の習得と並行して、広告ビジネスの現場で何が起こり、現代の広告がどのように変わりつつあるかなど、最新のトピックスも随時説明していきます。さらにゲストスピーカーをまじえた座談会なども行い、受講生の理解を深めるとともに、「生きた広告論」を学習してもらいます。 「講義概要」 　秋期の講義では、メディアの役割と動向から広告計画策定、広告制作、メディアプランニング、広告効果測定、広告規制など、実際の広告活動に必要な実務知識を解説、それとともに、内外の最新広告事情を紹介します。 　最後の 2 回では春期同様、広告界の第一線で活躍するアドマンによる説明会を開催する予定で、春期説明会とあわせて広告理解を深めるとともに、広告業界への就職活動にも役立ててもらいます。	1.　プロモーションメディア 2.　インターネット① 3.　インターネット② 4.　広告計画の策定① 5.　広告計画の策定② 6.　広告制作 7.　メディアプランニング① 8.　メディアプランニング② 9.　企業広告とＢtoＢ広告 10. 広告調査と広告効果測定 11. 広告倫理と規制 12. グローバリゼーションと広告 　　＋国際広告ビジネスの現場から 13. 広告ビジネスの現場から②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：梶山皓著『広告入門<第 5 版>』日経新聞出版社、 日経広告研究所編『広告用語辞典＜第 4 版＞』日経新聞出版社、 参考文献：日経広告研究所編『広告白書 2009』日経新聞出版社	出席・授業態度・試験またはレポートによる。 各期 6 回以上の欠席者は不可。初回の授業で説明します。

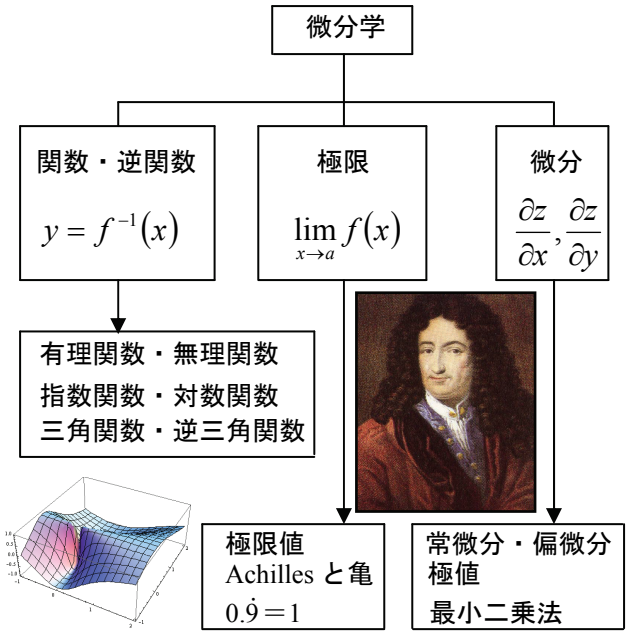
08 年度以降	**現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）**	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	**授業計画**
講義目的：マネジメントの基礎概念として企業、経営、管理、組織、経営効率、事業などを日常生活の中から明らかにする。そこから、マネジメント視点はどのようなものかを示す。 講義概要：現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）は、マネジメントで明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っている。従って、これらのマネジメント要素を組み合わせる仕組みとしての組織や株式会社制度など、ものづくりの仕組みとしてのシステム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理など、カネの動きを統制する財務、社会における企業の新しい役割（ＣＳＲ）などの視点から学習する。	1. オリエンテーション・・本講義の全体像を紹介する。 2. マネジメントとは何か 3. 株式会社の仕組みと組織 4. コーポレート・ガバナンス 5. 企業集団とグループ経営 6. ものづくりと生産システム 7. 企業の組織 8. 組織における人間行動 9. 賃金制度 10. 人的資源としての雇用管理 11. 企業の資金調達 12. グローバル経営 13. 良き「企業市民」としての企業 14. マネジメントのフロンティア・・この領域でこれまでに蓄積された知見は非営利組織をはじめ、より広い組織にも適用され、有用な分析用具として活用されている。フロンティアは、その外延を拡大しつつ発展し、その動向に注目して説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、プリント配布 参考文献 拙著『経営組織論の展開』創成社など	出席・レポート重視（授業中，クイズ等も行う）

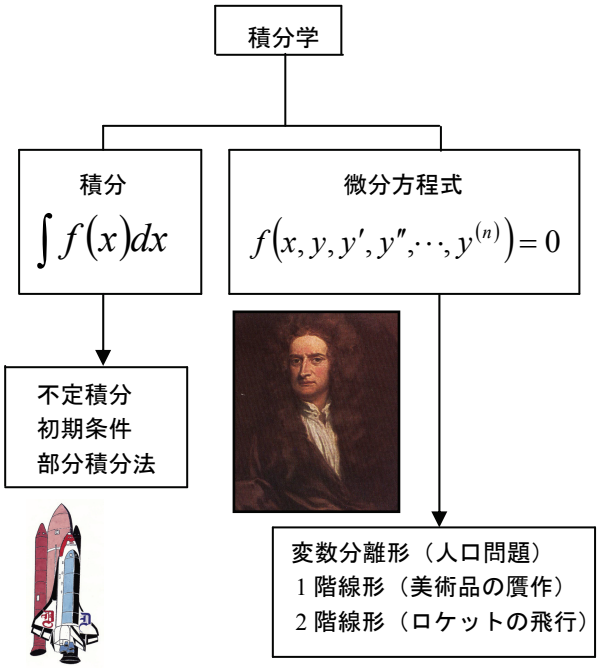
08 年度以降	現代社会１（基礎から学ぶマネジメント）	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	**授業計画**
春学期に同じ	春学期に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（数学 a） 数学 a（微分学）	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
∂ 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。 ∂ 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。 ∂ 講義・演習を通して、微分学の知識を**実際の現象解析に使える**ようになればと思います。 ∂ 主体的に多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 ∂ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。	
(テキスト)・(参考文献)	評価方法
∂ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『数学読本④、⑤』松坂 和夫 著・岩波書店)	∂ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（数学 b） 数学 b（積分学）	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
∮ 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学（**積分・微分方程式**）」を学びます。 ∮ 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。 ∮ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を**実際の現象解析に使える**ようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。 ∮ 主体的に多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 ∮ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
∮ （テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社）	∮ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう**評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身**です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (科学史 a) 物理学 a(相対論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間 1（科学史ａ）」「物理学ａ（相対論の世界）」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間･空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートン的宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10.一般相対性理論 11.時空の幾何学化 12.一般相対論的宇宙論 13.時間とは何か 14.最新の時間空間概念
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (科学史 b) 物理学 b(量子論の世界)	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
１７世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、２０世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境・人間 1（科学史 b）」「物理学ｂ（量子論の世界）」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。	1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 観測の問題 9. 相対論的量子論 10.素粒子の世界 11.統一理論 12.宇宙の進化 13.最新の物質観
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。	日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。

08 年度以降 07 年度以前	自然･環境･人間１（歴史における科学技術１：古代から近代までの科学技術） 化学 a（歴史における科学技術１：古代から近代までの科学技術）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
いま私たちは科学技術に取り囲まれた社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来的な政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかという事柄について、その歴史から学び、考察する学問分野が科学技術史である。 春学期は人類の誕生から古代社会の形成、そしてルネサンス、西欧近代科学の形成までを扱う。春学期と秋学期は別々に受講できるが、通年の受講を推奨したい。授業は講義形式だが、毎回の出席票兼コメント用紙と学期中の小レポートを提出してもらうので、能動的に授業に参加してほしい。	1. 講義の概要　科学技術の起源と社会の歴史 2. 古代の技術と自然哲学（1） 3. 古代の技術と自然哲学（2） 4. 古代の技術と自然哲学（3） 5. 古代の技術と自然哲学（4） 6. 中世、ルネサンスの科学と技術（1） 7. 中世、ルネサンスの科学と技術（2） 8. 中世、ルネサンスの科学と技術（3） 9. 近代的自然像の形成（1） 10. 近代的自然像の形成（2） 11. 近代的自然像の形成（3） 12. 近代的自然像の形成（4） 13. 近代的自然像の形成（5） 14. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし　必要に応じてプリントを配布 参考図書(準テキスト)　**藤村淳他**『科学　その歩み』（**東京教学社**　1988　2100 円）	授業内で指示する提出物（60%）+ 出席票兼コメント用紙（40%） 定期試験はしない

08 年度以降 07 年度以前	自然･環境･人間１(歴史における科学技術２：近現代における科学技術) 化学 b(歴史における科学技術２：近現代における科学技術)	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
いま私たちは科学技術に取り囲まれた社会に生きている。物の生産や消費はもちろん、科学技術は人々の考え方や倫理観にまで大きな影響を与えており、日常生活から将来的な政策決定にいたるまで、科学技術に関わる知識や判断力は専門家だけでなく私たちすべてに求められる。そのために最も基本的な、科学技術とはなにかという事柄について、その歴史から学び、考察する学問分野が科学技術史である。 秋学期は科学技術が社会に大きな地位を占める産業革命以後、現代の科学技術の諸問題までを扱う。春学期と秋学期は別々に受講できるが、通年の受講を推奨したい。授業は講義形式だが、毎回の出席票兼コメント用紙と学期中の小レポートを提出してもらうので、能動的に授業に参加してほしい。	1. 講義の概要　近現代の科学技術と社会の歴史 2. 産業革命と技術、科学（1） 3. 産業革命と技術、科学（2） 4. 産業革命と技術、科学（3） 5. 19 世紀における科学諸分野の発展（1） 6. 19 世紀における科学諸分野の発展（2） 7. 19 世紀における科学諸分野の発展（3） 8. 現代科学への転換点（1） 9. 現代科学への転換点（2） 10. 現代科学への転換点（3） 11. 現代科学技術の諸問題（1） 12. 現代科学技術の諸問題（2） 13. 現代科学技術の諸問題（3） 14. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　なし　必要に応じてプリントを配布 参考図書(準テキスト)　**藤村淳他**『科学　その歩み』（**東京教学社**　1988　2100 円）	授業内で指示する提出物（60%）+ 出席票兼コメント用紙（40%） 定期試験はしない

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (自然観察 a) 生物学 a(植物の特性と自然の仕組み)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ・ 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物名に関心があること。 ・ 普通の植物 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　実験室の使用法 3　5 月の花 1 4　植物の基礎　分類学 1 5　5 月の花 2 6　植物の基礎　分類学 2 7　6 月の花 1 8　植物の基礎　分類学 3 9　6 月の花 2 10 植物の基礎　分類学 4 11 植物の基礎　分類学 5 12　7 月の花 1 13　7 月の花 2 14　まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (自然観察 b) 生物学 b(植物の分布)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 ・日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ることを目標とする。 **講義の目的** ・ 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 植物に興味があり、地理が好きであること。 ・ 普通の植物 100 種を認識できること。	1　登録に先立っての試験 2　植物の基礎　形態学 1 3　10 月の花　1 4　植物の基礎　形態学 2 5　10 月の花　2 6　植物の基礎　形態学 3 7　11 月の花 1 8　植物の基礎　形態学 4 9　11 月の花 2 10 植物の基礎　形態学 5 11 植物の基礎　形態学 6 12 12 月の花 1 13 12 月の花 2 14　まとめ 第一回目の講義で**詳細な説明**と**基礎テスト**を行なうので、必ず出席すること（**欠席者の登録お断り**）。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。	毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果､その他を総合して評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（恒星天文学） 地球科学 a（恒星天文学）	担当者	福井 尚生

講義目的

☀ 地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと捉え『自然・環境・人間 1』では、**天文学**を学びます。「天文」とは「天」から届く「文」のこと、「天文学」は宇宙から届く手紙を解読する学問です。

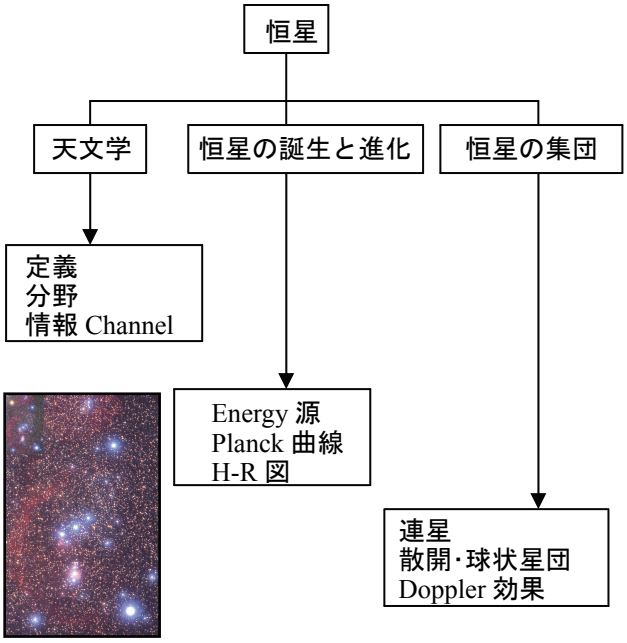
☀ 春学期は「恒星」についての天文学です。天文屋は地球上での自然法則が、太陽を始めとする恒星の世界をも司っていること、逆に宇宙を支配する自然法則が地球にも及んでいて地球が宇宙の一員であることを知りました。

☀ 主体的に勉強して得た知識をもとに自らの頭で先を考え、地球が宇宙に浮かぶ天体の一つ、**自然の一員**であることを実感して下さい。

☀数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

☀第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

☀（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店）

評価方法

☀ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（銀河天文学） 地球科学 b（銀河天文学）	担当者	福井 尚生

講義目的

★ 秋学期には、上記春学期の知識を前提に、一千億もの恒星が重力的に集まる、より大きな集団「銀河」についての天文学を学びます。

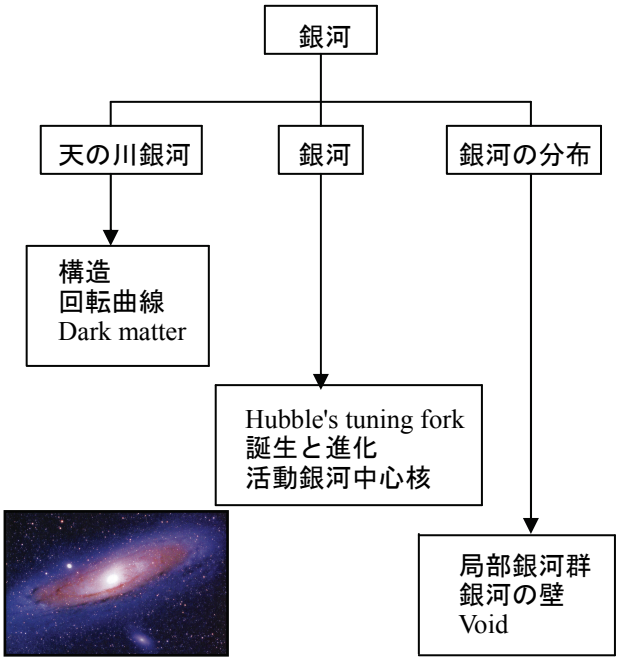
★ 天文屋は恒星までを対象に発見した自然法則を用いて**天の川銀河**・**銀河**にまで考察を広げ、自然法則を更に大きな自然に適うよう統一し、普遍化する大きな夢の実現に努めています。

★ 現在までに得られた知識をもとに自らの頭で未知の世界を探り、自然の一員であることの自覚の上に、独自の世界を未来に向かって開いて下さい。「天」からの「文」には経験したことの無い**大きな夢**が認められているかもしれません。

★数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

★第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

★（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『天文学への招待』岡村 定矩 編集・朝倉書店）

評価方法

★ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1 (私の自由時間設計) スポーツ・レクリエーション学 a(自由時間とクオリティオブライフを考えよう)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の 2 割から 3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは 1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」(生きがい)とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目標にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。 積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますので、ブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから気軽に質問に来てください。	1 オリエンテーション 2 和田の自由時間 3 自由時間とは 4 生活時間の構成と自由時間の現状 5 自由時間をすごす能力「森と老人」 6 現代における自由時間の意味 7 古典的解釈から知るレジャー 8 クオリティオブライフ 9 多様な価値観 10 先輩に聞く「私の自由時間」 11 健康・食物・世界 12 健康の価値 13 あなたのライフデザイン 14 まとめ 授業で携帯電話をライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、参加は任意ですが、大講義室での授業をより活性化するために必要ですので、ぜひご協力をお願いします。(パケット通信料がかかります)
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムにアップロードします。	出席状況、学期末試験の結果、クイズ・レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１（地球環境の変化とその要因） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境の変化とその要因）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然的および人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境とは何か？　今、何が起っているのか？ ３　地球環境の歴史 ４　地球環境の構造等：地球という惑星について ５　地球環境と地球システム（I）：物質圏の相互関係 ６　地球環境と地球システム（II）：炭素循環など ７　地球環境と資源（I）：資源の特性 ８　地球環境と資源（II）：エネルギー ９　地球環境と材料：地球材料学（ジオマテリアル・サイエンス）とは １０　地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？ １１　環境：地球環境と広域・地域環境との比較 １２　環境と共生：人間活動・物質循環との関わり １３　地球環境問題概論 １４　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１（地球環境問題と環境保全） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球環境問題と環境保全）	担当者	鈴木　滋

講義目的、講義概要	授業計画
人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。 この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものの見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。	１　オリエンテーション：授業概要等の説明 ２　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a) ３　地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b) ４　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a) ５　地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b) ６　地球環境問題各論（II）：酸性雨 ７　地球環境問題各論（II）：海洋汚染 ８　地球環境問題各論（II）：有害廃棄物の越境移動 ９　地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少 １０　地球環境問題各論（III）：野生生物（種）の減少 １１　地球環境問題各論（III）：開発途上国等の環境（公害）問題など １２　地球環境の保全（I）：環境と開発 １３　地球環境の保全（II）：文化・経済・社会等の今後のあり方など １４　まとめ 備考：授業の進度により若干の変更がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 **参考文献：**講義内容によって、適時指示する。	基本的には定期試験による。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（宇宙論 a） 自然・環境・人間（Ⅲ）（宇宙論 a）	担当者	福井 尚生

講義目的

✡『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。

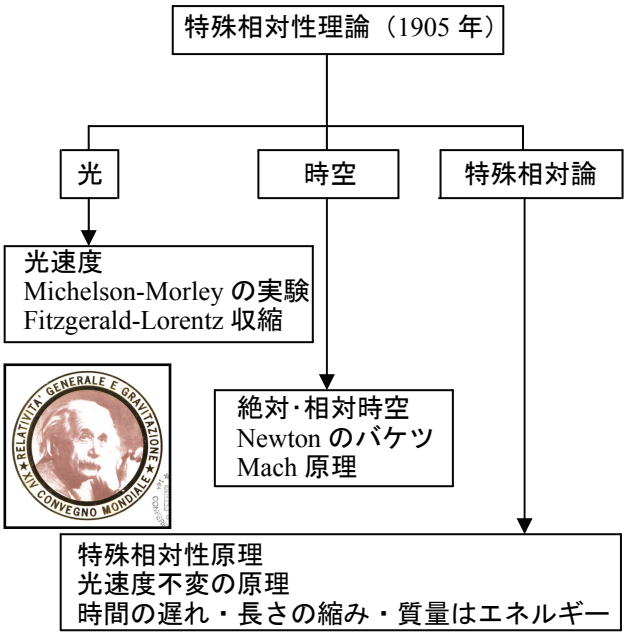
✡ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた **光** の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、**時** 間・**空** 間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。

✡ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った **発想の転換**、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。

✡数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

✡第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✡（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所）

評価方法

✡ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の **評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（宇宙論 b） 自然・環境・人間（Ⅲ）（宇宙論 b）	担当者	福井 尚生

講義目的

☯『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。

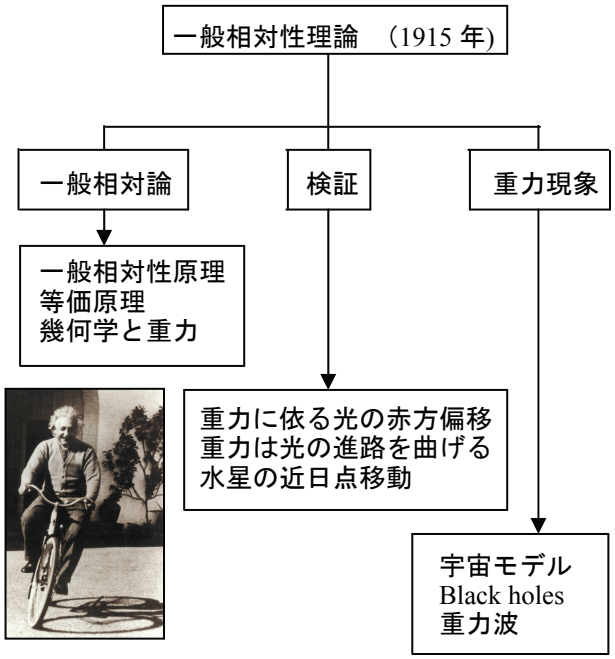
☯“一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で **検証** され、**重力** をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題（Dark energy など）も交えながら学びます。

☯ 発想の転換に因る独自の考えは、 用心深く実践する必要があります。（相対性）理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、**責任を持って実践** する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。

☯数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

☯第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



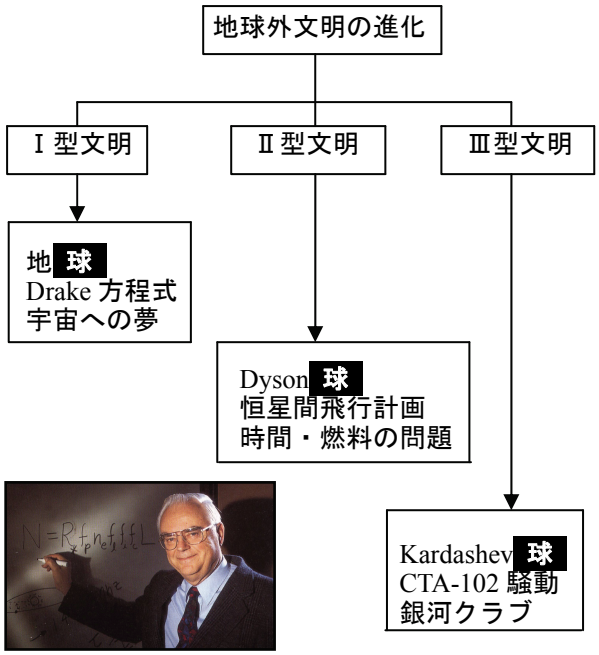
（テキスト）・（参考文献）

☯（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所）

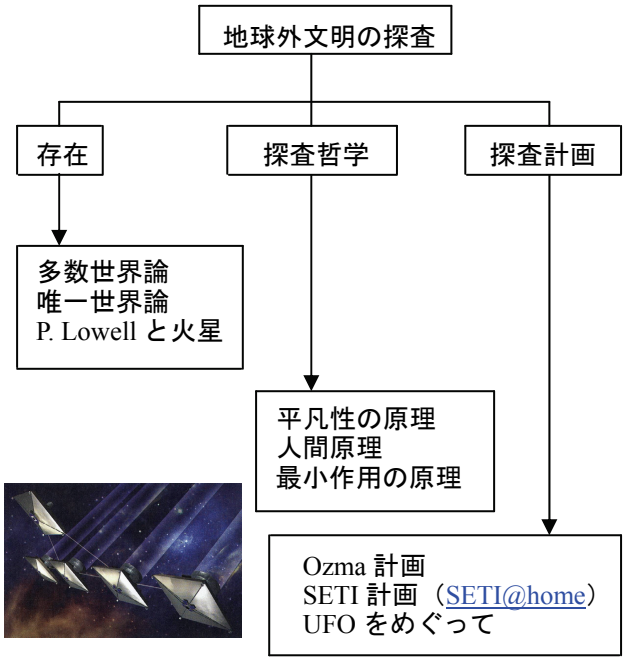
評価方法

☯ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の **評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（地球外文明論 a） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球外文明論 a）	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
✍『地球外文明論 a』では、現在の地球文明を基点に「地球外文明の進化」を学びます。 ✍ 我々人類は、宇宙進化を司る“宇宙方程式”の現 時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間･空間発展を辿れば、**文明**の進化を考察出来る筈です。ただ、宇宙方程式の完成には、自然の探求方法を「自然科学」から「自然学」へと複雑化する必要があります。 ✍ 人類が今行う進化への営為が、この**時間･空間発展に沿ったものか**を、主体的に勉強して得た知識をもとに模索し、「進化への自由で大きな夢」を各自が抱くきっかけにして下さい。 ✍ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ✍ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
✍（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『地球外文明の思想史』横尾 広光 著・恒星社厚生閣）	✍ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（地球外文明論 b） 自然・環境・人間（Ⅲ）（地球外文明論 b）	担当者	福井 尚生

講義目的	講義概要
♂『地球外文明論 b』では、『地球外文明論 a』の知識を前提に「地球外文明の探査」を学びます。 ♂ 多数世界論の立場から地球外文明の**存在**を信じ、我々を探査に駆り立てる原理を基に、地球外文明の**探査哲学**を確立し、また**探査計画**を立てるに当たって共通する自然の本質を考えます。 ♂ 地球外文明の探査･発見（への努力）は、我々**人類の存在意義･進化の方向に指針**を与えてくれると思います。主体的に勉強して得た知識をもとに自然学への更なる広がりを模索し、「ETI への夢」を自由に大きく膨らませながら、“Are we alone?”の問い掛けを続けて下さい。 ♂数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ♂第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。	
（テキスト）・（参考文献）	評価方法
♂（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『広い宇宙に地球人しか見当たらない 50 の理由』S. Webb 著・松浦俊輔 訳・青土社）	♂ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の**評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以降	自然・環境・人間 1（天文学 a） 自然・環境・人間（Ⅲ）（太陽系天文学 a）	担当者	福井 尚生

講義目的

✿ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の **起源** を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。

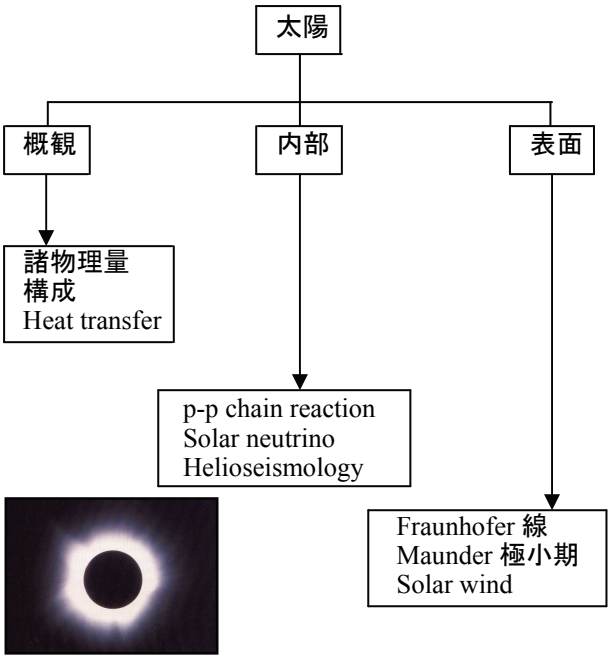
✿『（太陽系）天文学 a』（太陽）では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 **The Sun** を天文学の立場から学びます。What is the Sun?

✿ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行** して下さい。

✿数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

✿第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✿（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）

評価方法

✿ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の **評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 1（天文学 b） 自然・環境・人間（Ⅲ）（太陽系天文学 b）	担当者	福井 尚生

講義目的

✷ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。

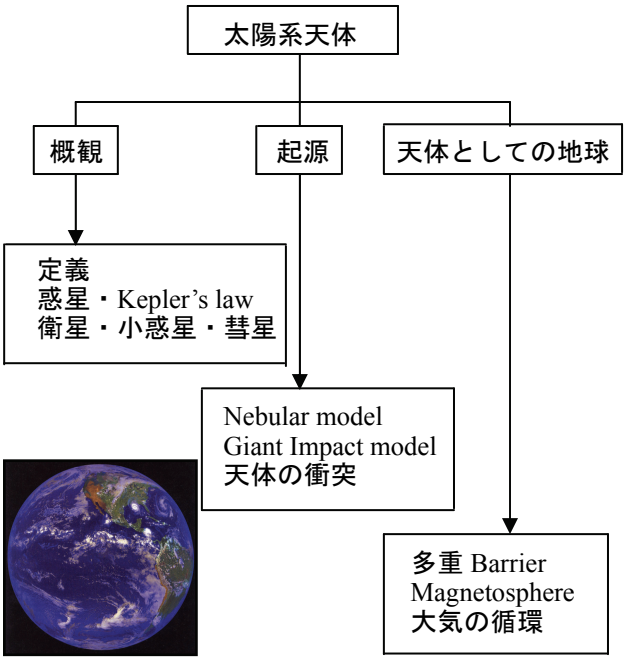
✷『（太陽系）天文学 b』（太陽系天体）では、『（太陽系）天文学 a』の知識を前提に **The Solar system** = The Sun's family（除・太陽）を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。

✷ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・**実行** して下さい。

✷数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。

✷第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。

講義概要



（テキスト）・（参考文献）

✷（テキスト/ 配布プリント）・（参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善）

評価方法

✷ 主に、**試験**（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の **評価用紙**（宿題・発言）です。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間１(スポーツコーチ学 b) 自然･環境･人間(Ⅲ)(スポーツコーチ学 b)	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、大きく揺れ動く社会の変化に直面している現代社会で、現実に起こっている変動にどう対応していくかの重要性について考えていきたい。 このことはスポーツの世界においても然りである。スポーツの大衆化、国際化が進展し、スポーツが政治、経済、社会、文化、さらには我々の生活のあらゆる側面に深くかかわっている。スポーツは個人のレクリエーションとしての楽しみ、健康の維持増進、学校体育の一活動境域、地域共同体の行事として政治経済の動向にも大きな影響を与えている。 スポーツは、個人または集団が、相手と力や技能を競ったり、自然の障害を克服したりすることを楽しむ活動である。スポーツの場は、人間の最高能力の発揮にかかわるものであり、その心理的解明は重要である。 現代社会におけるスポーツを的確に分析し、スポーツの義や諸問題について理解を深めていきたい。	１．現代社会とスポーツ　現代社会におけるスポーツの意義 ２．現代社会の変化とスポーツ ３．スポーツの広がり　スポーツ人口構造 ４．少子高齢社会とスポーツ　その１ ５．少子高齢社会とスポーツ　その２ ６．商業主義とスポーツ　スポーツにはお金がかかる ７．スポーツの社会病理　スポーツと環境問題 ８．スポーツとマスメディア ９．スポーツ適正について １０．スポーツ技術の基礎　身体運動のイメージ １１．スポーツ技術の基礎　スポーツ技術の練習・指導法 １２．チームの心理　スポーツとチーム １３．チームの心理　チームの力学 １４．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田勝・守能信次編『スポーツの社会学』杏林書院 松田岩男他編『スポーツと競技の心理』大修館書店	出席回数、授業への参加態度、提出物の内容などにより決定する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(論文を書く) ことばと思想(Ⅳ)(論文を書く)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「書く」技能の向上を目指す。 講義概要 「書く」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に大学生活において必須となる論文の書き方について練習する。この練習を通して、客観的に事物を説明し、根拠を示して自らの考えを述べることができる能力の育成を行う。まず、簡単な意見文を書く練習を行いながら基本的な文章能力を向上させる。その後に、その成果をふまえつつ、基本的な形式を備えた短い論文を作成し、論文の形式について理解させることを目標とする。	1 はじめに 2 表現の方法①(5W1H) 3 表現の方法②(文を短く切る) 4 意見文を書く①(文が持つ役割) 5 意見文を書く②(事実の報告、意見) 6 意見文を書く③(事実の報告、意見、意見の正しさの論証) 7 意見文を書く④(事実の報告、問題提起、提起された問題の解答) 8 論文を書く①(序論) 9 論文を書く②(本論①) 10 論文を書く③（本論②） 11 論文を書く④(本論③、結論) 12 論文を書く⑤(文献の引用) 13 論文を書く⑥（添削） 14 レポート提出と講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　永島貴吉『現代文 100 字要約ドリル　基礎編』 参考図書　授業時に指示する。	レポート（２回提出）・出席

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(口頭発表を行う) ことばと思想(Ⅳ)(口頭発表を行う)	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 言語の 4 技能として、「読む」「書く」「話す」「聞く」がある。この授業では、特に「話す」技能の向上を目指す。 講義概要 「話す」ことには、さまざまな場面が想定されるが、特に人前で自分の意見を述べるプレゼンテーションについて練習する。この練習を通して、人前に出て自らの意見をわかりやすく述べることができる能力の育成を行う。 具体的には、まず、発声練習として朗読を行う。次に、プレゼンテーションの技術について、ビデオを見ながら学習する。さして、その成果を踏まえたかたちで発表を行う。	1 はじめに 2 はやくちことば 3 発声練習 4 朗読① 5 朗読② 6 朗読③ 7 プレゼンテーションの理論① 8 プレゼンテーションの理論② 9 プレゼンテーションの理論③ 10 発表① 11 発表② 12 発表③ 13 発表④
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　永島貴吉『現代文 100 字要約ドリル　基礎編』 参考図書　授業時に指示する。	平常点（発表などの課題）・レポート・出席

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２（書き言葉の問題） ことばと思想（Ⅳ）（書き言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやり取りから抜け出して、心を打つ手紙をトレーニングして、心を打つ文章を徹底的に考える。 （講義概要） 手紙文の定型。先人の書簡の分析、鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①②③ 手紙文の約束。 拝啓―時候の挨拶―本文―敬具―（追伸）まで。 ④⑤ 時候の挨拶と季節感 ⑥⑦ 著名人の手紙鑑賞、解説。 ⑧⑨ 手紙を題材にした小説の鑑賞 ⑩⑪⑫ メール作成の問題点 ⑬　⑭添削指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。レポート(定期試験)

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２（話し言葉の問題） ことばと思想（Ⅳ）（話し言葉の問題）	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目標） 現代の話し言葉は、ギャル語、若者言葉、おやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解しあえる話し言葉を学びながら、そこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。 （講義概要） 流行語と世相の相関関係を見ながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活でのことばの問題だけでなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉について考える。 （受講生への要望） 連続する授業ですので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいてください。	①②③④ 流行語の変遷（流行語大賞の分析） ⑤⑥ 若者言葉の問題（世代語についての考察） ⑦ 放送コードの問題 ⑧ 共通語の理想と現実 【実践編】 ⑨ 心を開かせる挨拶のしかた ⑩⑪⑫⑬ ３分間スピーチの実践 ⑭総集編
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	出席。プレゼンテーション。レポート（定期試験）

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング基礎篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング基礎篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を獲得する為の基礎を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聞く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（はなしことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その基礎となる発音・発声・アクセント・イントネーション・更に敬語等のことばと表現について学ぶ。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	１．オリエンテーション「日本人とことば」 ２．自然な発音・発声「発声トレーニング」 ３．自然な発音・発声「発音トレーニング」 ４．自然な発音・発声 「鼻濁音・拗音・促音・長音・無声化」 ５．アクセントの形と種類 「名詞・形容詞・動詞のアクセント」 ６．実践「自己紹介」 ７．　同上 ８．実践「話して伝える基本・説明する」 ９．　同上 １０．実践「スピーチ」 １１．　同上 １２．敬語の基本「用法と実践」 １３．　同上 １４．気をつけたい表現とことば

テキスト、参考文献	評価方法
随時配布	毎回の出席・課題の実践

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(日本語音声表現のトレーニング表現篇) ことばと思想(Ⅳ)(日本語音声表現のトレーニング表現篇)	担当者	梅津　正樹

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声表現によるコミュニケーション技術を習得する。 日本語（国語）教育では「読む」「書く」「聴く」「話す」を中心に課程が組まれて来た。これらは、「読む」「書く」を重点に文字言語表現（書きことば）を基本とし、その内容把握（理解）を目標としている。しかし、今日の複雑な社会環境で社会人に必須とされるのは、音声表現（話しことば）によるコミュニケーション能力である。 本講義では、その話して伝える能力・対話する能力・読んで伝える能力を習得する。 毎講義、実践を主体にする為、受講者数に限度を設ける。	１．オリエンテーション「ことばと人間」 ２．実践「話して伝える・聴いて理解する」 ３．実践「話して伝える・適切なことばを選ぶ」 ４．実践「テーマに即した話をするⅠ」 ５．　同上 ６．話すと読む ７．実践「文意どおりの音声表現」 ８．実践「文意どおりのイントネーション」 ９．実践「短文を読む」 １０．実践「テーマに即した話をするⅡ」 １１．　同上 １２．敬語表現「基本と応用」 １３．敬語表現「気をつけたい表現」

テキスト、参考文献	評価方法
随時配布	毎回の出席・課題の実践

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．文章実習 ３．以下同様 実習ですから「書きなれノート」を書いてもらいたいのですが、単位さえとればいいという者には、毎回話題となるビデオを見せ。それについて考え、書いた文章を添削・修正し、返却します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(えむ出版企画・国際語学社) 同『コトバの力・伝え合いの力』(同)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生きたコトバづかい・文章編) ことばと思想(Ⅳ)(生きたコトバづかい・文章編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、生きたコトバづかいの４原則にのっとった文章の書きかたができるようになるように、実習にもとづく勉強します。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．文章実習 ３．以下同様 実習ですから「書きなれノート」を書いてもらいたいのですが、単位さえとればいいという者には、毎回話題となるビデオを見せ。それについて考え、書いた文章を添削・修正し、返却します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(えむ出版企画・国際語学社) 同『コトバの力・伝え合いの力』(同)	「書きなれノート」を提出してもらうとともに、左記教科書の「事項索引」を作成してもらい、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論)	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
たとえば外国語の学習において真っ先に「コミュニケーション能力」の強化がうたわれ、実践的で「使える」語学力こそが重視されるという風潮の中で、我々はコミュニケーションといえば、効率よく、なめらかで、軋みのないものこそが理想であるかのようなイメージを抱きがちです。 この授業では、逆に「通じないこと」「なかなか通じないこと」の大切さについて考えます。 題材としては、エッセイや小説、詩などの言語作品が中心となりますが、映画や現代美術、開催中の展覧会へと話がつながってゆくことも多いです。いずれの場合にも、抜粋や図版資料などで紹介をおこない、授業の終わりにコメントを書いてもらいます。 講義の大まかな流れはあらかじめ想定してありますが、受講者の率直な感想や疑問などから、授業が思わぬ方向へと旋回してゆくことこそがスリリングです。今年度も積極的な参加と多くの報告を期待しています。	1. イントロダクション： 野崎歓『われわれはみな外国人である』 2. 長田弘『一人称で語る権利』 3. 千野栄一「沈黙の通訳」 4. ダグラス・ラミス「イデオロギーとしての英会話」 5. 水村美苗『日本語が亡びるとき』 6. 谷川俊太郎『世間知ラズ』 7. 穂村弘『世界音痴』 8. ダダイスムの言語実験 9. 小島信夫『吃音教室』 10. ゲラシム・ルカ 11. 吉増剛造『オシリス、石の神』 12. ミシェル・レリス『ドゴン族の秘密言語』 13. 内田百閒『ピールカマンチャン』／宮城道雄『春の雪』 14. 西脇順三郎『旅人かへらず』 この順番通りに授業を進めてゆくということではありませんが、とりあえず題材として以上のものを挙げておきます。ここに挙げられていないものも登場する予定です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	毎回の授業の終わりのコメントと学期末のレポート。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(反=コミュニケーション論 2) ことばと思想(Ⅳ)(反=コミュニケーション論 2)	担当者	谷口　亜沙子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、中心となるテーマは春学期と同じですが、より多くの外国の作品を取り上げる予定です。 言葉を単なる意味の容れ物とせず、単に用を果たすための道具とせずに語ろうとした人たち、あるいは、コミュニケーションが頓挫する瞬間や崩壊する瞬間に注目した人たちの作品に触れながら、言葉やコミュニケーションについての新たな視覚を得ることを目的とします。 あらかじめ何らかの枠を設定することなく、芸術ジャンルや区分をこえて、さまざまなものが根底でつながってゆくさまを感じ取ることもこの授業の特徴です。文学や詩にかぎらず、あらゆる表現活動に興味のある方を歓迎します。	1. ナボコフ『ヨーロッパ文学講義』 2. ジル・ドゥルーズ『千のプラトー』 3. トーベ・ヤンソン『フェア・プレイ』 4. ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』 5. 吉田健一『酒宴』 6. 藤枝静雄『欣求浄土』 7. カフカ『断食芸人』 8. メルヴィル『書写人バートルビー』 9. ホーソン『ウェイクフィールド』 10. モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』 11. レイモン・ルーセル『アフリカの印象』 12. 町田康『浄土』 13. 尾崎放哉句集 14. 石原吉郎『望郷と海』 春学期の授業計画も参照してください(春と秋が混ざることもありえます)。
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料はプリントで配布します。	毎回の授業の終わりのコメントと学期末のレポート。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生活文化の発見) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の発見)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
生活することは、社会の中で生きるということであり、社会は文化を形成する。つまり生活は文化の中で営まれ、文化の影響のもとで人間は成長し、人生を送るということになる。 本講義では、「生活文化」に視点をあて、我々の生活が元はどのようなものであり、どのような文化のもとで暮していたのか、そしてそれがどのように変化して現在に至って意いるのかという点を理解しようとするものである。とくに変化の方向性を理解することは、将来の生活を見据える上で大きな助けとなるだろう。	1　ガイダンス 2　「生活文化」とは何か（概説、生活を見つめる眼差し） 3　地域差の問題（地域差とは何か、その原因は何か） 4　生活様式を捉える１（家を中心に） 5　生活様式を捉える２（社会を中心に） 6　生活様式を捉える３（子どもを中心に） 7　生活様式と文化（1・2・3 を踏まえた上での文化論） 8　生活様式の変化１（生活変化の要因、明治維新） 9　生活様式の変化２（生活改善運動・第二次世界大戦） 10　生活様式の変化３（高度経済成長・ＩＴ革命） 11　生活様式の変化と心意事象の関係（不幸の手紙・チェーンメール、学校の怪談などにみる伝承性） 12　日常の中の非日常（時間の問題として、空間の問題として） 13　ジェンダーの問題（生活文化として読み解く） 14　異形への眼差し（生活文化として読み解く、福祉問題の基礎として）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示	試験による。ただし欠席回数が４回を超えた者については評価対象とはしない。また授業開始 30 分を超えた者は遅刻扱いとし、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(生活文化の記述) ことばと思想(Ⅳ)(生活文化の記述)	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
古来さまざまな記録が残されてきているが、「当たり前」の生活を記録したものはあまりない。それがみられるようになるのは江戸時代後期からである。 生活を記録したものとしては、旅行記や日記という個人的なものがあり、また主に自治体が編纂する民俗誌というものがある。これらがどのような理由で記述され、またそれにどのような意味があるのか、さらに民俗誌には文書化されたものと映像化されたものがある。また伝統文化の保存という行政的問題がある。記録や保存とは何かその意味と問題点について考えていきたいと思っている。	1　ガイダンス 2　生活を記述すること１（「嫁」の立場、行事覚え） 3　生活を記述すること２（日記をつけることの意味） 4　個人的記録から何がわかるか（客観的に記述を読み取る） 5　生活文化の記録と民俗学（客体としての記録） 6　民俗誌の記録の方法（各地の報告書や『市史』から） 7　民俗誌に記録されたもの１（神奈川県綾瀬市の報告書を中心に） 8　民俗誌に記録されたもの２（『長野県史』を中心に） 9　生活文化記録化の問題点（民俗誌の意味・意義と問題点） 10　映像記録を見る１（ビデオと解説） 11　映像記録を見る２（ビデオと解説） 12　映像記録の問題点 13　民俗地図の問題 14　民俗文化財の保護の意味と問題点
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示	試験による。ただし欠席回数が４回を超えた者については受験資格は認めない。また授業開始 30 分を超えた者は遅刻扱いとし、遅刻２回で欠席１回とする。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(現代ジャーナリズム考 1) ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考 1)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざしているが、必ずしもジャーナリストを養成するのが目的ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。受講をきっかけにマスメディアの動向について関心を持ってもらいたいと考えている。 授業では、「いまマスメディアで何が問題になっているか」をテーマに取り上げる。新聞、テレビなどの報道現場で何が起きているのか。具体的事例を通して、その実情に迫るとともに、問題点を掘り下げる。ネット社会が深化する中で、新聞は生き残ることができるのかなど、マスメディアの将来について考える。現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。	原則として１授業で１テーマを取り上げる。その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる問題を取り上げていくので、どういう授業内容になるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2009 年の春学期には、「週刊新潮」誤報問題（週刊誌ジャーナリズムのあり方)、奈良放火事件の供述調書漏えい事件（取材源の秘匿と出版責任)、ＳＭＡＰの草彅剛泥酔事件と過剰報道、オーマイニュースの日本版閉鎖（市民参加ネット新聞の現状)、携帯カメラと肖像権の問題（肖像権の侵害と表現の自由)、裁判員制度と報道（制度導入に伴う取材・報道指針の作成)、児童ポルノ（児童買春・ポルノ禁止法改正の動き)、冤罪と報道（足利事件報道の検証)、公文書管理法成立の意義（ずさんな文書管理の現状)、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(現代ジャーナリズム考 2) ことばと思想(Ⅳ)(現代ジャーナリズム考 2)	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
ジャーナリスト志望者に役立つ授業をめざしているが、必ずしもジャーナリストを養成するのが目的ではない。ジャーナリズムに興味を抱いているすべての受講生を対象とする。受講をきっかけにマスメディアの動向について関心を持ってもらいたいと考えている。 授業では、「いまマスメディアで何が問題になっているか」をテーマに取り上げる。新聞、テレビなどの報道現場で何が起きているのか。具体的事例を通して、その実情に迫るとともに、問題点を掘り下げる。ネット社会が深化する中で、新聞は生き残ることができるのかなど、マスメディアの将来について考える。現代ジャーナリズムに関する基礎的知識についても学習する。	原則として１授業で１テーマを取り上げる。その時々に浮上した現代ジャーナリズムをめぐる問題を取り上げていくので、どういう授業内容になるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2009年秋学期には、記者会見の現状（鳩山政権下の新方針と知る権利)、新聞に関する基礎知識（日本の新聞の特徴など)、記者クラブ（機能・役割と問題点)、世界の報道の自由度ランキング、社説の読み比べ、過熱取材・過熱報道（酒井法子覚せい剤使用事件など)、メディアが使う用語と表記の仕方、ビラ配布問題をめぐる最高裁判決（表現の自由と生活の平穏)、内閣支持率と世論調査報道、ツイッター・電子書籍端末・電子新聞、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（作文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	横山　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリア派パスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 ゲストスピーカー 05 通訳訓練方法 (1) - シャドウイング 06 通訳訓練方法 (2) - リプロダクションなど 07 通訳訓練方法 (3) - サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法 (4) - クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践 (1) - 逐次通訳 11 通訳の実践 (2) - ウィスパリング通訳 12 インターネットの活用方法 13 ゲストスピーカー 14 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	出席　25%　　授業参加　25% 授業内で実施する確認テスト　50%

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(英語通訳)(英語通訳の仕事) ことばと思想(Ⅳ)(英語通訳の仕事)	担当者	横山　直美

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、通訳者になりたいと考えている、もしくは、通訳という行為に関心がある人に、仕事の現状と訓練方法を伝えることを目的としています。 通訳者の実際の仕事内容を紹介するとともに、通訳に何が求められているかを考えながら、市場の現状やキャリア派パスなどを探っていきます。通訳者の方などをお招きし、現場の話を聞く機会もあります。また、どんな勉強をすれば通訳の力がつくのかというヒントも提供します。 参加者の英語のレベルが様々で人数も多いため、集中的な訓練はできませんが、基本的な訓練方法を紹介し、授業内での演習を行います。なお、演習については主に日本語で行います。 初回の授業で詳しい説明をしますので、必ず出席してください。 *ゲストスピーカーの都合により、授業の内容は前後する可能性があります。	01 通訳・通訳者とは？ 02 通訳者のキャリアパス 03 通訳者に求められるスキルとは？ 04 ゲストスピーカー 05 通訳訓練方法 (1) - シャドウイング 06 通訳訓練方法 (2) - リプロダクションなど 07 通訳訓練方法 (3) - サイトトランスレーション 08 通訳訓練方法 (4) - クイックレスポンスなど 09 ゲストスピーカー 10 通訳の実践 (1) - 逐次通訳 11 通訳の実践 (2) - ウィスパリング通訳 12 インターネットの活用方法 13 確認テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
随時プリントなどを配布する。	出席　25%　　授業参加　25% 授業内で実施する確認テスト　50%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(心理検査法と自己理解) ことばと思想(IV)(心理検査法とこころの健康)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。	授業計画は以下のとおりである。 １．　心理検査の成り立ちと種類 ２．　質問紙による性格検査① ３．　質問紙による性格検査② ４．　ストレス・コーピング ５．　絵からみる家族像 ６．　知能検査 ７．　感情指数 ８．　職業興味 ９．　仕事と自己理解 10.　グループ・ワークによる自己理解① 11.　グループ・ワークによる自己理解② 12.　グループ・ワークによる自己理解③ 13.　グループ・ワークによる自己理解④ 14.　心理検査による自己理解のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし，履修者には，これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。	各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
毎回の講義で、履修者たちはチームに別れ、与えられたテーマを元にディスカッションを行い、そこで得られた結論をパワーポイントにまとめて発表します。発表後には、質疑・応答の時間も作ります。ディスカッションやプレゼンテーションを行うプロセスの中から、自身が考えていることを他者に言語を用いて的確に伝える能力を磨きます。またチームのメンバーそれぞれが持つ才能を生かす方法も学びます。	第 5 回目：レクチャー：プレゼンテーションの準備 テキスト：第 7 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義① 第 6 回目：レクチャー：草稿の作成 テキスト：第 3 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義② 第 7 回目：レクチャー：編集作業 テキスト：第 4 章 ディスカッション・テーマ：「幸せ」の定義③ 第 8 回目：レクチャー：チームはどのようにして成長するのか ディスカッション・テーマ：感性と理性① 第 9 回目：レクチャー：プレゼンテーションの様々なスタイル テキスト：第 6 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性② 第 10 回目：レクチャー：効果的なプレゼンテーションのスキル テキスト：第 8 章 ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 11 回目：レクチャー：ファシリテーションとコーチング ディスカッション・テーマ：感性と理性③ 第 12～14 回目：総まとめ
授業計画	
第 1 回目：イントロダクション 第 2 回目：レクチャー：センスのよい表現 テキスト：第 1 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的① 第 3 回目：レクチャー：アウトラインの作成方法 テキスト：第 2 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的② 第 4 回目：レクチャー：他者との対話 テキスト：第 9 章 ディスカッション・テーマ：大学で勉強する目的③	
テキスト、参考文献	**評価方法**
DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部『提案力』ダイヤモンド社	出席、参加状況、提出物、最終レポート

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(プレゼンテーション実習) ことばと思想(Ⅳ)(プレゼンテーション実習)	担当者	清水　絹代

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(写本を読む) ことばと思想(Ⅳ)(写本を読む)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
日本には、いわゆる古典文献以外にも、近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献（版本を含む）が無数に存在している。それらは貴重な文化遺産なのだが、それらを読み解くものがいなければただの紙屑でしかない。この授業はそれらを読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力）を、写本類を読むことで養う。 具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世期に記された文芸（物語・和歌類）・地方文書・実用書（版本）等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち、典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。 さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。 全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1　オリエンテーション・導入 2　概説（日本の筆写・筆記の歴史、変体仮名） 3　変体仮名演習① 4　変体仮名演習② 5　変体仮名演習③ 6　変体仮名演習④ 7　和歌を読む① 8　和歌を読む② 9　物語を読む① 10　物語を読む② 11　文書を読む① 12　文書を読む② 13　文書を読む③ 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト…プリントして配布 参考文献（必携）… 『**字典かな**』 定価:本体 380 円(税別) ISBN4-305-00000-8	数回の提出物、および学期末試験の成績による。

08 年度以降 07 年度以前	ことばと思想２(碑文を読む) ことばと思想(Ⅳ)(碑文を読む)	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・日本漢文・梵字等の読解力）を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の講義である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。その上で漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1　オリエンテーション・導入 2　概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3　日本漢文体の読解、梵字の読解 4　道標・講中碑を読む 5　墓碑銘・供養碑を読む 6　記念碑・文学碑を読む 7　学生諸君の報告① 8　学生諸君の報告② 9　学生諸君の報告③ 10　学生諸君の報告④ 11　学生諸君の報告⑤ 12　学生諸君の報告⑥ 13　学生諸君の報告⑦ 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト・参考文献…プリントして配布	数回の提出物、および碑文の採集・報告の成果による。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(日本事情1) 日本事情a	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
以下の点に留意しながら、原始～中世の日本の歴史を概観する。 ◎　日本という世界のなかの一つの国家やその文化がどのように形成されていったのか、とくに東アジア近隣諸国との関係に注目し、国家とは何か、また地域とは何かを考える。 ◎　生産の基盤となった「土地」に対する国家や人々の営みに注目し、土地政策を基軸に行われた社会編成の推移を検証する。 ◎　その他、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。 ◎　希望者を募り、鎌倉など、前近代の日本の社会構造や文化のあり方を残す現地の巡見を行う。 ※前・後期ともに、現代の価値観から過去を評価するのではなく、当時の価値観を復元しながら、歴史を認識することを心がける。	1 なぜ、歴史学は必要なのか？ 2 原始社会論　東アジアの自然環境と日本列島の形成　稲作のはじまりと富の蓄積 3 邪馬台国からヤマト政権へ　邪馬台国はどこにあったのか？　古墳文化 4 倭国と東アジア　4・5世紀の「倭」の存立基盤 5 倭国から「日本」へ　「日本」とは何か？　日本の古代国家とは？ 6 律令国家の展開と土地政策　「天皇」の位置 7 遣唐使は何をもたらしたか？　付論古代文化の特徴 8 摂関政治と王朝文化　地方政治の変容と中世への胎動　荘園制の展開 9 院政の展開と内乱　日本の中世国家とは？　「大開墾時代」と荘園制　なぜ荘園はたてられたのか？　日宋貿易と平氏政権 10 鎌倉幕府論　鎌倉幕府の形成 中世の封建制とは？　荘郷地頭制の歴史的意義　荘園制下の人々の生活と空間構造 11 鎌倉幕府の歴史的位置　日元貿易と元寇 12 鎌倉幕府の滅亡　南北朝の動乱は何をもたらしたか？ 13 室町幕府論　幕府権力と地域社会・一揆　室町幕府の歴史的位置 14 室町幕府の対外交渉　日明勘合貿易　倭寇とはなにか？
テキスト、参考文献	**評価方法**
『日本の時代史』(吉川弘文館、2002年～)全30巻のうち、1～11巻。守田逸人『日本中世社会成立史論』(校倉書房、2010)など。その他、講義中に適宜指摘する。	テストおよび出席状況による。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化2(日本事情2) 日本事情b	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
以下の点に留意しながら、近世～現代（第2次世界大戦まで）の日本の歴史を概観する。 ◎　16世紀以降の日本が諸外国に対してどう向き合っていたのか、国内のあり方にも注意しながら明らかにし、近代以降のあり方との連続面と断絶面を検証する。 ◎　20世紀は多くの映像資料も残されている。それらをできるだけ利用する。 ◎　また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。 ※時間の余裕があれば、希望者を募り、博物館展示などの見学も行いたい。	1 世界システムとは何か？　16世紀における世界秩序の展開と日本　「倭寇的状況」の展開 2 なぜ戦国大名はあらわれたのか？　戦国時代の人々の暮らし　豊臣政権と朝鮮侵略 3 江戸幕府の形成と東アジア　徳川政権の諸政策　鎖国と対中国・朝鮮政策 4 17世紀半ば～18世紀の政治と社会　開発技術の進展と新田開発　元禄文化と人々のくらし 5 18世紀の幕政改革と社会の変容　近世文化の特徴 6 18世紀末の対外危機と「鎖国」　天保の改革 7 幕末の動乱　ペリー来航・不平等条約とその後の影響　尊皇攘夷運動から大政奉還へ　徳川政権はなぜ崩壊したのか？ 8 明治新政府の樹立と国政　明治政府は何を目指したのか？ 9 明治期の社会と思想　自由民権運動の意義　民衆運動とは？　ドイツ学協会の設立　明治時代の人々のくらし 10 議会の開設と条約改正　議会はなぜ必要だったのか？　条約改正をめぐる日本の苦悩 11 日清・日露戦争と韓国併合　帝国主義とは？ 12 映像にみる20世紀前半の世界と日本 13 大正デモクラシーと第1次世界大戦　ワシントン体制 14 第2次世界大戦　日中戦争は誰が支持したのか？　第2次世界大戦は世界に何を残したか？　戦時下の人々
テキスト、参考文献	**評価方法**
『日本の時代史』(吉川弘文館、2002年～)全30巻のうち、12～26巻。大日方純夫『はじめて学ぶ日本近現代史　上・下』(大月書店、2002-3年)など。その他、講義中に適宜指摘する。	テストおよび出席状況による。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1) 歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』1)	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
世界でもっとも上演回数の多いオペラ『カルメン』の原作者メリメは、長く文化財保護技監としてフランスの文化政策の基礎を築きました。そんな才人の彼が書いた小説の中ではスペインの地方色が鋭く観察されています。ビゼーは劇場の方針で原作の棘を抜かざるを得ませんでした。 『カルメン』にもっとも興味があるのは、舞台となったスペインの人たちでしょう。それを受けて原作に比較的忠実な映画化や、もっぱらフラメンコで演じられる舞台など多数の試みがあります。しかし残念なことに、小説の真の主人公であるドン・ホセの人間性の追及が今ひとつであるようです。 この授業では小説、オペラ、映画、舞台映像などいくつかの資料を比較しながら、このフランス人が創造したスペイン国民文学を検討してゆきたいと思います。 フランス語・スペイン語ともに既修であることは要求しませんが、外国語を聞いて楽しめる積極性が欲しいです。資料は講義支援システムで配布します。 原則として毎週アンケートを取って平常点をつけますので、就活などで出席できない人、大幅に遅刻する人は登録しないでください。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 授業方法・評価方法の説明 2 メリメの人と作品 3 ウイーン歌劇場 4 女と猫は呼ばない時に 5 多文化の発見 6 闘牛士の行進 7 ハバナの葉巻 8 ラジャスタンからバルカンへ 9 ボヘミアからアンダルシアへ 10 パコ・デ・ルシア 11 カルメンに触るんじゃないよ！ 12 コンポステラへの巡礼路バスク 13 サン・フェルミンの祭り 14 オーレ！
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料は講義支援システムで配布 ディスク等を授業中紹介	評価方法：選択式の試験と毎週アンケートを取る平常点

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2) 歴史と文化(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『カルメン』2)	担当者	伊藤　幸次

講義目的、講義概要	授業計画
同上 前期はオペラとしての『カルメン』が中心で、それにロマ、バスクなどの少数民族や、タバコ、闘牛の話が加わりますが、後期はビセンデ・アランダ監督の映画『カルメン』を中心に、原作との異同をあつかい、それにアンダルシアとフラメンコの紹介を加えて論じます。 原則として毎週アンケートを取って平常点をつけますので、就活などで出席できない人、大幅に遅刻する人は登録しないでください。	以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。 1 ナバラ生まれです 2 シガロ 3 信仰は捨てていない 4 泣いているマリア 5 他の男は歯ぎしりするだけ 6 どっちに死んで欲しい 7 ヘラクレスの塔 8 アルハンブラ物語 9 メスキータ・カテドラル 10 王都セビリア 11 トリアーナのロバ 12 メトロポリタン歌劇場 13 エル・チョコラーテ 14 ソレアとブレリア
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料は講義支援システムで配布 ディスク等を授業中紹介	評価方法：選択式の試験と毎週アンケートを取る平常点

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(イタリアの音楽史) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの音楽史)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの音楽史を概観する。なお、オペラについては後期にまとめて扱うので、原則として除外する。	1　ガイダンスと導入 2　古代ギリシアの音楽と西洋音楽 3　グレゴリオ聖歌 4　グレゴリオ聖歌成立後の西洋音楽の発展 5　「イタリア音楽」の誕生 6　宗教改革と音楽 7　ヴァイオリンの誕生と器楽の発展 8　ヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲：《四季》を中心に 9　ヴィヴァルディとヴェネツィア 10　ペルゴレージの音楽 11　パガニーニと超絶技巧 12　ヴェルディとイタリア国家統一運動 13　プッチーニとオリエンタリスム 14　プッチーニ後のイタリア音楽：レスピーギを中心に
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として： 藤沢道郎『物語 イタリアの歴史』(中公新書 1045)	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。授業への参加態度と出席回数も重視するが、出席自体は得点として換算しない。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(イタリアの声楽曲) 歴史と文化(Ⅳ)(イタリアの声楽曲)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリアの声楽曲の歴史をオペラを中心に概観する。	1　オペラ誕生に先立つ劇音楽の系譜 2　オペラ誕生：初期の試み 3　バロック・オペラの台本 4　バロック・オペラと劇場 5　バロック・オペラの音楽的特徴：カストラートの魅力 6　オペラ・セリアとオペラ・ブッファ 7　ロッシーニの世界 8　ベッリーニ 9　ドニゼッティ 10　ヴェルディ（1） 11　ヴェルディ（2） 12　ヴェリズモ・オペラ 13　プッチーニ 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	授業内に行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。授業への参加態度と出席回数も重視するが、出席自体は得点として換算しない。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(詩と音楽 4) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 4)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）は、19 世紀のイタリア音楽界を代表する作曲家で、数々の名作オペラを残した。本講義では、その中から彼の代表作であり、また今日でも高い人気を誇る傑作オペラ《リゴレット》を採り上げる。授業期間の前半では、まず《リゴレット》を注意深く鑑賞し、劇の内容と聞きどころを知る。また、オペラ台本と、ヴィクトル・ユゴによる原作との違いも確認する。授業期間の後半では、《リゴレット》以外の作品も適宜取り上げながら、19 世紀のイタリア・オペラの作曲方法を学ぶ。《リゴレット》においては、通常のオペラの作曲方法から外れるところがある。そこにどのような意図が隠されているかを明らかにする。 **なお、本講義は「詩と音楽 4」であるので、昨年度までに「詩と音楽 1」「詩と音楽 2」「詩と音楽 3」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　《リゴレット》第 1 幕の聞きどころ（1) 3　《リゴレット》第 1 幕の聞きどころ（2) 4　《リゴレット》第 2 幕の聞きどころ 5　《リゴレット》第 3 幕の聞きどころ（1) 6　《リゴレット》第 3 幕の聞きどころ（2) 7　オペラ台本と原作 8　前回までのまとめ 9　19 世紀イタリア・オペラの作曲法（1) 10　19 世紀イタリア・オペラの作曲法（2) 11　19 世紀イタリア・オペラの作曲法（3) 12　《リゴレット》の場合（1) 13　《リゴレット》の場合（2) 14　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	授業内に複数回行う小テスト（持ち込み不可）による。小テストの時期は授業中に指示する。授業への参加態度と出席回数も重視するが、出席自体は得点として換算しない。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(詩と音楽 2) 歴史と文化(Ⅳ)(詩と音楽 2)	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
ギリシア神話におけるオルペウスの物語は、何人もの作曲家によってさまざまな時代にオペラ化されており、音楽の世界において最も馴染み深い題材の１つである。本講義では、ギリシア神話および西洋古典文学におけるオルペウス像を概観したのち、この神話がどのように音楽史とかかわりを持ち、オペラ化されるようになったのか、またこれらの作品の中でオルペウスの物語がどのように描かれているのかを、実際に作品を鑑賞しながら観察する。なお、オペラ以外の作品（映画）も適宜取り上げて比較・考察する予定である。 **なお、本講義は「詩と音楽 2」であるので、昨年度までに「詩と音楽 1」や「詩と音楽 3」の単位を取得した学生も履修できる。**	1　ガイダンスと導入 2　オルペウスとアルゴー号伝説 3　ウェルギリウスとオルペウス 4　オウィディウスとオルペウス 5　ポリツィアーノ『オルフェオの物語』 6　初期のオペラとオルペウス 7　モンテヴェルディ『オルフェオ』（オペラ） 8　グルック『オルフェオとエウリディーチェ』（オペラ） 9　森鷗外とオルペウス 10　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・仏語版） 11　オッフェンバック『地獄のオルフェ』（オペレッタ・二期会による日本語版） 12　コクトー『オルフェ』（映画） 13　マルセル・カミュ『黒いオルフェ』（映画） 14　予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。	学期途中に課すレポート（詳細は授業中に指示）と、テスト（持ち込み不可）による。授業への参加態度と出席回数も重視するが、出席自体は得点として換算しない。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(おもしろまじめな芝居のミカタ a) 歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ a)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 a」として登録してください。 毎回の課題（英文プリントを舞台台本用に翻訳）は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(おもしろまじめな芝居のミカタ b) 歴史と文化(Ⅳ)(おもしろまじめな芝居のミカタ b)	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト（英文プリント）を毎回配布しますから、舞台でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人 3 回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を少し出したいと思います。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。	教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 b」として登録してください。 毎回の課題（英文プリントを舞台台本用に翻訳）は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。他に作品読み解きレポートを授業時に提出してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート（800 字）2 編で 60%。授業で 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化２(アメリカ詩入門) 歴史と文化(IV)(アメリカ詩入門)	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、 Native American （いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に２度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、 Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、 Snyder とNative American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから、日本文化の常套となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして１９世紀、２０世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。	授業へは予習をして、なおかつ、頭をカラにしてくること。受講生にはときおり、質問をする。7，80人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。 第１回：Introduction 第２回：Native American の詩 第３回：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など 第４回：Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など 第５回：Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など 第６回：Ezra Pound, Imagism 期の短詩、”Hugh Selwyn Mauberley I” など 第７回：Ezra Pound の The Cantos のいくつか 第８回：William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 第９回：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 第１０回：H. D., “Oread,” “Heat” など 第１１回：T. S. Eliot, “Preludes” など 第１２回：Robert Lowell, “For the Union Dead” など 第１３回：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 第１４回：Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など 第１５回：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
現在、検討中。プリントにするか、それともテキストを使うか、開講時に指示する。	2000字以上のレポート。

08年度以降 07年度以前	歴史と文化２(イギリス詩入門) 歴史と文化(IV)(イギリス詩入門)	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 ワーズワス（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 **講義概要** 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。 次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。 そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。 なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 **参考文献** 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 １９８７	１．詩形について ２．＜マザーグース＞ I ３．＜マザーグース＞II video 鑑賞、字幕なし、以下同 ４．＜現代英詩アラカルト＞I T.S.Eliot（1888-1965） DVD, video 鑑賞 ５．＜同＞II T.Hughes(1992-1985))など,video 鑑賞 ６．Alfred Tennyson(1809-92),Robert Browing(1812-89) DVD 鑑賞 7. ＜ロマン派の曙＞W.Blake(1757-1827), DVD,video 鑑賞 8. ＜ロマン派の詩＞ I ワーズワス、DVD,video 鑑賞 9. ＜ロマン派の詩＞ II S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) DVD 鑑賞 10. ＜ロマン派の詩＞ III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) DVD 鑑賞 11. ＜ロマン派の詩＞ 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。 video 鑑賞 13. John Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．DVD,video 鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 １９８７ （プリント）	テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（西洋絵画の主題と様式１） 歴史と文化（Ⅳ）（西洋絵画の主題と様式 a）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
西洋美術史にとって欠かすことのできない作品を取り上げ、ルネサンスから 18 世紀末までの西洋絵画史を概観します。数百年間、繰り返し出現する西洋絵画の代表的な主題について学び、絵画を見る上で必要な基本知識を身につけるとともに、各時代、各作家、各作品の特質について理解を深めることを目指します。	1. イントロダクション 2. ボッティチェリ『ヴィーナスの誕生』 3. ダヴィンチ『受胎告知』 4. ティツイアーノ『ウルビーノのヴィーナス』 5. デューラー『メランコリア』 6. カラヴァッジョ『聖母マリアの死』 7. ルーベンス『パリスの審判』 8. ヴェラスケス『ラス・メニーナス』 9. レンブラント『夜警』 10. ブーシェ『ディアナの水浴』 11. シャルダン『食前の祈り』 12. ゴヤ『カルロス 4 世の家族』 13. ダヴィッド『サビニの女たちの略奪』 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。	平常点（出席）とレポートによる。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（西洋絵画の主題と様式２） 歴史と文化（Ⅳ）（西洋絵画の主題と様式 b）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
19 世紀初頭から 20 世紀半ばまで、代表的な画家たちの作品を参照しながら、各時代を特徴づける西洋美術の動向を学びます。近代絵画がどのように発展してきたのか、そのプロセスを辿り、今日の私たちにも継承されている美術の問題系について理解することを目的とします。	1. イントロダクション 2. アングルと新古典主義 3. ドラクロワとロマン主義 4. クールベと写実主義 5. マネ 6. 印象派-1 7. 印象派-2 8. ポスト印象派 9. マティスとフォーヴィスム 10. ピカソとキュビスム 11. モンドリアンと抽象絵画 12. シュルレアリスム 13. マルセル・デュシャンとレディメイド 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。	平常点（出席）とレポートによる。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(日韓比較文化論 b) 歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論 b)	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。	1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗時代の教育と文化 5. 朝鮮時代の教育と文化① 6. 朝鮮時代の教育と文化② 7. 植民地支配の教育政策 8. 植民地支配の国語教育 9. 日韓生涯教育と社会 10. 日韓ジェンダー教育 11. 日韓女性の教育 12. 韓国における日本語教育の歴史 13. 日本における韓国語教育の歴史 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。	積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(日韓比較文化論 a) 歴史と文化(Ⅳ)(日韓比較文化論 a)	担当者	金　熙淑(김 희숙)

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50 名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力１回目の授業から出席すること。	1. 日韓比較文化概説　ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の歳時風俗 6. 韓日の祭祀風習 7. 韓日の民俗信仰 8. 韓日の家族 9. 韓日の食文化① 10. 韓日の食文化② 11. 韓日の住生活 12. 韓日の服飾 13. 韓日の福祉レジーム 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。	授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 歴史と文化(Ⅳ)(スペイン･ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインと旧植民地ラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に展開されてきたことから，その身体技法についても随所で言及する。クレオール概念をはじめ，文化混淆が鍵となるため，前半では，キューバの音楽を重点的に取りあげ，成分といわれる各音楽的要素を再検討する。音楽研究一般の可能性を吟味したうえで，各自の関心に応じたレポートを準備してもらう。後半では，スペイン語圏，非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も設けたいが，議論の基盤を文化人類学に据える。例年，ヒップホップやブラジルなどへの強い興味が見受けられるため，進捗に応じて内容の配分を変える。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。比較文化論的なポピュラー音楽研究への入り口を提示したい。	1. イントロダクション: VTR による見取り図の紹介 2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5. 「ブラックミュージック」と「ラテン音楽」の連関 6. 「フォルクローレ」と「ヌエバ･カンシオーン」の連関 7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展望 8. スペイン語圏の音楽①: カリブ海地域 9. スペイン語圏の音楽②: 中央アメリカ 10. スペイン語圏の音楽③: 南アメリカ 11. ポルトガル語圏の音楽: ブラジル 12. 英語圏、フランス語圏ほかの音楽 13. 合衆国移民(ラティーノ、チカーノ、クバーノ)の音楽 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布するほか，要望を踏まえて，その都度指示する。	評価方法: 平常授業における感想提出などの実績(30%)と期末レポート(70%)。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（能楽論） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽論)	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
中世に誕生した「能楽」は、舞台芸術として現代に生き上演されていますが、古典芸能として、とかく難しく捉えられがちです。 この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明していきます。能の詞章の音読や謡の発声・楽器のリズムなどの実体験をしてもらいます。 また、一作品を教材として、他の芸能にどのような影響を与えたかを考察します。 春期は、能楽の知識を主に全体像を捉えます。 「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。	①　能楽の紹介 ②　能楽の概説 ③　能楽の流れ ④　世阿弥という人 ⑤　能のリズム ⑥　能を演じる各役 ⑦　能舞台について ⑧　能の実技について（実演） ⑨　能の演目　Ⅰ ⑩　能の演目　Ⅱ（実演） ⑪　夢幻能と現在能 ⑫　夢幻能「井筒」Ⅰ ⑬　夢幻能「井筒」Ⅱ ⑭　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

08 年度以降 07 年度以前	歴史と文化２（能楽における中世武士の諸像） 歴史と文化(Ⅳ)(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次

講義目的、講義概要	授業計画
平安時代の末期に生き、悲劇のヒーローとして膾炙されている「源義経」のその生涯は能の作品に多く取り上げられています。そのうちの「安宅」を教材として、作品の解釈・鑑賞、さらに他の芸能（歌舞伎・映画）にどのように転化していったかを、ビデオ鑑賞を取り入れ比較・検討します。「安宅」の詞章を音読し、臨場感を味わうため 声を出して謡っていただきます。 秋期からの受講者のため、簡略な能の知識も視野に入れますが、より深い理解のために、春期からの通年受講を希望します。	①　古典芸能について ②　能の見方（実演） ③　能に登場する中世武士 ④　能のなかの源義経像　Ⅰ ⑤　能のなかの源義経像　Ⅱ ⑥　能「安宅」の解釈と鑑賞　Ⅰ ⑦　能「安宅」の解釈と鑑賞　Ⅱ ⑧　能「安宅」の解釈と鑑賞　Ⅲ ⑨　歌舞伎「勧進帳」の作品鑑賞　Ⅰ ⑩　歌舞伎「勧進帳」の作品鑑賞　Ⅱ ⑪　黒澤明の「安宅」 ⑫　「安宅」と「勧進帳」の比較　Ⅰ ⑬　「安宅」と「勧進帳」の比較　Ⅱ ⑭　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料のコピーを配布	課題レポート・能楽鑑賞レポート

08 年度以降 07年度以前	現代社会２(インターンシップ) 現代社会(Ⅳ)(インターンシップ)	担当者	岡村 国和

講義目標

本講座は、講義と夏休みに実施するインターンシップ実習を通して、「働く」とはどういうことなのか、「働く」ためにどのようなスキルが必要なのか、さらには社会人として求められるマナーとは何か、などについて理解し実践することを目的としている。

これから社会に出て生きていく諸君が、どのような人生を設計していくのか、そしてどのようなキャリアを形成していくのか、を熟考させるのが本講座の目標である。

講義概要

本講座は、１２回の講義と夏休みに実施するインターンシップ実習から成る。

講義では、まず受講生に自分と向き合い、これからの人生をどう生きていくかを見据えた上で、自己目標を設定し、目標達成に必要なスキルを修得させる。本講座では、「心の知能指数」と呼ばれる EQ（Emotional Quotient）を用い、これを通してリーダーシップ能力やコミュニケーション能力を高め、今後のキャリア形成につなげる。

インターンシップ実習は、受講生自身がインターンシップ先を見つけることから始まり、約２週間にわたる実習で様々な体験を積んで今後の生き方や職業選択を考える上での貴重な体験を得ることを目的としている。

なお、インターンシップ先を選択する上で参考になる職業適性テストも講義中に行う。

（注意）授業は土曜 1・2限を用いた変則的な開講なので、履修希望者は両時限を空けておくこと。

受講生への要望

履修希望者は 4月 3日（土） 13:00からのインターンシップ総合説明会（4－407）に必ず出席し、その後に履修登録会場にて各自オンライン登録すること。

評価方法

授業への出席、インターンシップ実習先での評価、報告会など。講義や実習への出席を重視する。具体的には第 1 回目の授業で詳しく説明する。

テキスト、参考文献

EQアセスメントおよびR－CAP実施費用として 6000 円の費用が必要になる。履修決定者は自動発行機にて納付書を購入し、第 2 回目の授業に納付書を持参すること。

授業計画

第１回　オリエンテーション①

【インターンシップの実際】実習先の探し方や実習先で何をするのかなど、インターンシップを経験した先輩やキャリアセンターのスタッフから話を聞く。

第２回　オリエンテーション②

この講座の目的、講座の進め方、グループの決定、EQ アセスメントの実施。

第３回　働くこととは？

働くこととは何か、自分の適職は何かを考える。

第４回　自分と向き合おう

自分の将来を考え、これからの目標を考える。

第５回　EQ とはなにか

EQ アセスメントの解説。

第６、７回　リーダーシップ

リーダーシップとは何かを理解し、リーダーシップ能力を養成する。

第８、９回　コミュニケーション

上手にコミュニケーションをとるためには、どうすればよいのか。コミュニケーション能力を養成する。

第１０回　インターンシップ実習に向けて実習先での成功談や失敗談など、先輩から話を聞く。また、企業の人事担当者からインターンシップのねらいなどについて話を聞く。

第１１回　実習先でのマナー実習で必要とされるマナーを身につける。

第１２回　報告会（１０月開催予定）

インターンシップ実習について報告書を書き、報告する。なお、この報告会は評価対象となるので、必ず出席すること。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 1） 現代社会(Ⅳ)（新聞を読む 1）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2009 年春学期には、北朝鮮によるミサイル発射（国連安保理の議長声明）、世襲議員の立候補制限問題（世襲の弊害や問題点）、公訴時効制度の見直し（制度見直し勉強会の中間報告）、日露首脳会談（麻生首相と訪日したプーチン首相が北方領土問題などを話し合う）、裁判員制度（守秘義務の問題点）、臓器移植法改正（渡航移植など臓器移植の現状）、なぜ冤罪は起きるのか（足利事件のＤＮＡ鑑定など）、金正日後継者問題（3 男の正雲氏説）、検察審査会（法改正で変わる役割）、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（新聞を読む 2） 現代社会(Ⅳ)（新聞を読む 2）	担当者	細野　徳治

講義目的、講義概要	授業計画
若者の「新聞離れ」が進んでいるといわれて久しい。新聞を読まない理由として「つまらない」「分かりにくい」という声をよく聞く。なぜだろうか。その大きな原因は、ニュースを理解するうえで必要な背景的知識が不足しているからではないか。 そこでこの授業では、その時々の国内外の重要ニュースを伝える新聞記事を教材に取り上げ、そのニュースの意味を深く掘り下げるとともに、ニュースの背景を詳しく解説する。「新聞に関する基礎知識」についても学習する。 ニュースのキーワードを読み解き、新聞を読みこなす術を習得することを授業の目標とする。受講生には、旺盛なる好奇心をもって国内外のニュースに多大の関心を払い、新聞を読む習慣を身につけてもらいたい。	国内外の重要ニュースをできる限りリアルタイムで取り上げる。1 授業で 1 ニュースを原則とするが、どんなニュースが飛び込んで来るか予測不能のため、実際にどのような授業内容となるかは未知数だ。過去の授業で取り上げた項目を参考にしてほしい。 2009年秋学期には、マニフェスト、東京が2016年夏季五輪招致に失敗（リオデジャネイロで南米初の五輪開催へ）、オバマ米大統領がノーベル平和賞受賞、新聞の読み方（新聞とネットの特性）、新聞に関する基礎知識、死刑制度（現状と問題点）、大西洋クロマグロの漁獲規制（過去最大の漁獲枠削減）、EU大統領（「大欧州の顔」として初めて誕生）、COP15（温室効果ガス削減問題で先進国と途上国が対立）、子供のケータイ所持（石川県で小中学生ケータイ禁止条例）、などを取り上げた。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材として取り上げる新聞記事のコピーなど、プリントを配布。参考文献は必要に応じて授業で提示する。	日ごろの受講態度、テスト（記事についての感想文）などに基づく平常成績と期末試験の成績を総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（経理入門１） 現代社会（Ⅳ）（経理入門 a）	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理の習得を目的としている。簿記は、会計の基礎となる記録、計算技術であり、企業の実態を読み解くうえで、また日々の取引から会計情報を作成するうえで、不可欠な知識、技術である。 春学期では、簿記の一連の流れと計算原理の習得を目指す。講義では、わかりやすい説明を心がけ、反復練習と解説をつうじて理解の定着を図る。	①講義概要 ②簿記の意義と役立ち ③取引と勘定科目 ④仕訳と転記（１） ⑤仕訳と転記（２） ⑥帳簿記入（仕訳帳） ⑦帳簿記入（総勘定元帳） ⑧決算の手続き ⑨試算表の作成（１） ⑩試算表の作成（２） ⑪6 桁精算表の仕組み ⑫決算（１） ⑬決算（２） ⑭まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況（30%）と試験（70%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（経理入門２） 現代社会（Ⅳ）（経理入門 b）	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、簿記の初学者を対象に、簿記の基本原理の習得を目的としている。簿記は、会計の基礎となる記録、計算技術であり、企業の実態を読み解くうえで、また日々の取引から会計情報を作成するうえで、不可欠な知識、技術である。 秋学期では、諸取引の処理をつうじて、記録・計算技術をより一層磨くことを目的とする。また、精算表、貸借対照表および損益計算書についての深い理解を目指す。	①講義概要 ②復習 ③商品売買 ④売掛金と買掛金 ⑤その他の債権・債務 ⑥手形取引 ⑦有価証券 ⑧固定資産 ⑨純資産、税金 ⑩収益と費用 ⑪伝票会計 ⑫決算と財務諸表（１） ⑬決算と財務諸表（２） ⑭まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況（30%）と試験（70%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（英文会計入門１） 現代社会（Ⅳ）（英文会計入門 a）	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
国際化が進む現代企業を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキルとなる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識を習得する必要がある。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の原理原則を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、ある程度簿記の基本的知識を有することが望ましい。	①オリエンテーション ②会計と簿記の基礎（Basic of Accounting and bookkeeping ③勘定科目（Accounts） ④仕訳（Journal entries） ⑤各種取引と仕訳（Transactions and Journal Entries） ⑥各種取引と仕訳（Transactions and Journal Entries） ⑦各種取引と仕訳（Transactions and Journal Entries） ⑧各種取引と仕訳（Transactions and Journal Entries） ⑨仕訳帳と元帳（Journals and Ledgers） ⑩元帳（Ledgers） ⑪試算表（Trial Balance） ⑫精算表（Worksheet） ⑬貸借対照表と損益計算書（Balance sheet and Income statement） ⑭まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（最初の授業で指示する）	出席状況（20%）と試験（80%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（英文会計入門２） 現代社会（Ⅳ）（英文会計入門 b）	担当者	大坪　史治

講義目的、講義概要	授業計画
国際化が進む現代企業を鑑みれば、英文で作成された財務諸表を読み解き、企業の財政状態および経営成績等を分析できることは、大きなスキルとなる。その前提として、単に言語ができるだけではなく、簿記会計の知識を習得する必要がある。したがって本講義は、言語（英語）を駆使して簿記会計の原理原則を習得することが第一の狙いとなる。 なお、本講義は、ある程度簿記の基本的知識を有することが望ましい。	①オリエンテーション ②復習（１） ③復習（２） ④決算修正仕訳（Adjusting Entries） ⑤決算修正仕訳（Adjusting Entries） ⑥減価償却費の計算（Depreciation） ⑦修正後残高試算表（Adjusted Trial Balance） ⑧棚卸資産と売上原価（Inventory and Cost of Goods Sold） ⑨締切仕訳（Closing Entries） ⑩財務諸表（Financial Statements） ⑪財務諸表（Financial Statements） ⑫会計原則（Accounting Principles） ⑬内部統制（Internal Control） ⑭まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（最初の授業で指示する）	出席状況（20%）と試験（80%）により総合的に評価する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（コンピュータ入門 a） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門 a）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの実際的な利用方法を、実習を通して身につけることと、コンピュータの基本的な知識を身につけることを目的とする。 コンピュータの単なるスキルではなく、社会に出てから必要となるコンピュータおよびネットワークの基礎的な知識および技能を身につけることが目的である。 　また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱う。 　レポート提出は、講義支援システムを利用する。 　なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがある。	1. 講義概要 2. コンピュータの基礎 3. ネットワークの基礎 4. ワードプロセッサの有効利用 5. ワードプロセッサでレポートを書く 6. 表計算ソフトの有効利用 7. 表計算ソフトでデータ分析する 8. 表計算ソフトの関数を活用する 9. プレゼンテーションソフトの有効利用 10.プレゼンテーションソフトで調査内容発表 11. データベースの作成 12. データベースの利用方法 13. 外部データベースの利用 14. ソフトの統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：NOA 出版、『Office 活用術』 　：立田ルミ他『ひと目で分かる最新情報モラル』日経 BP 社	出席-20%、レポート-40%、試験-40%。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会 2（コンピュータ入門 b） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータ入門 b）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には、ワープロや表計算のような市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うことができる。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることに加えて、どのような手順（アルゴリズム）でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要である。 　この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学ぶ。使用する言語は、担当教員ごとに異なるが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指す。	1. 講義の進め方について 2. 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. 簡単な処理 4. 場合分け(1) 5. 場合分け(2) 6. 繰り返す(1) 7. 繰り返す(2) 8. ファイルの処理 9. 簡単なアルゴリズム 10. 関数を用いるアルゴリズム 11. 複数の関数の利用 12. 総合プログラム作成 1 13. 総合プログラム作成 2 14. 総合プログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員指定の教科書または印刷物	出席-20%、レポート-40%、試験-40%。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２ （コンピュータアドヴァンス１） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータアドヴァンス a）	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 GUI 部品を使ったアプリケーションや、リアルタイムに画面が変化するアニメーション・ゲームなど、身近なアプリケーションを題材とし、普段利用しているコンピュータの動作原理を学ぶ。 また、プログラムを効率的に開発するための手法として近年広く利用されているオブジェクト指向プログラムの仕組みを学び、簡潔で保守性の高いプログラムを作るための技法を学ぶ。 プログラムによる作品制作課題を 2 回行う。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1.ガイダンス（プログラミングとは） 2.GUI 部品の活用(1) 3.GUI 部品の活用(2) 4.グラフィックス 5.アニメーション 6.制御構造（繰り返し，分岐，関数など） 7.中間作品製作 8.中間作品相互評価 9.オブジェクト指向プログラミング(1) 10. オブジェクト指向ログラミング(2) 11. オブジェクト指向プログラミング(3) 12. 最終作品製作（企画） 13. 最終作品製作（実装） 14. 最終作品相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品による

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２ （コンピュータアドヴァンス２） 現代社会（Ⅳ）（コンピュータアドヴァンス b）	担当者	長　慎也

講義目的、講義概要	授業計画
プログラミングを学習し、コンピュータに対する理解を深めることが本講義の目的である。 身近に利用されている Web アプリケーション（地図、SNS, 動画、ショッピングサイトなど）の仕組みを、Web アプリケーションを実際に作成する体験を通して学ぶ。また、Web アプリケーションの安全性・危険性やユーザの認証、情報の暗号化などを学び，情報社会に生きるうえでの必要な知識を身につける。 プログラムによる作品制作課題を設ける。作品の評価の主な基準は、独創性（いかに他の人と違うプログラムを作れるか）である。受講者同士で作品の相互評価も行い、他の受講者との意見交換も重要視する。	1.Web アプリケーションとは 2. HTML による Web ページの構築 3.プログラムによる Web ページの操作(1) 4.プログラムによる Web ページの操作(2) 5.データベースの利用 6. Web API を利用したアプリケーション製作(1) 7. Web API を利用したアプリケーション製作(2) 8. Web アプリケーションの安全性 9. ユーザの認証、暗号化 10.作品製作（企画） 11.作品製作(実装１) 12.作品製作(実装２) 13.相互評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし（毎回、資料を配布する）	出席、レポート、作品プログラムによる

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1）ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2）Dynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3）マルチメディアを活用する。 4）情報や資料などを WEB 上で公開する。 5）WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3　ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4　画像、背景、色の作成 5　テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6　テーブル、ページのレイアウト 7　マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8　BODY、Document コンポネントへのアクセス 9　イベント処理 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　レポートの作成、HTML での音声 12　レポートの作成、HTML での動画 13　レポートの作成、Visual Basic Script など 14　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
WEB 上の教科書、教材	出席、レポートによる

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（ホームページ作成） 現代社会（IV）（ホームページ作成）	担当者	A. ベロフ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現代社会には欠かせないホームページ作成に必要と思われる基本知識を履修することができる。また、ホームページ作成の練習の際、以下に示しているような技術を身につけることを目的とする。 1）ホームページ作成の基本操作を学ぶ（タグうち）。 2）Dynamic HTML の基本作成を学ぶ（スクリプト）。 3）ルチメディアを活用する。 4）報や資料などを WEB 上で公開する。 5）WEB デザインの裏知識を得る。 ここでは、ホームページ作成の方法を実際に体験することにより、自分の作品を世界中に発信することを体得する。また、いろいろなホームページがどのようにして作成されているかを参考に、より高度なページにも挑戦する。 この講義は、半期完結で実施され、春学期も秋学期も同じ内容の講義となる。	1　コースの説明、情報理論、ネットワークの仕組み 2　ホームページ作成の基本、HTML、タグ、サーバ 3　ページ構成、編集方法、初めてのページ作成 4　画像、背景、色の作成 5　テキスト処理、フォント、リスト、リンク 6　テーブル、ページのレイアウト 7　マップ、画像などの絶対位置設定、スタイル 8　BODY、Document コンポネントへのアクセス 9　イベント処理。直線、資格、円形、ベジューなどの起動のシミュレーション 10　ダイナミック HTML、スクリプト 11　レポートの作成、HTML での音声 12　レポートの作成、HTML での動画 13　レポートの作成、VBS、JavaScript など 14　アップロード、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
WEB 上の教科書、教材	出席、レポートによる

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で IE や FireFox を使用して閲覧してみている Web ページを作成するための基礎を学習する授業である。Web ページは、HTML 形式のテキストファイル（Windows に同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この形式の規則の骨組を学習することを授業の中心の目的にする。 本校サイト内から Web ページを発信できる環境が整備されているので、これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC 上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書ではなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、Perl や PHP といったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。	１．ホームページの作成 ２．ホームページの運用・管理 ３．Web ページの仕組みと公開 ４．インターネット利用の倫理（ネチケット） ５．ブログの開設と運用 ６．HTML の基本 ７．CSS の基本 ８．HTML と CSS の実践 ９．Dynamic HTML サンプル 10．Java Script 入門 11．Dynamic HTML 入門 12．音楽や動画再生の基礎知識 13．マルチメディア・ドキュメントの利用 14．音楽や動画再生のドキュメントの作成)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ホームページ作成) 現代社会(Ⅳ)(ホームページ作成)	担当者	久東　義典

講義目的、講義概要	授業計画
PC 上で IE や FireFox を使用して閲覧してみている Web ページを作成するための基礎を学習する授業である。Web ページは、HTML 形式のテキストファイル（Windows に同梱されているプログラム[メモ帳]で内容を確認できるファイル）で書かれている。この形式の規則の骨組を学習することを授業の中心の目的にする。 本校サイト内から Web ページを発信できる環境が整備されているので、これを利用して Web ページをアップロードする知識やインターネットを利用した情報発信に必要な知識や倫理を学習する。より実戦的な情報発信を目指すためにブログ開設・運用まで学習する。 他方、PC 上のドキュメントと呼ばれる電子文書も様変わりしてきた。ワープロ文書のような動きのない文書ではなく、また、説明者主体によるプレゼンテーション資料文書ではなく、リンク機能を中心とした読者主体の電子文書としてホームページ文書が見直され、拡張されている。エクセルと同じくらい（エンド・ユーザー・コンピューティング）の仕事に役立つ道具としてホームページ文書を作りこむ方法を学習する。この分野は、Perl や PHP といったさらに高度なレベルのプログラミングの授業へ発展できる知識が得られる。	１．ホームページの作成 ２．ホームページの運用・管理 ３．Web ページの仕組みと公開 ４．インターネット利用の倫理（ネチケット） ５．ブログの開設と運用 ６．HTML の基本 ７．CSS の基本 ８．HTML と CSS の実践 ９．Dynamic HTML サンプル 10．Java Script 入門 11．Dynamic HTML 入門 12．音楽や動画再生の基礎知識 13．マルチメディア・ドキュメントの利用 14．音楽や動画再生のドキュメントの作成)
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業内で適宜紹介する。	出席、レポート、小テスト、作品、学期末テストによる総合評価

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．話し合い実習 ３．以下同様 毎回現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をしてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(えむ出版企画・国際語学社) 同『コトバの力・伝え合いの力』(同)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(生きたコトバづかい・話し合い編) 現代社会(Ⅳ)(生きたコトバづかい・話し合い編)	担当者	下川　浩

講義目的、講義概要	授業計画
近頃「日本語ブーム」とかで、テレビ番組でやたら漢字の読み方や書き方などのクイズ番組が放映されています。けれども、いくら難しい漢字が書けたり・読めたりしても、日本語がじょうずだと言えるのでしょうか？ 私が会長をつとめている「日本コトバの会」は民間研究団体で、学者・研究者が難しい専門用語を使い研究するのではなく、小・中学校や日本語学校の教師、主婦、定年退職後の方々が、純粋に自分たちの日本語能力を高めようとして、文章の書きかた・文学作品のよみかた・話し合いのしかた（話しかた・聞きかた）などを、定期的に集まって勉強する団体です。 この会の研究の中で見いだされた「生きたコトバの四原則」というのは、私の亡き恩師の定式化によれば、「正しく・わかりやすく・切れ味よく・感じよく」です。 私は、この４番目の「感じよく」は適用範囲が狭いので、場面に「ふさわしく」と改訂しました。それにしたがって、原則そのものの名称もあらため、「生きたコトバづかいの４原則」としたいと思っています。 この授業では、現代社会のさまざまの問題をテーマにしたビデオを見て、役割分担をしたうえで、それに関する話し合いをしながら、生きたコトバづかいの４原則が身につくように勉強をします。	１．生きたコトバづかいとは？ ２．話し合い実習 ３．以下同様 毎回現代の諸問題についてのビデオを見て、討論をしてもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
下川　浩著『どうしてそんなにダマされる？ウソとコトバの魔術』(えむ出版企画・国際語学社) 同『コトバの力・伝え合いの力』(同)	時事問題についての話し合いと役割分担に参加し、左記教科書の「事項索引」を作成・提出し、その業績を自己評価してもらい、これをもとに評価を決定します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』1) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』1)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　EU の歴史　欧州共同体創設への道 2　EU の歴史　欧州共同体 15 カ国の実現 3　EU の拡大と深化 4　EU の各種機構 5　フランス農業と共通農業政策 6　共通農業政策の仕組み 7　共通農業政策の問題点 8　共通農業政策の改革とフランス 9　欧州通貨制度とフランス 10　単一通貨ユーロ導入までの動き 11　安定成長協定とはなにか 12　欧州憲法条約とリスボン条約 13　フランスの政党と EU 14　EU の国際平和への貢献
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
参考文献： 日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』2) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『EU とフランス』2)	担当者	大井　正博

講義目的、講義概要	授業計画
EU は現実のものであり、その政治面・経済面での力も大きいとわかっているものの、もうひとつ現実の EU の姿が見えてこない。そこで EU の細かな実態については下記の参考文献にゆずるとして、授業においてはドイツとならび EU のリーダーであるフランスを中心においた上で、いろいろな側面から EU の理解につとめようと思う。	1　フランスの政治と EU(欧州議会) 2　フランスの政治と EU(主権擁護派) 3　フランスの政治と EU(リーダーシップ) 4　フランス経済と EU(門戸開放と統合市場) 5　フランス経済と EU(世界経済への一体化) 6　フランス経済と EU(移民労働者) 7　フランス経済と EU(国内産業の保護) 8　フランス経済と EU(産業の空洞化) 9　フランスの ODA 政策と EU 10　市民社会の台頭とフランス 11　特定多数決とはなにか 12　移民問題とフランス 13　農業大国フランスの悩み 14　EU の将来とフランス
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
参考文献： 日経文庫 1079　藤井良広著「EU の知識」第 14 版	受講条件：なし 評価方法：期末定期試験

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	矢羽々　崇

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんが今学んでいる「獨協」は，明治時代にできた「獨逸学協会」が母体となっています。当時の人々は，ドイツやドイツ語圏であるオーストリア（当時は大国）やスイスから何を学ぼうとしたのでしょうか。 この授業では，日本とドイツ語圏（ドイツ，オーストリア，スイス）の交流の歴史を辿ってみます。交流は，政治経済のみならず，学問や文化，スポーツなど多岐に渡っています。 その多面的な様相の一部を紹介しながら，異文化との接触が何をもたらすのかを批判的に検討していきます。 学生の皆さんにも調査研究して発表してもらいます（約 20 分，質疑 10 分)。全員をグループ分けする必要がありますので，第 1 回授業には必ず参加してください。	1　ガイダンス（受講希望者は必ず出席してください。） 2　概論：日本とドイツの交流史 1 3　概論：日本とドイツの交流史 2 4ー13 以下のテーマなどでグループ発表+矢羽々による講評と同一テーマを別側面から扱う講義で進めます。 ・江戸期の日独交流（ケンペル，シーボルト） ・幕末期の遣欧使節（武士の見た欧米） ・ドイツ語学習のはじまり（洋学のはじまり） ・獨協とドイツ ・ドイツ科学と日本 ・グリム・メルヒェンの翻訳と受容 ・獨協の大先輩，巌谷小波（さざなみ） ・ベートーヴェンの『第九』初演（映画『バルトの楽園』) ・クーデンホフ・光子（EU の祖の祖?) 14　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に適宜指示します。	授業への出席（4 回以上の欠席は F となります）およびレポートの結果に基づいて評価します。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』) 現代社会(Ⅳ)(ヨーロッパ地域研究『ドイツ語圏への招待』)	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、日本人にはあまりなじみのないヨーロッパ、特にドイツ語圏の国々やその国の文化を簡単に紹介し、受講者それぞれの興味・関心で調査し、発表することを目的とする。 講義は、受講者をグループに分け、ドイツ語圏を中心とする旅行プランを企画し、その企画をプレゼンテーションするという方法で行いたい。 より魅力的な商品としての旅行を企画するためにはどのような調査を行い、どのように組み立て、プレゼンテーションをしたらよいのかと、グループワークにはどのように関わる必要があるのかという体験、さらに同時にドイツ語圏の国々や文化に関する知識を得られればと思う。 詳細については、1 回目のイントロダクションにて説明を行うので、受講希望者は必ずガイダンスに出席すること。	１．イントロダクション ２．ドイツ語圏の国々 ３．グループ分けとテーマ決め ４．グループワーク ５．企画と組み立て ６．グループワーク ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．同上 １１．企画プレゼンテーション １２．同上 １３．同上 １４．総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適時指摘する。	授業への参加度。特にグループワークへの関わりとプレゼンテーション。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（教育の現場：教師と語る a） 現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語る a）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
１．目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 ２．概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿への参加とで構成します。そのため、右記の合宿に必ず参加して下さい（参加費は 8 千円程度)。 ３．合宿で 6 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、**初回の授業には必ず参加して下さい**。 ４．教職課程に登録している必要はありません。 ５．履修登録の上限を 30 名とします。 ６．春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。	１ 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 ２～３ 生活指導とは何か（テキスト使用） ４～７ 実践記録を読む ８ 合宿参加のまとめ 合宿は、6 月 12 日～13 日（土・日)、場所は埼玉県内（浦和の予定）です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋陽一他編『生活指導論』 （武蔵野美術大学出版局、1900 円）	出席と最終レポートによります。合宿に参加しない場合には、不可とします。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２（教育の現場：教師と語る b） 現代社会（Ⅳ）（教育の現場：教師と語る b）	担当者	川村　肇

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じですが、合宿での学習内容が変わります。	春学期に同じですが、合宿は 12 月中の土・日、場所は埼玉県内（森林公園の予定）です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(異文化理解教育) 現代社会(Ⅳ)(異文化理解教育)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 異文化間における教育制度に関わる問題を扱うことを目的とする。 グローバル時代を迎え、人の移動が活発になるなかで、学校の中にも「異文化」を持つ子どもたちが相互に学ぶ状況が増加しつつある。むろん、これは「生きた異文化を知る」よい体験になるという肯定的評価の一方で、「異文化を持つ」子どもたちをどう受け入れるかという点でいくつかの困難も見受けられる。そこで、本講義では内容を以下の３つにわけることにする。 Ⅰ．日本におけるニューカマーの子どもたちの教育 （講義２．～５．） Ⅱ．日本における特殊な教育機関の位置づけ （講義６．～８．） Ⅲ．諸外国での外国人学校の位置づけ （講義１０．～１２．） ※現在の日本の学校教育のカリキュラムの中に含まれる英語教育における「異文化理解」や、総合的学習の時間における「異文化理解」等について扱うものではないので、注意すること。	１．　授業の進め方等のガイダンス ２．　学校に通わない子どもたち ３．　学校教育システムにおける受容と排除 ４．　日本的モノカルチュラリズムと学習困難 ５．　家族は子どもの学習にどうかかわるか 小括＆小テスト ６．　オールドカマーの子どもたちの教育 ７．　電車で通えるアメリカの大学！？ ８．　教育特区とＧＫＡ ９．　小括＆小テスト １０．　公教育に組み込まれる外国人学校の事例 １１．　公教育から排除される外国人学校の事例 １２．　排除と組み込みのアプローチをとる事例 １３．　小括＆小テスト １４．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考となる文献は授業中に適宜指示する。	①授業への参加、発言などの貢献、②授業後のレポートシステムの提出とその内容、③３回の小テスト、④学期末のレポートの４点を総合的に判断する。

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(こども論) 現代社会(Ⅳ)(こども論)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
●講義目的 子どもを取り巻く子育て、貧困、少年事件などのトピックに関する政策を再度検討することを目的としている。 政策が立案される背景には、言説――たとえば親の教育力が低下した、や少年犯罪は増加・凶悪化の一途をたどっている、など――があるがそれらははたして本当なのか。本当だとしたなら、その現状に照らして政策は適切なのか。 これらを考える契機となるような講義にしたいと考えている。 ●講義概要 ２．、３．では「親の教育力が低下した」という言説の根拠を歴史を中心として探っていく。 ４．～６．では子どもの貧困の現状や政策の現状を概観し、検討していく。 ８．～１０．では、改正された少年法の内容とその意味を考える。合わせて厳罰化で少年犯罪が減少するのかもアメリカ等の事例を参考に検討していく。 １１．～１３．では、子ども（子育て）支援の動向を、イギリス、フランス、スウェーデン、韓国を例に検討し、日本の支援の在り方を考える。	１．　ガイダンス（授業の進め方等について） ２．　子育ての歴史①江戸後期 ３．　子育ての歴史②教育する家族はいつから？ ４．　子どもの貧困①（子どもの貧困を測る） ５．　子どもの貧困②（誰のための政策か） ６．　子どもの貧困③（母子世帯の子ども） ７．　小括＆小テスト ８．　少年事件①（少年事件は増加したか） ９．　少年事件②（少年法が変わった） １０．　共生の可能性を探って １１．　子育て支援の国際比較① １２．　子育て支援の国際比較② １３．　子育て支援の国際比較③ １４．　小括＆小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する	①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は１回目の授業で説明する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(韓国社会論) 現代社会(Ⅳ)(韓国社会論)	担当者	平田　由紀江

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「ジェンダーで読み解く韓国社会」というテーマで現代韓国社会の諸問題について考察し、その社会像を描きだす。 朝鮮半島や韓国といえば、歴史問題や日韓・日朝関係等の政治問題が主な関心事となることが多いが、本講座では、「日本と韓国」あるいは「日本と朝鮮半島」という枠にとらわれずに、韓国に住む人々の日常生活と密接に関連したテーマから現代韓国社会を読み解いていく。 討論を通じて隣の社会や人々について「考える」時間にするため、受講者には講義への積極的な参加が望まれる。 ※※初回講義には必ず出席すること※※	１イントロ①-ジェンダーとはなにか ２イントロ② - 韓国社会とジェンダー ３韓国人の恋愛観・結婚観・家族観① ４韓国人の恋愛観・結婚観・家族観② ５韓国人の恋愛観・結婚観・家族観③ ６ジェンダーと制度① ７ジェンダーと制度② ８軍隊とジェンダー① ９軍隊とジェンダー② 10 歴史とジェンダー① 11 歴史とジェンダー② 12 韓流とジェンダー① 13 韓流とジェンダー②

テキスト、参考文献	評価方法
適宜プリントを配布する。	出席、期末テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	現代社会２(模擬国際裁判) 現代社会(Ⅳ)(模擬国際裁判)	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれ、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義を受講するにあたっては国際法の知識を有することを必ずしも前提とはしません。また、グループ作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。 受講希望者が３０名を超える場合、以下のいずれかについて解答する記述式のテストを行い、履修者を決定します。履修を希望する学生は、必ず第１回目の講義に出席してください。 ・ 国際法の法源 ・ 国際紛争の平和的解決 なお、履修にあたっては、法学部が優先となります。	1　コースガイダンス――模擬国際裁判とは何か？ 2　課題文と訴状の発表 3～4　国際裁判の手続を学ぶ 5～6　申述書提出（原告側） 7～8　答弁書提出（被告側） 9　国際法上の論点を学ぶ 10～12　口頭弁論 13　判決 14　自己評価と反省 本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所)、イスラエルの分離壁、宇宙空間への兵器配備、竹島問題、ミサイル防衛問題などがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『国際条約集　2010 年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。	書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いませんが、継続して出席して下さい)。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (観察と実験生物学 a) 自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 春)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・ 講義の性質上､受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 ・ 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。**抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)**を収めること。 ・ 詳細は 1 回目の講義で説明する。 **講義の目的** ・ 身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに　講義内容の説明 2　実験室内における心得・実験器具の説明 3　キャンパスウオッチング 1　種の識別 4　身近な植物の観察　1　花の構造　① 5　顕微鏡使用法 1　顕微鏡の構造　② 6　顕微鏡使用法 2　ミクロメーターの使用 7　身近な植物の観察　2　花の構造 8　キャンパスウオッチング 2　五感を働かす 9　身近な植物の観察 3　　果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4　果実の形態　② 11 身近な植物の観察 5　葉の形態　① 12 身近な植物の観察 6　葉の構造　② 13 身近な植物の観察 7　根の構造 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回、プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (観察と実験生物学 b) 自然・環境・人間(Ⅳ)(身近な自然観察 秋)	担当者	加藤　僖重

講義目的、講義概要	授業計画
登録するに先立っての注意事項 ・ 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 ・ 一クラスの受講者を抽選に受かった 48 名に限定する。**抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)**を収めること。 ・ 詳細は 1 回目の講義で説明する。 **講義の目的** ・ 身近な自然を知ることを目標とする。 **履修資格** ・ 身近な植物 100 種以上認識できること。	1　はじめに：講義の内容を説明 2　身近な植物の観察 1 3　キャンパスウオッチング 1：種の同定 4　蛋白質の分析 5　生産構造図の作成 6　種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7　身近な植物の観察 2 8　光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9　身近な植物の観察 3 10 キャンパスウオッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回　プリント配布	毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(統計と調査法) 自然･環境･人間(Ⅳ)(統計と調査法)	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける. 授業概要 ・1 世帯当たりの平均年間所得は約 600 万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており，それを巧みに利用しながら生活している.「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが，より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる．この授業では日常的なデータを素材として，その性質を記述し，現象の本質を推測できるように，科学的な分析方法を使うことを学ぶ．基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする.	1. (1) 英語学習実態調査　ーアンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ　ーテスト問題作成 2. (1) データを集めてみよう　ー統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 (2) データの傾向を見よう　ー度数分布，相対度数，度数分布表 (3) データをグラフ化しよう　ー量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 3. データの特徴を数値で表そう　その 1　ー代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 4. データの特徴を数値で表そう　その 2　ー正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 5. データを採点しよう（これまでのまとめ）　ー表計算ソフトによる採点・集計 6. テストを見直す　ー信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 7. 偶然か，特殊能力か？　ー記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 8. 学習時間と成績には関係があるか？　ー相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 9. あさがお観察日記　ー対応がない場合の t 検定，分散分析 10. ダイエット観察日記　ー対応がある場合の t 検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 11. 出身地と麺類の好みに関係はあるか？　ークロス集計，カイ二乗検定 12. 駅前出店計画　ー判別分析 13. おいしい料理のための食材分量　ー重回帰分析 14. 隠れた傾向を探り出す　ー主成分分析，因子分析
テキスト、参考文献	**評価方法**
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み：統計データ分析入門』(秀和システム，2004) ISBN 4-7980-0913-X	(定期試験（60%)＋平常授業におけるまとめ（40%)) x 出席率

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2（マルチメディア論） 自然・環境・人間（Ⅳ）（マルチメディア論）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
動画・音声など，今やインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは，ブログなどでただ単に指示通りに張り付けるだけであり，その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し，より表現力が豊かなものにできるようにしたい。 いろいろの手法はあるが，ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い，それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。 もちろん，これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく，あくまでもそれは導入としてであり，コンゴより一層の進化にもつなげられるものとしたい。	１．ガイダンス ２，イラストの作成① ３．イラストの作成②　イラストの作品制作 ４．アニメーションの基礎。モーショントゥイーン ５．シンボルの政策，保存。レイヤーの利用 ６．作品の制作　① ７．トゥイーンアニメーション ８．テキストを使ったアニメーション ９．写真の利用 １０．サウンドの貼り付け １１．HP の作成，アップロード １２．作品の制作　② １３．作品の制作　③ １４．作品の制作予備日
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に適宜指示・配布する。	いくつかの作品を制作してもらい，それによって評価する。出席は重視し，欠席回数が多いと不可とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(情報検索と加工) 自然･環境･人間(Ⅳ)(情報検索と加工)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報化社会において、資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。 本講義では、データベースや WWW 検索エンジン、質疑応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。	1　授業ガイダンス：情報検索の基本 2　情報検索の基礎技術 3　データベースとシソーラス 4　WEB サーチエンジン：ロボットとインデックス 5　インターネット検索・サーチエンジンによる検索／演習（断片情報による検索） 6　図書の検索／演習（１） 7　図書の検索／演習（２） 8　雑誌の検索／演習 9　新聞記事の検索／演習 10　辞書・人物・企業・地図の検索／演習 11　統計・法律・特許情報の検索 12　質問応答システムの演習 13　情報検索総合演習 14　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
原田智子『情報検索演習』(樹村房) 必要に応じて資料を配布する。	出席、レポートおよび筆記試験により、総合的に評価する。

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(コンピュータ構造論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(コンピュータ構造論)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。 本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とする。 本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。	1　授業のガイダンス 2　ファイル編成とデータベース データベースの概要、データの正規化 3　データベース管理システム（DBMS） DBMS の目的と構成 4　SQL 言語 5　コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LAN の構成とアクセス方式 6　インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS 7　インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8　インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9　コンピュータのハードウェア構造 10　情報検索 情報検索の方法と演習 11　情報システムを支える技術 12　ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13　授業のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2(スポーツコーチ学 a) 自然･環境･人間(Ⅳ)(スポーツコーチ学 a)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 今、私達は様々な形でスポーツを楽しむことができます。競技として、趣味としてスポーツをプレーしたり、健康のために実践したりすることや、観戦してスポーツの魅力を味わうこともあります。スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。その身体機構を理解することで実践するときにも観戦するときにも個人個人でよりスポーツの魅力を感じることができるといえます。そこで本講義では運動中の身体各部の機能や適応について理解すること、そして各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 講義内容は基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。そしてスポーツパフォーマンスの向上にかかせないトレーニング科学や栄養学などについても取り上げます。実際にスポーツ中の生理データを測定したり（受講生同士、グループに分かれて)、ビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。	1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能 3. 動きをコントロールする 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. エネルギー供給機構 6. 運動と循環（基礎編） 7. 運動と循環（実践編：心拍数を測ってみよう） 8. トレーニングの基礎 9. スポーツを科学の目で分析する① 10. スポーツを科学の目で分析する② 11. スポーツと栄養 12. こども・高齢者・しょうがい者とスポーツ 13. トップアスリートを取り巻く環境 14. まとめ ＊講義の内容の順番は変わる可能性があります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『イラスト運動生理学』　朝山正己　他編　東京共学社	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(リーダーシップ論) 自然･環境･人間(Ⅳ)(リーダーシップ論)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していく。	1 オリエンテーション 2 問題解決活動体験 3 リーダーシップについてのグループ討論 4 発表、ふりかえり 5 リーダーシップ理論と企画作成の方法 6 グループによるゲーム企画作成 7 グループによる指導体験 8 ふりかえりと発表 9 イベント企画コンテストためのグループ討論 10 イベント企画コンテストの実施 11 グループによるふりかえりと発表 12 コンテスト上位のイベントの実施 13 相互評価 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布します。	出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間２(体育経営スポーツマネージメント) 自然･環境･人間(Ⅳ)(体育経営スポーツマネージメント)	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
体育経営スポーツマネージメントの基礎を学び、実践・実習することを授業の目的とします。 授業で学んだ項目に関して、スポーツイベントを企画し、実現してもらいます。 イベントは、昼休み、放課後、土日祝日、冬期休業期間など授業の無い時間帯で、また、学内または学外の施設を使って行ってもらいます。 グループで担当計画し、実現してもらいます。 顔写真１枚を貼った受講票の作成をしてもらいます。 定員があります。	第１週 ガイダンス 第２週 スポーツマネージメントの概念 第３週～第１４週　イベント作りと実行

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて紹介します。	イベント作りと実行、レポート、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

08 年度以降 07 年度以前	自然・環境・人間 2 (からだの仕組み) 自然・環境・人間(Ⅳ)(からだの仕組み)	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 普段何気なく生活していますが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示しています。たとえば、暑いと汗をかいたり、運動中に心臓がどきどきしたりといった反応があげられます。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が提供されていますが、まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考えるきっかけを提供することが本講義の目的です。 〔講義概要〕 　講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、場合によっては実際に試してみたりします。また、健康やそれにかかわる環境などについてのテレビ、映画、新聞などの情報を各自が興味をもった「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで、共有する形式も取り入れます。毎回授業のテーマに沿ったレポートの提出により理解の定着を図ります。	1. オリエンテーション－生きている仕組みを考える 2. 体温調節－汗は最強 3. 摂食調節－お腹が空く、脳が空く 4.「食」についてグループ討論会① 5.「食」についてグループ討論会② 6. 体液調節－のどの渇きは脳のサイン 7. 睡眠－眠くなるのはなぜ？ 8. 生物時計－体の中に時計がある？ 9. 呼吸と循環－息して生きてる 10. 感覚－第 6 感？ 11. 神経－「運動神経がない」人はいない！ 12. 循環－心臓がバクバクするのはどんなとき？ 13－14. からだの情報交換会！（体験プログラム） ＊講義の順番は変わる可能性があります

テキスト、参考文献	評価方法
『やさしい生理学』　森本武利・彼末一之編　南江堂	出席、授業態度、レポートの内容で総合的に判断します。

08 年度以降	自然・環境・人間２(コンピュータと言語)	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、情報科学とは 2　データ表現、基数変換、論理演算 3　コンピュータの構成要素 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（0S） 0S の基礎概念、0S の役割と原理 6　プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8　アルゴリズムーアルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9　コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10　コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11　機械翻訳システムの演習 12　自然言語質問応答システム 13　インターネット上の多言語処理技術 14　授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ･レクリエーション(インラインスケートa)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　インラインスケートについての知識、技術の習得によって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にします。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] 　インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。大学では、２２センチから２８センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。	第１回：オリエンテーション インラインスケートとは（ビデオ視聴）と用具あわせ 立ち方・歩き方・とまり方 第２回：「滑ることに慣れよう」ステップ 第３回：「滑ることに慣れよう」グライド 第４回：「からだを動かしてみよう」腕の使い方 第５回：「からだを動かしてみよう」ボディの使い方 第６回：「自由にからだを動かしてみよう」パイロンを使った練習 第７回：「自由にからだを動かしてみよう」ストックを使った練習 第８回：インラインホッケーの基本 第９回：インラインホッケーを楽しもう 第１０回：「後ろ向きになれよう」足の使い方 第１１回：「後ろ向きになれよう」ボディの使い方 第１２回：「後ろ向きになれよう」バックストロークのバリエーション 第１３回：「方向転換」カーブの練習 第１４回：「方向転換」スリーターン
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しないが自身でインターネット他のメディアを利用してインラインスケートに関する情報を調べること。	出席状況と受講態度ならびに技術の向上度（実技テスト）

	スポーツ･レクリエーション(インラインスケートｂ)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　春学期から継続して受講する学生のためのクラスです。インラインスケートの技術のバリエーションを習得することを目標とします。 秋学期からの履修者は、春学期の基本動作および技術を学習します。 [講義概要] 　インラインスケートの技術のバリエーションであるステップ、ストップ、ジャンプ等を取り入れて授業を進めます。また、インラインホッケーも積極的に行います。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。	第１回：インラインホッケーの楽しみ方 第２回：パイロンテクニックその１　大きな動き 第３回：パイロンテクニックその２　小さな動き 第４回：ターン スリーターン 第５回：ターン モホークターン 第６回：基本的なストップ 第７回：ストップのバリエーション 第８回：ジャンプ 第９回：フォワードクロッシング 足運びの練習 第１０回：フォワードクロッシング 第１１回：バックワードクロッシングの初歩 第１２回：インラインホッケーリーグ戦 第１ 回 第１３回：インラインホッケーリーグ戦 第２ 回 第１４回：インラインホッケーリーグ戦 第３ 回 インラインホッケーは、毎回授業時間後半で行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない	出席状況と受講態度および技術の向上度

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門 a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグランドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 　各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど外のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1.　ガイダンス 2.　自分の『ウェルネス』について考えてみよう 3.　からだをほぐしてリラックス（ストレッチポール） 4.　ストレッチングのススメ 5.　ウォーキング①（楽しく続けるために） 6.　ウォーキング②（快適ニコニコペースをつかむ） 7.　自分の体重を使って筋力アップ 8.　有酸素運動を理解しよう 9.　きれいな姿勢のためのエクササイズ 10.　ヨガの基本ポーズ 11.　バランスボールを使ったエクササイズ 12.　自分でプログラムを作って実践① 13.　自分でプログラムを作って実践② 14.　春学期の総まとめ （ただし、上記内容の順番は変更になる場合があります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（ウェルネス入門ｂ）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 ウェルネスとは「積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことです。この授業では『それぞれの健康観』を構築し、自らその理想とする健康生活を送るための知識と能力を身につけることを目的としています。 〔講義概要〕 いつでもどこでも気軽に体を動かすことのできる方法を学び、そして自分でプログラムを選択して実践します。運動の強度は軽～中程度ですので、運動・スポーツが苦手でも十分取り組める内容です。またウェルネスに関する情報を毎回の授業でプリントなどを配布して提供します。主にトレーニングルームで行いますが、内容によってグランドや校外などの屋外で行います。 〔受講生への要望〕 　各自、トレーニングルーム用のシューズを必ず用意してください。またウォーキングなど外のプログラムもありますので、外運動用のシューズも必要です。運動にふさわしい服装で参加してください。 ★トレーニングルームが主な実技場所ですが、その他の場所を使うときにはあらかじめ授業時に連絡します。	1.　これまでのプログラムを振り返る 2.　自分の体をチェック 3.　ウォーキングを楽しむ 4.　ストレッチング・筋力アップ①・ヨガ 5.　ストレッチング・筋力アップ②・ヨガ 6.　ストレッチング・筋力アップ③・ヨガ 7.　バランスボール・エクササイズ 8.　ストレッチング・その場でステップ 9.　からだをあたためるエクササイズ 10.　リクエスト・プログラム 11.　自分でプログラムを作って実践① 12.　自分でプログラムを作って実践② 13.　秋学期の総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスａ）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 顔写真１枚を貼った受講票を受講が決定した時点で作成し、各自の名札の配布と回収により毎回出席を取る。 初心者から上級者まで色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。 受講者の様子や天候などの条件により授業内容が変更される可能性がある。	第１週 ガイダンス 第２週 実技開始 第３週～第１４週 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニスｂ）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
硬式テニスのダブルスゲームを通じて、コミュニケーション能力の向上とマネージメント能力の向上を図る。 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になる。 秋学期からの履修者は、原則として硬式テニスのダブルスのゲームが出来ることを条件とし、顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 色々な組み合わせによりダブルスゲームを行う。 受講者の様子や天候などの条件により授業内容が変更される可能性がある。	第１週 実技とガイダンス 第２週 ～第１４週 色々な組み合わせによりダブルスのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1.　オリエンテーション。 2. 3. 4. 5.　サービス、ストローク等の練習。ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術練習。 12. 13. 14.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・テニスを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動に必要なことを身につける。 ・原則として雨天決行し、服装忘れ、遅刻は認めない。	1.　オリエンテーション。 2. 3. 4. 5.　サービス、ストローク等の練習。ルールの確認。 6. 7. 8.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9. 10. 11.　技術練習。 12. 13. 14.　シングルス、ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

	スポーツ・レクリエーション(ゴルフ a)	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　ゴルフは、正しい知識と技能を身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツである。そのためには、基本となる技術、ルールの理解、マナーの遵守の習得が求められる。 [講義概要] 　ゴルフ競技を行うにあたり、ゴルフの歴史、用具や服装、マナーについて講義する。次に基本技術をビデオにより学習する。クラブの握り方やスタンスの取り方を習得すると共に、アドレスや無理のないスウィングを反復練習し、個人のフォームを作り上げる。第 7 週までは、学内でプラスティック・ボールを打球する。第 8 週からはゴルフ練習場（有料）で実習する。 [受講者への要望] 　運動のできる服装で出席すること。手袋は必ず購入すること。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを使用すること。革靴やハイヒール、ブーツでは受講できない。初心者または初級者であること。	１．オリエンテーション ２．基本技術のビデオ学習（歴史、マナー等を含む） ３．ショートアイアン（９、PW、SW）のスウィング（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングを学習する） ４．ショートアイアン（同　上） ５．学内でプラスティック・ボールを使用して実習 ６．個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィング） ７．個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィング） ８．ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球） ９．反復練習 １０．個別指導（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック） １１．個別指導（同　上） １２．個別指導（同　上） １３．テスト及び実習 １４．テスト及び実習
テキスト、参考文献	
	出席状況、履修態度、技能と理論のテストの総合評価

	スポーツ・レクリエーション（ゴルフ b）	担当者	萩原　武久

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　ゴルフは、正しい知識と技能を身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツである。そのためには、基本となる技術、ルールの理解、マナーの遵守の習得が求められる。 [講義概要] 　ゴルフ競技を行うにあたり、ゴルフの歴史、用具や服装、マナーについて講義する。次に基本技術をビデオにより学習する。クラブの握り方やスタンスの取り方を習得すると共に、アドレスや無理のないスウィングを反復練習し、個人のフォームを作り上げる。第 1 週からゴルフ練習場（有料）にて実習する。 [受講者への要望] 　春学期の受講者であること。運動のできる服装で出席すること。手袋は必ず購入すること。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを使用すること。革靴やハイヒール、ブーツでは受講できない。	１．ゴルフ練習場にて実習 ２．アイアンショット（７，９、PW、SW） ３．アイアンショット（３，５） ４．ロングアイアン（３，４）ショット練習 ５．ロングアイアン（３，４）ショット練習 ６．ウッドの打法と練習（１，３） ７．ウッドの打法と練習（１，３） ８．個人のスウィングをチェック、指導 ９．個人のスウィングをチェック、指導 １０．個人のスウィングをチェック、指導 １１．個人のスウィングをチェック、指導 １２．テスト（アイアン及びウッド）及び実習 １３．テスト（アイアン及びウッド）及び実習 １４．テスト及び実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、履修態度、技能と理論のテストの総合評価

	スポーツ・レクリエーション（サッカーａ）	担当者	菊原　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目標] サッカー競技の実践を通じて、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。 特に、いままでできなかった個人・グループ・チームプレイができるようになる過程を深く考え、繰り返すことにより獲得できる技術・戦術のコツの習得を目指す。 その上で、「観るスポーツ」の力を養い、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わりに役立てることがテーマである。 [講義概要] サッカーの技術・戦術の習得を目指し、各時間３分の１を課題学習にあて、３分の２をゲーム中心の展開とする。準備運動の時間はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講生への要望] 人工芝のフィールドに対応したシューズの着用、また、ストッキング（長靴下）もできたら用意することを望む。	1. オリエンテーション（教室、個人票記入等） 2. 測定（技術力、体力等）　ゲーム 3. コミュニケーション　スモールゲーム 4. チームワーク　ゲーム 5. 技術の習得 ボールコントロール①　ゲーム 6. 技術の習得 ボールコントロール②　ゲーム 7. サッカーの理論技術と戦術　（雨天時教室） 8. 個人戦術の習得 パス＆コントロール①　ゲーム 9. 個人戦術の習得 パス＆コントロール②　ゲーム 10. グループ戦術の習得 ポジショニング①　ゲーム 11. グループ戦術の習得 ポジショニング②　ゲーム 12. チーム戦術課題トレーニング　ゲーム 13. 技術力、体力のテスト 14. 評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布	出席状況を評価 60%とし、平常の授業への取り組む姿勢 20%、技術の習熟・グループワークでの貢献度等を 20%として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（サッカーｂ）	担当者	菊原　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目標] サッカー競技の実践を通じて、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とする。 特に、いままでできなかった個人・グループ・チームプレイができるようになる過程を深く考え、繰り返すことにより獲得できる技術・戦術のコツの習得を目指す。 その上で、「観るスポーツ」の力を養い、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わりに役立てることがテーマである。 [講義概要] サッカーの技術・戦術の習得を目指し、各時間３分の１を課題学習にあて、３分の２をゲーム中心の展開とする。準備運動の時間はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講生への要望] 人工芝のフィールドに対応したシューズの着用、また、ストッキング（長靴下）もできたら用意することを望む。	1. オリエンテーション、ゲーム（フィールド、秋学期からの受講者の個人票記入等） 2. 測定（技術力、体力等）　ゲーム 3. チーム戦術課題トレーニング システム①ゲーム 4. チーム戦術課題トレーニング 守備　ゲーム 5. 守備グループ戦術の習得　ゲーム 6. チーム戦術課題トレーニング 攻撃　ゲーム 7. 攻撃グループ戦術の習得　ゲーム 8. 現代サッカーのトレーニング課題（雨天時、教室） 9. リスタートプレイ　ゲーム 10. チーム戦術課題トレーニング システム②ゲーム 11. 高度なチーム戦術課題守備　ゲーム 12. 高度なチーム戦術課題攻撃　ゲーム 13. 技術力、体力のテスト 14. 評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配布	出席状況を評価 60%とし、技術課題のテスト結果、平常の授業への取り組む姿勢、グループワークでの貢献度等を 40%として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（サッカーa）	担当者	松本 光弘

講義目的、講義概要	授業計画
サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間 3 分の１程度を課題学習にあて、3 分の２程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。	１．オリエンテーション（教室、個人票記入等） ２．測定（技能、体力等） 簡単なゲーム ３．技術課題練習基礎編① ゲーム ４．技術課題練習基礎編② ゲーム ５．技術課題練習基礎編③ ゲーム ６．技術課題練習基礎編④ ゲーム ７．戦術課題練習基礎編① ８．戦術課題練習基礎編② ９．戦術課題練習基礎編③ １０．戦術課題練習基礎編④ １１．戦術課題練習基礎編⑤ １２．技術・戦術練習方法理論・実践 １３．サッカーの歴史と世界史の関係（雨天時、教室） １４．評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
「サッカースキル（技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社、 「サッカーのテクニック」スピンドラー著　松本光弘 訳、 ベースボールマガジン社	出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40% として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（サッカーb）	担当者	松本 光弘

講義目的、講義概要	授業計画
サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを多く行うことにより活動量を確保し、体力の向上・維持を目標とする。内容は大学生が理解し、実行できる内容とレベルを追求したく、サッカーをより深く学習することを希望するサッカーが好き、あるいは得意と思われる学生の受講を歓迎する。ただし、技能レベルの優劣は問わない。 又、学習課題を授業外でも自分たちの自主活動ならびに指導等に活用できるよう、より系統的に、かつ単純化したものとし、高度なサッカー観戦にも役立つよう配慮して授業を進める。 サッカーの技術、戦術から大学生に合った課題を抽出し、各時間 3 分の１程度を課題学習にあて、3 分の２程度をゲーム中心の展開とする。準備運動はそれ以外とし、注意深く行う。 [受講者への要望] 人工芝のフィールドで行うため、スパイクシューズの着用、また、ストッキング、ショーツもできたら用意することを望む。	１．オリエンテーション、ゲーム（フィールド、秋学期から受講者の個人票記入等） ２．体力回復と簡単なゲーム ３．守備課題練習① ゲーム ４．守備課題練習② ゲーム ５．得点課題練習① ゲーム ６．得点課題練習② ゲーム ７．チーム戦術攻撃課題練習① ゲーム ８．チーム戦術攻撃課題練習② ゲーム ９．より高度な戦術課題練習① ゲーム １０．より高度な戦術課題練習② ゲーム １１.ハイレベルの質を求めたサッカーの体験(攻撃中心) １２.ハイレベルの質を求めたサッカーの体験(守備中心) １３．評価のためのゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
「サッカースキル（技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社、 「サッカーのテクニック」スピンドラー著　松本光弘 訳、 ベースボールマガジン社	出席状況を評価の 60%とし、平常の授業態度、グループワークでの貢献度、ゲームにおけるパフォーマンス等を 40% として評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス a）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この講義では、エクササイズを行うことによりからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できるからだづくり、つまりデトックスしやすいからだづくりを目指します。また、この講義では様々なエクササイズを行いますが、いずれのエクササイズも競うことが目的ではなく、楽しんで行うことが目的です。この講義を通して自分に合ったエクササイズを見つけられたら、ぜひ生活の中に取り入れていって欲しいと思います。 ○　パワーヨーガ：深い呼吸とポーズを組み合わせることにより、心とからだを調和させるとともに、からだのデトックス機能向上と心のリフレッシュを行います。 ○　エアロビクス：リズムに合わせて全身運動（有酸素運動）を行い、代謝機能を高めます。 ○　リズムボクシング：音楽に合わせてパンチやキックの動作を行い、全身運動を行いながらストレスを解消します。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1　オリエンテーション 　年間授業計画の説明　実施上の諸注意 2　ヨーガ① 3　ヨーガ② 4　ヨーガ③ 5　ヨーガ④ 6　ヨーガ⑤ 7　エアロビクス① 8　エアロビクス② 9　エアロビクス③ 10　エアロビクス④ 11　リズムボクシング① 12　リズムボクシング② 13　リズムボクシング③ 14　リズムボクシング④
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況、授業への参加態度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（スポーツ型デトックス b）	担当者	齋藤　初恵

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　春学期に引き続き、エクササイズを行うことでからだの代謝機能を高めるとともに、老廃物をスムーズに排泄できる（デトックスしやすい）からだづくりを目指します。 ○　パワーヨーガ：春学期を参照。 ○　コアシェイプ&ラテンエアロ：ラテンの音楽に合わせて体幹部（コア）の筋肉を集中的に鍛えるエクササイズです。有酸素運動と腹筋・背筋のトレーニングの組み合わせで、特におなか周りのシェイプに効果的です。 ○　ステップエクササイズ：ステップ台を用いたエアロビクスで、非常に運動効果の高いエクササイズです。 【準備するもの】 運動のできるウェア、室内シューズ、タオル、水（真水のみ可）	1　スポーツ型デトックスについて 　パワーヨーガ① 2　パワーヨーガ② 3　パワーヨーガ③ 4　パワーヨーガ④ 5　パワーヨーガ⑤ 6　コアシェイプ&ラテンエアロ① 7　コアシェイプ&ラテンエアロ② 8　コアシェイプ&ラテンエアロ③ 9　コアシェイプ&ラテンエアロ④ 10　コアシェイプ&ラテンエアロ⑤ 11　ステップエクササイズ① 12　ステップエクササイズ② 13　ステップエクササイズ③ 14　ステップエクササイズ④
テキスト、参考文献	**評価方法**
なし	出席状況、授業への参加態度等により評価する。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールａ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 [講義概要] 　前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。 [受講者への要望] 雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	1　年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明 2　キャッチボール （ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法） 3　ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法）　トスバッティング 4　ピッチング（各種投法の復習）　ハーフバッティング 5　守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング 6　守備練習（各ポジションの守備方法）　シートノック 7　ベースランニングとスライディングの練習 バント練習（内野手の連携プレー） 8　シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習 9　審判の方法についての説明　チーム編成（1） （ポジション・打順を決める）　練習試合 10　チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D 11　チーム練習（トスバッティング）　試合 A～C、B～D 12　チーム練習（バント）　試合 A～D、B～C 13　チーム練習　試合 14　技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールｂ）	担当者	池垣　功一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。 [講義概要] 　試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。 [受講者への要望] 雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	1　総合的練習（1）　審判方法の復習 2　総合的練習（2）　スコアブックのつけ方についての説明 3　チーム編成（2）（以下、各々試合３回ごとに編成をかえる）　練習試合 4　チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ）試合 E～F、G～H 5　チーム練習　試合 E～G、F～H 6　チーム練習　試合 E～H、F～G 7　チーム編成（3）　チーム練習　試合 I～J、K～L 8　チーム練習　試合 I～K、J～L 9　チーム練習　試合 I～L、J～K 10　チーム編成（4）　チーム練習　試合 M～N、O～P 11　チーム練習　試合 M～O、N～P 12　チーム練習　試合 M～P、N～O 13　チーム練習　試合 14　技能テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等含む）を加味して行う。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールａ）	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。 2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習 3 前回の復習 ゲームの実施 4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、スイング）　リーグ戦 5 前回の復習。リーグ戦 6 リーグ戦 7 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習 リーグ戦 8 前回の復習 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦 14 リーグ戦
テキスト、参考文献	評価方法
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（ソフトボールｂ）	担当者	萩野　元祐

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。 [講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。 [受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。	1 基本練習。 リーグ戦 2 基本練習。 リーグ戦 3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 リーグ戦 4 前回の復習。 リーグ戦 5 リーグ戦 6 リーグ戦 7 リーグ戦 8 リーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 13 リーグ戦 14 リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席が３回を越えた者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．用具の準備と片づけ方 基本知識（ラケットの種類・持ち方、基本姿勢） 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．フォアハンド・バックハンドの練習　簡易ゲーム 5．サービス・レシーブの練習　簡易ゲーム 6．フォアハンドロング・バックハンドショート 7．カット・スマッシュ 8．審判法とゲームの進め方　シングルスゲーム 9．シングルスゲーム 10．シングルスゲーム 11．ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 12．ダブルスゲーム　パートナーの動きを考える 13．ダブルスゲーム 14．まとめ（シングルスゲーム・ダブルスゲーム）
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 卓球というスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。将来も生涯スポーツとして卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の保持増進に努めること。 〔講義概要〕 初心者から中級者に合わせる内容であり、基本的な練習や簡易ゲームにより、技術を習得し、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや戦術を習得する。 〔受講者への要望〕 技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館用シューズを用意すること。	1．復習　基本練習　シングルスゲーム 2．復習　基本練習　ダブルスゲーム 3．決定打までの組み立て チーム編成とシングルスゲーム・チーム内リーグ戦 4．シングルスゲーム・チーム内リーグ戦 5．シングルスゲーム・チーム対抗戦 6．上に同じ 7．ダブルスゲーム・チーム内リーグ戦 8．ダブルスゲーム・チーム対抗戦 9．上に同じ 10．シングルス・トーナメント戦 11．ダブルス・トーナメント戦 12．ミックスダブルス 13．ミックスダブルス・リーグ戦 14．総まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数 4 回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関等の特別な事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	1．オリエンテーション 　授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．実技事業の開始　用具の準備と片づけの仕方と基本知識動作などについて 3．ボールの打ち方・スイングの基本 4．サーブ・レシーブの練習　　簡易ゲーム 5．フォアーハンド・バックハンドの練習　　簡易ゲーム 6．上記の復習 7．カット・スマッシュ練習　シングルスゲーム 8．グループ内でのシングルスリーグ戦 9．上記に同じ 10．上記に同じ 11．各グループ同順位リーグ戦 12．上記に同じ 13．技能テスト 14．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
［講義の目標］ 　敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献出来ること。 ［講義概要］ 　基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。 ［受講者への要望］ 　技術力のあるなしに関わらず、卓球に興味を持って、真剣に取り組み、楽しんでもらいたい。服装は運動服、体育館シューズを用意すること。	1．基本的技術の春学期の復習 2．上記と同じ　　ダブルスの動き 3．ダブルスの簡易ゲーム 4．上記と同じ 5．上記と同じ 6．日替わりチーム編成をしチーム内でのダブルスリーグ戦 7．上記と同じ 8．上記と同じ 9．固定チームを編成しチーム対抗戦 1 10．チーム対抗戦 2 11．チーム対抗戦 3 12．チーム対抗戦 4 13．技能テスト 14．上記に同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 a）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. オリエンテーション 2. 卓球導入、ラケットとボールに慣れよう（ボール遊び） 3. 構え、スイングを身に付けよう、フォアハンドの基本 4. バックハンドの基本 5. サービスの基本、いろいろなサービス（スピン） 6. サーブレシーブの練習（レシーブポジション） 7. いろいろな打ち方（スマッシュ、ドライブ、カット） 8. シングルスゲームをしてみよう（ルールの習得） 9. シングルスゲーム 10. シングルスゲーム 11. ダブルスゲームをしてみよう（ルールの習得） 12. ダブルスゲーム（2 人の動きを覚えよう） 13. ダブルスゲーム 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。

	スポーツ・レクリエーション（卓球 b）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、卓球という種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本的な打ち方の練習（ボールとラケットに慣れる） 2. フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの練習 3. サービス、レシーブの練習 4. シングルスゲーム（ルールの習得） 5. シングルス・リーグ戦 6. シングルス・リーグ戦 7. ダブルスゲーム（ルールの習得） 8. ダブルス・リーグ戦 9. ダブルス・リーグ戦 10. チーム団体戦（団体戦の形式を覚えよう） 11. チーム団体戦 12. チーム団体戦 13. シングルス・ダブルスゲーム 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。

	スポーツ・レクリエーション（卓球ａ）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 1. 卓球の楽しさの体験、基礎知識と技術の習得。 2. 卓球を通しての健康づくり。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 手軽に楽しめる卓球の特性を活かし、それぞれのレベルにあった技術の向上を目指して基本練習を行う。また、シングルスやダブルスゲームを展開しながら、ルールや試合進め方などについても学習するとともに、リーグ戦等の運営についてもクラス全体で企画、交流しながら実践を重ねる。 〔受講者への要望〕 経験者、初心者は問いません。それぞれの技術の向上と学生間のコミュニケーション能力の向上を期待しています。服装はトレーニングウェアー・室内シューズを準備してください。なお、ラケットは個人で用意することが望ましい。	1. オリエンテーション、基本的知識の習得（ラケットの選び方、ルールの理解など） 2. ラリーの実践（フォアー・バック） 3. サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 4. スマッシュ　簡易ゲーム 5. ダブルスゲームの進め方 6. ダブルスゲームの実践 7. ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） 8. ダブルスゲームの実践 9. シングルスゲームの実践 10. ゲーム練習（ゲームにおける戦略的練習） 11. シングルストーナメント戦　リーグ分け 12. グループリーグ戦 13. グループリーグ戦・トーナメント戦 14. トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席・技術・態度（企画運営への協力参加）の３項目で評価します。

	スポーツ・レクリエーション（卓球ｂ）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 1. 卓球の楽しさの体験、基礎知識と技術の習得。 2. 卓球を通しての健康づくり。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 手軽に楽しめる卓球の特性を活かし、それぞれのレベルにあった技術の向上を目指して基本練習を行う。また、シングルスやダブルスゲームを展開しながら、ルールや試合進め方などについても学習するとともに、リーグ戦等の運営についてもクラス全体で企画、交流しながら実践を重ねる。 〔受講者への要望〕 経験者、初心者は問いません。それぞれの技術の向上と学生間のコミュニケーション能力の向上を期待しています。服装はトレーニングウェアー・室内シューズを準備してください。なお、ラケットは個人で用意することが望ましい。	1.　ラリーの実践（フォアー・バック） 2-3. サーブ・レシーブ　簡易ゲーム 4-6. ダブルスゲームの実践 （ゲームにおける戦略的練習） 7-9. ダブルスゲーム　リーグ戦 10-11. シングルスゲーム　トーナメント戦 12-13. ダブルスゲーム　トーナメント戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席・技術・態度（企画運営への協力参加）の３項目で評価します。

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール a）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1.　オリエンテーション 2－4. ファンダメンタルを身につけよう ボールハンドリング・シュート・パス・ドリブル 5－7. ファンダメンタルを身につけよう 様々なシュート、ストップ・ターンの使い方 8－10. ファンダメンタルを身につけよう ディフェンスの基本、パスのもらい方、動きの中でのシュート 11.　ゲームの進め方（審判・オフィシャル） 12－14. ゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリエーション（バスケットボール b）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 バスケットボールの基本技術を身につけ、ゲームを楽しむ。バスケットボールというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 バスケットボールの基本技術を習得し、ルールを理解し、楽しくゲームができるようにする。毎回ゲームを行い、その日の課題を確認する。ゲーム時には各チームから審判、オフィシャルを出し、学生自らがゲーム運営を行い、バスケットボールの競技特性をより深く学ぶ。 学生同士の教えあいの機会を積極的に作り、個々のレベルだけでなくチームの力の向上を図る。 〔受講生への要望〕 各自、体育館用のシューズを必ず用意してください。バスケットボールにふさわしい服装で参加してください。	1.　ファンダメンタルの確認 2.　ファンダメンタルの確認 3.　チーム編成のためのゲーム 4.　チームごとの練習およびゲームプラン 5.　リーグ戦 6.　リーグ戦 7.　リーグ戦 8.　リーグ戦（チーム編成） 9.　リーグ戦 10.　リーグ戦 11.　リーグ戦（チーム編成） 12.　リーグ戦 13.　リーグ戦 14.　リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席、授業態度を重要視します。遅刻は減点の対象とします。

	スポーツ・レクリェーション（バドミントンa）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。	１．年間授業計画の説明　実技実施上の諸注意連絡事項の確認 ２．バドミントン競技の全般的説明　クリヤーの基本 ３．ハイクリヤーの基本練習　ドロップの基本 ４．クリヤー、ドロップの練習　ヘアピンの基本 ５．各種ストロークの復習　サービスの基本練習 ６．シングルス（半面）の実施　カウント方法の確認 ７．シングルス（半面）の試合　フットワークの基本練習 ８．半面シングルス　審判法の理解 ９．ドライブの基本練習　正規のシングルスゲーム １０．スマッシュの基本練習　シングルスゲーム １１．各種ストロークの練習　ダブルスの基本 １２．ダブルスのルールの理解　試合の実施と審判 １３．グループ毎のダブルスの試合・審判 １４．リーグ戦の実施　結果の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリェーション（バドミントンb）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的な技術やルールについて理解する。各種の技術を試合の中で使い分けられるようにする。 シングルス・ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともにゲームの進行方法の理解を深める。 練習した技術が、実際のゲームの中で有効に生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、より高いレベルのゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行に努める。	１．基本的なストロークの復習　ダブルスの試合方法と審判法の確認 ２．ダブルスの組み合わせの決定　グループによるリーグ戦の実施 ３．ダブルスの基本的フォーメーションの確認　ゲームの実施 ４．ダブルスゲームの実施　問題点の整理 ５．ダブルスゲームの実施　ゲーム結果の分析 ６．ゲームの進行状況の確認　組み合わせの変更 ７．ダブルスゲームの進行　課題の解決 ８．ダブルスゲームの進行と面白さの理解 ９．ゲームの中での課題の練習　高いレベルのゲーム １０．ダブルスゲームの進行　組み合わせの変更 １１．ゲームの中での課題の練習　フォーメーションに合わせたプレーの練習 １２．ゲームの進行　ゲーム・審判とも全員で実施 １３．ゲームの中での課題の練習 １４．ゲームの進行　勝敗・順位の整理
テキスト、参考文献	**評価方法**
田中稔監修『基礎からのバドミントン』ナツメ社 2007	出席回数、授業への参加態度、実技の達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン a）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。	1. オリエンテーション（服装、くつ等）。 2.〜5. グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤー ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の練習、ルールの確認。 6.〜8. シングルスのゲーム、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9.〜11. 技術トレーニング。 12.〜14. シングルスのゲーム。ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

	スポーツ・レクリエーション（バドミントン b）	担当者	田中　茂宏

講義目的、講義概要	授業計画
生涯スポーツへつなげるために、競技スポーツとして楽しむことができるように、基本的技能、知識、練習の仕方を学習する。 練習、ゲームにおける trial & error を通じて課題設定の意義を理解し、実践する。 到達目標 ①学習する者同士がお互いについて、自分自身について考えられるようになる。 ②「まずやってみる」という姿勢、チャレンジについて考えられる。 ③ルールを理解し、ゲームができる。 進め方 ・基礎技術のトレーニングをおこなう。 ・ルール戦術について理解を深める。 ・バドミントンを楽しむための工夫や配慮、特に態度を重視して学習を進める。 ・技能テストをおこなう。 ・レポートを実施して、運動をおこなううえで必要なことを身につける。	1. オリエンテーション（服装、くつ等）。 2.〜5. グリップ、スイング、サービス、ハイクリヤー ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン等の練習、ルールの確認。 6.〜8. シングルスのゲーム、ダブルスのゲーム。技能テスト。 9.〜11. 技術トレーニング。 12.〜14. シングルスのゲーム。ダブルスのゲーム。技能テスト。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出欠状況、授業への参加姿勢、レポートの内容、技能の向上で評価する。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	横矢　勇一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。体育館用シューズを用意すること。	1.　オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2.　基本技と動き（アンダー、オーバー)、パスゲーム１。 3.　レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4.　レシーブとカバーリング （守りのフォーメーション)、パスゲーム３。 5.　基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6.　基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7.　チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション、サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 8.　上記と同じ、ルールの確認、審判の役割と配置 9.　ゲーム。 10.　ゲーム。６チームによるリーグ戦。 11.　上記と同じ。 12.　上記と同じ。 13.　上記と同じ。 14.　上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	横矢　勇一

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。体育館用シューズを用意すること。	1.　チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。基本技術の確認。 2.　上記と同じ。 3.　サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4.　上記と同じ。 5.　スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ） 6.　上記と同じ。 7.　上記と同じ。 8.　ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック)。 9.　上記と同じ。 10.　ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11.　上記と同じ。 12.　ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13.　上記と同じ。 14.　上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボールa)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2. 基本技と動き（アンダー、オーバー)、パスゲーム１。 3. レシーブとトス（ボールのつなぎ)、パスゲーム２。 4. レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム３。 5. 基本技と動き（アンダー　フローターサーブ）サーブレシーブ、基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム１ 6. 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム２。 7. チーム編成（スターティングポジションの決定） サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8. ゲーム、６チームによるリーグ戦。 9. 上記と同じ。８ゲーム、６チームによるリーグ戦。 10. 上記と同じ。 11. 上記と同じ。 12. 上記と同じ。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション(バレーボールｂ)	担当者	太田　朝博

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] 　生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。 [講義概要] 　バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。 [受講者への要望] 　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。	1. チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。 2. 上記と同じ。 3. サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4. 上記と同じ。 5. スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に攻撃スパイク、サーブ) 6. 上記と同じ。 7. 上記と同じ。 8. ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ、ブロック)。 9. 上記と同じ。 10. ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11. 上記と同じ。 12. ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 13. 上記と同じ。 14. 上記と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席４回以上の者に対しては、評価の対象としない。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール a）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バレーボールという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. オリエンテーション 2. ボールに慣れよう（ボール遊び） 基本技術を身に付けよう（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習） 3. いろいろな打ち方の練習 （片手パス、バックパス、サイドパス、対人レシーブ） 4. トス&スパイクの練習、スパイクレシーブの練習 5. ネットプレー（トス&スパイク&ブロックの練習 ネット際のボールの処理など） 6. サーブの練習（アンダー、フローター、サイド、ドライブ、ジャンプサーブ） 7. サーブレシーブからのラリー 8. サーブレシーブフォーメーションを身に付ける 9. ゲーム　（三段攻撃へとつなげていく） 10. ゲーム（　　〃　　） 11. ゲーム（　　〃　　） 12. ゲーム（作戦を立てる） 13. ゲーム（　　〃　　） 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。

	スポーツ・レクリエーション（バレーボール b）	担当者	山口　知恵

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツは健康や体力の維持増進にとって欠かせないものです。健康・体力の維持増進を継続するためには一生涯にわたって行うことのできるスポーツ種目を見つけることが一番です。 また、スポーツを通してもっと自分のことをよく知り、周りをよく見ることもでき、さらにはさまざまな人とのコミュニケーション能力も養えるようになるでしょう。 ここでは、バレーボールという種目を通して技術の習得や試合のルール、マナーを身に付けるだけでなく、上記のような目標を達成したいと思います。	1. 基本技術の復習（アンダーハンドパス、オーバーハンドパス） 2. 基本プレーの復習（トス&スパイク&ブロック&スパイクレシーブ） 3. サーブの練習、サーブレシーブの練習 4. サーブレシーブからのラリー（サーブレシーブフォーメーションの確認） 5. ゲーム　（三段攻撃へとつなげていく） 6. ゲーム　（　　〃　　） 7. スパイクレシーブフォーメーションを身に付ける 8. スパイクレシーブからのラリー 9. ゲーム　（コンビネーションを身に付ける） 10. ゲーム（　　〃　　） 11. ゲーム（作戦を立てる） 12. ゲーム（　　〃　　） 13. ゲーム（　　〃　　） 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を主に、授業への参加態度、技術の向上度などを総合して決めます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

	スポーツ・レクリエーション（フィットネスエクササイズ）	担当者	梶野　克之

講義目的、講義概要	授業計画
心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的に身体運動が必要な時代を迎えている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにしたい。 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニングプログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力の維持・向上について考える。	１．年間授業計画の説明　実施上の諸注意 ２．トレーニングルームの使用上の注意　体力測定について ３．体力測定の実施　体力の現状の把握 ４．トレーニングの実践と理論　最大筋力について ５．トレーニングの実践と理論　最大筋力向上のための負荷の設定について ６．トレーニングの実践と理論　酸素摂取量について ７．トレーニングの実践と理論　最大酸素摂取量の増大について ８．体力測定の実施　前回測定値との比較　負荷の検討 ９．トレーニングの実践と理論　筋持久性について １０．トレーニングの実践と理論　筋持久性のトレーニングについて １１．トレーニングの実践と理論　筋持久性と筋線維 １２．トレーニングの実践と理論 １３．体力測定の実施　測定値の変化について １４．トレーニングの実践と理論　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮下光正『トレーニングの科学的基礎』ブックハウスＨＤ	出席席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度などにより決定する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルａ）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上、マネージメント能力の向上を図る。 受講が決定したら、顔写真１枚を貼った受講票を作成し、毎回出席を取る。 初心者から上級者まで色々な組み合わせによりチームを構成して、ゲームを行う。 受講者の様子や天候等により授業内容が変更になる可能性がある。	第１週 ガイダンス 第２週 実技開始 第３週～第１４週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルｂ）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
フットサルを通じて、コミュニケーション能力の向上、マネージメント能力の向上を図る。 春学期からの継続履修者と秋学期からの履修者の混合になるが、秋学期からの履修者は、顔写真１枚を貼った受講票の提出をしてもらう。 初心者から上級者まで色々な組み合わせによるチームを構成して、ゲームを行う。 受講者の様子や天候等により授業内容が変更になる可能性がある。	第１週 実技とガイダンス 第２週～第１４週 色々な組み合わせによりゲーム
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルａ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成 2．ボールに親しむ　簡易ゲーム 3．ボールコントロール　ボールタッチ・ドリブル 4．ボールコントロール　パス 5．1対1の攻防 6．ポジションの理解 7．GKトレーニング 8．2対1の攻防 9．1対2の攻防 10．ルールの理解とゲームの進め方 11．リーグ戦 12．リーグ戦 13．リーグ戦 14．リーグ戦
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フットサルｂ）	担当者	神宮司　親治

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 フットサルというスポーツを楽しめるように、基本技術を習得し、ゲームを楽しみながら、ルール、審判法、ゲームの進め方などを学ぶ。フットサルというチームスポーツを通して、コミュニケーションの重要性を理解し、自主性や協調性を養う。また生涯を通してスポーツに親しむ足がかりとする。 〔講義概要〕 フットサルの基本技術を習得し、ルールを理解したうえで、楽しくゲームができるようにする。ゲームを中心に行っていくがプレーヤーとしてだけでなく、審判法、ゲーム運営なども学ぶ。 〔受講者への要望〕 ・フットサルにふさわしいシューズと服装を準備する。 ・授業はグラウンド（人工芝）で行う。雨天時もグラウンドで実施することがある。 ・ピアス・指輪などのアクセサリーは外すこと。	1．復習　基本技術の確認 2．攻撃のグループ戦術 3．守備のグループ戦術 4．セットプレーからの攻撃 5．セットプレーに対する守備 6．チームごとの練習① 7．審判法ならびにゲーム運営 8．リーグ戦① 9．リーグ戦② 10．リーグ戦③ 11．チームごとの練習② 12．リーグ戦④ 13．リーグ戦⑤ 14．リーグ戦⑥
テキスト、参考文献	**評価方法**
	評価は出席点を重視し、授業態度、技術の向上などを加味し実施する。欠席時数4回以上のものについては、評価の対象としない。交通機関および体調等のやむを得ない事情以外の遅刻は認めない。

	スポーツ・レクリエーション（フリスビーａ）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）の競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 通称フリスビーと呼ばれるフライングディスクには数多くの専門競技があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 200m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、また投げ方も一通りではありません。本授業では、この専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 〔受講者への要望〕 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しい競技ですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1. イントロダクション　フライングディスクとは 2. 基礎投法　技術練習（バックハンドスロー） 3. 基礎投法　技術練習（サイドアームスロー） 4. 技能記録会　遠投　アキュラシー競技（的当てゲーム） 5. 集団ゲーム　アルティメット競技　導入 6. 集団ゲーム　アルティメット競技　基礎 7. 集団ゲーム　アルティメット競技　基礎 8. 個人競技　セルフコートフライト 9. 個人競技　ディスクゴルフ 10. 個人競技　ディスクゴルフ 11. アルティメット競技　発展 12. アルティメット競技　発展 13. 個人総合練習 14. 技能記録会　遠投　アキュラシー競技
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席、技術、理解の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果を加味して評価します。 理解については簡易なペーパーテストを実施します。

	スポーツ・レクリエーション（フリスビーｂ）	担当者	村山　光義

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義の目標〕 1. フリスビー（フライングディスク）投法技術の習得。 2. フリスビー（フライングディスク）の競技・文化の理解。 3. 授業を通じたコミュニケーション能力の向上。 〔講義概要〕 通称フリスビーと呼ばれるフライングディスクには数多くの専門競技があります。ディスクの最大の特徴は世界記録で 200m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性です。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、また投げ方も一通りではありません。本授業では、この専門競技の紹介と投法技術の練習実践を通じ、新たなスポーツ文化を吸収してもらいます。雨天時には技術や競技の解説講義を行うこともあります。 〔受講者への要望〕 「フリスビーなんてただの遊びでしょ」と思ったら大間違い。専門競技の中では、投げ方はもちろん、風の読みやディスク自体の選択など多くの要素による変化があります。また、集団ゲームのアルティメットは非常に激しい競技ですし、ディスクゴルフは自己との戦いです。この新しいスポーツに是非挑戦してみてください。	1. 基礎投法の確認 2. 技能記録会　遠投　アキュラシー競技（的当てゲーム） 3-4. 集団ゲーム　アルティメット競技 5. 集団ゲーム　ガッツ競技 6-8. 個人競技　ディスクゴルフ 9-10. 個人競技　セルフコートフライト 11-12. アルティメット競技　リーグ戦 13. 技能記録会　遠投　アキュラシー競技
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて印刷物を配布します。	出席、技術、理解の 3 項目で評価します。 技術については記録会の結果を加味して評価します。 理解については簡易なペーパーテストを実施します。

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスａ)	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 　欧米では、今も身近にあるボールルームダンス（社交ダンス)。日本でも、生涯スポーツとして、幼稚園児から高齢者まで幅広く踊られています。 　目の前の相手とのコミュニケーションの取り方、音楽にのって体を動かす楽しさを学びながら、踊れるようになることを目標にしています。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、正しい姿勢及び、柔軟な体づくりをします。音楽にのって楽しく踊るための、正しい技術を学習します。１０種目のうち５種目を踊れるようにします。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。(ただし、ジーンズ、半ズボン不可)	１．　オリエンテーション　ボールルームダンスとは ２．　正しい立ち方、歩き方 ３．　ラテン　サンバ基本編① ４．　ラテン　サンバ基本編② ５．　ラテン　ジャイブ基本編① ６．　ラテン　ジャイブ基本編② ７．　モダン　ワルツ基本編① ８．　モダン　ワルツ基本編② ９．　モダン　タンゴ基本編① １０．　モダン　タンゴ基本編② １１．　モダン　ウインナーワルツ基本編 １２．　手及び腕の使い方 １３．　体の各部分の使い方 １４．　各種目まとめ、及び応用編
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席状況と受講態度を重要視します。

	スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスｂ)	担当者	内堀　祐子

講義目的、講義概要	授業計画
［講義目標］ 春学期にボールルームダンスの受講の続きになります。 前学期より自然に踊れることを目標とし、基本の復習、さらに高度なステップを学んでいきます。 ［講義概要］ ボールルームダンスを通じて、バランスのよい筋肉をつけていきます。１０種目のうち春学期に行わなかった、５種目を学習します。 ［受講生への要望］ 社交ダンスシューズを使用します。 動きやすい服装で受講してください。(ただし、ジーンズ、半ズボン不可)	１．　ラテン　ルンバ基本編① ２．　ラテン　ルンバ基本編② ３．　ラテン　チャチャチャ基本編① ４．　ラテン　チャチャチャ基本編② ５．　回転動作の学習 ６．　モダン　スローフォックストロット基本編① ７．　モダン　スローフォックストロット基本編② ８．　モダン　クイックステップ基本編① ９．　モダン　クイックステップ基本編② １０．　ラテン　パソドブレ基本編① １１．　ラテン　パソドブレ基本編② １２．　リードとフォローについて １３．　だれとでも楽しく踊るマナーについて １４．　１０種目の振り返り
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	出席状況と受講態度を重要視します。

（春）	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。 [講義概要] 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については天候と学生の要望に応えて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。	1.授業の内容と計画についての説明 2.仲間つくりの時間：グループゲーム 3.仲間つくりの時間：グループゲーム 4.アウトドアクッキングの計画 5.仲間つくりの時間：アウトドアクッキング 6.アウトドアレクリエーション種目 7.アウトドアレクリエーション種目 8.アウトドアレクリエーション種目 9.アウトドアレクリエーション種目 10.アウトドアレクリエーション種目 11.アウトドアレクリエーション種目 12.アウトドアレクリエーション種目 13.アウトドアレクリエーション種目 14.合宿についてのオリエンテーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、プリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（夏季集中）	スポーツ・レクリエーション（アウトドア海浜・ウィンドサーフィン）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
夏季集中合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの２つの合宿のうち、どちらか一つに参加してもらいます。 海浜型野外活動では、新潟県佐渡島を舞台にスキンダイビング、シーカヤック、蛍狩り、夜空の観察、釣り等、良好な自然環境と地域の利点を活かすプログラムを体験してもらいます。 ウィンドサーフィンでは、千葉県館山市の獨協学園海の家で、ウィンドサーフィン技術の習得を通して海浜環境の特徴を知ることにより、安全で楽しく過ごすためのノウハウを知ってもらいます。 どちらの活動も自然環境を背景としますので、天候により、活動内容を変えることがあります。 [受講者への要望] 夏季集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。	[集中授業]「海浜型アウトドアレクリエーション」 場所：新潟県佐渡市 期日：2010 年 8 月下旬 4 泊 5 日 費用：33,400 円（宿泊費、傷害保険料、プログラム費） （内 30,400 円を自動発行機で振込、3,000 円を現地徴収） [集中授業]「ウインドサーフィン」 場所：千葉県館山市 期日：2010 年 9 月中旬 4 泊 5 日 費用：18,000 円（宿泊費、食費、傷害保険料、プログラム費） （内 11,000 円を自動発行機で振込、7,000 円を現地で徴収）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

	スポーツ・レクリエーション（アウトドアレクリエーション）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
秋田県で行う合宿授業とのセットとなっており、合宿で必要になる能力をトレーニングする。 脚力養成のためノルディックウォーキングを行う。 昼食作りを通じて野外での飲食のトレーニングをする。 大学近郊を観察し、環境への理解を深める。 地図の見方、コンパスの使い方をマスターする。 授業場所は毎回掲示する。 顔写真１枚を貼った受講票を作成する。	第１週 ガイダンス 第２週 実技開始 第３週～第１３週 ノルディックウォーキング、昼食作り、大学周辺のウォークラリーなど 第１４週 山岳型合宿ガイダンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

	スポーツ・レクリエーション（アウトドア山岳）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドア山岳型の合宿を通じて、コミュニケーション能力の向上、マネージメント能力の向上を図る。 受講者数により、２班または３班編成で、担当者＋指導教員１名または２名で行う。 リュックサック、雨具など個人装備として必要なものがある。 学内の授業とのセット履修が原則となっている。 所定の費用を大学に納入すること。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録すること。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。	合宿期間：２０１0年８月を予定 合宿場所：秋田県仙北市田沢湖町 宿泊場所：友情苑 合宿費用：２９０００円（交通費は別） （１泊３食７５００円×３日＝２２５００円） （現地行動費４日間５５００円） （保険・雑費１０００円） 行先予定　抱き返り渓谷往復 駒ケ岳山頂往復 駒ケ岳→乳頭山→乳頭温泉郷縦走 田沢湖一周
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	合宿参加、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

（秋）	スポーツ・レクリエーション（バランストレーニング）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
個人のバランスをトレーニングすることによって、運動能力と、スポーツを楽しむ能力とを向上させることを目的とする。 授業はアリーナで行う。ボールゲーム、トランポリン、インラインスケート、バランスボール、バランスボード、ノルディックウォーキングなどなど・・・色々な運動を行う予定である。 顔写真１枚を貼った受講票を作成する。 スノースポーツ合宿とのセット履修となっている。	第１週 ガイダンス 第２週 実技開始 第３週～第１３週 ボールゲーム、トランポリン、バランスボール、バランスボード、インラインスケート、ノルディックウォーキングなど 第１４週 スノースポーツ合宿ガイダンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	毎回の、出席、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

（冬季集中）	スポーツ・レクリエーション（スノースポーツ）	担当者	松原 裕

講義目的、講義概要	授業計画
スノースポーツを通じて、滑走するスポーツを経験し、合宿を通じて、コミュニケーション能力の向上を図る。 アルペンスキー、スノーボード、スノーブレード、ファンカービングスキーなどなど・・・色々なスノースポーツを行う。 受講者数により、２班または３班編成で、担当者＋指導教員１名または２名で行う。 学内のバランストレーニング授業とのセット履修が原則となっている。 所定の費用を大学に納入すること。 （注意）この授業のみを履修したい場合には、スポーツ・レクリエーション準備室にて担当者の許可を得てから履修登録すること。この場合の合宿ガイダンスは、別途に行う。	合宿期間：２０１１年２月を予定 合宿場所：セントレジャー舞子スノーリゾートまたは 秋田県たざわ湖スキー場 宿泊場所：外谷旅館または友情苑 合宿費用：２９０００円（交通費・レンタル代は別） （１泊３食６０００円×３日＝１８０００円） （リフト料金４日間１００００円） （保険・雑費１０００円）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	合宿参加、受講態度、担当者とのコミュニケーション、以上を総合して評価する。

（秋）	スポーツ･レクリエーション（スケートトレーニング）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。秋学期の毎週の授業ではアイススケートを目的としたインラインスケートでの練習を行います。 アイススケートはメディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。カーリングは、長野オリンピックから正式種目となり、カーリングを題材とする映画もつくられましたが、まだまだマイナーなスポーツです。どちらのスポーツも、氷の上で行いますが、近年アイススケート場が次々と閉鎖され、体験のチャンスが少なくなっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてあなたの可能性を広げてみませんか。 秋学期の毎週の授業と冬季集中授業の組み合わせですので、どちらか一つだけを受講することはできません。スケート、カーリング初心者の方から受講できます。	1 オリエンテーション（更衣不要） 2 用具あわせ、基本動作 3 基本動作 4 フォアストロークとバリエーション その１ 5 フォアストロークとバリエーション その２ 6 ホッケーにチャレンジ その１ 7 ホッケーにチャレンジ その２ 8 バックストロークとバリエーション その１ 9 バックストロークとバリエーション その２ 10 フォアクロッシング その１ 11 フォアクロッシング その２ 12 バッククロッシング その１ 13 バッククロッシング その２ 13 バッククロッシング その３ 14 集中授業についてのオリエンテーション ストップ、ステップ、カーブ、トランジション等は皆さんの上達状況に応じて、適宜取り入れていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じプリントを配布します。	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

（冬季集中）	スポーツ･レクリエーション（アイススポーツ）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期のスケートトレーニングの授業との組み合わせで受講してもらいます。アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。 長野県軽井沢町のアイススケート、カーリング施設を利用し、3 泊 4 日で合宿を行います。 アイススケートとカーリング アイススケートは、アイススケートの基本的な滑走技術の習得を目指します。技術の進歩度や天候によって内容を変えます。 カーリングは、試合を楽しめるまでの基本的な知識、技術を学習します。 親しい友人をつくる 合宿生活ですので、親しい友人を持つ絶好のチャンスとなります。	合宿について 時期： 2010 年 12 月下旬予定 3 泊 4 日 場所： 長野県軽井沢町 現地集合解散 宿泊： 施設に近い民宿を利用 費用： 27,100 円（宿泊費、傷害保険料、入場料、貸靴代、プログラム費他） (内、20,100 円を自動発行機で振込、7,000 円を現地徴収) 1 日目 午後： アイススケート 靴合わせと基本的技術 夜 ： 講義「カーリングの楽しみ方」 2 日目 午前： カーリング 道具の扱い方と基本技術 午後： カーリング大会 夜 ： 講義「アイススケートの基本」 3 日目 午前： アイススケート 午後： アイススケート 夜 ： 懇親会 4 日目 午前： アイススケート 午後： 昼食後解散 施設の都合により予定を変更することがあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、授業への取り組み姿勢、目標達成度で判断します。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディングⅠa) / (Academic Reading Strategies Ⅰa) English 111-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies Ⅰ とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語講読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(１月)に全員TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示にしたがうこと。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディングⅠb) / (Academic Reading Strategies Ⅰb) English 111-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○ Academic Listening Strategies Ⅰ とともに、全学共通カリキュラム英語科目の中核となる重要な科目である。原則として通年で履修すること。 ○ 中学校・高等学校の英語から大学英語への橋渡しをすると同時に、各自の専門科目への橋渡しをすることを目的とする。 ○ 現代社会、文化などに関する教材を用いて、語彙の習得・早く正確に読む力等を含む英語講読の力をつけることを目標とする。授業では連絡事項・配布資料が多いので、きちんと目を通し、しっかりと学習すること。 ○ TOEIC 語彙を身に着けるための統一副教材を使用する。 ○ 英語力を伸ばすために不可欠である教室外で英語に触れる機会を増やす方法として、コンピューターによる英語学習が義務づけられている。オリエンテーションや授業で配布される資料に目を通し、日常的に学習すること。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。 毎週、TOEIC 語彙副教材を範囲とした語彙小テストを実施するのでしっかり学習し、欠席することなく受講・受験すること。 教室外でのコンピューター学習に基づいた問題が期末テストに出題されるので、きちんと学習すること。 年度末(１月)に全員 TOEIC を受験するので、計画的に学習すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は各担当教員の指示にしたがうこと。 TOEIC 語彙学習のための統一副教材は全員購入のこと。	各担当教員の指示にしたがうこと。

08 年度以降（春）	English(リーディング I a) / (Academic Reading Strategies I a)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
外国語学部(ドイツ語学科・フランス語学科）・経済学部・法学部の１年生で、入学時のTOEIC テストスコアが高かった学生を対象とした、学部の枠を取り払ったリーディングの科目です。 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力を伸ばすことを目的とします。授業活動はリーディングを中心に、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションを取り入れ、総合的にアカデミックスキルを伸ばします。授業活動はすべて英語です。学生中心の授業ですので、積極的に参加してください。 原則として通年で履修すること。	Lesson 1　Course introduction Lesson 2-14　Weekly TOEIC Vocabulary Quiz Follow the details in the instructor's class syllabus.
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ・『新 TOEIC Test 入門 1200 語―スコア 470 レベル』語研 ・*ALC NetAcademy* Standard Reading Course Unit 1-25 ・English-English dictionary and thesaurus	出席・参加 20%　単語クイズ 10% 課題・中間試験　30% 期末試験（ALC Reading 含む）40%

08 年度以降（秋）	English(リーディング I b) / (Academic Reading Strategies I b)	担当者	飯島　優雅

講義目的、講義概要	授業計画
外国語学部(ドイツ語学科・フランス語学科）・経済学部・法学部の１年生で、入学時のTOEIC テストスコアが高かった学生を対象とした、学部の枠を取り払ったリーディングの科目です。 様々なリーディングストラテジーを訓練し、専攻分野の学びや社会人としての知的活動に不可欠な、アカデミックな文章を効果的かつ批判的に読む力を伸ばすことを目的とします。授業活動はリーディングを中心に、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションを取り入れ、総合的にアカデミックスキルを伸ばします。授業活動はすべて英語です。学生中心の授業ですので、積極的に参加してください。 原則として通年で履修すること。	Lesson 1　Course introduction Lesson 2-14　Weekly TOEIC Vocabulary Quiz Follow the details in the instructor's class syllabus.
テキスト、参考文献	**評価方法**
・教科書は第 1 回目の授業の指示に従うこと。 ・『新 TOEIC Test 入門 1200 語―スコア 470 レベル』語研 ・*ALC NetAcademy* Standard Reading Course Unit 1-25 ・English-English dictionary and thesaurus	出席・参加 20%　単語クイズ 10% 課題・中間試験　30% 期末試験（ALC Reading 含む）40%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング Ia) / (Academic Writing Ia: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的に書けるようになることである。そのためには、書き始める前にプラニングをし、トピック・センテンスやサポーティング・センテンスを用いてパラグラフを完成させることが求められる。「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目である。 これまでに学んだ語彙や文法を基に、パラグラフを完成させる「プロセス」を大切する姿勢も学んでほしい。課題にはきちんと取り組み、必要に応じて行われる添削指導から少しでも多くのことを学べるよう努力してほしい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回　ガイダンス 第２回　Paragraph Organization 第３回　Unity and Coherence 第４回　Punctuation and Capitalization 第５回　Brainstorming & Outlining 第６回　Descriptive Paragraphs 第７回　Descriptive Paragraphs 第８回　Descriptive Paragraphs 第９回　Process Paragraphs 第１０回　Process Paragraphs 第１１回　Opinion Paragraphs 第１２回　Opinion Paragraphs 第１３回　Opinion Paragraphs 第１４回　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング Ib) / (Academic Writing Ib: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 春学期に引き続き、アカデミック・ライティングの基礎となるパラグラフの構造を学び、情報や出来事、自分の考えなどに関して論理的に書けるようになることを目標とする。秋学期には、書き始める前のプラニング、トピック・センテンスやサポーティング・センテンスなどの役割を理解し、より短い時間でパラグラフを完成させることが求められる。引き続き、「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目であることに注意してもらいたい。 春学期同様、課題にはきちんと取り組み、パラグラフを完成させるプロセスを大切にしてほしい。必要に応じて行われる添削指導から少しでも多くのことを学べるよう努力し、今学期は、他の英語クラスのテキストで使用されている語彙や表現も用いてパラグラフを完成させることができると望ましい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第１回　ガイダンス 第２回　Review of Paragraph Organization 第３回　Narrative Paragraphs 第４回　Narrative Paragraphs 第５回　Classification Paragraphs 第６回　Classification Paragraphs 第７回　Classification Paragraphs 第８回　Comparison / Contrast Paragraphs 第９回　Comparison / Contrast Paragraphs 第１０回　Comparison / Contrast Paragraphs 第１１回　Opinion Paragraphs 第１２回　Opinion Paragraphs 第１３回　Opinion Paragraphs 第１４回　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる

08 年度以降（春）	English (スピーキング Ia) / (Speaking in Academic Contexts Ia)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies you need to start a conversation in English, keep it going, and end it smoothly. You will also learn the vocabulary necessary to discuss topics of interest to you. A lot of class time will be spent practicing so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and more naturally. You will also improve your listening skills. Evaluation will be based on five vocabulary quizzes, in-class performance and a final exam. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略 (ストラテジー) に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。 練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。 評価は、5 回の語彙テスト、授業への積極的な参加、宿題、クラス内での発表と期末試験に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Self-introductions Classes 4, 5 - Family Classes 6, 7 - Sports Class 8 - Midterm review Classes 9, 10 - Food Classes 11, 12 - Part-time jobs Class 13 - Review Class 14 - In-class evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kenny, T., & Woo, L. *Nice Talking with You (Bonus Edition)*.	Vocabulary quizzes 25% (5 x 5%) Participation/homework 30% In-class evaluation 20% Final exam 25%

08 年度以降（春）	English (スピーキング Ib) / (Speaking in Academic Contexts Ib)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
In this class, we will try to develop one of your most important English communication skills: speaking. This course will focus on the strategies you need to start a conversation in English, keep it going, and end it smoothly. You will also learn the vocabulary necessary to discuss topics of interest to you. A lot of class time will be spent practicing so that you can build confidence as a speaker of English. The more you practice, the more you will be able to speak clearly and more naturally. You will also improve your listening skills. Evaluation will be based on five vocabulary quizzes, in-class performance and a final exam. 経済学部クラス指定科目です。この科目では、春学期に引き続き、英語コミュニケーションの基本となるスピーキングを学びます。大学生として必要なコミュニケーションの方略 (ストラテジー) に注目し、スムーズに会話ができるように学び、また、会話に必要な語彙も学びます。 練習を重ねることで、自信もつき、より滑らかに話せるようになります。また、リスニングの力もつきます。春学期に比べて力がついているのを実感してください。評価は、5 回の語彙テスト、授業への積極的な参加、宿題、クラス内での発表と期末試験に基づいて出されます。	Tentative schedule: Class 1 - Course introduction, etc. Classes 2, 3 - Friends Classes 4, 5 - School Classes 6, 7 - Music Class 8 - Midterm review Classes 9, 10 - Dating Classes 11, 12 - Travel Class 13 - Review Class 14 - In-class evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Kenny, T., & Woo, L. *Nice Talking with You (Bonus Edition)*.	Vocabulary quizzes 25% Participation/homework 30% In-class evaluation 20% Final exam 25%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（リスニングⅠa） / (Academic Listening Strategies I a) English 141-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した基礎英語の知識を、大学での研究や仕事で必要とされる実践的なリスニング能力に発展させる訓練をする授業です。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。さらに、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies Ⅰ とともに、原則として通年で履修すること。	Class 1 Course introduction/Unit 1: Pleased to meet you Class 2 Unit 1: Pleased to meet you Class 3 Unit 1 Test /Unit 2: What's new? Class 4 Unit 2: What's new? Class 5 Unit 2 Test/Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 6 Unit 3: Where can I catch a taxi? Class 7 Unit 3 Test/Unit 4: I need to reschedule Class 8 Unit 4: I need to reschedule Class 9 Unit 4 Test/Unit 5: Do you have a hobby? Class 10 Unit 5: Do you have a hobby? Class 11 Unit 5 Test/Unit 6: You need a passport Class 12 Unit 6: You need a passport Class 13 Unit 6 Test/Review Unit 1-6 Class 14 Review TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beatty, K & Tinkler, P. (2008). *Sounds Good Student Book 2*. Pearson Longman. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加など 20% ユニットテスト 30%（5% x 6 回） 統一期末試験 40% 課題 10%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（リスニングⅠb） / (Academic Listening Strategies I b) English 141-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、基礎英語の知識を、専門分野研究や仕事で必要とされる実践的なリスニング能力に発展させる訓練をします。(1) 状況や場面にふさわしい英語表現を習得し、(2) 身近なテーマに関する様々な会話を聴き、(3) リスニングストラテジーを意識的に使って効果的に聴き、(4) 話の主旨や大切な情報を正確に聴きとる力を身に付けます。また、英語は世界の共通語となっていることから、ネイティブの英語だけでなく、(5) 世界中で話される様々な英語を聴きます。さらに、オンラインやポッドキャストを利用したリスニングやTOEICの聴解問題練習を取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。リスニングを支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies Ⅰ とともに、原則として通年で履修すること。 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。	Class 1 Course introduction/Unit 7: May I see the menu? Class 2 Unit 7: May I see the menu? Class 3 Unit 7 Test /Unit 8: Does it hurt? Class 4 Unit 8: Does it hurt? Class 5 Unit 8 Test/Unit 9: How much is this watch? Class 6 Unit 9: How much is this watch? Class 7 Unit 9 Test/Unit 10: What does it do? Class 8 Unit 10: What does it do? Class 9 Unit 10 Test/Unit 11: Who won the match? Class 10 Unit 11: Who won the match? Class 11 Unit 11 Test/Unit 12: You're very energetic Class 12 Unit 12: You're very energetic Class 13 Unit 12 Test/Review Unit 7-12 Class 14 Review TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beatty, K & Tinkler, P. (2008). *Sounds Good Student Book 2*. Pearson Longman. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加など 20% ユニットテスト 30%（5% x 6 回） 統一期末試験 40% 課題 10%

08 年度以降（春）	English（リスニングⅠa） / (Academic Listening Strategies I a)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 高校までに習得した、日常会話を理解するリスニング能力を発展させ、大学での専門的な学びや仕事に必要とされるより高度なリスニング能力の基礎を養うことを目的とします。特にリスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聞き取るなどの訓練をします。また、聴解を支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。さらに、TOEICの聴解問題練習を部分的に取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies Ⅰ とともに、原則として通年で履修すること。	Week 1 Course Introduction Week 2 Chapter 1: Part 2 Social Language Week 3 Chapter 1: Part 3 & Part 4 Broadcast English Week 4 Chapter 1: Part 5 Academic English Week 5 Review/Chapter 1 Test Week 6 Chapter 2: Part 2 Social Language Week 7 Chapter 2: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 8 Chapter 2: Part 5 Academic English Week 9 Review/Chapter 2 Test Week 10 Chapter 3: Part 2 Social Language Week 11 Chapter 3: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 12 Chapter 3: Part 4 Broadcast English Week 13 Review/Chapter 3 Test Week 14 Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass L. & P. Hartmann. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加 20% チャプターテスト 30%（10% x 3 回） 統一期末試験 40% 課題 10%

08 年度以降（秋）	English（リスニングⅠb） / (Academic Listening Strategies I b)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語・法律・国際関係法・総合政策学科の1年生と、経済・経営学科の2年生を対象とする、クラス指定科目です。 春学期に引き続き、大学での専門的な学びや仕事に必要とされる、より高度なリスニング能力の基礎を養うことを目的とします。リスニングストラテジーを意識的に使い、口頭発表の構成や頻出表現をヒントにしてより効果的に理解したり、講義を聴いてノートを取ったり、放送英語（インタビューなど）を聞いて要点を聴き取るなどの訓練をします。また、聴解を支える発音・シャドイング練習やスピーキング練習も行います。さらに、TOEICの聴解問題練習を部分的に取り入れ、自然なスピードの英語を理解する訓練も行います。授業中はできるだけ英語を使い、実際に英語をコミュニケーションの道具として使うことで、リスニングの実践力を身に付けます。 毎授業、USB メモリースティックと教科書を持参すること。 経済学部生以外は、Academic Reading Strategies Ⅰ とともに、原則として通年で履修すること。 1 月に全員 TOEIC IP を受験します。計画的に授業外でも学習すること。	Week 1 Course Introduction Chapter 4: Part 2 Social Language Week 2 Chapter 4: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 3 Chapter 4: Part 5 Academic English Week 4 Review/ Chapter 4 Test Week 5 Chapter 5: Part 2 Social Language Week 6 Chapter 5: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 7 Chapter 5: Part 5 Academic English Week 8 Review/Chapter 5 Test Week 9 Chapter 6: Part 2 Social Language Week 10 Chapter 6: Part 3 Mechanics of Listening & Speaking Week 11 Chapter 6: Part 4 Broadcast English Week 12 Chapter 6: Part 5 Academic English Week 13 Review/Chapter 6 Test Week 14 Review/TOEIC exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Blass L. & P. Hartmann. (2007). *Quest Intro: Listening & Speaking*. McGraw-Hill. 教科書購入時には、自分が使用する教科書を間違えないよう、曜日・時限・担当教員名を必ず確認してください。	出席・授業参加 20% チャプターテスト 30%（10% x 3 回） 統一期末試験 40% 課題 10%

08 年度以降（春）	English (リスニング Ia) / (Academic Listening Strategies Ia)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and summary / response writing will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - take effective notes & use them to write summary / responses - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	1. Introduction to the course 2. Preview of lecture 1 3. Lecture 1, post-listening tasks 4. Preview of lecture 2 5. Lecture 2, post-listening tasks 6. Preview of lecture 3 7. Lecture 3, post-listening tasks 8. Preview of lecture 4 9. Lecture 4, post-listening tasks 10. Preview of lecture 5 11. Lecture 5, post-listening tasks 12. Preview of lecture 6 13. Lecture 6, post-listening tasks 14. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework / unit quizzes (40%), final exam (40%)

08 年度以降（秋）	English (リスニング Ib) / (Academic Listening Strategies Ib)	担当者	M. クロフォード

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' ability to comprehend introductory-level academic lectures in various fields. In order to accomplish this, students will build their academic vocabulary, practice effective note-taking strategies, learn about how lectures are typically organized, and develop their critical thinking skills. In addition to actually listening to various lectures, pre- and post-listening activities such as discussions, short presentations, and summary / response writing will also be undertaken. Students will be expected to participate actively in class. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: - identify main and supporting ideas in lectures and understand the relationship between them - take effective notes & use them to write summary / responses - think critically about lectures and express their opinions about them - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	1. Introduction to the course 2. Preview of lecture 1 3. Lecture 1, post-listening tasks 4. Preview of lecture 2 5. Lecture 2, post-listening tasks 6. Preview of lecture 3 7. Lecture 3, post-listening tasks 8. Preview of lecture 4 9. Lecture 4, post-listening tasks 10. Preview of lecture 5 11. Lecture 5, post-listening tasks 12. Preview of lecture 6 13. Lecture 6, post-listening tasks 14. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework / unit quizzes (40%), final exam (40%)

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディングⅡa) / (Academic Reading StrategiesⅡa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○全カリ英語では、１年次での講読科目であるEnglish （リーディング I）を重要なコア科目と位置付けているが、このEnglish （リーディング II） はその上位科目であり、原則として２年次で履修すること。原則として通年で履修すること。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○English I のレベルからさらに力を伸ばすべく、熱心に取り組んでもらいたい。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末（1 月）に、全員TOEIC 試験を受験するので、計画的に学習を進めて行くこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。	Attendance / active participation / preparation /TOEIC Vocab Quiz/ Assignments / Project/ Final Exam などを基に評価する。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディングⅡb) / (Academic Reading StrategiesⅡb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
○春学期に引き続き、大学生として必要なリーディング力を向上させることを目標とする。 ○原則として2 年次で通年で履修であり、本科目は秋学期に履修すること。積極的に取り組んでもらいたい。 ○現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ教材を用いた講読授業である。 ○すばやく趣旨を読み取る、読み取った内容をまとめる、それについて考え、意見を持つ、などの訓練を行う。 ○なお、教室外において、コンピュータを用いた語彙学習が義務付けられているので、積極的に取り組むこと。 ○年度末（1 月）に、全員TOEIC 試験を受験するので、1 年次より必ずスコアがアップするよう、計画的に学習を進めて行くこと。	授業計画と評価方法については、各担当者から個別のシラバスが配布されるので、それを参照すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと。指定の教科書の他、共通の副読本として、5-Minute Quizzes for the TOEIC Test を使用する。	Attendance / active participation / preparation /TOEIC Vocab Quiz/ Assignments / Project/ Final Exam などを基に評価する。

08 年度以降（春）	English（リーディング II a） / (Academic Reading Strategies IIa)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、ドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の 2 年次の学生を対象としています。1 年終了時の TOEIC テストスコアが高かった学生を対象に、学部の枠を取り払った授業を行います。各学部の必修科目の時間帯を避けるために 5 限目という時間帯に入っていますが、このクラスに該当する学生はぜひ履修してください。 ・原則として通年で履修することが条件です。 ・ARS I に引き続き、読解力をさらにアップさせるための科目です。 ・専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行います。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用いる予定です。 ・3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつける訓練します。 ・効果的に読むためのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現できるようになることを目指します。 ・毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておいてください。	Tentative Schedule for the Spring Term Class 1　Course Introduction Class 2　UNIT 1: Society: School and family Class 3　UNIT 1: Society: School and Family Class 4　UNIT 1: Society: School and Family Class 5　UNIT 1: Society: School and Family Class 6　UNIT 1: Society: School and Family Class 7　Midterm Examination Class 8　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 9　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 10　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 11　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 12　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 13　UNIT 2: Influences on our lives: Nature vs. nurture Class 14　Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocabulary Quizzes Assignments Midterm / Final Exam

08 年度以降（秋）	English（リーディング II b） / (Academic Reading Strategies IIb)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の授業の継続として、更なる語彙力、文法力をつけ、大学生にふさわしい総合的な英語運用力を身につけることを目標とします。 ・専攻が異なる学生がそれぞれ楽しんでもらえる教材を選び、多読・速読・精読の訓練を行います。補助題材は主に、新聞・雑誌などの記事を用いる予定です。 ・3 年次以降の各自の専門分野にも生かせる英語力をつける訓練します。 ・効果的に読むためのストラテジーを鍛え、さらに語彙力、文法力をつけて、内容を的確に把握し、批判的に吟味し、さらにそれに対する自分の考えを表現できるようになることを目指します。 ・毎週授業のはじめに TOEIC の Vocabulary Quiz を行うので準備しておいてください。	Tentative Schedule for the Spring Term Class 1　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 2　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 3　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 4　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 5　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 6　UNIT 3: Technology and ethical issues Class 7　Midterm Examination Class 8　UNIT 4: The Environment Class 9　UNIT 4: The Environment Class 10　UNIT 4: The Environment Class 11　UNIT 4: The Environment Class 12　UNIT 4: The Environment Class 13　UNIT 4: The Environment Class 14　Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教員の指示に従うこと。	Attendance / active participation / preparation TOEIC Vocabulary Quizzes Assignments Midterm / Final Exam

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング IIa) / (Academic Writing IIa: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、エッセイを書けるようになることである。そのためには、書き始める前のプラニングや thesis statement、topic sentence などの役割を理解し、ルールに基づいてエッセイを完成させることが求められる。English I と同様に、「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目である。 課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させる「プロセス」を大切する姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイを分析し、学ぶべきルールを習得する姿勢も大切である。他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現もエッセイを書く時に使えるよう努力してもらいたい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第 1 回　ガイダンス 第 2 回　Review of Paragraph Organization 第 3 回　Listing-Order Paragraphs 第 4 回　Listing-Order Paragraphs 第 5 回　Essay Organization 第 6 回　Essay Organization 第 7 回　Descriptive Essays 第 8 回　Descriptive Essays 第 9 回　Descriptive Essays 第 10 回　Opinion Essays 第 11 回　Opinion Essays 第 12 回　Opinion Essays 第 13 回　Opinion Essays 第 14 回　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング IIb) /(Academic Writing IIb: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際関係法学科・総合政策学科では、本科目がクラス指定科目となっている。原則として通年で履修すること。 本科目の目標は、春学期に引き続き、Academic Writing I で学んだパラグラフの知識を基に、エッセイを書けるようになることである。今学期は、書き始める前のプラニングをよりスムーズに行い、thesis statement や topic sentence などを適切に用いてエッセイを完成させることが求められる。English I と同様に、「和文英訳」ではないライティング力を習得する重要な科目であることに注意してもらいたい。 春学期同様、課題にはきちんと取り組み、添削指導を通し、エッセイを完成させるプロセスを大切する姿勢を学んでほしい。モデル・エッセイの分析や、他の英語科目のテキストや英字新聞などで用いられている語彙や表現を用いるスキルの習得にも更に努力してもらいたい。	各担当者により具体的な授業計画が異なるため、第１回目の授業で担当者からシラバスを受け取ること。以下は授業計画の一例である。 第 1 回　ガイダンス 第 2 回　Review of Essay Organization 第 3 回　Definition Paragraphs 第 4 回　Definition Paragraphs 第 5 回　Definition Paragraphs 第 6 回　Argumentative Essays 第 7 回　Argumentative Essays 第 8 回　Argumentative Essays 第 9 回　Argumentative Essays 第 10 回　Comparison / Contrast Essays 第 11 回　Comparison / Contrast Essays 第 12 回　Comparison / Contrast Essays 第 13 回　Comparison / Contrast Essays 第 14 回　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員の指示に従うこと	出席（積極的な参加）、課題提出、期末テストによる総合評価となる

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (リスニング IIa)/(Academic Listening Strategies IIa) English 241-a Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts and / or academic lectures and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and summary writing will also be undertaken. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - use notes to write summaries of listening passages - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL)	1. Introduction to the course 2. Preview of lecture 1 3. Lecture 1, post-listening tasks 4. Preview of lecture 2 5. Lecture 2, post-listening tasks 6. Preview of lecture 3 7. Lecture 3, post-listening tasks 8. Preview of lecture 4 9. Lecture 4, post-listening tasks 10. Preview of lecture 5 11. Lecture 5, post-listening tasks 12. Preview of lecture 6 13. Lecture 6, post-listening tasks 14. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework / unit quizzes (40%), final exam (40%)

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (リスニング IIb)/(Academic Listening Strategies IIb) English 241-b Basic Listening Comprehension	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to build on the skills and strategies students acquired in ALSI. Students will listen to news broadcasts and / or academic lectures and takes notes as they listen. Pre- and post-listening tasks such as vocabulary building exercises, discussions, short presentations, and summary writing will also be undertaken. Main skill objectives By the end of the course students should be able to: - understand the main ideas of news broadcasts and/or academic lectures - understand how supporting ideas are related to main ideas - take notes effectively as they listen - use notes to write summaries of listening passages - guess unknown words from context - demonstrate understanding of words in the Academic Word List (AWL) 秋学期は上記の活動に加え、TOEIC®のリスニング練習を行います。	1. Introduction to the course 2. Preview of lecture 1 3. Lecture 1, post-listening tasks 4. Preview of lecture 2 5. Lecture 2, post-listening tasks 6. Preview of lecture 3 7. Lecture 3, post-listening tasks 8. Preview of lecture 4 9. Lecture 4, post-listening tasks 10. Preview of lecture 5 11. Lecture 5, post-listening tasks 12. Preview of lecture 6 13. Lecture 6, post-listening tasks 14. Wrap-up and review for final exam
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で指示する	Attendance and participation (20%), homework / unit quizzes (40%), final exam (40%)

08 年度以降（春）	English (リスニング IIa) / (Academic Listening Strategies IIa)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener and learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as gender, diet, and the environment), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance as well as examinations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - Gender and spending habits Classes 5 to 7 - Advertisements in everyday life Classes 8 to 10 - Diet Classes 11 to 13 - The effects of air pollution Class 14 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation / discussion 10% Presentation 30% Midterm exam 30% Final exam 30%

08 年度以降（秋）	English (リスニング IIb) / (Academic Listening Strategies IIb)	担当者	J. ラシーン

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on practical listening skills for academic purposes. Emphasis will be placed on the use of strategies that will make you a better listener and learner, not just in English, but in any language and in ALL of your classes. While exploring interesting topics (such as modern news media, the use of slang, and English as an international language), we will learn to listen for important lecture information and to take notes effectively. We will use information from real English lectures to hold discussions and give presentations. Evaluation will be based on class performance as well as examinations.	Tentative schedule: Class 1 - Course outline, etc. Classes 2 to 4 - News and modern technology Classes 5 to 7 - Themes on television Classes 8 to 10 - Slang Classes 11 to 13 - International English Class 14 - Presentations / Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sarosy, P., & Sherak, K. (2006). *Lecture Ready 2*. New York: Oxford University Press.	Class participation / discussion 10% Presentation 30% Midterm exam 20% Final exam 40%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(リーディングⅢa) /(Academic Reading and Writing StrategiesⅢa) English 311-a Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングとライティングを中心にリスニングとスピーキングも練習します。具体的には、分野やテーマ特有の文章構成と要点の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に対する意見の発表、グループディスカッション、ミニリサーチなどを行います。	第1回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-13: See the instructor’s class syllabus for details Lesson 14: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	出席（10 回以上）・参加 30%　課題・クイズなど 30% 期末試験 40%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(リーディングⅢb) /(Academic Reading and Writing StrategiesⅢb) English 311-b Reading English for Specific Purposes	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。春学期に引き続き、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングとライティングを中心にリスニングとスピーキングも練習します。具体的には、分野やテーマ特有の文章構成と要点の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に対する意見の発表、グループディスカッション、ミニリサーチなどを行います。	第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-13: See the instructor’s class syllabus for details Lesson 14: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	出席（10 回以上）・参加 30%　課題・クイズなど 30% 期末試験 40%

08 年度以降（春）	English(リーディングⅢa) / (Academic Reading and Writing Strategies Ⅲa)	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2年終了時のTOEIC点数の高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングとライティングを中心にリスニングとスピーキングも練習します。具体的には、分野やテーマ特有の文章構成と要点の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に対する意見の発表、グループディスカッション、ミニリサーチなどを行います。授業活動はすべて英語です。	第1回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-13: See the instructor's class syllabus for details Lesson 14: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	出席（10 回以上）・参加 30%　課題・クイズなど 30% 期末試験 40%

08 年度以降（秋）	English(リーディングⅢb) / (Academic Reading and Writing Strategies Ⅲb)	担当者	D. R. ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科3年次の学生を対象とするクラス指定科目です。2年終了時のTOEIC点数の高かった学生を対象に、学科の枠を取り払った授業を行い、春学期に引き続き、より高度な英語運用能力と批判的思考能力を総合的に訓練することを目的とします。Academic Reading Strategies I-II で習得した読解ストラテジーをさらに応用し、新聞・雑誌記事や学術的文章のリーディングとライティングを中心にリスニングとスピーキングも練習します。具体的には、分野やテーマ特有の文章構成と要点の理解、語彙の強化、論拠分析、要約、論点に対する意見の発表、グループディスカッション、ミニリサーチなどを行います。授業活動はすべて英語です。	第 1 回目の授業で担当教員からシラバスが配布され、授業計画について詳細が説明されます。 Lesson 1 : Course introduction Lesson 2-13: See the instructor's class syllabus for details Lesson 14: Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは第1回目の授業で発表します。英英辞書・類語辞書を毎回持参すること。	出席（10 回以上）・参加 30%　課題・クイズなど 30% 期末試験 40%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(留学生 Ia) / (Basic English Skills for International Students Ia) English 110-a Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
英語の基礎力をつけることを第一の目標とします。文法項目を軸として、音声上の重要事項の確認およびその練習、多読による読解力の向上、グループワーク、ペアワーク等も含めて様々な活動を行う中で英語の運用能力を向上させていくように授業を組み立てていく予定です。 英語力を向上させるためには、基礎力をしっかりと身につけることが不可欠です。そのためにも、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	1. オリエンテーション、代名詞・be 動詞の現在形 2. 冠詞・形容詞 3. 複数形 4. 代名詞 5. 所有格 6. have の現在形 7. 所有代名詞 8. 数えられる名詞・数えられない名詞 9. 一般動詞の現在形（1） 10. 一般動詞の現在形（2） 11. 疑問文（1） 12. 疑問文（2） 13. 命令文 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar one　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、期末テスト等をもとに総合的に評価します。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(留学生 Ib) / (Basic English Skills for International Students Ib) English 110-b Introductory Reading Strategies	担当者	菊池　武

講義目的、講義概要	授業計画
基本的には春学期と同じですが、新たに秋学期で学ぶ内容のみならず、春学期に学んだことも応用・発展させてより幅広い活動を行うことによって、さらに英語の基礎的な運用能力を向上させることを目的とします。 春学期同様、予習・復習を欠かさず積極的に授業に参加することを重視します。	1. 複数形・場所を表す前置詞 2. can の用法 3. 現在進行形 4. 目的格 5. 許可・義務を表す表現 6. 量を表す表現 7. 副詞 8. 現在形と現在進行形 9. 過去形 10. 規則動詞 11. 不規則動詞 12. 未来形 13. まとめ 14. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar one　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、期末テスト等をもとに総合的に評価します。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (留学生 IIa) / (Basic English Skills for International Students IIa) English 211-a Basic Reading Strategies	担当者	長坂　達彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生（経済学部・法学部・ドイツ語学科・フランス語学科）が対象です。原則として春学期・秋学期通年で履修します。 総合的な英語の基礎力を身に付けることを目標とし、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習し、応用力をつけます。 基礎力定着のために、毎週授業外での宿題がありますので、必ず取り組んでください	Week 1 オリエンテーション Week 2-13 Unit 11-14（第1 回目の授業で詳細を発表します） Week 14 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
Saslow, J. and Ascher, A. (2006). Top Notch Fundamentals A Peason Longman	出席・授業参加・宿題20% テスト30% 課題20% 統一期末試験 30%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (留学生 IIb) / (Basic English Skills for International Students IIb) English 211-b Basic Reading Strategies	担当者	長坂　達彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語初習の留学生（経済学部・法学部・ドイツ語学科・フンス語学科）が対象です。原則として春学期・秋学期通年履修します。 春学期に引き続き、総合的な英語の基礎力を定着させ、さらに応用力をつけることを目標に、基本単語・文法・発音と、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング能力を統合して練習します。 基礎力定着のために、毎週授業外での宿題がありますので、必ず取り組んでください。	Week 1 オリエンテーション Week 2-13　第1 回目の授業で詳細を発表します Week 14 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期中に指定します。	出席・授業参加・宿題20% テスト30% 課題20% 統一期末試験 30%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	今井　純子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目標は、皆さんがこれまで学んできた英語の基礎知識を応用して、身近な話題について考え、パラグラフ単位で意見をまとめ、周囲と意見を交換する表現方法を身につけることです。授業では、パラグラフ文の書き方を、ステップを追って学んでいきます。 評価は、平常点、毎回の授業での課題、学期末の作文課題への取り組みの他、他のクラスメートへの貢献(意見の交換、リバイズへの協力等)も考慮して総合的に評価します。 第１回目の授業で詳しい内容を話します。	1 導入 二者択一の文（A Morning Person or a Night Person?） 2 ブレーンストーミング 3 メインアイデアの書き方 4 パラグラフの構成 分類の文(A Person Important to You) 5 トピックセンテンスと補助センテンス 6 カテゴリーの仕方 7 リバイズと編集の仕方 時間的順序の文(The Weekend) 8 アイデアの展開と順序立て 9 順序文で使う接続詞やフレーズ 10 単文から重文への転換 記述の文(A Scary or Funny Experience) 11 詳細説明の文 12 複雑な文の使用と訂正 13 作文の発表 14 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writers at Work: The Paragraph by Jill Singleton (Cambridge University Press)	**評価方法：** **平常点（出席、クラスへの貢献、小テスト等）40%** **レポート（ポートフォリオ、学期末の作文課題等）60%**

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	今井　純子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの続きで、より複雑なパラグラフを書く演習をしていきます。評価の基準等は、春学期と同様です。 第１回の授業で詳しい内容を話します。	1 導入 結論を述べる文（Holidays） 2 結論の書き方 3 従属文と時制の一致 物語文(Telling Stories) 4 出来事の報告と物語の続け方 5 パラグラフの分析 場所・記述の文(A Favorite Place) 6 場所の描写 7 前置詞の活用 自由英作文(The Ideal Spouse) 8 トピックのまとめ方 9 長いパラグラフの構成 10 多様な文の使い方 意見の文(What's Your Opinion?) 11 トピックの選定とアウトライン 12 意見文の書き方 13 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writers at Work: The Paragraph by Jill Singleton (Cambridge University Press)	**評価方法：** **平常点（出席、クラスへの貢献、小テスト等）40%** **レポート（ポートフォリオ、学期末の作文課題等）60%**

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講座は、自分の考えを英語で表現するパラグラフライティングの基礎力を養成することを目的とします。春学期における到達目標は、英語による人物の紹介です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。単語のスペルや文法が合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習をするというサイクルを繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。春学期のテーマは「人物紹介」です。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。	テーマ　その他の活動 1. 授業ガイダンス　作文「英語による自己紹介」 2. 人物紹介（1）　講師のプレゼンテーション例 3. 人物紹介（2）　作文「ジャーナル」 4. 人物紹介（3）　プレゼンテーションの模範例 5. 人物紹介（4）　作文「私の家族」 6. リストを示す（1）パワーポイントの使い方 7. リストを示す（2）作文「私の好きな町」 8. リストを示す（3）グループディスカッション 9. リストを示す（4）作文「仕事の紹介」 10. 場所を表す（1）　グループでの相互チェック 11. 場所を表す（2）　作文「大学の紹介」 12. 場所を表す（3）　グループでの相互チェック 13. ここまでの復習　プレゼンのリハーサル 14. プレゼンテーション・デイ 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
First Steps in Academic Writing Pearson Longman	平常点 50%（出席重視、就職活動の考慮なし） ポートフォリオ（レポート）30% プレゼンテーション 20%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	福田　哲哉

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 春学期に引き続いて、英語による基礎的なパラグラフライティングができるようになることを目的とします。秋学期における到達目標は、自分の意見の表明です。 講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。単語のスペルや文法が合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習をするというサイクルを繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。秋学期のテーマは「賛否の意見交換」です。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。	テーマ　その他の活動 1. 授業ガイダンス　作文「私の夏休み」 2. 指示を出す（1）　春のプレゼンテーションより 3. 指示を出す（2）　作文「英語の勉強法」 4. 指示を出す（3）　模範プレゼンテーション 5. 指示を出す（4）　作文「大学生としての助言」 6. 理由と例（1）　グループディスカッション 7. 理由と例（2）　作文「好きな点と嫌いな点」 8. 理由と例（3）　グループディスカッション 9. 意見の表明（1）　作文「少年と親の絶縁」 10. 意見の表明（2）　グループでの相互チェック 11. 意見の表明（3）　作文「死刑制度の是非」 12. 意見の表明（4）　グループでの相互チェック 13. ここまでの復習　プレゼンのリハーサル 14. プレゼンテーション・デイ 以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
First Steps in Academic Writing Pearson Longman	平常点 50%（出席重視、就職活動の考慮なし） ポートフォリオ（レポート）30% プレゼンテーション 20%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (ライティング I a) / (Academic Writing I a: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる練習を通して、＜英作文の基礎固め＞と、ある１つの「テーマ」と比較的明確な「構成」を持つ文章を書く練習を通して、＜パラグラフ・ライティングの基礎固め＞を行う。目安としては、TOEIC のスコアが３５０～４５０くらいの学生を中心的な対象と想定しています。 【授業では】 ① ＜トピック＞別に構成されたテキストの Chapter に従って、英文の構造を理解（重要な文法事項の再確認を）しながら、センテンスを組み立てる（書く）練習をする。原則、全て【学生の予習を前提】とする。 ② 各 Chapter の「ステップ」の１と２は CD で答を確認、３と４は、学生に板書してもらい、添削及び解説する。ただし、PW の解説日は、板書の数が少なくなる予定。 ③ ＜パラグラフ・ライティング＞の練習では、センテンスの数が１０程度の英文（PW）を提出。英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしないので、あまり気にしなくて OK です。提出日の次週が「解説」です。 （プリントを併用） 【注】 就職活動による欠席は一切認めません 【＊ 詳しくは、ガイダンスで述べます。】	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 【小テスト】範囲は「ステップ３」から３０題： 英作５題５０点（計２回）を予定 ＊ 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文（計４回予定） ＊テーマは前もって授業時に指示する。 1 ガイダンス 2 C１ （C= Chapter） 3 C２ 4 C３ 【PW１提出】 ＊ 原則、ワープロ文字 5 C４ 6 C５ 【PW２提出】 7 C６ 8 【小テスト１】（５題５０点）・C７ 9 C８ 【PW３提出】（？次週） 10 C９ 11 C10 【PW４提出】（？次週） 12 C11 13 C12 14 【小テスト２】（５題５０点）・C13
テキスト、参考文献	**評価方法**
登美博之／ゴードン・ベイトソン編著『日常表現で学ぶ英語の語順』(2008 年)、**朝日出版社**	**小テスト５０％ ＋ レポ４０％ ＋発表１５％** 【評価に対応する欠席限度回数】（遅刻 0.5 回）を設定： ＡＡとＡ：２回　Ｂ：３回　Ｃ：４回

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (ライティング I b) / (Academic Writing I b: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	石月　正伸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「Ia」と同様に、＜英作文の基礎固め＞と平行して、＜パラグラフ・ライティングの基礎固め＞を行う。 TOEIC のスコアが３５０～４５０くらいの学生を中心的な対象と想定しています。 「Ia」を履修した学生は、＜別のテキスト＞を用いて、別の角度から、類似した学習（練習）を継続することになります。 【授業では】 ① テキストの第３課から Contents の順に従って、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をする。英文の構造は、比較的基本的なものばかりであり、原則的に【学生の予習を前提】として授業を進める。各課の「基本表現」は CD で答を確認。 ②「発展表現」は、１５題程度を学生が板書し、それに添削及び解説を加える。残りは CD で答を確認する予定。ただし、PW の解説日は、板書の数が少なくなる予定。 ③＜パラグラフ・ライティング＞の練習では、センテンスの数が１０程度の英文（PW）を提出。英文の「質」に関しては、成績評価の直接的な対象にはしないので、あまり気にしなくても OK です。提出日の次週が「解説」です。 （プリントを併用） 【注】 就職活動による欠席は一切認めません 【＊ 詳しくは、ガイダンスで述べます。】	以下の内容は、基本的な進行予定です。 授業状況により多少の変更の可能性があります。 【小テスト】範囲は「発展表現」の３０題： 英作５題５０点（計２回）を予定 ＊ 授業時間の一部を使って行う。 【PW 提出】センテンス 10 程度の英文（計４回予定） ＊ テーマは前もって授業時に指示する ＊ 【原則、ワープロ文字】 1 ガイダンス 2 第３課 3 第４課 4 第５課 【PW１提出】 5 第６課 6 第７課 【PW２提出】 7 第８課 8 【小テスト１】（５題５０点）・第９課 9 第 10 課 【PW３提出】（？次週） 10 第 11 課 11 第 12 課 【PW４提出】（？次週） 12 第 13 課 13 第 14 課 14 【小テスト２】（５題５０点）・第 15 課
テキスト、参考文献	**評価方法**
鳥飼慎一郎著『イラストでイメージ： 基本語彙を使った英作文』(2010 年)、朝日出版社	**小テスト５０％ ＋ レポ４０％ ＋発表１５％** 【評価に対応する欠席限度回数】（遅刻 0.5 回）を設定： ＡＡとＡ：２回　Ｂ：３回　Ｃ：４回

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English（ライティングⅠa）/ (Academic Writing Ⅰa: Paragraph) English 121-a Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、皆様が現在お持ちになる英語を作る力を、さらに一歩でも深く広く伸長させるお手伝いを提供することにあります。適切な英語の語彙の選択から始まり、英文法の許容範囲にある構文を組み立て、その各構文を論理的に一つ一つ積み上げて行って、ある一まとまりの思想なり事実なりを構築するという、皆様が日本語では頻繁ではなくとも行っている作業を、英語でなるべく抵抗なく行うにはいかなる工夫やスキルが必要なのかを、使用テキスト中に頻出するネイティブ・スピーカーの校閲を経た英文を、ある時は参考にし、又ある時は規範として仰ぎながら、一緒に考えて行こうということです。 受講生の皆様にはなるべく多くの英作文を、授業中の課題として、あるいは宿題として、作成して戴こうと思っています。それらは教師により添削され、次週返却されます。明らかな英文法の誤りや、日本語に過度に依存した発想法などは、教師から適切なアドヴァイスなり修正なりが施されます。正誤の判断の難しい微妙な言葉のニュアンスの問題などについては、代替案等がコメントしてある筈です。 修正された点を吟味し、そこから得た教訓を次回の英作に生かすような形でこの添削を利用して下されば、牛歩ながら着実に皆様の英作技術に磨きがかかるようになると思います。	１．導入 ２．書式と句読法 ３．パラグラフとは　1 ４．同　2 ５．主題文とは　1 ６．同　2 ７．支持文とは　1 ８．同　2 ９．時間の順序　1 １０．同　2 １１．空間の順序　1 １２．同　2 １３．過程・手順と支持　1 １４．同　2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Get Your Message Across（神保尚武　南雲堂）	定期試験結果 60%、出席 30%、提出物 10%。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English（ライティングⅠb）/ (Academic Writing Ⅰb: Paragraph) English 121-b Basic Composition	担当者	笠原　誠也

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的、講義概要は春学期と同じです。 同じ「表現」行為ながら、文章を作る行為は、口頭での発話行為とは違いがあります。携帯でのメールという、文字による簡便な情報伝達が広まりつつあり、そこでは日常会話の言葉とほぼ同じ言葉が行き交っていますが、正式な文書となればなるほど、思いついたまま話すように書くという流儀は許されなくなることは、現在でも変わりません。皆様が社会人となり、英語で文書を作成することが万一職業上必要になる場合などでは、先ず書かれた英文に求められるのは正確さであり、次に表現の適切さです。 秋学期では、英文作成にまつわるそのような堅苦しい状況をも視野に入れ、文字を書くという行為が実は思いのほか慎重さが求められる行為であるいう消息にも触れてみたいと思っています。	１．因果関係による展開　1 ２．同　2 ３．例示による展開　1 ４．同　2 ５．定義による展開　1 ６．同　2 ７．分類による展開　1 ８．同　2 ９．比較・対照による展開　1 １０．同　2 １１．まとめと復習 １２．パラグラフから小論文へ　1 １３．同　2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Get Your Message Across（神保尚武　南雲堂）	定期試験結果 60%、出席 30%、提出物 10%。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(ライティング II a)/(Academic Writing II a: Essay) English 221-a Basic Composition	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
This course is the writing component of the four course unified approach to English communication which comprises the Core Program. The goal of the Writing course is to provide the basic skills for students to communicate effectively in written English. In order to realize this goal, the instructors will work on the basics of correct English usage and will also work to help students think about their own lives and environment so that they may express themselves openly and meaningfully in English.	Lesson 1: Introductions and orientation. Lesson 2: Pre-writing Strategies Lesson 3: From Sentence to Paragraph Lesson 4: What makes a good Paragraph? Lesson 5: Paragraph Organization Lesson 6: Revising and Editing a Paragraph Lesson 7: Useful types of paragraphs Lesson 8: Descriptive Paragraphs Lesson 9: Process Paragraphs Lesson 10: Opinion Paragraphs Lesson 11: Narrative Paragraphs Lesson 12: Knowing the Essay Form Lesson 13: Unity and Coherence Lesson 14: From Paragraph to Essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 2	Ongoing assessment

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(ライティング II b)/ (Academic Writing II b: Essay) English 221-b Basic Composition	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
This course is the writing component of the four course unified approach to English communication which comprises the Core Program. The goal of the Writing course is to provide the basic skills for students to communicate effectively in written English. In order to realize this goal, the instructors will work on the basics of correct English usage and will also work to help students think about their own lives and environment so that they may express themselves openly and meaningfully in English.	Lesson 1：Review Lesson 2：Developing Your ideas Lesson 3：Adding Details to sentences Lesson 4：Descriptive Essays Lesson 5：Describing Feelings-vocab Lesson 6：Narrative Essays Lesson 7：Showing sequence Lesson 8：Opinion Essays Lesson 9：Facts and Opinions Lesson 10：Comparison and contrast Essays Lesson 11：Developing ideas Lesson 12：Cause and Effect Essays Lesson 13：C/E organisation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 2	Ongoing assessment

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English(スピーキングⅠa)/（Speaking in Academic Contexts Ⅰa） English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ

講義目的、講義概要 Course objective, course overview	授業計画 Lesson Plan
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and ever day situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting.	Week1: Class Introductions (Unit 0) Week2: Meeting people (Unit 1) Week3: Personal Information (Unit 1) Week4: Describing People (Unit 2) Week5: Daily Activities and Routines (Unit 3) Week6: Finish Unit 3, Review for midterm Week7: Midterm exam Week8: Talking about locations (Unit 4) Week9: Finish Unit 4 Week10: Giving directions (Unit 5) Week11: Describing past events (Unit 6) Week12: Talking about weekends (Unit 6) Week13: Review for test Week14: Summary and Test
テキスト、参考文献	**評価方法 Evaluation method**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Attendance 20% Class participation 30% Midterm exam 20% Final exam 20% Homework 10%

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English(スピーキングⅠb)/（Speaking in Academic Contexts Ⅰb） English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.H.ウィキンズ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is for students to improve their English speaking skills. We will focus on conversation and ever day situations. The objective of this semester is for students to become more comfortable in English. We will have fun and learn English in an academic setting.	Week1: Re-introduction Week2: Jobs (Unit 7) Week3: Entertainment (Unit 8) Week4: Invitations (Unit 8) Week5: Activities and making plans (Unit 9) Week6: Midterm exam Week7: Shopping (Unit 10) Week8: More shopping (Unit 10) Week9: Describing processes, cooking (Unit 11) Week10: Finish processes and cooking (Unit 11) Week11: Music (Unit 12) Week12: More Music (Unit 12) Week13: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
English Firsthand 1 (Longman)	Class Attendance 20% Class participation 30% Midterm exam 20% Final exam 20% Homework 10%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	D.R.ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking skills course intended to provide students with the opportunity to use the English they have already acquired in challenging and meaningful conversation activities. During the first semester, students will learn and practice conversation strategies that can contribute to their fluency and increase their confidence in their speaking abilities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. 1. Orientation 2. Unit 1 Self Introductions 3. Unit 1 Strategies/Listening/Conversation 4. Unit 2 Family. Vocabulary Key Questions 5. Unit 2 Family. Strategies/Conversation 6. Unit 3 Sports. Vocabulary/Key Questions 7. Unit 3 Sports. Strategies/Conversation 8. Strategies Review/Peer Observation 9. Unit 4 Food. Vocabulary/Key Questions 10. Unit 4 Food. Strategies/Conversation 11. Unit 5 Jobs. Vocabulary/Key Questions 12. Unit 5 Jobs. Strategies/Conversation 13. Strategies Review/Peer Observation 14. General Review/Final Test Preparation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Bonus Edition: Tom Kenny/ Linda Woo.	Attendance: 20%; Active Participation in class activities: 35%; Quizzes, Homework, Final Speaking Test: 45%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	D.R.ギブソン

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking course intended to provide students with the opportunity to add to the conversation strategies that were introduced in the first semester and use them in a variety of speaking activities. Students will take part in small group discussions and have conversations in pairs in which they will practice the key language from the text and reinforce their use of core conversation patterns and strategies.	The course will focus on approximately one textbook unit every other week. 1. Course Overview and Strategy Review 2. Unit 6 Friends. Vocabulary/Key Questions 3. Unit 6 Friends. Strategies/Conversation 4. Unit 7 School. Vocabulary/Key Questions 5. Unit 7 School. Strategies/Conversation 6. Unit 8 Music. Vocabulary/Key Questions 7. Unit 8 Music Strategies/Conversation 8. Strategies Review/Peer Observation 9. Unit 9 Dating. Vocabulary/Key Questions 10. Unit 9 Dating. Strategies/Conversation 11. Unit 10 Travel. Vocabulary/Key Questions 12. Unit 10. Travel. Strategies/Conversation 13. Strategies Review/Peer Observation 14. General Review/Final Test Preparation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking With You: Bonus Edition: Tom Kenny/ Linda Woo.	Attendance: 20%; Active Participation in class activities: 35%; Quizzes, Homework, Final Speaking Test: 45%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	1. Orientation and introduction to class 2. Self Introductions 1 3. Self Introductions, Vocabulary quiz 1 4. Family 5. Family part 2,Vocabulary quiz 2 6. Sports 7. Sports part 2, Vocabulary Quiz 3 8. Review Chapter 1-3 9. Food 10. Food part 2, Vocabulary Quiz 4 11. Part-Time jobs 12. Part -Time jobs part 2, Vocabulary Quiz 5 13. Summer vacation - presentations 14. Review and self evaluations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking with You Tom Kenny and Linda Woo Asano Books	**Evaluation:** Attendance and class participation: 50% Homework 25% Tests and quizzes 25% **Warning!** 4 absences is an automatic F

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J .ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a speaking class. Students will practice speaking, with the teacher, and with each other. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. We will use a text. We will also use youtube, films, and other things in class. Students are encouraged to use English every day in class. Mistakes are OK. Sitting quietly is not OK. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	1. Friends 2. Friends 2, Quiz 3. School 4. School 2, Quiz 5. Music 6. Music2 Quiz 7. Review 8. Dating 9. Dating 2 Quiz 10. Travel 11. Travel 2 Quiz 12. Review 13. Speaking tests
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nice Talking with You Tom Kenny and Linda Woo Asano Books	**Evaluation:** Attendance and class participation: 50% Homework 25% Tests and quizzes 25% **Warning!** 4 absences is an automatic F

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	J．クレイグ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this class is to help the student overcome the anxiety and pressure that is often involved in an EFL class, and to hopefully learn to take more risks/chances in acquiring a higher level of English fluency. The students will be introduced to a wide variety of current topics that will hopefully inspire the students, through individual, pair, and group tasks, to think and speak freely. The main focus, as well as the grading, will center on the quantity and quality of intelligible dialogue that will transpire in class.	1. Introduction 2. Mini-Speech (Self Introduction) 3. The Creative Process 4. Art/Critiquing Art 5. The Artist's Life 6. The Artist's Life (cont.) 7. Speech Topics 8. Out of the Box 9. Mini-Speech 10. Music 11. Music Video Comparison 12. Songs in Class 13. Poetry 14. Speeches
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts provided by the instructor	60%: Class Participation/Homework 30%: Test (Speech) 10%: Class Attendance

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	J．クレイグ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this class is to help the student overcome the anxiety and pressure that is often involved in an EFL class, and to hopefully learn to take more risks/chances in acquiring a higher level of English fluency. The students will be introduced to a wide variety of current topics that will hopefully inspire the students, through individual, pair, and group tasks, to think and speak freely. The main focus, as well as the grading, will center on the quantity and quality of intelligible dialogue that will transpire in class.	1. Introduction 2. Mini-Speech (Hero) 3. Heroes and Sports 4. American Culture 5. Food Questionnaire 6. Food and Health 7. The Supernatural 8. Ghosts/ What Makes A Good Story 9. Constructing a Story 10. Play Topics 11. Play Outlines 12. Dramatic English 13. Play Practice 14. Play Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts provided by the instructor	60%: Class Participation/Homework 30%: Test (Speech) 10%: Class Attendance

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(スピーキング I a) / (Speaking in Academic Contexts I a) English 131-a Basic Communicative English	担当者	S.フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be based on current and interesting topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test Week 14 – Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(スピーキング I b) / (Speaking in Academic Contexts I b) English 131-b Basic Communicative English	担当者	S.フルトン

講義目的、講義概要	授業計画
This English speaking course will be based on current and interesting topics in the media; a new topic will be covered each week. Students have the opportunity to learn the language associated with current stories in the national and international news, and use it in informal discussion with the teacher and classmates. The main focus is understanding the vocabulary related to the topics and using it in an academic context. Students will also have the opportunity to practice pronunciation and listening skills.	Week 1 – Introduction Week 2 – Vocabulary in current news topics Week 3 – Using synonyms to summarize Week 4 – Explaining meanings Week 5 – Paraphrasing Week 6 – Asking good questions Week 7 – Discussion Week 8 – Role playing Week 9 – Listening points with teacher Week 10 – Listening points with peers Week 11 – Pronunciation Week 12 – Intonation, stress and meaning Week 13 – Speaking test Week 14 – Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook required – handouts will be provided.	50% - Attendance & class effort 30% - Speaking test (in pairs) 20% - One short assignment

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English(スピーキングⅠa)/（Speaking in Academic Contexts I a） English 131-a Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English・to reinforce grammar and vocabulary previously learned ・to improve their listening skills・to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester	Lesson 1: Course Outline/Students introduce themselves Lesson 2: Classroom English Lesson 3: Introduce various listening skills Lesson 4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson 5: Make prediction Lesson 6: Categorize words/sound Lesson 7: Infer word meaning from context Lesson 8: Identify specific details/Note taking Lesson 9: Make predictions/Identify Comparisons Lesson 10: Summarize information/Share opinions Lesson 11: Classify information Lesson 12: Compare details about context Lesson 13: Infer information not explicit in Listening Lesson 14: Identify main idea
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar 3:ISBN:9780136133179	a) Exam at the end of semester 40 % b) Homework assignments 20% c) In class performance 30% d) Attendance 10%Total for semester 100%

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English(スピーキングⅠb)/（Speaking in Academic Contexts I b） English 131-b Basic Communicative English	担当者	M.ミルティアダス

講義目的、講義概要	授業計画
The course has several aims for the students: to develop effective and confident communication in English・to reinforce grammar and vocabulary previously learned ・to improve their listening skills・to talk about different Issues concerning everyday Topics This class will be based on a lot of different Topics through out the semester, which the students will use a number of ways to express their ideas and opinions. The students will be asked to expand a lot on the differences between their different countries.Note: Each topic will be covered over 2 or 3 weeksThe second semester will be the format as the first semester	Lesson 1: Identify Vocabulary classification Lesson 2: Infer information not explicit in Listening Lesson 3: Introduce various listening skills Lesson 4: Pre-listening knowledge/Vocabulary Lesson 5: Make prediction Lesson 6: Categorize words/sound Lesson 7: Infer word meaning from context Lesson 8: Identify specific details/Note taking Lesson 9: Make predictions/Identify Comparisons Lesson 10: Summarize information/Share opinions Lesson 11: Classify information Lesson 12: Compare details about context Lesson 13: Infer information not explicit in Listening
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar 3:ISBN:9780136133179	a) Exam at the end of semester 40 % b) Homework assignments 20% c) In class performance 30% d) Attendance 10%Total for semester 100%

08年度以降（春） 07年度以前（春）	English(スピーキングII a) / (Speaking in Academic Contexts IIa: Presentation) English 231-a Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use youtube and other on-line steaming. Students will present 3 major presentations each semester. We will analyze 4 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	1. Introduction 2. Create first presentation 3. Practice in groups 4. Present to the class 5. Analyze presentations 6. Create 2nd presentation 7. Work in groups 8. Present in groups 9. Analyze and review 10. Begin midterm presentation 11. Work on presentation 12. Present first draft to groups 13. Present 14. Present
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text	**Evaluation:** Attendance and class work: 50% quizzes 15% mid term and final presentations 35%

08年度以降（秋） 07年度以前（秋）	English(スピーキングII b) / (Speaking in Academic Contexts IIb: Presentation) English 231-b Basic Communicative English	担当者	J.ハサウェイ

講義目的、講義概要	授業計画
In the second semester the presentations will be longer and use more AV, like PowerPoint. Learning should be fun. We will do presentations. We will talk about presentations. We will watch presentations. We will use youtube and other on-line steaming. Students will present 3 major presentations each semester. We will analyze 4 professional presentations each semester. There will be new vocabulary introduced and quizzed. Leaning a language takes practice. To learn, you must come to class. e-mail sumipainting@yahoo.com If you have questions or problems please send me an e-mail	1. Review/ create first presentation 2. Practice in groups 3. Present to the class 4. Analyze presentations 5. Create 2nd presentation 6. Work in groups 7. Present in groups 8. Analyze and review 9. Begin midterm presentation 10. Work on presentation 11. Present first draft to groups 12. Present 13. Present
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text	**Evaluation:** Attendance and class participation: 50% Homework 25%Tests and quizzes 25%

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験（リスニング） ４．テキスト Day 6 模擬試験（リスニング） ５．テキスト Days 9-10 模擬試験（リスニング） ６．テキスト Day 11 模擬試験（リスニング） ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 （リーディング） １０．テキスト Day 5 （リーディング） １１．テキスト Days 7-8 （リーディング） １２．テキスト Days 9-10 （リーディング） １３．リーディング実力診断テスト １４．アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	出席 20%、学習記録　20% 学習プランと自己評価レポート　20% 小テスト　20%　期末テスト　20%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English (e-ラーニング) / (Computer Assisted English Learning (CAEL)) English 351 Computer-Assisted English Learning	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者： 短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： ・現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい （現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります） ・初回の授業に必ず出席すること ・4 回欠席すると単位は認めない 重要事項： ・教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価（2 回） ・実力診断テスト・学習プランの作成 ・小テストと期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。	１．シラバスとプログラムの説明 ２．リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 ３．テキスト Days 1-2 模擬試験（リスニング） ４．テキスト Day 6 模擬試験（リスニング） ５．テキスト Days 9-10 模擬試験（リスニング） ６．テキスト Day 11 模擬試験（リスニング） ７．リスニング実力診断テスト ８．リーディング実力診断テスト ９．テキスト Days 3-4 （リーディング） １０．テキスト Day 5 （リーディング） １１．テキスト Days 7-8 （リーディング） １２．テキスト Days 9-10 （リーディング） １３．リーディング実力診断テスト アンケート・自己評価レポートの説明
テキスト、参考文献	**評価方法**
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』　（アルク） 2. ぎゅっと e プログラム　（体験版は http://gyutto-e.jp）	出席 20%、学習記録　20% 学習プランと自己評価レポート　20% 小テスト　20%　期末テスト　20%

08 年度以降（春）	English(コンテント) / (English Explorations)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 半期完結の選択科目です。英語を速く的確に読み取る訓練をしながら英語学習とその関連分野についての知識を深めることを目的とします。スキル（技能）と、コンテント（内容）の両方について力をつけることが目的です。 【概要】 外国語学習において、私たちはどのようなことに気をつけ、どのような勉強の仕方をすれば、速く確実に力をつけることができるのでしょうか。外国語を学ぶプロセス、外国語学習の計画の仕方、外国語を学ぶはどんなことか、などの話題について学びます。さらに、学んだことについて的確にまとめ、発表します。（発表の仕方も学びます。）コース終了時には、外国語学習についての具体的な考えを持ち、それを実行できる人になっていることが目標です。 【対象】 外国語学習に関心を持ち、積極的に外国語学習に取り組む意欲を持っている方。TOEIC®が 450 点以上で、継続的に英語力を伸ばしていきたいと思っている方。 【授業】 すべて英語で行います。受講者は毎週適度な量の英文を読み、英語で発表します。	Tentative Schedule: Class 1 Orientation You, the language learner Class 2 The language learning process Class 3 Clarifying your objects Class 4 Planning your language study Class 5 The communication process Class 6 The nature of language Class 7 Language learning resources Class 8 Take charge of your learning Class 9 What you know can help you Class 10 Assessment of strategy use Class 11 Vocabulary and grammar Class 12 Listening & Reading Class 13 Speaking & Writing Class 14 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
“How to be a more successful language learner” J. Rubin & I. Thompson (Heinle & Heinle Publishers) 補助教材は担当者が用意します。	出席と積極的な授業参加 20% 発表 20%　　宿題 20%　　ジャーナル 10% 期末テスト 30%

08 年度以降（秋）	English(コンテント) / (English Explorations)	担当者	岡田　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 半期完結の選択科目です。英語を速く的確に読み取る訓練をしながら英語学習とその関連分野についての知識を深めることを目的とします。スキル（技能）と、コンテント（内容）の両方について力をつけることが目的です。 【概要】 外国語学習において、私たちはどのようなことに気をつけ、どのような勉強の仕方をすれば、速く確実に力をつけることができるのでしょうか。外国語を学ぶプロセス、外国語学習の計画の仕方、外国語を学ぶはどんなことか、などの話題について学びます。さらに、学んだことについて的確にまとめ、発表します。（発表の仕方も学びます。）コース終了時には、外国語学習についての具体的な考えを持ち、それを実行できる人になっていることが目標です。 【対象】 外国語学習に関心を持ち、積極的に外国語学習に取り組む意欲を持っている方。TOEIC®が 450 点以上で、継続的に英語力を伸ばしていきたいと思っている方。 【授業】 すべて英語で行います。受講者は毎週適度な量の英文を読み、英語で発表します。	Tentative Schedule: Class 1 Orientation You, the language learner Class 2 The language learning process Class 3 Clarifying your objects Class 4 Planning your language study Class 5 The communication process Class 6 The nature of language Class 7 Language learning resources Class 8 Take charge of your learning Class 9 What you know can help you Class 10 Assessment of strategy use Class 11 Vocabulary and grammar Class 12 Listening & Reading Class 13 Speaking & Writing Class 14 Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
“How to be a more successful language learner” J. Rubin & I. Thompson (Heinle & Heinle Publishers) 補助教材は担当者が用意します。	出席と積極的な授業参加 20% 発表 20%　　宿題 20%　　ジャーナル 10% 期末テスト 30%

08 年度以降（春）	English (資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	志村　美加

講義目的、講義概要	授業計画
【本科目の受講対象者】 ・ TOEIC400 点未満の学生 ・ 2008 年度以降の入学生 ・ 教室外での学習に自主的に取り組める者 本科目は、TOEIC のスコアアップのために積極的に努力する意志を持つ学生を対象とする選択科目である。スコアアップのためには、授業中のみならず、日々のコツコツとした努力が必要とされるからである。 テキストは、トピックごとにリスニング力、リーディング力を伸ばしていく構成になっている。苦手なトピックを認識し、学習することで、スコアアップを図ってもらいたい。予習はもちろんのこと、毎週行われる小テストのための復習やその他の英語学習にも時間をかけることが求められる。 ＊本科目は半期完結であるため、通年履修はできない	第１回　　ガイダンス 第２回　　Places 第３回　　People 第４回　　Travel 第５回　　Business 第６回　　Office 第７回　　Technology 第８回　　Personnel 第９回　　Management 第１０回　Purchasing 第１１回　Finances 第１２回　Media 第１３回　Entertainment 第１４回　Health 第１回目の授業でシラバスを受け取ること
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指定する	出席（積極的な参加）20%、小テスト 30%、期末テスト 40%、学習計画書 10% による総合評価となる

08 年度以降（秋）	English (資格 I) / (Special Topics: Basic Test-taking Strategies)	担当者	志村　美加

講義目的、講義概要	授業計画
【本科目の受講対象者】 ・ TOEIC400 点未満の学生 ・ 2008 年度以降の入学生 ・ 教室外での学習に自主的に取り組める者 本科目は、TOEIC のスコアアップのために積極的に努力する意志を持つ学生を対象とする選択科目である。スコアアップのためには、授業中のみならず、日々のコツコツとした努力が必要とされるからである。 テキストは、トピックごとにリスニング力、リーディング力を伸ばしていく構成になっている。苦手なトピックを認識し、学習することで、スコアアップを図ってもらいたい。予習はもちろんのこと、毎週行われる小テストのための復習やその他の英語学習にも時間をかけることが求められる。 ＊本科目は半期完結であるため、通年履修はできない	第１回　　ガイダンス 第２回　　Places 第３回　　People 第４回　　Travel 第５回　　Business 第６回　　Office 第７回　　Technology 第８回　　Personnel 第９回　　Management 第１０回　Purchasing 第１１回　Finances 第１２回　Media 第１３回　Entertainment 第１４回　Health 第１回目の授業でシラバスを受け取ること
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指定する	出席（積極的な参加）20%、小テスト 30%、期末テスト 40%、学習計画書 10% による総合評価となる

08 年度以降（春）	English (資格 II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	志村　美加

講義目的、講義概要	授業計画
【本科目の受講対象者】 ・ TOEIC400 点以上の学生 ・ 2008 年度以降の入学生 ・ 教室外での学習に自主的に取り組める者 本科目は、TOEIC のスコアアップのために積極的に努力する意志を持つ学生を対象とする選択科目である。スコアアップのためには、授業中のみならず、日々のコツコツとした努力が必要とされるからである。 テキストは、トピックごとにリスニング力、リーディング力を伸ばしていく構成になっている。苦手なトピックを認識し、学習することで、スコアアップを図ってもらいたい。予習はもちろんのこと、毎週行われる小テストのための復習やその他の英語学習にも時間をかけることが求められる。 ＊本科目は半期完結であるため、通年履修はできない	第１回　ガイダンス 第２回　Lunch & Parties 第３回　Medicine & Health 第４回　Traffic & Travel 第５回　Ordering & Shipping 第６回　Factories & Production 第７回　Research & Development 第８回　Computers & Technology 第９回　Employment & Promotions 第１０回　Advertisements & Personnel 第１１回　Telephone & Messages 第１２回　Banking & Finance 第１３回　Office Work & Equipment 第１４回　Business & Management 第１回目の授業でシラバスを受け取ること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指定する	出席（積極的な参加）20%、小テスト 30%、期末テスト 40%、学習計画書 10% による総合評価となる

08 年度以降（秋）	English (資格 II) / (Special Topics: Advanced Test-taking Strategies)	担当者	志村　美加

講義目的、講義概要	授業計画
【本科目の受講対象者】 ・ TOEIC400 点以上の学生 ・ 2008 年度以降の入学生 ・ 教室外での学習に自主的に取り組める者 本科目は、TOEIC のスコアアップのために積極的に努力する意志を持つ学生を対象とする選択科目である。スコアアップのためには、授業中のみならず、日々のコツコツとした努力が必要とされるからである。 テキストは、トピックごとにリスニング力、リーディング力を伸ばしていく構成になっている。苦手なトピックを認識し、学習することで、スコアアップを図ってもらいたい。予習はもちろんのこと、毎週行われる小テストのための復習やその他の英語学習にも時間をかけることが求められる。 ＊本科目は半期完結であるため、通年履修はできない	第１回　ガイダンス 第２回　Lunch & Parties 第３回　Medicine & Health 第４回　Traffic & Travel 第５回　Ordering & Shipping 第６回　Factories & Production 第７回　Research & Development 第８回　Computers & Technology 第９回　Employment & Promotions 第１０回　Advertisements & Personnel 第１１回　Telephone & Messages 第１２回　Banking & Finance 第１３回　Office Work & Equipment 第１回目の授業でシラバスを受け取ること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第１回目の授業で指定する	出席（積極的な参加）20%、小テスト 30%、期末テスト 40%、学習計画書 10% による総合評価となる

08 年度以降（春）	English（発音） /(Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
08 年度以降入学のドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じですので、いずれかの学期にのみ履修してください。 この授業では、大学や仕事の様々な場面で必要とされる、だれにでも理解されやすく、意志疎通を妨げないレベルの、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、シャドウイングや、リスニング・スピーキングスキルと統合したコミュニカティブな授業活動を通して訓練します。 ● イントネーション、リズム、文強勢・単語強勢、母音・子音、短縮形、音の脱落・同化など英語発音の基本的なルール ● 発声方法、場面ごとの適切なスピード、声の音量 ● 発音記号の理解と辞書の活用 ● 英語と日本語の音の違いに対する理解 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	第 1 回目の授業で担当教員よりシラバスが配布され、授業計画・評価方法等の詳細が発表されます。履修希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業で発表。	出席・授業参加、クイズ、課題、試験など。担当教員の指示に従うこと。

08 年度以降（秋）	English（発音） /(Special Topics: Pronunciation Workshop)	担当者	辻田　麻里

講義目的、講義概要	授業計画
08 年度以降入学のドイツ語・フランス語・経済・経営・法律・国際関係法・総合政策学科の学生を対象とする、半期完結の選択科目です。春学期と秋学期の学習内容は同じですので、いずれかの学期にのみ履修してください。 この授業では、大学や仕事の様々な場面で必要とされる、だれにでも理解されやすく、意志疎通を妨げないレベルの、明瞭でなめらかな英語発音を目指します。主に次の項目を、シャドウイングや、リスニング・スピーキングスキルと統合したコミュニカティブな授業活動を通して訓練します。 ● イントネーション、リズム、文強勢・単語強勢、母音・子音、短縮形、音の脱落・同化など英語発音の基本的なルール ● 発声方法、場面ごとの適切なスピード、声の音量 ● 発音記号の理解と辞書の活用 ● 英語と日本語の音の違いに対する理解 学生には、授業内外で自発的に自らの発音に意識を向け、改善に取り組む姿勢が求められます。	第 1 回目の授業で担当教員よりシラバスが配布され、授業計画・評価方法等の詳細が発表されます。履修希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回目の授業で発表。	出席・授業参加、クイズ、課題、試験など。担当教員の指示に従うこと。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武 （水曜日・3 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（１） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（２） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b) /(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武 （水曜日・3 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法（１） 2. 関係詞 3. need+-ing ; have/get something done の用法 4. 間接疑問文 5. 義務の表現・動詞句 6. 付加疑問・願望の表現（１）・可算名詞 7. 受動態（１） 8. 受動態（２） 9. 不定詞 10. 仮定法（２） 11. 副詞・願望の表現（２） 12. 不定詞（２）・動名詞（２） 13. 未来完了 14. 時制のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武 （木曜日・5 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半から４００点代半ば程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、現在形・現在進行形 2. 過去形・過去進行形 3. 現在完了形と現在完了進行形 4. 現在完了形と過去形 5. 疑問文 6. 動名詞・so, neither の用法 7. 依頼の表現・不可算名詞 8. 使役動詞・間接話法（１） 9. 過去完了・過去完了進行形 10. 目的語を２つ取る動詞・時を表す節 11. 間接話法（２） 12. 必要・義務の表現 13. 推量の表現・so, such の用法 14. both, neither ; all, none の用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b) /(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	菊池　武 （木曜日・5 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、高等学校までに学んだ文法事項について、その内容をあらためて確認し、その上で実際に運用できるようになることを目標とする。 文法事項の中には、規則として理解はしているものの、いざとなると実際には活用できないものが多いのではないであろうか。これは、簡単と思われる文法事項でさえも、現実にそれらを活用する機会や練習が不足してきたことが一つの原因と考えられる。この授業では、文法を自らの意思を表現するための一つの有効な手段として考え、目標とする文法事項が自然に活用される機会を豊富に設定し、グループワークやペアワーク等を含む様々な活動を行う。その結果として、自然な形で文法事項に対する理解を深めて定着させ、新たな視点で文法をとらえ、今後の英語学習に有効に活用していくことを最終的な到達目標と考えている。 TOEIC の得点が３００点台後半から４００点台半ば程度までの学生が受講することが望ましい。	1. オリエンテーション、仮定法（１） 2. 関係詞 3. need+-ing ; have/get something done の用法 4. 間接疑問文 5. 義務の表現・動詞句 6. 付加疑問・願望の表現（１）・可算名詞 7. 受動態（１） 8. 受動態（２） 9. 不定詞 10. 仮定法（２） 11. 副詞・願望の表現（２） 12. 不定詞（２）・動名詞（２） 13. 未来完了 14. 時制のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Grammar three　(Oxford University Press)	出席、授業への参加の姿勢、課題の提出、期末テスト等の結果をふまえ、総合的に評価する。

08 年度以降（春） 07 年度以前（春）	English(基礎文法 a)/ (Special Topics: Grammar Refresher a) English 121-a Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	飯島　優雅 （木曜日・2 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科、経済学部、法学部の1～4年次学生を対象とする選択科目です。 この授業では、高等学校までに学んだ基本文法事項の中から、特にアカデミックなトピック・社会生活に関するコンテクストで使用頻度の高いものを選び、その形（form）と使い方（function）を再確認し、実際に会話・リスニング・リーディング・ライティングで運用できるようになることを目標とします。文法事項と合わせて単語の意味と働きにも注意を向けることにより、語彙力のアップも目指します。TOEICやTOEFL形式の文法練習も取り入れます。 主にTOEICの点数が400点台後半以上の学生を対象としますが、その他の学生も歓迎します。将来英語を使った専門分野研究や仕事をしたい学生、各種英語検定試験でのスコアアップを目指し基礎固めをしたい学生、英語圏への短期・長期留学を希望する学生はぜひ受講して下さい。 春学期のみ、または春・秋学期連続履修可。	Lesson 1 Course introduction Review of basic grammar terms Lesson 2-14 Passive voice Causatives Phrasal Verbs Gerunds Infinitives Agreement Parallel Structure
テキスト、参考文献	**評価方法**
Broukal, M. (2010) Grammar Form and Function 3B. Second Edition. McGraw-Hill.	出席・参加 30%　課題・テスト 30%　期末試験 40%

08 年度以降（秋） 07 年度以前（秋）	English(基礎文法 b) /(Special Topics: Grammar Refresher b) English 121-b Basic Composition (Grammar Refresher)	担当者	飯島　優雅 （木曜日・2 時限）

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語・フランス語学科、経済学部、法学部の1～4年次学生を対象とする選択科目です。 この授業では、高等学校までに学んだ基本文法事項の中から、特にアカデミックなトピック・社会生活に関するコンテクストで使用頻度の高いものを選び、その形（form）と使い方（function）を再確認し、実際に会話・リスニング・リーディング・ライティングで運用できるようになることを目標とします。文法事項と合わせて単語の意味と働きにも注意を向けることにより、語彙力のアップも目指します。TOEICやTOEFL形式の文法練習も取り入れます。 主にTOEICの点数が400点台後半以上の学生を対象としますが、その他の学生も歓迎します。TOEICやTOEFL形式の練習も取り入れますので、将来英語を使った専門分野研究や仕事をしたい学生、各種英語検定試験でのスコアアップを目指し基礎固めをしたい学生、英語圏への短期・長期留学を希望する学生はぜひ受講して下さい。 秋学期のみ、または春・秋学期連続履修可。	Lesson 1 Course introduction Review of basic grammar terms Lesson 2-14 Noun Clauses Reported Speech Adjective Clauses Adverb Clauses Conditional Sentences
テキスト、参考文献	**評価方法**
Broukal, M. (2010) Grammar Form and Function 3B. Second Edition. McGraw-Hill.	出席・参加 30%　課題・テスト 30%　期末試験 40%

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ｉａ基礎） ドイツ語Ｉａ（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツ語の４技能「読む」「書く」「聞く」「話す」を総合的に学習し、合わせてドイツ語文化圏に関する基礎知識を習得することを目的とします。 テキストの練習問題は文法内容の基本練習の他に、聞き取り・ディクテーションやペア・ワークなども含まれており、受信型のみではなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な能力が身に付くように指導します。 なお、本テキストに付属のビデオ教材により、現代ドイツ事情を映像で知ることができます。	1.　文字と発音 2.　同上 3.　Lektion 1 4.　同上 5.　Lektion 2 6.　同上 7.　Lektion 3 8.　同上 9.　Lektion 4 10.　同上 11.　Lektion 5 12.　同上 13.　Lektion 6 14.　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野智昭『ドイツ語の時間（ビデオ教材　恋するベルリン）DVD 付き』（朝日出版社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ｉｂ基礎） ドイツ語Ｉｂ（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期を参照。	1.　Lektion 7 2.　同上 3.　Lektion 8 4.　同上 5.　Lektion 9 6.　同上 7.　Lektion 10 8.　同上 9.　Lektion 11 10.　同上 11.　同上 12.　Lektion 12 13.　同上 14.　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野智昭『ドイツ語の時間（ビデオ教材　恋するベルリン）DVD 付き』（朝日出版社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ｉａ基礎） ドイツ語Ｉａ（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
総合コースは、受講生が日本人教員担当の「基礎」と外国人教員担当の「会話」を合わせて履修することにより、ドイツ語の４技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）をバランス良く修得し、同時にドイツ語文化圏に関する基礎知識を得ることを目的としています。 「基礎」としての本講義の主たる目的は、１年間でドイツ語初級文法の要点を修得させることにあります。使用テキストは、練習問題に文法内容の基本練習の他に、聞き取り練習やパートナー練習が含まれており、受信型のみでなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な文法知識が身に付くように指導します。	1.　文字と発音 2.　同上 3.　Lektion 1 4.　同上 5.　Lektion 2 6.　同上 7.　Lektion 3 8.　同上 9.　Lektion 4 10.　同上 11.　同上 12.　Lektion 5 13.　同上 14.　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野智昭『ドイツ語の時間（話すための文法）改訂版』（朝日出版社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ｉｂ基礎） ドイツ語Ｉｂ（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期を参照。	1.　Lektion 6 2.　同上 3.　Lektion 7 4.　同上 5.　Lektion 8 6.　同上 7.　Lektion 9 8. 9.　Lektion 10 10.　同上 11.　同上 12.　Lektion 11 13.　同上 14.　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
清野智昭『ドイツ語の時間（話すための文法）改訂版』（朝日出版社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08年度以降 05～07年度	総合コース　ドイツ語（Ⅰa会話） ドイツ語Ⅰa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。	1. Lektion 1　人と知り合う-1　Kontakte 1 2.　同上 3. Lektion 2　人と知り合う-2　Kontakte 2 4.　同上 5. Lektion 3　専攻と言語　Studium und　Sprachen 6.　同上 7. 小テスト 8. Lektion 4　趣味　Hobbys 9.　同上 10. Lektion 5 食事　Essen und Trinken 11.　同上 12. Lektion 6 家族と職業　Familie und Berufe 13.　同上 14. 小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver：『CD付・スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社)	小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 05～07年度	総合コース　ドイツ語（Ⅰb会話） ドイツ語Ⅰb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を参照。	1.　Lektion 7　持ち物　Gegenstände 2.　同上 3.　Lektion 8　住居　Wohnen 4.　同上 5.　Lektion 9　時刻と日付　Uhrzeit und Datum 6.　同上 7.　小テスト 8.　Lektion 10　週末の後　Nach dem Wochenende 9.　同上 10. Lektion 11　街と大学　Stadt und Universität 11.　同上 12. Lektion 12　休暇の前　Vor den Ferien 13.　同上 14. 小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver：『CD付・スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語（Szenen 1 integriert)』(三修社)	小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ⅱa 基礎） ドイツ語Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツ語の初歩を学んだ受講生を対象として、今まで学んだことを復習しながら、さらに話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。 またドイツ語を学ぶかたわら、テキストを通じて、現在のドイツ語圏のさまざまな社会問題にも触れる。	1. Lektion 1 2. 同上 3. Lektion 2 4. 同上 5. Lektion 3 6. 同上 7. Lektion 4 8. 同上 9. Lektion 5 10. 同上 11. 同上 12. Lektion 6 13. 同上 14. 同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤/小林/新倉/松尾『Dialog ―　ステップアップ版』（郁文堂）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　ドイツ語（Ⅱb 基礎） ドイツ語Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を参照。	1. Lektion 7 2. 同上 3. 同上 4. Lektion 8 5. 同上 6. 同上 7. Lektion 9 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. Lektion 10 12. 同上 13. 同上 14. 同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
近藤/小林/新倉/松尾『Dialog ―　ステップアップ版』（郁文堂）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ⅱa 基礎） ドイツ語Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力の養成と文法知識を定着させることを主たる目的とし、合わせて現代ドイツ文化・生活に関する基礎知識を修得させることを目指す。 使用するテキストには各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されている。	1. Kapitel 1　Europa, Europa 2. 同上 3. 同上 4. Kapitel 2　Musik 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. Kapitel 3　Mail und Handy 9. 同上 10. 同上 11. Kapitel 4　Einkaufen 12. 同上 13. 同上 14. 同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ute Schmidt 他著『CD 付き　現代ドイツ語を学ぶための 10 章』（三修社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　ドイツ語（Ⅱb 基礎） ドイツ語Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期を参照。	1. Kapitel 5　Studium 2. 同上 3. 同上 4. Kapitel 6　Multikulturelles 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. Kapitel 7　Essen 9. 同上 10. 同上 11. Kapitel 8　Umwelt 12. 同上 13. 同上 14. 同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ute Schmidt 他著『CD 付き　現代ドイツ語を学ぶための 10 章』（三修社）	小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。

08年度以降 05～07年度	総合コース　ドイツ語（Ⅱa会話） ドイツ語Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。	1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通 2. 同上 3. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで 4. 同上 5. Lektion 3 In der Stadt 街で 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 4 Wetter 天気 9. 同上 10. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ 11. 同上 12. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待 13. 同上 14. 小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD付き・スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語　（三修社）	小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08年度以降 05～07年度	総合コース　ドイツ語（Ⅱb会話） ドイツ語Ⅱb（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を参照。	1. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写 2. 同上 3. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境 4. 同上 5. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令 6. 同上 7. 小テスト 8. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度 9. 同上 10. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祝日 11. 同上 12. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始 13. 同上 14. 小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤＋下田＋Papenthin+Oldehaver：『CD付き・スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語　（三修社）	小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

08 年度以降 05～07 年度	ドイツ語（Ⅲa 会話） ドイツ語Ⅲa（会話）	担当者	J. シャルロート

講義目的、講義概要	授業計画
この時間では様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをする等）を通して、会話表現能力を訓練します。学生の皆さんは既に持っているドイツ語の知識を活用して、更に表現力を高めて下さい。 最初の時間に履修者のレベルと興味に合わせて、皆さんにふさわしい教材を選ぶことにします。例えば授業で、ドイツの若者たちの日常生活を描いた短い場面で構成されているビデオ教材(Treffpunkt Berlin)を使用し、それについて練習するのもよいでしょう。	1. 自己紹介 2. 授業 3. 授業 4. 授業 5. 授業 6. 授業 7. 小テスト / 授業 8. 授業 9. 授業 10. 授業 11. 授業 12. 授業 13. 授業 14. 小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーとビデオなどを用意します	授業参加度と２回のテストにより評価します。

08 年度以降 05～07 年度	ドイツ語（Ⅲb 会話） ドイツ語Ⅲb（会話）	担当者	J. シャルロート

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の内容を参照せよ。	春学期の内容を参照せよ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
コピーとビデオなどを用意します。	授業参加度と２回のテストにより評価します。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　フランス語（Ia 基礎） フランス語 Ia（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 1 回の授業で、2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。春学期には、*Tome 1* の第 5 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1.　ガイダンス、発音と綴り字の読み方 2.　発音と綴り字の読み方 3.　第 1 課 4.　第 1 課 5.　第 2 課 6.　第 2 課 7.　第 3 課 8.　第 3 課 9.　第 4 課 10.　第 4 課 11.　第 5 課 12.　第 5 課 13.　まとめ 14.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　フランス語（Ib 基礎） フランス語 Ib（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週 1 回の授業で、2 年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。秋学期には、*Tome 1* の第 6 課から第 10 課まで進む予定。授業では CD を使うことがある。	1.　第 6 課 2.　第 6 課 3.　第 7 課 4.　第 7 課 5.　第 8 課 6.　第 8 課 7.　第 9 課 8.　第 9 課 9.　第 10 課 10.　第 10 課 11.　annexe 12.　総合問題（bilan） 13.　まとめ 14.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Tome 1*（第三書房） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ia 総合Ｊ） フランス語 Ia（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ia 総合Ｊ）は日本人講師、(Ia 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（Ia 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この(Ia 総合Ｊ)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. ガイダンス、Grammaire 1a 2. Grammaire 1b 3. Grammaire 2a 4. Grammaire 2b 5. Grammaire 3a 6. Grammaire 3b 7. Grammaire 4a 8. Grammaire 4b 9. Grammaire 5a 10. Grammaire 5b 11. Grammaire 6a 12. Grammaire 6b 13. Grammaire 7a 14. Grammaire 7b
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ib 総合Ｊ） フランス語 Ib（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ib 総合Ｊ）は日本人講師、(Ib 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く)。なお、この講義はフランス語（Ib 総合Ｆ）とのペアでしか受講できない。 この(Ib 総合Ｊ)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. 復習 2. Grammaire 8a 3. Grammaire 8b 4. Grammaire 9a 5. Grammaire 9b 6. Grammaire 10a 7. Grammaire 10b 8. Grammaire 11a 9. Grammaire 11b 10. Grammaire 12a 11. Grammaire 12b 12. Grammaire 13a 13. Grammaire 13b 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ia 総合Ｆ） フランス語 Ia（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ia 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1.　ガイダンス、Conversation 1a 2.　Conversation 1b 3.　Conversation 2a 4.　Conversation 2b 5.　Conversation 3a 6.　Conversation 3b 7.　Conversation 4a 8.　Conversation 4b 9.　Conversation 5a 10.　Conversation 5b 11.　Conversation 6a 12.　Conversation 6b 13.　Conversation 7a 14.　Conversation 7b
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ib 総合Ｆ） フランス語 Ib（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合Ｊ：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する（ただし再履修クラスを除く）。なお、この講義はフランス語（Ib 総合Ｊ）とのペアでしか受講できない。 実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ受講してもらいたい授業である。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1.　復習 2.　Conversation 8a 3.　Conversation 8b 4.　Conversation 9a 5.　Conversation 9b 6.　Conversation 10a 7.　Conversation 10b 8.　Conversation 11a 9.　Conversation 11b 10.　Conversation 12a 11.　Conversation 12b 12.　Conversation 13a 13.　Conversation 13b 14.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　フランス語（Ⅱa 基礎） フランス語Ⅱa（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、*Salut !*、*Bis, amicalement*（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。	担当教員および教科書によって異なる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書:*Salut !*（駿河台出版社）、または *Bis, amicalement*（駿河台出版社）。辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　フランス語（Ⅱb 基礎） フランス語Ⅱb（基礎）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
週１回の授業で、２年間かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした講義の２年目。１年間学んだことを発展させて行く講義である。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指す。 使用する教科書は、*Salut !*、*Bis, amicalement*（いずれも駿河台出版社）のいずれかになる（担当教員によって異なる）。	担当教員および教科書によって異なる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書:*Salut !*（駿河台出版社）、または *Bis, amicalement*（駿河台出版社）。辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ⅱa 総合Ｊ） フランス語 Ⅱa（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合Ｊ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 この（IIa 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.1* unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. *Initial vol.2* unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1, vol.2*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ⅱb 総合Ｊ） フランス語 Ⅱb（総合Ｊ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合Ｊ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 この（IIb 総合Ｊ）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.2* unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1, vol.2*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ⅱa 総合Ｆ） フランス語 Ⅱa（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合Ｆ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、（IIa 総合Ｊ）は日本人講師、（IIa 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 （IIa 総合Ｆ）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.1* unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. *Initial vol.2* unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 13. まとめ 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　フランス語（Ⅱb 総合Ｆ） フランス語 Ⅱb（総合Ｆ）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合Ｆ）に引き続き、週２回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は *Initial vol.1* および *Initial vol.2* で、（IIb 総合Ｊ）は日本人講師、（IIb 総合Ｆ）はフランス人講師が担当する（再履修クラスを除く）。 （IIb 総合Ｆ）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。	1. *Initial vol.2* unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 3 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 13. まとめ 14. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：*Initial vol.1*（Fernand Nathan） 辞書・参考書については各担当者より指示がある。	各担当者より指示・説明がある。

08年度以降 05～07年度	フランス語（Ⅲa） フランス語Ⅲa	担当者	Ch. ペリセロ

講義目的、講義概要	授業計画
Bonjour, Dans ce cours, nous allons réviser ce que vous avez appris en première et deuxième année. Dans ce cours, vous allez parler, écrire, lire et écouter.	Cours 1 : présentation de la classe et évaluation. Cours 2 : présenter quelqu'un. Cours 3 à 4 : décrire son environnement quotidien (chambre, quartier, etc). Cours 5 à 6 : parler d'événements passés, Cours 7 à 9 : parler du futur Cours 10 à 12 : parler de la nourriture. Cours 13 à 14 : comparer
テキスト、参考文献	**評価方法**
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des fiches.	L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen final.

08年度以降 05～07年度	フランス語（Ⅲb） フランス語Ⅲb	担当者	Ch. ペリセロ

講義目的、講義概要	授業計画
Bonjour, Dans ce cours, nous allons réviser ce que vous avez appris en première et deuxième année. Dans ce cours, vous allez parler, écrire, lire et écouter. (Ce cours est la suite du cours フランス語Ⅲa)	Cours 1 : présentation de la classe et évaluation. Cours 2 à 3 : comparer Cours 4 à 6 : exprimer des sentiments (1) Cours 7 à 9 : exprimer des sentiments (2) Cours 7 à 9 : exprimer la condition et l'hypothèse. Cours 10 à 11 : utiliser des pronoms (1) Cours 13 à 14 : utiliser des pronoms (1)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des fiches.	L'évaluation se fera à partir des présences, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen final.

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ia 文法） スペイン語 Ia（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
<u>基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の使い方 ⑧　ser, estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　代名詞の使い方 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。および、担当者が随時プリントを配布。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ｉｂ 文法） スペイン語 Ｉｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語(Ｉａ 文法), Ｉａ(文法) に引き続き、<u>基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。	①　春学期の復習 ②　代名詞の使い方 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑨　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　現在時制の復習と練習 ⑫　現在時制の復習と練習 ⑬　全体のまとめと未習の文法事項について ⑭　全体のまとめと未習の文法事項について 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ia 文法） スペイン語 Ia（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語（Ｉa 会話)，Ｉa (会話) とのペア履修**を要望する。	①　発音・アクセント ②　発音・アクセント ③　名詞の性・数、冠詞 ④　名詞の性・数、冠詞 ⑤　形容詞 ⑥　形容詞 ⑦　ser, estar 動詞の使い方 ⑧　ser, estar 動詞の使い方 ⑨　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑩　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪　動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑫　代名詞の使い方 ⑬　代名詞の使い方 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 、および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ｉb 文法） スペイン語 Ｉb（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語(Ｉa 文法)，Ｉa (文法) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 **基本的には、会話コースのスペイン語(Ｉb 会話)，Ｉb (会話)とのペア履修**を要望する。	①　春学期の復習 ②　代名詞の使い方 ③　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ④　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑤　動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑦　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑧　動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑨　動詞の活用 --- 再帰動詞とその諸用法 ⑩　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑪　動詞の活用 --- 現在完了・現在進行形 ⑫　現在時制の復習と練習 ⑬　現在時制の復習と練習 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ia 会話） スペイン語 Ia（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語(I a 文法), I a (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語(I a 文法), I a (文法)の項目と同じであるが、スペイン語 (I a 会話), I a (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(I a 文法), I a (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 および、担当者が随時プリント等を配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（I b 会話） スペイン語 I b（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語(I a 会話), I a (会話) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、文法コースであるスペイン語(I b 文法), I b (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語(I b 文法), I b (文法)の項目と同じであるが、スペイン語(I b 会話), I b (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(I b 文法), I b (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I ソフト版（黄色い表紙）” 朝日出版社 また、担当者が随時プリント等を配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語(Ⅰa 文法) およびⅠa(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　スペイン語（Ⅱｂ 文法） スペイン語 Ⅱｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
上記のスペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa(文法) に引き続き、基本的に週１コマスペイン語を学習する学生を対象とし、接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。	①　春学期の復習 ②　比較表現と過去時制の復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤　未来形と過去未来形の対比 ⑥　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩　命令表現 ⑪　命令表現 ⑫　接続法を使った表現 ⑬　接続法を使った表現 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱa 文法） スペイン語 Ⅱa（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語(Ⅰa 文法) およびⅠa(文法)の継続の授業である。現在形の復習のあと、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 **基本的には、スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa (会話)とのペア履修**を要望する。	①　既習事項の復習 ②　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ③　動詞の活用 --- 直説法現在形・再帰動詞の復習 ④　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑤　動詞の活用 --- 直説法点過去規則形 ⑥　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑦　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑧　動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑩　動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑪　点過去と線過去の違い ⑫　点過去と線過去の違い ⑬　比較表現 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱｂ 文法） スペイン語 Ⅱｂ（文法）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語(Ⅱa 文法),Ⅱa(文法) に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 **基本的には、スペイン語(Ⅱb 会話), Ⅱb (会話)とのペア履修**を要望する。	①　春学期の復習 ②　比較表現と過去時制の復習 ③　動詞の活用 --- 未来形 ④　動詞の活用 --- 過去未来形 ⑤　未来形と過去未来形の対比 ⑥　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑦　動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑧　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑨　動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑩　命令表現 ⑪　命令表現 ⑫　接続法を使った表現 ⑬　接続法を使った表現 ⑭　講義のまとめ 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱa 会話） スペイン語 Ⅱa（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、スペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa (文法) の項目と同じであるが、スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa (会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ⅱa 文法), Ⅱa (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　スペイン語（Ⅱｂ 会話） スペイン語 Ⅱｂ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語(Ⅱa 会話), Ⅱa (会話)に引き続き、**基本的に週２コマスペイン語を学習する学生を対象**とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 **基本的には、スペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb (文法)とのペア履修**を要望する。	学習目標となる文法項目は、スペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb (文法)の項目と同じであるが、スペイン語(Ⅱb 会話), Ⅱb (会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語(Ⅱb 文法), Ⅱb (文法)の「授業計画」を参照のこと。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは最初の授業で指示する。(基本的にスペイン語Ⅰのテキストを引き継ぐ) および、担当者が随時プリントを配布。	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語(Ⅲa 講読) スペイン語Ⅲa(講読)	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ、Ⅱをすでに履修し、スペイン語文法をひととおり習得した学生を対象としている。 テキストは、朝日出版社（Editorial Asahi）の『読んで学べるスペイン語 23 話』(*23 lecturas de español*)を使用する。 スペイン語圏の歴史、文化、社会に関する文章を読みながら、文法事項、語彙、表現の復習と解説を行い、文章としてのスペイン語に慣れていくことを目的とする。 毎回の予習は受講するための必須条件である。積極的な学生の参加を期待する。授業中の質問は大歓迎である。 下記にあげたテキストの他、西和辞典も毎回の授業に持参すること。	1. オリエンテーション・受講上の注意 2. Lección 1 3. Lección 2 4. Lección 3 5. Lección 4 6. Lección 5 7. 復習 8. Lección 6 9. Lección 7 10. Lección 8 11. Lección 9 12. Lección 10 13. 復習 14. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
23 lecturas de español (朝日出版社『読んで学べるスペイン語 23 話』)	授業参加態度、小テスト、期末テストを総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語(Ⅲb 講読) スペイン語Ⅲb(講読)	担当者	兒島　峰

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ、Ⅱをすでに履修し、スペイン語文法をひととおり習得した学生を対象としている。 テキストは、朝日出版社（Editorial Asahi）の『読んで学べるスペイン語 23 話』(*23 lecturas de español*)を使用する。 スペイン語圏の歴史、文化、社会に関する文章を読みながら、文法事項、語彙、表現の復習と解説を行い、文章としてのスペイン語に慣れていくことを目的とする。 毎回の予習は受講するための必須条件である。積極的な学生の参加を期待する。授業中の質問は大歓迎である。 下記にあげたテキストの他、西和辞典も毎回の授業に持参すること。	1. オリエンテーション・受講上の注意 2. Lección 11 3. Lección 12 4. Lección 14 5. Lección 15 6. Lección 17 7. 復習 8. Lección 18 9. Lección 19 10. Lección 20 11. Lección 21 12. Lección 22 13. 復習 14. 試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
23 lecturas de español (朝日出版社『読んで学べるスペイン語 23 話』)	授業参加態度、小テスト、期末テストを総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語(Ⅲa 会話) スペイン語Ⅲa(会話)	担当者	ホルヘ・フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返させて、スペイン語らしい発音が出来るようにすることとともに開き取り能力を養成する。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見ること。	参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストに代わり必要な時プリントを配布する。	出席、授業への積極的参加、小テスト。

08 年度以降 05～07 年度	スペイン語(Ⅲb 会話) スペイン語Ⅲb(会話)	担当者	ホルヘ・フェレーラス

講義目的、講義概要	授業計画
季節ごと、スペイン語圏の国々に於ける祝日、記念日、行事、慣習(イースター、学生=春の日、死者の日、クリスマスなど)をビデオや写真によって学ぶこと。日本文化との比較できるだけスペイン語を使いながら表現して見ること。参加者のご興味にしたがって色んな話をして見ること。	参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストに代わり必要な時プリントを配布する。	出席、授業への積極的参加、小テスト。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語(Ia 会話) 中国語Ⅰa(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」―会話―に重きを置く。 　中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 　中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 　ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。	第１回～第２回：授業の進め方などについての説明・発音 第３回：発音・第１課 第４回：発音・第１課 第５回：発音・第２課 第６回：第２課 第７回：第３課 第８回：第４課 第９回：中間考査 第 10 回：第５課 第 11 回：第６課 第 12 回：第７課 第 13 回：復習 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　会話クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語(Ib 会話) 中国語Ⅰb(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　春学期に引き続き、中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」―会話―に重きを置く。 　中国語の発音をはじめとして基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 　中国語学習の基本として、春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 　ついで春学期に学んだ文法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。	第１回：復習 第２回：第８課 第３回：第９課 第４回：復習 第５回：第 10 課 第６回：第 11 課 第７回：復習 第８回：中間考査 第９回：　第 12 課 第 10 回：第 13 課 第 11 回：復習 第 12 回：第 14 課 第 13 回：第 15 課 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　会話クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語（Ｉa 会話） 中国語Ｉa(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」―会話―に重きを置く。 　中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 　中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 　ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。	第１回～第２回：授業の進め方などについての説明・発音 第３回：発音・第１課 第４回：発音・第１課 第５回：発音・第２課 第６回：第２課 第７回：第３課 第８回：第４課 第９回：中間考査 第 10 回：第５課 第 11 回：第６課 第 12 回：第７課 第 13 回：復習 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　会話クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語（Ｉb 会話） 中国語Ｉb(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　春学期に引き続き、中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話が出来るようになることを目指す。 【講義概要】 　語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」―会話―に重きを置く。 　中国語の発音をはじめとして基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 　中国語学習の基本として、春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 　ついで春学期に学んだ文法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこなう。	第１回：復習 第２回：第８課 第３回：第９課 第４回：復習 第５回：第 10 課 第６回：第 11 課 第７回：復習 第８回：中間考査 第９回：　第 12 課 第 10 回：第 13 課 第 11 回：復習 第 12 回：第 14 課 第 13 回：第 15 課 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　会話クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ia 講読・文法) 中国語Ⅰa(講読・文法)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり、語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」が総合的に身につくことを目指す。 【講義概要】 　週２回の授業のうち、この時間は語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」を総合的に扱うが、「書く」「読む」―　(講読・文法)　にやや重きを置く。 　中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 　中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 　ついで基本的な文型を学び、文型を用いた作文練習などもおこない、知識の定着を図る。	第１回～第２回：授業の進め方などについての説明・発音 第３回：発音・第１課 第４回：発音・第１課 第５回：発音・第２課 第６回：第２課 第７回：第３課 第８回：第４課 第９回：復習・中間考査 第 10 回：第５課 第 11 回：第６課 第 12 回：第７課 第 13 回：復習 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　講読クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ib 講読・文法) 中国語Ⅰb(講読・文法)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　春学期に引き続き、中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、語学力の４分野「聴く」「話す」「書く」「読む」が総合的に身につくことを目指す。 【講義概要】 　中国語の発音の復習から始める。中国語学習には不可欠である春学期に学んだ“ピンイン”の読み方を徹底する。 　ついで春学期に学んだ文法事項を復習しつつ、基本的な文型を学び、文型を用いた作文練習などもおこない知識の定着を図る。	第１回　：ピンインの読み方などの確認 第２回　：第８課 第３回　：第９課 第４回　：復習 第５回　：第 10 課 第６回　：第 11 課 第７回　：復習 第８回　：中間考査 第９回　：第 12 課 第 10 回：第 13 課 第 11 回：復習 第 12 回：第 14 課 第 13 回：第 15 課 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『1 冊目の中国語　講読クラス』白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の達成度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語(Ⅱa 会話) 中国語Ⅱa(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 とりわけ実践的な会話力の習得を目指す。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。	第 1 回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第 2 回：第 1 課　我来介绍一下 第 3 回：第 2 課　你想去看看吗? 第 4 回：復習 第 5 回：第 3 課　咱们去吃早点吧 第 6 回：第 4 課　要什么有什么 第 7 回：中間考査 第 8 回：第 5 課　到中国朋友家做客 第 9 回：第 6 課　学做中国菜 第 10 回：復習 第 11 回：第 7 課　一点儿小意思 第 12 回：第 8 課　能陪我上趟街吗? 第 13 回：復習 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『実力のつく中国語』楊凱栄　他　白帝社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	基礎コース　中国語(Ⅱb 会話) 中国語Ⅱb(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文､関連した文法説明と作文練習､ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。	第 1 回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第 2 回：第 9 課　知道怎么走了吗? 第 3 回：第 10 課　在外面乘凉 第 4 回：復習 第 5 回：第 11 課　都去哪儿玩儿了? 第 6 回：第 12 課　什么报纸最有意思? 第 7 回：中間考査 第 8 回：第 13 課　看过中国的戏剧吗? 第 9 回：第 14 課　我怕翻不好 第 10 回：復習 第 11 回：第 15 課　摔得厉害吗? 第 12 回：第 16 課　真舍不得跟你分手 第 13 回：復習 （第 14 回）：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『実力のつく中国語』楊凱栄　他　白帝社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ⅱa 会話) 中国語Ⅱa(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。	第 1 回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第 2 回：第 1 課　我来介绍一下 第 3 回：第 2 課　你想去看看吗? 第 4 回：復習 第 5 回：第 3 課　咱们去吃早点吧 第 6 回：第 4 課　要什么有什么 第 7 回：中間考査 第 8 回：第 5 課　到中国朋友家做客 第 9 回：第 6 課　学做中国菜 第 10 回：復習 第 11 回：第 7 課　一点儿小意思 第 12 回：第 8 課　能陪我上趟街吗? 第 13 回：復習 第 14 回：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『実力のつく中国語』楊凱栄　他　白帝社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ⅱb 会話) 中国語Ⅱb(会話)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。 【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。	第 1 回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第 2 回：第 9 課　知道怎么走了吗? 第 3 回：第 10 課　在外面乘凉 第 4 回：復習 第 5 回：第 11 課　都去哪儿玩儿了? 第 6 回：第 12 課　什么报纸最有意思? 第 7 回：中間考査 第 8 回：第 13 課　看过中国的戏剧吗? 第 9 回：第 14 課　我怕翻不好 第 10 回：復習 第 11 回：第 15 課　摔得厉害吗? 第 12 回：第 16 課　真舍不得跟你分手 第 13 回：復習 （第 14 回）：復習 ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
『実力のつく中国語』楊凱栄　他　白帝社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ⅱa 講読・文法) 中国語Ⅱa(講読・文法)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。 【講義概要】 週 2 回の授業の中でこの時間は「講読・文法」に重きを置く。 テキストには 1 年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。 テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりともなる。	第 1 回：授業の進め方などについての説明 第 2～3 回：第 1 課　教育の公平 第 4～5 回：第 2 課　就職難 第 6～7 回：第 3 課　若者の結婚恋愛観の変化 第 8 回：復習・中間考査 第 9～10 回：第 4 課　ローン奴隷 第 11～12 回：第 5 課　多くの個人投資家 第 13～14 回：第 6 課　都市の消費ブーム ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『変化する中国』孟広学　他　白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	総合コース　中国語(Ⅱb 講読・文法) 中国語Ⅱb(講読・文法)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1 年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。 【講義概要】 週 2 回の授業の中で「講読・文法」に重きを置く。 テキストには 1 年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。 テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりとなる。	第 1 回：授業の進め方などについての説明 第 2～3 回：第 7 課　考碗族 第 4～5 回：第 8 課　家政婦 第 6～7 回：第 9 課　民は食をもって天となす 第 8 回：復習・中間考査 第 9～10 回：第 10 課　「80 後」と「子供を育てて老後に備える」 第 11～12 回：第 11 課　老後の危機 第 13～14 回：第 12 課　中国におけるボランティア ＊各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『変化する中国』孟広学　他　白水社	期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	中国語(Ⅲa 会話) 中国語Ⅲa(会話)	担当者	頼　明

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業では、Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。	第 1 回：概説・復習 第 2 回～第 14 回：第 1 課～第 6 課 （内容） 1.簡単な文法事項の概説。 2.本文、会話文の訳の確認、発音練習。 3.本文・会話文に関する応答練習。 4.リスニング練習。 本文、会話文はあらかじめ予習し、ピンインなしで読めるようにしてください。また、前回学習した課については、日本語訳を見て、中国語で言えるようにしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
みんなの中国語Ⅱ　林文男　隆美出版	出席点 10%、小テスト 20%、期末テスト 70%

08 年度以降 05～07 年度	中国語(Ⅲb 会話) 中国語Ⅲb(会話)	担当者	頼　明

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅲの授業では、Ⅰ、Ⅱで学習した内容の定着を図るとともに、発音の矯正を行い、日常会話レベルの中国語運用能力を目指します。	第 1 回：復習 第 2 回～第 14 回：第 7 課～第 12 課 （内容） 1.簡単な文法事項の概説。 2.本文、会話文の訳の確認、発音練習。 3.本文・会話文に関する応答練習。 4.リスニング練習。 本文、会話文はあらかじめ予習し、ピンインなしで読めるようにしてください。また、前回学習した課については、日本語訳を見て、中国語で言えるようにしてください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
みんなの中国語Ⅱ　林文男　隆美出版	出席点 10%、小テスト 20%、期末テスト 70%

08 年度以降 05～07 年度	中国語(Ⅲa 講読・文法) 中国語Ⅲa(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。	１．第１課　読解 ２．第２課　読解 ３．第１、２課　応用練習 ４．第３課　読解 ５．第４課　読解 ６．第３、４課　応用練習 ７．第５課　読解 ８．第６課　読解 ９．第５、６課　応用練習 １０．第７課　読解 １１．第８課　読解 １２．第７、８課　応用練習 １３．第９課　読解 １４．第９課　応用練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2010 年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験 60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降 05～07 年度	中国語(Ⅲb 講読・文法) 中国語Ⅲb(講読・文法)	担当者	平野　佐和

講義目的、講義概要	授業計画
読解・応用練習を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、中国語の文章を読むのに慣れ、教科書以外の文章も自力で読むのに必要な豊かな読解力の養成を目指します。 読解では、変貌を遂げつつある中国社会を理解する一助として新しい社会を反映する新語、流行語を含む時事文を対象とし、中国語の文の構造に注意をはらい正確に読み取る力を養います。 他方、「読む」ばかりでなく、自分から「発信する」応用力を身につけるため、基礎的な語句と文型の応用練習（解釈・作文）も並行して行います。	１．第１０課　読解 ２．第１１課　読解 ３．第１０、１１課　応用練習 ４．第１２課　読解 ５．第１３課　読解 ６．第１２、１３課　応用練習 ７．第１４課　読解 ８．第１５課　読解 ９．第１４、１５課　応用練習 １０．第１６課　読解 １１．第１７課　読解 １２．第１６、１７課　応用練習 １３．第１８課　読解 １４．第１８課　応用練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：『2010 年度版　時事中国語の教科書』 朝日出版社	期末試験 60%・平常点（出席・発表・課題・参加姿勢）40%によって評価します。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 総合) 朝鮮語Ⅰa(総合)	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、初めて韓国語を学習する者を対象に、基礎的な知識の習得を目標とする。 まず前半の授業では、文字（ハングル）の発音と書き方をしっかり身に付ける。そして後半の授業では、テキストの内容に沿って、基本文型を中心に韓国語の基礎的な文法と表現を学び、練習問題を通じて学んだことを確かめる。具体的には、平叙・疑問・否定文の作り方、所有、存在の有無などを学ぶ。また授業中には、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。	１回　ガイダンス、ハングルについて ２回～６回　文字の発音と書き方 ７回～１４回 「私は日本人です」 「これは何ですか」 「誰の本ですか」 「学校はどこにありますか」 「何をしますか」 「どこに行きますか」など
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語をはじめよう－初級－』(朝日出版社、2009 年)	出席・授業態度・小テスト（５０％)、期末試験（５０％）

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ib 総合) 朝鮮語Ⅰb(総合)	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、基礎的な文法と表現をしっかり身に付けていき、基礎過程の完成を目指す。 授業では、テキストの内容に沿って、基本文型を中心に韓国語の文法と表現を学び、練習問題を通じて学んだことを確かめる。具体的には、数詞、助詞、尊敬形、丁寧形、過去形などを学んでいく。また授業中には、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。	１回　前期の復習 ２回～１４回 「天気はどうですか」 「今日は何日ですか」 「一個いくらですか」 「何時に起きますか」 「どこにお住まいですか」 「週末に何をしますか」 「昨日何をしましたか」 「今何をしていらっしゃいますか」 「何を食べましょうか」など
テキスト、参考文献	**評価方法**
李昌圭『韓国語をはじめよう－初級－』(朝日出版社、2009 年)	出席・授業態度・小テスト（５０％)、期末試験（５０％）

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 講読・会話) 朝鮮語Ⅰa(講読・会話)	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の基礎を、文字の読み書きを中心に習得とすると同時に、会話の基礎的な表現力を高める。なにより“話せる韓国語”が授業のポイントである。前期の授業目標は、韓国語で簡単な日常会話や自己表現ができるようにする。授業中に話す機会を増やし、楽しく学ぶ授業を目指す。	●授業の進め方 ４月：文字(ハングル)の基礎と発音の練習 ５月：ハングルの習得と文法の基礎 ６月：自己紹介や挨拶など簡単な自己表現 ７月：前期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『みんなで学ぶ韓国語（会話編)』(朝日新聞社)。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストおよび平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ib 講読・会話) 朝鮮語Ⅰb(講読・会話)	担当者	金　貞我（ｷﾑ ｼﾞｮﾝｱ）

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、韓国語の基礎を勉強しながら、語彙を増やしていく。発音、会話などは授業中に集中して練習に取り組む。 韓国・朝鮮の歴史や日常文化なども紹介しながら、興味をもって言葉の習得ができる授業をめざす。楽しく学び、“話せる韓国語”をめざしましょう。	●授業の進め方 ９月：ハングルの習得と文法の基礎、前期の復習 １０月：文法の基礎と日常会話の練習 １１月：講読の練習 １２月：後期の復習と試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『みんなで学ぶ韓国語（会話編)』(朝日新聞社)。他に必要な資料はコピーして配布する。	出席と平常点を重視する。授業中に行う簡単なテストおよび平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ia 講読・会話) 朝鮮語Ⅰa(講読・会話)	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、初めて韓国語会話を学習する者を対象に、基礎的な会話能力を身に付けていく。 まず文字（ハングル）の発音と書き方をしっかり学びながら、教室で使う用語や挨拶文など、簡単な会話を覚えていく。その後、テキストの内容に沿って、本文の基本文型を中心に関連する会話の表現を身に付けていく。また授業では、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。	１回　ガイダンス、ハングルについて ２回～６回　文字の発音及び書き方 ７回～１４回 「自己紹介」 「私は学生です」 「これは何ですか」 「誰のですか」 「私は大学生ではありません」 「何年生ですか」など
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷川由起子『コミュニケーション韓国語－会話編１－』（白帝社）	出席・授業態度・小テスト（５０％）、期末試験（５０％）

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ib 講読・会話) 朝鮮語Ⅰb(講読・会話)	担当者	呉 吉煥（ｵｰ･ｷﾙﾊﾝ）

講義目的、講義概要	授業計画
後期の講義では、前期に引き続き、テキストの内容に沿って、本文の基本文型を中心に関連する会話の表現を身に付けながら、基礎過程の完成を目指す。また授業では、朝鮮半島の文化や生活についても随時紹介する。	１回　前期の復習 ２回～１４回 「あの人形はいくらですか」 「あれ一つとこれ二つください」 「誕生日はいつですか」 「宿題があります」 「授業は何時からですか」 「週末には何をしますか」 「何が一番好きですか」 「韓国に行きました」 「デザイナーになりたいです」など
テキスト、参考文献	**評価方法**
長谷川由起子『コミュニケーション韓国語－会話編１－』（白帝社）	出席・授業態度・小テスト（５０％）、期末試験（５０％）

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ⅱa 総合) 朝鮮語Ⅱa（総合）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1 回 本講義に対する紹介、概要説明 2～13 回 次のようなテーマの内容で、クラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「空港で」 「家族」 「交際」 「職場」 「会食」 「スポーツ」 「映画」 「天気」 14 回 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語(Ⅱb 総合) 朝鮮語Ⅱb（総合）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	1 回 本講義に対する紹介、概要説明 2～13 回 以下のようなテーマの内容を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。 「アルバイト」 「乾杯」 「修学旅行の思い出」 「見物」 「顔」 「遺跡」 「健康」 「同世代」 14 回 期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ⅱa 講読・会話） 朝鮮語Ⅱa（講読・会話）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1 回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～13 回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「週末は何をしますか」 「何が一番好きですか」 「韓国に行ってきました」 「デザイナになりたいです」 「今、何時ですか」 「日本語を話されますか」 「そんなに遠くありません」 14 回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座中級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	韓国語（Ⅱb 講読・会話） 朝鮮語Ⅱb（講読・会話）	担当者	森　貞美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：　本講義では実用会話能力を高めるために、日常生活において考えられる様々な場面を設定し、反復練習を行い、多様かつ実用的な表現の習得を目標とする。その際、基本文型を中心とするテキストを用いる一方で、韓国の映画やドラマなどを取り上げ、聴く練習および話す練習を重点的に行う。 講義内容：　本授業では日常生活において意思疎通が可能な水準の会話力習得を目指して、約束時間、招待、家族、職業、趣味などの場面を取り上げ、韓国語の学習を進める。	1 回　　ガイダンス：授業の概要紹介 2～13 回　多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるように表現力の定着を目指す。 「いつ韓国に来ましたか」 「民族村に一緒に行きましょう」 「パーティーの準備をしています」 「何にも食べられませんでした」 「陶磁器が見たいです」 「写真を撮ってもいいですか」 「来週帰国します」 「大変お世話になりました」 14 回　　期末試験
テキスト、参考文献	**評価方法**
木内明　著 『基礎から学ぶ韓国語講座中級』国書刊行会	原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語Ⅰa	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　ガイダンスと導入（イタリア語のアルファベット） 2　イタリア語の発音について 3　名詞と冠詞（1） 4　名詞と冠詞（2） 5　挨拶の表現、形容詞 6　イタリア語の be 動詞と have 動詞：essere と avere 7　規則動詞の現在形（1） 8　規則動詞の現在形（2） 9　規則動詞の現在形（3） 10　会話表現：自分の名前を言う、相手の名前を尋ねる 11　前置詞 12　不規則で重要な動詞（1） 13　不規則で重要な動詞（2） 14　不規則で重要な動詞（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語Ⅰb	担当者	園田 みどり

講義目的、講義概要	授業計画
イタリア語Ⅰa に引き続き、イタリア語の初等文法を学ぶ。比較的平易な文章を理解し、日常会話に必要な基礎的な表現を身につけることを目指す。	1　会話表現：家族構成を話す 2　様態動詞（～できる、～しなくてはならない、～したい） 3　所有形容詞（1） 4　所有形容詞（2） 5　会話表現：住んでいる場所、出身地を話す 6　代名動詞（1） 7　代名動詞（2） 8　会話表現：あるものが存在するかしないかを聞く 9　比較級と最上級 10　近過去（1） 11　近過去（2） 12　直接・間接目的語代名詞 13　半過去（1） 14　半過去（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書：ナンニーニ　アルダ、藤谷道夫『入門イタリア語の最初歩』（三修社）／推薦する辞書：『伊和中辞典』（小学館）／その他に適宜プリントを配布する。	平素の学習態度と、授業内に随時行う小テストの成績による。特別な事情がない限り、あまりにも欠席回数の多い者には単位を認めない。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 Ia 基礎) イタリア語Ⅰa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） Ⅰの段階ではとりわけ伊語に慣れ親しむことが重要です. この観点からして次のような練習が主軸になります. １）グループ毎による基本会話練習. ２）文字を見ずに聞き取りに徹する. ネイティヴの発話を繰り返す練習. ３）要となる文法事項習得のための、筆記、口述、聴解各面からの練習.	1) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(1) 2) 簡単な自己紹介・挨拶の練習(2) 3) -are 型規則動詞の練習(1) 4) -are 型規則動詞の練習(2) 5) -ere, -ire 型規則動詞の練習(1) 6) -ere, -ire 型規則動詞の練習(2) 7) -ere, -ire 型規則動詞の練習(3) 8) 不規則動詞 andare の練習 9) 不規則動詞 avere の練習 10) 不規則動詞 essere の練習(1) 11) 不規則動詞 essere の練習(2) 12) 不規則動詞 essere の練習(3) 13) 冠詞(1) 14) 形容詞(1)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年	授業への参加度、小テストの成績、定期試験をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語 Ib 基礎) イタリア語Ⅰb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 基本的には春学期と同様ですが、簡単な文章を読む練習も取り入れ、その度合いを徐々に増やしていきます.	1) 冠詞(2) 2) 形容詞(2) 3) 所有形容詞 4) 不規則動詞 dovere, potere の練習 5) 不規則動詞 volere, sapere の練習 6) 人称代名詞対格形の練習 7) 人称代名詞与格形の練習 8) 頻出不規則動詞の練習 9) 規則動詞 piacere の練習 10) 近過去形の練習(1) 11) 近過去形の練習(2) 12) 近過去形の練習(3) 13) 再帰動詞の練習(1) 14) 再帰動詞の練習(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
（教科書） 一ノ瀬俊和『新ア・ゾンゾ（ＣＤ付)』朝日出版社 2006 年	授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語Ⅱa 基礎) イタリア語Ⅱa	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法習得のための、筆記、口述、聴解、読解各面からの練習が中心となります.	1)　近過去形の復習(1) 2)　近過去形の復習(2) 3)　近過去形の復習(3) 4)　再帰動詞の復習(1) 5)　再帰動詞の復習(2) 6)　半過去形の練習(1) 7)　半過去形の練習(2) 8)　半過去形の練習(3) 9)　半過去形の練習(4) 10) 未来形の練習(1) 11) 未来形の練習(2) 12) 条件法形の練習(1) 13) 条件法形の練習(2) 14) 条件法形の練習(3)
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します.	授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 05～07 年度	外国語(イタリア語Ⅱb 基礎) イタリア語Ⅱb	担当者	島津　寛

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 伊語初級文法の習得、および伊語学習を通じてイタリア文化からヨーロッパ文化へと考察を広げ、理解を深めることを目標とします. （概要） 伊語初級文法の完成を目指します．また文学作品等の講読、映画鑑賞も行う予定です.	1)　遠過去形の練習(1) 2)　遠過去形の練習(2) 3)　遠過去形の練習(3) 4)　遠過去形の練習(4) 5)　命令形の練習 6)　接続法形の練習(1) 7)　接続法形の練習(2) 8)　接続法半過去形の練習(1) 9)　接続法半過去形の練習(2) 10) 講読(1) 11) 講読(2) 12) 講読(3) 13) 講読(4) 14) 映画鑑賞
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します.	授業への参加度、小テストの成績をもとに総合的に判断します.

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ポルトガル語Ｉａ　文法） ポルトガル語Ｉａ（文法）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はポルトガル語を初めて学習する人を対象としており､後期のポルトガル語Ｉｂに続く形でポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 文字と発音(1)、2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser 2. 文字と発音(2)、否定文、真偽疑問文 3. 文字と発音(3)、名詞の性数、定冠詞、不定冠詞 4. 形容詞の性数変化 5. -ar 規則動詞の直説法現在形 6. 前置詞 de, em, com 7. 不規則動詞 estar 8. 所有詞、基数詞(1) 9. -er 規則動詞と -ir 規則動詞の直説法現在形 10. 疑問詞、指示詞、指示副詞、曜日名 11. 不規則動詞 ter, querer, ir 12. 前置詞 a, para, por、副詞 já, ainda 13. 規則動詞の過去形、不規則動詞の過去形(1) 14. 不定形容詞 todo, cada、時間表現(1)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ポルトガル語Ｉｂ　文法） ポルトガル語Ｉｂ（文法）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期のポルトガル語Ｉａ に引き続いてポルトガル語の初級文法を学びます。 授業では、教科書の対話テキストの理解を出発点としながら、基本的な文法項目と定型表現の確実な習得を目指します。文法項目は、教科書と補助プリントを用いつつ、必要に応じて英語などと対照させながら説明していく予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません)。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 不規則動詞の現在形(1)と過去形(2)、不規則動詞 poder 2. 不定形容詞 algum, nenhum、現在分詞、進行形、 3. 目的格人称代名詞、不規則動詞現在形(2)と過去形(3) 4. 序数詞、前置詞 de, em, a と指示詞の縮約形 5. 再帰代名詞、再帰動詞、 6. 基数詞(2) 7. 感嘆文、強調構文(1) 8. 時間表現(2) 9. 直説法半過去形、年月日の表現 10. 不規則な名詞・形容詞の複数形 11. 関係代名詞 que, quem 12. 指小辞、命令形 13. 過去分詞、直説法大過去形、 14. 接尾辞-mente、絶対最上級の分析形と総合形
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 ＋ 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ポルトガル語Ⅱa　応用練習） ポルトガル語Ⅱa（応用練習）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
基本的な文法事項の習得を目指すポルトガル語 Ia（文法）の進度と並行し、本講義では、その内容に対応する応用練習を行います。 現時点で授業内容としては以下のものを考えています。 ・単語の補強 ・筆記問題練習 ・作文練習 ・口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 文字と発音(1)、2. 主格人称代名詞、不規則動詞 ser 2. 文字と発音(2)、否定文、真偽疑問文 3. 文字と発音(3)、名詞の性数、定冠詞、不定冠詞 4. 形容詞の性数変化 5. -ar 規則動詞の直説法現在形 6. 前置詞 de, em, com 7. 不規則動詞 estar 8. 所有詞、基数詞(1) 9. -er 規則動詞と -ir 規則動詞の直説法現在形 10. 疑問詞、指示詞、指示副詞、曜日名 11. 不規則動詞 ter, querer, ir 12. 前置詞 a, para, por、副詞 já, ainda 13. 規則動詞の過去形、不規則動詞の過去形(1) 14. 不定形容詞 todo, cada、時間表現(1)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 05～07 年度	外国語（ポルトガル語Ⅱb　応用練習） ポルトガル語Ⅱb（応用練習）	担当者	牧野　真也

講義目的、講義概要	授業計画
基本的な文法事項の習得を目指すポルトガル語 Ib（文法）の進度と並行し、本講義では、その内容に対応する応用練習を行います。 現時点で授業内容としては以下のものを考えています。 ・単語の補強 ・筆記問題練習 ・作文練習 ・口頭練習 その他、機会があればポルトガル語圏の文化なども随時紹介する予定です。 辞書はぜひ購入することをお勧めします。練習問題を行う際や教科書以外の文章を読むときに必要になります。本邦の辞書では『現代ポルトガル語辞典』白水社がお勧めです（ただし、既に他のものを持っていたり、それ以外のものを希望する人は白水社の辞書にこだわる必要はありません）。 質問等は kuitak@syd.odn.ne.jp まで。	1. 不規則動詞の現在形(1)と過去形(2)、不規則動詞 poder 2. 不定形容詞 algum, nenhum、現在分詞、進行形、 3. 目的格人称代名詞、不規則動詞現在形(2)と過去形(3) 4. 序数詞、前置詞 de, em, a と指示詞の縮約形 5. 再帰代名詞、再帰動詞、 6. 基数詞(2) 7. 感嘆文、強調構文(1) 8. 時間表現(2) 9. 直説法半過去形、年月日の表現 10. 不規則な名詞・形容詞の複数形 11. 関係代名詞 que, quem 12. 指小辞、命令形 13. 過去分詞、直説法大過去形、 14. 接尾辞-mente、絶対最上級の分析形と総合形
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：講師がプリント形式で用意します 辞書：上記を参照のこと	出席点 5 割 + 定期試験点 5 割とし、60 点以上の者を合格とします。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語 Ia 総合) ロシア語Ⅰa(総合)	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
初心者を対象とし、アルファベット（キリル文字）の読み書きから始め、秋学期を含めた一年間で、ロシア語文法の初歩をマスターし、さらにロシア語を学んでゆくためのしっかりとした土台づくりを行なうことを目指します。 会話を中心とした「ロシア語 Ia 会話」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 皆さんもご存知のように、ロシアは独特の風土を持つ国であり、芸術・スポーツ・学問など多くの分野ですぐれた文化を生みだしてきました。近年はめざましい経済成長を遂げ、多極化する今日の国際社会の中で、重要な一角を担っています。 日本とロシアは日本海を挟んだ隣国同士であり、最近の日ロ関係は、とくに経済面での進展が著しく、ビジネスの世界では、すでにロシア語ができる人材が求められるようになってきています。この機会にぜひロシア語を学んでみてください。	全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。 主な学習事項は以下の通りです。 1-8 アルファベット（キリル文字）の発音・書き方、 基本的な文型（平叙文、疑問文、否定文） 9-10 名詞の性、形容詞類の変化 11-12 動詞の現在変化（1） 13-14 場所の表現（1）（前置詞、名詞の格変化の導入） 外国語を身につけるための授業なので、教室では受講者の皆さん一人一人の練習に重点を置きます。 また、ロシアの歴史・文化・政治などについての基礎知識も随時とりあげてゆきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語 Ib 総合) ロシア語Ⅰb(総合)	担当者	齊藤 毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 Ia 総合」の続きの授業です。「Ia」と同じ教科書をもちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。	全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。 1 場所の表現（2）（前置詞） 2 動詞の現在変化（2） 3 不規則動詞の現在変化 4-5 形容詞の変化 6-7 名詞の複数形 8-9 名詞の格変化（1）生格 10-11 名詞の格変化（2）対格 12 動詞の過去変化 13-14 運動の動詞、方向の表現
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語 Ia 会話) ロシア語Ⅰa(会話)	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスははじめてロシア語を学ぶ人を対象としています。 キリル文字といわれるロシア語アルファベットの文字と発音に慣れるところから始めて、会話を中心にしながらロシア語の基礎を学習していきます。自己紹介や挨拶、買い物、道の訊ね方等、日常に必要な表現を習得します。 ロシアは政治的にはもちろん、近年経済的なプレゼンスを高めつつあり、日本もそうした面で深く関わりをもつようになってきています。その意味でロシア語はますます重要性を増してゆく言語だといえるでしょう。しかしロシアはそれだけでなく実に多様で奥深い文化的足跡を残してきた国です。ロシア語学習に奥行きをもたせるためにも、授業のなかでおもに映像によりながらロシアの現在や文化の一端を紹介していきたいと思います。	1. ガイダンス 2. 文字と発音（1） 3. 文字と発音（2） 4. 文字と発音（3） 5. 名詞の性、代名詞 6. 形容詞の変化 7. 名詞の複数形 8. 所有代名詞 9. 人称代名詞 10. 動詞の現在形（1） 11. 名詞の対格（1） 12. 願望の表現 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語 Ib 会話) ロシア語Ⅰb(会話)	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
ロシア語 Ia の続きの授業になります。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で、ロシア語の基礎学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 方向と場所の表現 3. 時間の表現 4. 年齢の表現 5. 運動の動詞 6. 名詞の生格、所有の表現 7. 曜日の表現 8. 未来の表現 9. 形容詞の変化 10. 名詞の前置格と場所の表現 11. 動詞の過去 12. 名詞の対格（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語Ⅱa 総合) ロシア語Ⅱa(総合)	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度の「ロシア語Ⅰ 総合」の続編の授業です。昨年度と同じ教科書を用いて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。春学期、および秋学期の最初のうちにこの教科書を終え、ロシア語文法の基礎をしっかりとマスターすることを目標にします。 会話を中心とした「ロシア語Ⅱ 会話」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。 昨年度に「ロシア語Ⅰ 総合」を履修していない人でも、同程度のロシア語を学んだことのある人ならば、誰でも履修できます。 大学を卒業してしまうとロシア語を学ぶ機会も少なくなります。迷っている人は、とにかく最初の授業に足を運んでみてください。春学期までの内容をマスターすれば、ロシア語検定 4 級に合格することが十分可能になります。	教科書の第 18 課から始めます。学習事項としては、ロシア語文法のかなめである「格変化」(日本語の助詞に相当)が中心になります。授業ではこの「格変化」について、習得のコツも含め、できるだけ分かりやすく解説してゆくつもりです。 1-2 運動の動詞、方向の表現 3-4 格変化・生格 5-6 格変化・前置格 7 まとめと応用（数詞） 8-9 格変化・与格 10-11 状態の表現（無人称文） 12 未来の表現 13-14 数詞と名詞 さらに、ロシア語学習には不可欠なアルファベット筆記体の書き方、および辞書の引き方を練習し、プリント教材を用いて簡単な文章の読解練習も始めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語Ⅱb 総合) ロシア語Ⅱb(総合)	担当者	齊藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅱa 総合」の続きの授業です。最終的に、辞書を引きながら、自力でロシア語の文章を読めるだけの力(ロシア語検定 3 級程度）をつけることを目標にします。	教科書の残りの課を終えたうえで、プリント教材を用いて、ロシア語の文章の読解練習、および新たな文法事項の習得を行なってゆきます。これまでの復習や、基本単語の習得にも多く時間を割くつもりです。 1-2 格変化・造格 3-4 まとめと応用（前置詞と格変化） 5-7 動詞の体（不完了体と完了体） 8-10 読解練習、格変化の総まとめ 11 読解練習、形容詞短語尾 12 読解練習、比較級・最上級 13 読解練習、関係代名詞 14 読解練習
テキスト、参考文献	**評価方法**
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。	①期末試験、②出席･授業態度などの平常点。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語Ⅱa 会話) ロシア語Ⅱa(会話)	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語Ⅰ　会話」の続きの授業ですが、「ロシア語Ⅰ」の既習者、およびロシア語の初歩を学んだことのある人を対象とします。 この授業では学んだことを生かして自分なりに文章を作り上げられるようになることを目標にします。 教科書は「ロシア語Ⅰ　会話」で前年度に使用したものを引き続き使っていきます。 毎年 10 月に行われるロシア語能力検定試験を受験してみることをお勧めします。受講生から希望があれば、受験に向けた対策も授業のなかで行いたいと思います。	1. ガイダンス 2. 曜日の表現 3. 未来の表現（1） 4. 名詞の前置格と場所の表現 5. 「ーの中に」と「ーの上に」 6. 過去の表現 7. 名詞の対格 8. 人称代名詞の対格 9. 名詞の与格 10. 名詞の造格 11. 不完了体動詞と完了体動詞（1） 12. 不完了体動詞と完了体動詞（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(ロシア語Ⅱb 会話) ロシア語Ⅱb(会話)	担当者	小西　昌隆

講義目的、講義概要	授業計画
「ロシア語 IIa　会話」の続きの授業です。 春学期の復習を行い、習熟度を深めた上で学習を進め、またあらたに具体的な状況に即した口語表現を身につけていきます。	1. 春学期の復習 2. 未来の表現（2） 3. 形容詞の格変化 4. 「暑い」「寒い」等の表現 5. 運動の動詞 6. 前置詞のまとめ 7. 仮定の表現 8. 関係代名詞 9. 順序数詞（1） 10. 順序数詞（2） 11. 会話文を作る（1） 12. 会話文を作る（2） 13. まとめ 14. 映画鑑賞 ※　その他、授業のなかで随時ロシアの文化を紹介する時間をもちたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
中島由美ほか著『ロシア語へのパスポート』（改訂版、CD 付き）白水社 その他、補助教材として適宜プリントを配布します。	期末試験および出席率、授業態度をもとに評価します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(タイ語 Ia 会話) タイ語 I a(会話)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

入門レベルの標準タイ語会話を発音記号で学ぶ。声調、子音や母音の発音、発音記号の表記の仕方などの特徴を理解したうえで、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を学ぶ。また、その背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。

さらに、ディクテーションによって発音記号による表記の能力を高め、作文練習によって表現能力をつける。

映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。

なお、文字の読み書きはタイ語Ⅱa で学ぶ。Ⅱa の方が難易度が高いので、Ia を先に履修することが望ましい。復習時間に余裕のある人は、両方同時に履修してもよい。

授業計画

1	導入：現代タイの状況、タイ語を学ぶ意義について 発音練習（声調・数字・子音・母音）
2	会話１（挨拶、所在に関する表現）
3	会話２　（ものの性質などに関して）
4	会話３　（家族）、タイ語を聞いて書く
5	会話４（所有、存在）、タイ語を聞いて書く
6	会話５（職業、国名）タイ語を聞いて書く
7	会話６（可能、不可能）、タイ語を聞いて書く
8	会話７（名前、所在、手段などに関する表現）
9	会話８　（動詞を用いた表現）、タイ語を聞いて書く
10	会話９　（類別詞の用法１）、タイ語を聞いて書く
11	会話 10　（お金の計算）タイ語を聞いて書く
12	会話 11　（形容詞の使い方）タイ語を聞いて書く
13	タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）
14	タイ事情（映画などのビジュアル教材の鑑賞）

テキスト、参考文献

プリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

08 年度以降 05～07 年度	外国語(タイ語 Ib 会話) タイ語 I b(会話)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

Ｉａに引き続き、標準タイ語会話を中心に学ぶ。声調、子音や母音の発音などの理解を深め、さまざまな状況に応じたタイ語での表現例を身につけ、文法事項についても整理する。また、言葉の背景にあるタイ文化、社会の特徴、人の行動様式や考え方などについても理解する。

ディクテーションによる表記練習や、作文練習によって運用能力や表現能力を高める。

映画などのビジュアル教材を用いたり、受講者の希望に応じてタイの文化・社会に関する講義を行う場合もある。どんどん希望を出してほしい。

授業計画

1	会話１（類別詞の用法２）、タイ語を聞いて書く
2	会話２（日付に関する表現）、タイ語を聞いて書く
3	会話３（時刻の表し方）、タイ語を聞いて書く
4	会話４（年月などの表し方）、タイ語を聞いて書く
5	会話５（レストランで）、タイ語を聞いて書く
6	会話６（自己紹介など）、タイ語を聞いて書く
7	会話７（類別詞の用法 3）、タイ語を聞いて書く
8	会話８(比較を含む表現)、タイ語を聞いて書く
9	会話９（電話をかける）、タイ語を聞いて書く
10	会話 10（受身の表現）、タイ語を聞いて書く
11	会話 11（依頼の表現）、タイ語を聞いて書く
12	会話 12（病気のとき）、タイ語を聞いて書く
13	タイ事情（映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）
14	タイ事情(映画鑑賞または特定のトピックを取り上げた解説）

テキスト、参考文献

プリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

08 年度以降 05～07 年度	外国語(タイ語Ⅱa 文字の読み書き) タイ語Ⅱa(文字の読み書き)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

文字の表記と発音を中心に学習し、初級レベルのタイ語を習得するための基礎固めを行う。初級レベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意志疎通ができることである。そのためには文字が判読でき、正しく発音できることが大前提となる。また、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢も求められる。そこで本講義では、文字の読み方、発音方法、書き方、表現手法の習熟にとどまらず、言葉の背景にある文化的・社会的特徴ないしタイ的な世界観にも触れることをめざす。

具体的には、タイ文字の表記と発音方法についてテキストを用いた講義を行い、タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターする。できれば、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。

初めてタイ語を学ぶ人は、タイ語会話Ⅰaを先に履修する方が望ましいが、復習時間に余裕があれば同時に履修してもかまわない。Ⅱaのみを履修したい人は前もって講師に相談されたい。

授業計画

1	導入；今タイ語を学ぶ意義は？
2	タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音
3	文字の読み書き１（中子音・高子音）
4	文字の読み書き２（低子音と長母音）
5	文字の読み書き３（真正二重子音・平音節・促音節）
6	文字の読み書き４（声調符号、短母音）
7	文字の読み書き５（低子音の高子音化と中子音化、擬似二重子音）
8	文字の読み書き６（一字再読字）
9	文字の読み書き７（タイ数字など）
10	文字の読み書き８　（特殊な表記）
11	タイ事情（映画などのビジュアル教材を使う予定）
12	タイ事情（映画などのビジュアル教材）
13	講読１　（読み方、文章のつながり方など）
14	講読２　（読み方、タイ語らしい言い回し）

テキスト、参考文献

「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

08 年度以降 05～07 年度	外国語(タイ語Ⅱb 文字の読み書き) タイ語Ⅱb(文字の読み書き)	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要

Ⅱa で学んだタイ文字の読み書き能力をさらに高め、簡単な文章を講読しながら背景にあるタイの文化、社会、人の行動様式や考え方などについても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。

なお、受講者の関心や進度に応じて講義の内容が変わる場合もある。タイの政治、宗教、農村開発、ジェンダーなど、今日的な話題を取りあげて議論を行うこともありえる。

授業計画

1	講読１　（読み方、文章のつながり方など）
2	講読２　（平易な物語など）
3	文法１　（指示詞の用法）
4	文法２　（一般動詞の用法）
5	文法３　（形容詞の用法）
6	講読３　(平易な物語など)
7	文法４　（類別詞の用法・比較）
8	講読４　(タイの文化・祭り)
9	講読５　（首都バンコクについて）
10	文法５　(否定の表現)
11	講読６　（子どもの夢）
12	講読７　（書店）
13	タイ事情（現代映画の鑑賞）
14	タイ事情（現代映画の鑑賞）

テキスト、参考文献

「やさしいタイ語　文字の読み書き」（宇戸清治著大学書林刊）およびプリント

評価方法

定期試験の成績および出席状況

08 年度以降 05～07 年度	外国語(アラビア語 Ia 会話と文化) アラビア語Ⅰa(会話と文化)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 またイスラームの啓典『クルアーン（コーラン)』の言葉であることから、アラブ以外のイスラーム圏でも広く学習されています。近年にわかに日本人の関心が高まったイスラームは、13 億を超える人々に信仰されているにもかかわらず、「世界でもっとも誤解された宗教」と言われています。アラブ世界もまた、世界でもっとも誤解された文化圏の一つだと言えるでしょう。 本講義では、会話と文化に焦点を絞り、「言いたいことを言う」自己表現のためのアラビア語を学びます。毎回一つのテーマを決め、ディスカッションを通して「言いたいこと」を募り、それをアラビア語で言う練習をします。 また授業の半分を文化にあて、アラブの文学や古典音楽、ポップス、映画、演劇、書道芸術などに触れてアラブ人の感性や表現の世界に触れ、アラブの歴史や現代を生きるアラブ人の社会や日常についても広く取り上げていく計画です。 この講義は、「アラビア語 IIa　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. 文字と発音の基礎 3. 「あなたに平和を」挨拶に対するアラブ人のこだわり 4. 「ありがとう」「どういたしまして」「すみません」 5. 「ご機嫌いかがですか？」「元気です。おかげさまで」 6. 「あなたの名前は？」「私の名前は～」 7. 「私は東京出身の日本人です」国籍を述べる 8. 「私は学生です」職業の色々 9. 「これは何ですか」よく使う名詞 10. 「私は音楽が好きです」 11. 「私は映画が好きではありません」 12. 「トイレはどこですか？」 13. DVD 演劇鑑賞 14. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	常時会話の小テストを行うほか、期末にテストを実施します。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(アラビア語 Ib 会話と文化) アラビア語Ⅰb(会話と文化)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、会話と文化に焦点を絞って、アラビア語を使ったコミュニケーション・スキルと異文化理解を深めていきます。 またアラブ文学の作品を邦訳で講読します。取り上げる作品については、授業で詳しく述べます。 この講義は、「アラビア語 IIb　読み書きと文法の基礎」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 「アレッポ石鹸ありますか？」 3. 「どうしたんですか？」「お腹が痛いんです」 4. 数と数字 5. 「私はアラビア語を勉強しています」 6. 「アスワンに行きたいです」 7. 「アラビア語を話すことができますか？」 8. 「水を下さい」「コーヒーがほしいです」 9. 「いくらですか？」「高いですね」 10. 「～さんはいますか？」「銀行ありますか？」 11. 「なぜ？」「なぜなら」 12. 「早く！」便利なとっさの一言 13. 復習と映画鑑賞 14. 最終テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』(師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社)	常時会話の小テストを行うほか、期末に最終テストを実施します。積極的にディスカッションに参加してもらうことを期待します。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(アラビア語Ⅱa 読み書きと文法の基礎) アラビア語Ⅱa(読み書きと文法の基礎)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア語は総人口が 2 億 8 千万に達するアラブ 21 カ国の国語であり、国連公用語の一つでもあります。 また近年は、世界的金融危機を背景に「イスラーム金融」が注目され、ドバイをはじめとして湾岸地域が世界有数のビジネスの中心地として世界の関心を集めています。こうした世界の動向から見ても、アラビア語やアラブ文化の知識は、将来において大いに有益であると言えます。 本講義では、アラビア文字、アラビア語の読み書きの基本と基礎的な文法を学習しますが、文法の規則を知るだけでなく、すぐに使える文章を通して、楽しみながらアラビア語の論理を吸収してもらうことを目的としています。 この講義は「アラビア語 Ia　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. Introduction 2. アラビア文字を覚える（1）　挨拶の言葉 3. アラビア文字を覚える（2）　挨拶の言葉 4. アラビア文字を覚える（3）　自己紹介 5. アラビア文字に覚える（4）　「私は日本人です」 6. アラビア文字を覚える（5）　アラブの国名 7. 自分の名前を書く！ 8. 自己紹介の文章を書く！ 9. 自己紹介の文章を書く！ 10. アラビア語を読む 11. 定冠詞の使い方「そのバスに乗りたいんです」 12. 男性形と女性形「私は学生です」 13. 疑問詞「それは何ですか？」「それは誰ですか？」 14. 復習・テストなど （学生の習得レベルや希望に合わせて内容が変更される可能性があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著）『アラビア語入門』（本田孝一）（共に白水社）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降 05～07 年度	外国語(アラビア語Ⅱb 読み書きと文法の基礎) アラビア語Ⅱb(読み書きと文法の基礎)	担当者	師岡カリーマ・エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラビア文字や言葉の響きに触れることによって、異文化に対する理解を深めてもらうことを目指しています。 本講義では、前期に引き続き、アラビア語の読み書きと文法の基礎を学習します。歌謡曲やビデオなど、様々なメディアを通じて自然にアラビア語を吸収してほしいと考えています。 この講義は、「アラビア語 Ib　会話と文化」と同時に履修することができます。	1. 前期の復習 2. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」 3. 前置詞を使う「私はいつも○○にいます」（続き） 4. 所有の表現「あなたは車を持っていますか？」 5. 形容詞の使い方「それはいい考えだ！」 6. イダーファ構文「これはナイルの水ですか？」 7. アラビア語の動詞は過去形から「彼は飲んだ」 8. アラビア語の動詞は過去形から「誰が言ったの？」 9. 現在形動詞「あなたは知っていますか？」 10. 現在形動詞の否定「知りません」 11. 現在形動詞と未来形「どうするつもりですか」 12. 辞書の引き方の基礎 13. 辞書の引き方の基礎・復習 14. テスト （学生の習得レベルや希望に合わせて内容が変更される可能性があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを配ります。 参考文献：『アラビア語のかたち』（師岡カリーマ・エルサムニー著）『アラビア語入門』（本田孝一）（共に白水社）	授業の中で常時小テストを行うほか、期末に筆記試験を行います。

08 年度以降 05 年～07 年度	外国語(現代ヘブライ語 Ia 基礎) 現代ヘブライ語Ｉa	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
イスラエル国の公式言語であり、旧約聖書、タルムード、カバラー・ユダヤ神秘主義などの言語であるヘブライ語の基礎を学びます。 現代ヘブライ語は、三千年以上のユダヤ人の歴史や思想を語彙や概念として現代に伝えています。現代ヘブライ語を学ぶことは、コミュニケーションの手段としてだけではなく、ユダヤ学全体への入口となります。 フェニキア文字から発展したアルファベットの歴史を学び、ヘブライ文字がどのように生まれたのか、ギリシア文字、ローマ字がどう発展したかの歴史をたどります。 ヘブライ文字の書き方、発音練習を通して、欧米諸語で使われる人名、地名のオリジナル発音を探ります。 さらに、クラシック音楽の表題、シャガールの絵画、小中学校で踊るフォークダンス「マイム・マイム」など幅広く使われるヘブライ語を正しく理解します。 授業は随時配布されるプリントにそって進められます。 皆さんは説明を聞きながら練習問題を解き、それを毎回授業の最後に提出します。 次回までに添削をして、返却および補足解説をおこない文法知識を身に付けていきます。	1. アルファベットの歴史・発音練習 2. ヘブライ文字の書き方・ユダヤ人の祭り 3. ヘブライ語発音練習・発音練習 4. ヘブライ語会話練習 ヘブライ語起源の人名・地名 5. 名詞と形容詞、日本に進出するイスラエル企業 6. 名詞と形容詞の複数形 7. 動詞の現在形（１） 神名について「エホバ、ヤハウェ、アドナイ」 8. 動詞の現在形（２） 9. 動詞の現在形（３） フォークダンス「マイム・マイム」 10. 動詞の現在形（４） 11. 所有・所在・所持の表現 12. 不定詞の用法（１） 会話練習「私はヘブライ語を話すことができます」 13. 不定詞の用法（２） 14. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。 『ヘブライ語入門』改版　日本ヘブライ文化協会	授業毎のプリント提出（50%） 筆記試験（50%）

08 年度以降 05 年～07 年度	外国語(現代ヘブライ語 Ib 基礎) 現代ヘブライ語Ｉb	担当者	阿部　望

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、ヘブライ語文法を学びながら、基礎フレーズを盛り込んだ会話練習をし、ヘブライ語の物語を読みます。 セム語におけるヘブライ語の正しい位置を把握し、ヘブライ語史の問題点をピックアップして学びます。 １．バビロン捕囚によってヘブライ語は変わったのか。 ２．イエス・キリスト時代の言語はアラム語か、ヘブライ語か。 ３．ヘブライ語が死語になったとはどういう意味か。 ４．現代ヘブライ語はどのように“復活”したのか。 さらに、ユダヤ人の祭りや習慣を学び、ユダヤ人とお付き合いする際の、エチケットを学びます。 ヘブライ語やユダヤにまつわる珍説・奇説などもを紹介し、“俗本”がヘブライ語だと主張する日本語をヘブライ語学の観点から解説を加え、正しい知識を身に付けます。 日本で食べられるイスラエル料理についても学びます。	1. 復習・会話練習 2. 復習・会話練習 3. 会話練習、ユダヤ人の祭り 4. 動詞の不定詞、ユダヤ人の祭り 住所と電話番号の言い方 5. 数詞、ユダヤ人の祭り カバラー神秘主義に応用されたヘブライ数字 6. 数詞、ユダヤ人のファミリーネーム（１） 7. ユダヤ人のファミリーネーム（２） 8. 名詞の用法（連結語） 9. 名詞の不規則な複数形 10. 曜日の表し方（序数）、ヘブライ語の歴史 11. 使役動詞の用法 日・ユ同祖論について（本当か、嘘か） 12. 動詞の構造 13. イスラエル料理について 14. 総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業テキストはプリントで配布。	授業毎のプリント提出（50%） 筆記試験（50%）

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉa) 古典ギリシア語Ｉa	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講義は、春・秋一年間の授業を通して、基礎的な古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを第一の目標とします。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、一つ一つステップアップしていく手法をとっていきます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化にも触れていきたいと思います。 ＜講義概要＞ 授業は毎回各単元１～２つずつ学習するペースで進みますが、途中１０分間ほどの中休みを入れ、古代や現代のギリシアの諸情勢を映像などを交えて紹介しながら、アト・ホームな雰囲気で行いたいと考えています。なお、各回の授業は予習と復讐をきちんとしていることを前提に進めていくことになるので、出席は必ず毎回するように心がけて下さい。希少で貴重な古典ギリシア語を知的遺産として自分のものにしてみませんか。	１　字母・発音・音韻などの分類 （この時点で、古典ギリシア語で自分の名前が書ける） ２　音節・アクセント・句読点 （この時点で、古典ギリシア語の単語が読める） ３　動詞の変化・直接法能動相現在 （この時点で、単文が理解できる） ４　名詞の第一変化 （この時点で、名詞の規則変化が理解できる） ５　動詞の変化・直接法能動相未来 （この時点で、未来形の文章が読める） ６　動詞の変化・直接法能動相未完了過去 （この時点で、動詞の三時制がマスターできる） ７　名詞の第二変化 （この時点で、スペルがすらすら書けるようになる） ８　形容詞の変化（第一・第二変化）(性・数・格の一致) ９　前置詞（前置詞が格支配をすることを理解する） １０　動詞の変化・直接法能動相アオリスト １１　動詞の変化・現在完了と過去完了 １２　指示代名詞・強意代名詞（強意代名詞の用法に注意） １３　新約聖書を読む（聖書が読める喜びを実感できる） １４　春学期まとめ ＊（　）内は到達度チェックの際の目安です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
＜テキスト＞田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』(岩波全書、２２０５円)。初回時に持参すること。 ＜参考文献＞なし。時々、プリントを配布します。	出席による練習問題の解答を繰り返して行ない、時々小テストを実施して確認します。試験は行いません（つまり、厳格な平常点評価)。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２(古典ギリシア語Ｉb) 古典ギリシア語Ｉb	担当者	櫻井　悠美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 同上 ＜講義概要＞ 同上 ＊なお、受講生は春学期に「古典ギリシア語Ｉa」を履修していることが前提となります。	１　ε ι μ ι 動詞と φ η μ ι 動詞 （この時点で、動詞の人称変化の基本形が理解できる） ２　疑問代名詞と不定代名詞（この時点で、アクセントの有無で意味が変わることが理解できる） ３　動詞の変化・直接法中動相の各時制（１） （この時点で、中動相独特の用法が理解できる） ４　動詞の変化・中動相の各時制（２） （この時点で、微妙な文章表現が理解できる） ５　人称代名詞（この時点で、人称代名詞を使わずに、その代用表現が多用されることが理解できる） ６　再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞（この時点で、文章上のつながりが理解しやすくなる） ７　第二アオリストの用法（この時点で、動詞のいわゆる不規則変化が理解できる） ８　動詞の変化・直接法受動相 （この時点で、受け身の文章表現が理解できる） ９　名詞の第三変化（１）（この時点で、名詞の不規則変化　の「変化の規則性」が理解できる） １０　名詞の第三変化（２） １１　能相欠如動詞と約音動詞 １２　形容詞の第三変化（不規則変化の理解ができる） １３　秋学期まとめ（古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅱa） 古典ギリシア語Ⅱa	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　本講座は、一年間の授業を通して、古典ギリシア語の初級リーダー、中級前半リーダーの理解が、辞書を片手に、ともかくも可能になることを主目的とします。そのためには、辞書の引き方から文章中に使われている単語の意味の確定、文章理解を、一語一語また一文一文と、こまめに根気よく掘り下げていくことから始めたいと思います。その上で内容説明や解説を丁寧にゆっくり、かつ、じっくり取り組むよう心がけます。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの歴史や文化、さらには現代ギリシアの社会や文化に触れることにしたいと考えます。 ＜講義概要＞ 　毎回、楽しい読み物（「イソップ物語」「人さまざま」など）のごくやさしく、短い文章をもとに、ノートの作り方、辞書による単語の引き方、文章理解のための文法知識（中・受動相、分詞の用法など）、裏話やエピソード、関連する映像などさまざまな工夫をこらして授業を進めていきます。後半、慣れてきたら、古典作品の原典の一部の読解や大理石碑文の解読にも挑戦してみましょう。出席は毎回心がけて下さい。受講者は初級文法を修了していることが望ましいけれど、必ずしもそれにこだわりません。	１　はじめに （辞書の引き方、ノートの作り方の指導） ２　『イソップ物語』の機知と教訓 （アイソーポスの知恵） にわとりと泥棒（その１） ３　にわとりと泥棒（その２） ４　にわとりと泥棒（その３） ５　亀とそのねぐら（その１） ６　亀とそのねぐら（その２） ７　亀とそのねぐら（その３） ８　狼の叫び（その１） ９　狼の叫び（その２） １０　狼の叫び（その３） １１　ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』より １２　ギリシア大理石碑文より（その１：墓碑銘） １３　ギリシア大理石碑文より（その２：民会決議） １４　春学期まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布します。辞書等の参考文献は初回の授業で紹介します。	毎回の出席によるさまざまな受け答えを通して理解度のチェックを行ないます（平常点評価）。

08年度以降 07年度以前	ことばと思想２（古典ギリシア語Ⅱb） 古典ギリシア語Ⅱb	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　同上 ＜講義概要＞ 　同上	１　『人さまざま』の人間類型の面白さ （テオフラストスの鋭い人間観察） おべっか使い（その１） ２　おべっか使い（その２） ３　おべっか使い（その３） ４　不平たらたら（その１） ５　不平たらたら（その２） ６　不平たらたら（その３） ７　信用できない人（その１） ８　信用できない人（その２） ９　信用できない人（その３） １０　クセノポン、ヘロドトスの諸作品より １１　プラトン『ソクラテスの弁明』より １２　アリストテレス『政治学』より １３　ギリシア悲劇の諸作品より １４　秋学期まとめ （古典ギリシア語習得の意義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

08 年度以降 05～07 年度	ことばと思想 2（ラテン語 Ia） ラテン語 I a	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語とは今から 2,000 年以上も前にイタリアのローマを中心に用いられていた言語です。ローマの支配圏が拡大するのに伴い、このラテン語も西ヨーロッパの全域に広まりました。現在のイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語などロマンス諸語と呼ばれる言語は、ラテン語が人々によって用いられる間に少しずつ変化し、成立したものなのです。したがって、ヨーロッパの社会・歴史・言語のどの分野であれ、深い理解を得ようとするにはラテン語（そしてギリシア語）の知識が不可欠です。本講座ではラテン語の読解力を身につけるべく、その初級文法を学びます。 教科書を使って、毎回文法事項を説明します。皆さんは課ごとに付されている練習問題を解き、それを提出します。次回までにこちらがそれを添削し、返却および解説を行います。	I. 文字と発音、アクセント II. 規則動詞の現在形 III. 第一・第二変化名詞 IV. 第一・第二変化形容詞 V. 第一・第二変化名詞および形容詞 ---その 2 --- VI. 未完了過去形 VII. 未来形 VIII. 不定詞 IX. 第三変化名詞および形容詞 X. 第三変化名詞および形容詞 ---その 2 --- XI. 過去完了形 XII. 未来完了形 XIII. 規則動詞の受動態 XIV. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
『ラテン語初歩』改訂版　田中利光著　岩波書店	毎回、添削を 20 点満点で評価し、平均して 6 割（12 点）を合格の最低ラインとします。

08 年度以降 05～07 年度	ことばと思想 2（ラテン語 Ib） ラテン語 I b	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じです。ただし，秋学期から受講するという場合は，春学期で学ぶ内容を終えている必要がありますし、後期から参加しても授業についていけるかどうか、こちらで判定する機会を設けることもあります。	I. 受動態の未完了過去形および未来形 II. 動詞の過去形 III. 過去形の受動態 IV. 過去完了形および未来完了形の受動態 V. 第四および第五変化名詞 VI. デポネンティア VII. 代名詞 VIII. 疑問代名詞 IX. 不定代名詞 X. 非人称動詞および分詞 XI. 比較級 XII. 動名詞 XIII. 動形容詞 XIV. 復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じです。	春学期と同じです。

08 年度以降 05～07 年度	ことばと思想 2（ラテン語Ⅱa） ラテン語Ⅱa	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
ラテン語の原典を講読し、読解力の向上を目指します。従って、この授業を受講するには、ラテン語の初級文法を学び終えていることが前提です。 ラテン語の文法を学んだ人は「とにかく予習が大変だった」あるいは「課題をこなすのに一苦労だった」と言います。そこで、せっかく「完走」しても、「あれをまたやるのは…」と、続けることを断念してしまう人も少なからずいます。この授業はそうした心配には及びません。詳しい註や解説をあらかじめ用意することで、予習の段階でのいわば「不必要な試行錯誤」を回避できるよう工夫してあります。つまり、なるべく負担は少なく、なおかつ原文で読まなければ味わうことのできない醍醐味を知ってもらおうという、欲張りな授業です。文法を学んだだけで終わらせてしまうのは、辛いところしか知らずにやめてしまうのに等しいといえるでしょう。初級をクリアしたということは、古代世界を深く知る、それも特権的な資格を得たということです。そうした自負を持って、ためらうことなくこの授業に参加してもらいたいと思います。	左記のような方針なので、輪読の形式をとることになります。この 2 年間カエサルの『ガリア戦記』の第 1 巻を読んできました。今年度は同書の第 1 巻の冒頭（第 1 章）を呼んだ後、第 2 巻（紀元前 57 年、ガリア北東部への遠征）を読もうと思っています。 I 教材プリント配布、ガイダンス。 II 第 1 巻第 1 章 III 第 2 巻第 1 章 IV 第 2 巻第 2 章 V 第 2 巻第 3 章 VI 第 2 巻第 4 章 VII 第 2 巻第 5 章 VIII 第 2 巻第 6 章 IX 第 2 巻第 7 章 X 第 2 巻第 8 章 XI 第 2 巻第 9 章 XII 第 2 巻第 10 章 XIII 第 2 巻第 11 章 XIV 第 2 巻第 12 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
原典はプリントを配布します。また、辞書は『羅和辞典』（研究社）を用意して下さい。また、ラテン語 I で使った教科書を参考書とします。	平常点で評価します。毎回の予習と、授業への意欲的な参加を望みます。

08 年度以降 05～07 年度	ことばと思想 2（ラテン語Ⅱb） ラテン語Ⅱb	担当者	小倉　博行

講義目的、講義概要	授業計画
上記の通りです。	春学期に引き続きカエサルの『ガリア戦記』を輪読します。 I 第 2 巻第 13 章 II 第 2 巻第 14 章 III 第 2 巻第 15 章 IV 第 2 巻第 16 章 V 第 2 巻第 17 章 VI 第 2 巻第 18 章 VII 第 2 巻第 19 章 VIII 第 2 巻第 20 章 IX 第 2 巻第 21 章 X 第 2 巻第 22 章 XI 第 2 巻第 23 章 XII 第 2 巻第 24 章 XIII 第 2 巻第 25 章 XIV 第 2 巻第 26 章
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記の通りです。	上記の通りです。

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IAa)/ 日本語(総合 IBa)/ 日本語(総合 ICa) 日本語 Ia	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本コースは、タイトルにもあるように日本語を総合的に学び、大学における専門科目の履修上において必要とされる日本語力を向上させるためのものである。週３コマで構成されており、この３コマは１セットで、連続して履修しなければならない。 授業内容は以下のとおりである。 ①プレゼンテーション：　具体的な方法を学んだ後、学期中少なくとも２回は、プレゼンテーションを準備し、発表する。 ②読解：読解教材は、トピックに基づき本、雑誌、新聞等から抜粋した生教材で構成される。内容理解はもちろん文中の表現、語彙を学習し、豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ③作文：基本的にはクラス内に作文をする。コースでは文献からの引用の仕方について学習した上で、レポート作成の具体的な指導を行なう。 語学教育においては、予習、復習が重要であることは当然であるが、３コマ１セットになっている本コースでは、出席を非常に重視している。また、宿題等についても指定された期日を厳守しなければならない。	読解教材：１つのトピックには、４~５コマが当てられる。 １.［若者のライフスタイル］ ２.「高齢化・少子化」 ３.「起業」 ４.「医療問題」 各トピック修了時にテストがある。 上記のトピックは入れ替わることもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキスト：　プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。	①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度　③宿題　④プレゼンテーション ⑤作文　①~⑤を総合的に判断する

08 年度以降 07 年度以前	日本語(総合 IAb)/ 日本語(総合 IBb)/ 日本語(総合 ICb) 日本語 Ib	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	読解教材：１つのトピックには、４~５コマが当てられる。 トピックについては多少の変更あり。 １.「食文化･食生活」 ２.「日本を知る」 ３.「情報化社会」 ４.「国際社会　」 各トピック修了時にテストがある。 上記のトピックは入れ替わることもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
①テキスト：　プリント配布 ②その他の参考文献は授業において紹介する。	①各トピック終了時のテスト結果 ②クラス態度　③宿題　④プレゼンテーション ⑤作文　①~⑤を総合的に判断する

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
［1］教材　公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 ［2］授業のねらい　外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 ［3］教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 ［4］その他　この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。	1　文書と文章1　文章を書くとはどういうことか 2　文書と文章2　文章の種類 3　文書と文章3　文書の形式 4　文書と文章4　文書の役割と目標 5　文書と文章5　主題と与えられた課題 6　文書と文章6　材料　参考書　メモ　カード　チャート 7　表記の技術1　現代仮名遣い　常用漢字　送りがな 8　表記の技術2　地名　人名　数字　記号 9　表記の技術3　図表　写真 10　表記の技術4　原稿用紙　レポート用紙　ワープロ 11　表記の技術5　訂正　校正 12　文章の構造1　文章の構成法 13　文章の構造2　記述の順序 14　文章の構造3　序論　本論　結論
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時間中に指示する。	文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	15　表現と論理1　表現の方法 16　表現と論理2　論理の展開 17　表現と論理3　題目　要約　キーワード 18　表現と論理4　文章の流れ 19　表現と論理5　ディスコース　パラグラフ　段落 20　表現と論理　弁証法 21　表現と論理　序破急 22　事実と意見1　事実とはなにか 23　事実と意見2　意見とはなにか 24　わかりやすさ1　明確な主張 25　わかりやすさ2　簡潔な表現 26　わかりやすさ3　句や節の接続 27　わかりやすさ4　破格文　ねじれ文 28　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	江添　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
【　目的　】 これから皆さんは専門のゼミに入り、発表したり日本人教官や学生とディスカッションしたりする機会が増えると思います。この授業では、それらの機会に対応できる力を養うことを目標とします。 【　概要　】 事前に発表資料の作り方・発表のしかたについて学んだ後で、自分の興味ある新聞記事について発表してもらいます。発表と質疑応答が終わった後は、全員でディスカッションをします。発表・質疑応答の様子はビデオにとって、よりよい発表ができるように指導します。 はじめに練習のための発表（１回目―発表・質疑応答）を行い、ビデオでの指導を受けたあと、もう一度同じ発表（２回目―発表・質疑応答・ディスカッション）をしてもらいます。そのときにもビデオ録画し、改善されているかどうか確かめます。	1. 発表までのプロセス・新聞記事の要約のしかた 2. 自分たちの記事の要約を作る 3. 新聞記事の発表の構成・ハンドアウトの作り方 4. 自分たちの記事のハンドアウトを作る 5. 発表のしかた 6. 質疑応答のしかた・発表メモ作り 7. 発表の練習 8. １回目の発表・質疑応答（１人１５分） 9. １回目の発表・質疑応答（１人１５分） 10. ２回目の発表のための個別指導 11. ２回目の発表のための個別指導 12. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 13. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 14. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分）
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教官配布のプリント	出席 14%、提出物 20%、発表 50%、授業への参加等 16%

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	江添　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
【　目的　】 春学期の学習内容をふまえ、研究発表の方法を学ぶ。 研究発表の形式については、履修する学生の希望を考慮し、決定したいと考えている。 【　概要　】 春学期の概要に準ずる。	1. ガイダンス 2. 発表の準備―テーマを選ぶ・資料を集める 3. 発表の準備―資料を読む 4. 発表の準備―アウトラインを作る 5. 発表の準備―原稿を書く 6. 発表の準備―ハンドアウトを作る 7. 発表の練習 8. １回目の発表・質疑応答（１人１５分） 9. １回目の発表・質疑応答（１人１５分） 10. ２回目の発表のための個別指導 11. ２回目の発表のための個別指導 12. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 13. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分） 14. ２回目の発表・質疑応答・ディスカッション（１人３０分）
テキスト、参考文献	**評価方法**
担当教官配布のプリント	出席 14%、提出物 20%、発表 50%、授業への参加等 16%

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
「分かりやすい」とはどのようなことなのかを考えながら､「分かってもらえる」情報発信のルールについて考える。伝えたい意図を正しく伝えるためのルールとはどのようなものなのかについて話し合いながら、よりよい発話、よりよい文章の展開の完成を目指す。 講義では誰にでも興味のあると思われる時事問題・社会現象・経済動向などの、できるだけ新しい資料を用いて考えつつ、同時に上に述べたようなことのスキルを磨く。 授業の直接的な進め方は、この授業に参加する学生の神通によってかなり異なってくる。初回には講義の内容の説明だけでなく、進め方の話し合いをするので、初日に授業に参加した者のみをこの科目の受講者とする。この科目を受講する者は初日に必ず出席すること。	１．　講義の概容の説明と話し合い ２．　もてなしの心をもたなければならない ３．　受け手の情報を知らなければならない ４．　受け手の熱意の程度を知らなければならない ５．　大前提の説明を忘れてはならない ６．　全体から部分へと進むと成功する ７．　情報のサイズの制限を守ろう ８．　詳細は捨てよう ９．　具体的に示そう １０．　情報の優劣を決めよう １１．　共通項でくくろう １２．　相互関係を示そう １３．　見やすさ・聞きやすさを重視しよう １４．　受け手の自然発想を利用しよう

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて、適宜プリントやコピーを配布する。	授業内提出物７０％　　出席２０％　　授業参加度１０％ ※休みが６回になった時点で、単位の取得はない。各自よく自己管理をすること。

08年度以降 07年度以前	日本語（総合Ⅱｂ） 日本語Ⅱa	担当者	武田　明子

講義目的、講義概要	授業計画
春に続いて、秋の学期でも攻める点を変えて、日本語力の基礎力を養う。方法は春とは多少異なり、より具体的になるが、目指すところは同じである。 講義では誰にでも興味のあると思われる時事問題・社会現象・経済動向などの、できるだけ新しい資料を用いて考えつつ、同時に上に述べたようなことのスキルを磨く。 授業の直接的な進め方は、この授業に参加する学生の神通によってかなり異なってくる。初回には講義の内容の説明だけでなく、進め方の話し合いをするので、初日に授業に参加した者のみをこの科目の受講者とする。この科目を受講する者は初日に必ず出席すること。	１．　ねじれ文をなくそう ２．　主文を決めてみよう ３．　要約してみよう ４．　タイトルをつけてみよう ５．　客観的のあとに主観がある ６．　短く説明してみよう ７．　図式化は要約力の極地 ８．　マッピングしてみよう ９．　言葉の言い換えをしてみよう １０．　時と場合によることばの選択 １１．　公式メールの約束事 １２．　公式手紙の約束事 １３．　安全な表現の使用 １４．　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
必要に応じて、適宜プリントやコピーを配布する。	授業内提出物７０％　　出席２０％　　授業参加度１０％ ※休みが６回になった時点で、単位の取得はない。各自よく自己管理をすること。

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱa） 日本語Ⅱa	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
さまざまな種類の文を読んだり書いたりできるようにする。 特に、自分の頭（心）にある「いいたいこと」と、自分の文に書かれていることを比較しながら、どうしたら他人に伝わる文章が書けるようになるかということに留意する。 また、同じ文章を読んでも、解釈の仕方によっては、様々なことを読みとることができるということを学ぶ。 一回ごとに課題をこなしていくので、できるかぎり欠席しないようにすること。	1. 自己紹介 2. あなたの「理解」とわたしの「理解」 3. 「書きたいこと」と「書いたこと」 自分の心や頭の中にあるもの 4. 書いて伝える 5. 自分を知る 6. 文学的な表現に触れる① 7. 文学的な表現に触れる② 8. 文学的な表現で書いてみる① 9. 文学的な表現で書いてみる② 10. 文章を理解するための２つの段階 11. 失敗体験について文を書く 12. 成功体験について文を書く 13. 新聞記事を読む 14. 新聞記事への意見文を書く
テキスト、参考文献	**評価方法**
得丸さと子著『TAE による文章表現ワークブック』	出席点　30% 授業中に指示する課題　70%

08 年度以降 07 年度以前	日本語（総合Ⅱb） 日本語Ⅱb	担当者	桂　千佳子

講義目的、講義概要	授業計画
総合Ⅱb で学んだ事を生かして、様々な種類の文章を書くときに、自分の個性を出せるようにする。 今までの自分の人生経験を様々な形で文章にしたり、社会的な出来事に関連づけて論じたりできるようにする。 特に、発想の転換のコツをつかめるようにする。 一回ごとに課題をこなしていくので、できるかぎり欠席しないようにすること。	1. フェルトセンスとは何か 2. 「パターン」を学ぶ 3. 印象の残った出来事 4. 問題提起と結論 5. 角度をかえて考えてみる 6. 自己 PR 文の構想 7. 自己 PR 文の完成 8. 新聞記事の要約 9. 新聞記事からパターンを見つける 10. パターンの交差 11. 意見文の構想 12. 意見文の完成 13. 12 を読みあう 14. 意見文への感想文完成
テキスト、参考文献	**評価方法**
得丸さと子著『TAE による文章表現ワークブック』	出席点　30% 授業中に指示する課題　70%

シラバス 全学共通授業科目

2010年４月１日発行

獨協大学教務課

〒340－0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048－946－1655

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	